

兵庫県立 こども病院 年報 2018 VOL.49



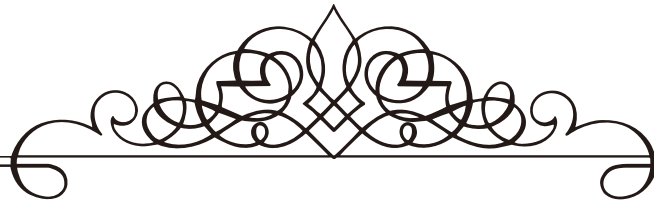


基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

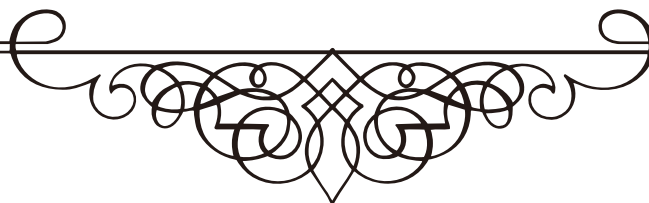


患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。



ご挨拶

兵庫県立こども病院 院長 中尾 秀人

2018年度の年報をお届け致します。

平素より当院の運営や診療について、多くのご支援ご指導をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。本年報にて。当院の診療活動・学術研究活動・広報啓発活動の状況を皆様にご高覧いただき、それぞれの観点からご意見をいただければ幸いです。

2018年度を顧みますと、アレルギー疾患の拠点病院としての指定を獲得したことに始まり、病院新設以来の目標の一つでありました、小児がん拠点病院としての機能が軌道に乗って参りました。隣接する神戸陽子線センターとの連携のもと、県内のみならず、近畿・中国・四国方面よりも多くの対象患児をご紹介頂き、入院病棟の確保に工夫を要するほどとなりました。今後の展開としては、移行期医療・AYA世代のがん治療にも注力した、より包括的な診療の展開を目指しております。また、拠点病院として、日本の小児がん治療を牽引していくべく、様々な臨床研究にも積極的に参加していく方針です。

一方、周産期部門の医師の確保が困難となり、産科部門の診療制限を余儀なくされたことが反省されます。平成6年度に周産期医療センターが開設されて以来、平成12年度には総合周産期医療センターとして指定を受け、県内各医療機関・行政・大学・医師会のご協力を得て、第3次周産期医療機関の使命を果たして参りましたが、私どもの力不足もあり、全国的な周産期部門の医師不足の荒波を回避し得ませんでした。特に当院の特徴でありました、胎児疾患を危惧される母胎搬送に十分な対応が困難となり、次善の策を取らざるを得なくなり、早期の改善が必須でありました。幸いにも、県内各医療機関と院内の各部門の協力をもって、年度後半からは、必要な最小限の医療提供が可能となったのは関係者の力の結集の賜物であり、深く感謝いたします。

こどもとご家族を支える“最後の砦”として、当院での医療を必要とする患者様に、24時間体制での切れ目のない対応を心がけてまいりました。急性期の高度な集学的治療を行

うと同時に、院内各部門の理解を得て、長期にわたり疾患と共に生活していく子ども達とご家族に対する支援と癒やしの場としての機能の充実も図っているところです

今後も集中治療機能、救急医療体制、在宅療養移行支援、移行期医療、地域連携といった診療に直結する部門の充実はもちろん、臨床研究の推進や、小児医療に関する情報の発信も進めて行きたいと考えております。今後とも、兵庫県立こども病院へのご協力とご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、本年報に企画・作成にご尽力をいただいた広報委員会の皆様に感謝いたします。

目 次

I 病 院 概 要

1 兵庫県立こども病院の設立目的	1
2 沿 革	1
3 業 務 図	4
(1) 機構一覧表	4
(2) 担当医師表	5
(3) 外来診療スケジュール	6
4 職 員	7
(1) 職種別人員表	7
5 近畿厚生局長への届出に関する事項	8
6 研修・教育認定施設内容	9
7 委員会一覧	10

II 医 事 経 理 関 係

15

III 診 療 統 計

1 救急総合診療科（総診）	31
2 救急総合診療科（救急）	33
3 代謝・内分泌内科	35
4 リウマチ科	36
5 アレルギー科	37
6 脳神経内科	39
7 血液・腫瘍内科	41
8 循環器内科	45
9 腎臓内科	47
10 感染症科	49
11 臨床遺伝科	50
12 精神科	53
13 小児外科	57
14 心臓血管外科	62
15 脳神経外科	65
16 形成外科	68

17	整形外科	69
18	リハビリテーション科	71
19	眼科	74
20	耳鼻咽喉科	76
21	泌尿器科	79
22	小児歯科	80
23	麻酔科	81
24	新生児内科	83
25	産科	86
26	放射線診断科／放射線治療科	92
27	小児集中治療科	93
28	病理診断科	95
29	看護部	96
30	薬剤部	107
31	検査・放射線部（検査部門）	111
32	検査・放射線部（放射線部門）	114
33	栄養管理部	118
34	家族支援・地域医療連携部	123
35	ME室	128
36	医療安全管理室	129
37	感染対策室	131
38	褥瘡管理室	134
39	がん相談支援室	135
40	院内学級	136
41	医師事務作業補助者（医師クラーク）	137

IV 学術・研究・教育活動

1	書籍	139
2	雑誌発表	142
3	学会発表	171
4	報道	203
5	実習生・研修生受け入れ状況	204
6	院内・院外研修	211

V	ボランティア	237
---	--------	-----

I 病 院 概 要

1. 兵庫県立こども病院の設立目的

兵庫県立こども病院は、小児治療が、内科疾患を除いては成人と同じ環境で行われていた当時、小児特有の検査、診断、治療を行うことのできる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応じて、昭和45（1970）年、兵庫県政100周年を記念して、須磨の地に開設されました。

当院は、小児専門病院としての小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した診療機能に加え、小児に関する医療相談機関、小児の保健衛生に関する行政に対する協力機関のみならず、小児医療従事者に対する育成研修機関としての機能を果たしてきました。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的に、ハイリスク母子の24時間受け入れ体制を整備し、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターを開設しました。

また、平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしたほか、平成25年2月には小児がん拠点病院に指定され、平成26年4月に小児がん医療センターを設置しました。

さらに、平成28年5月には、更なる飛躍を期して、多くの医療施設が集積するメディカルクラスターの中核施設として、須磨からポートアイランドに移転開院し、平成29年4月には小児救命救急センターにも指定されました。

2. 沿革

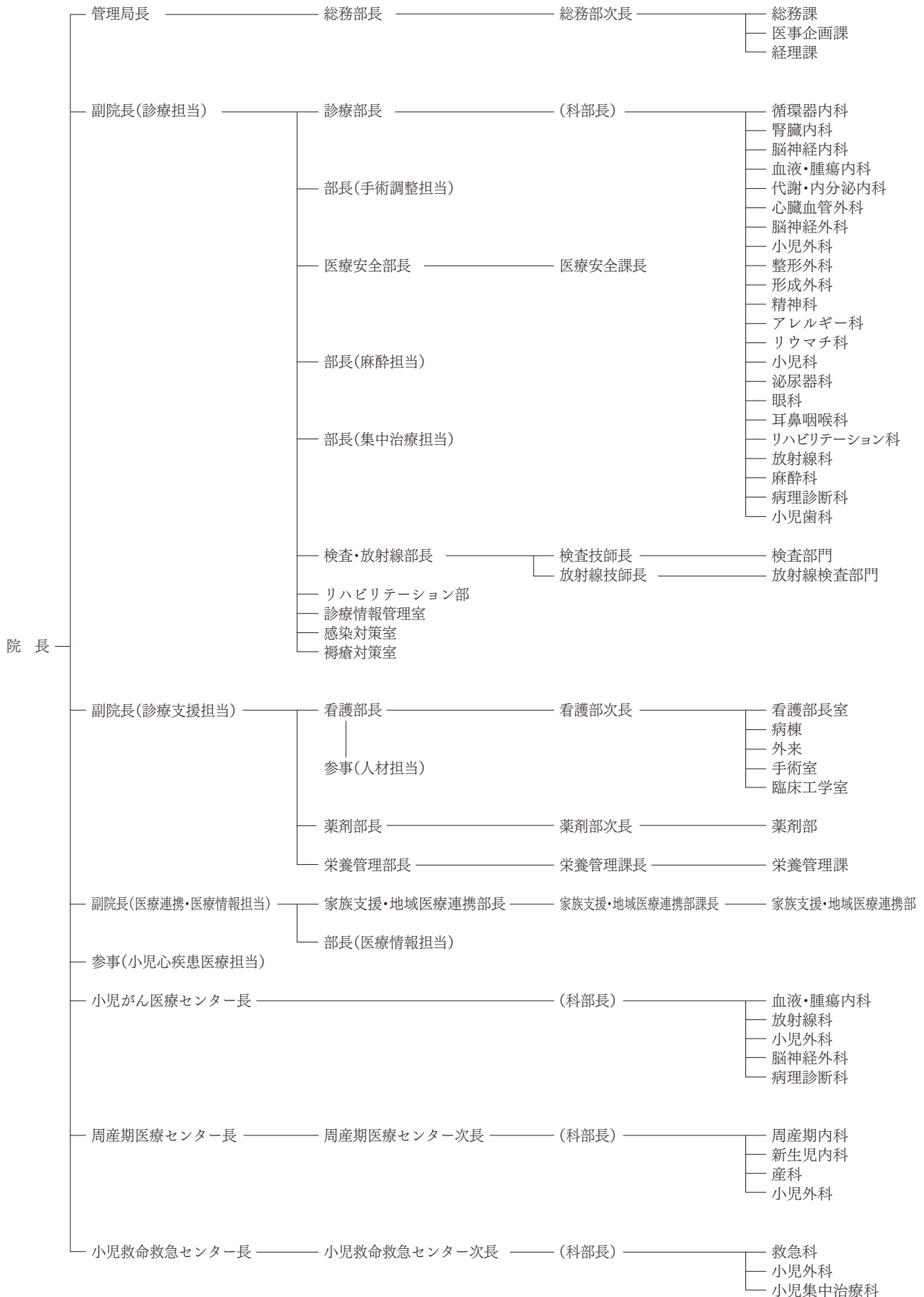
(1) 名 称	兵庫県立こども病院
(2) 開 設	昭和45年4月1日（現管理者 中尾 秀人）
(3) 所 在 地	神戸市中央区港島南町1丁目6番7号 TEL 078-945-7300（代表）
(4) 診 療 科 目	循環器内科 腎臓内科 脳神経内科 血液・腫瘍内科 代謝・内分泌内科 周産期内科 新生児内科 心臓血管外科 脳神経外科 小児外科 整形外科 形成外科 精神科 アレルギー科 リウマチ科 小児科 泌尿器科 産科 眼科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 放射線科 麻酔科 病理診断科 救急科 小児歯科
(5) 病 床 数	一般290床（稼働275床）
(6) 沿 革	
昭和45年4月1日	病院開設（管理者 平田 美穂）
昭和45年4月30日	病院本館完成
昭和45年5月8日	診療開始
昭和45年7月23日	基準寝具実施（寝第295号）
昭和45年9月17日	基準給食実施（食第307号）基準看護実施（看第130号）
昭和46年12月28日	母と子の指導教室完成 現在は母と子の教室と呼称
昭和47年2月1日	基準看護一般特類変更承認（険第98号）
昭和47年12月1日	基準看護精神特類変更承認（険第219号）
昭和49年10月1日	基準看護一般特二類変更承認（険第108号）基準看護精神特一類変更承認（険第108号）

昭和 50 年 4 月 1 日	管理者変更（管理者 児嶋 喜八郎）
昭和 54 年 3 月 31 日	全館防災設備工事完成
昭和 54 年 8 月 2 日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 55 年 4 月 1 日	兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例（昭和 55 年兵庫県条例第 11 号）により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和 56 年 5 月 5 日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和 56 年 10 月 7 日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 56 年 10 月 12 日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和 56 年 12 月 6 日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和 57 年 4 月 1 日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和 58 年 4 月 1 日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和 58 年 4 月 11 日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和 58 年 10 月 1 日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和 60 年 3 月 18 日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和 60 年 3 月 28 日	日帰り手術棟完成
昭和 60 年 4 月 3 日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和 60 年 4 月 15 日	日帰り手術棟手術開始
昭和 61 年 3 月 31 日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和 61 年 4 月 1 日	管理者変更（管理者 玉木 健雄）
昭和 61 年 4 月 1 日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和 61 年 10 月 1 日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和 62 年 1 月 22 日	自家発電設備改良工事完成
平成元年 2 月 1 日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成 3 年 5 月 1 日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第 220 号）
平成 4 年 4 月 1 日	基準看護一般特三類（260 床に）変更承認（険第 363 号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成 4 年 5 月 9 日	週 40 時間制試行
平成 4 年 5 月 18 日	病床数 260 床に変更承認（精神病棟廃止）
平成 4 年 7 月 6 日	病床数 290 床に変更承認（兵庫県指令医第 1 - 67 号）
平成 4 年 7 月 29 日	周産期医療センター安全祈願祭
平成 4 年 11 月 7 日	週 40 時間制本格実施
平成 5 年 4 月 1 日	管理者変更（管理者 竹峰 久雄）
平成 6 年 7 月 20 日	周産期医療センター定礎式
平成 6 年 9 月 1 日	管理者変更（管理者 小川 恭一）
平成 6 年 9 月 30 日	ドクターズカー購入
平成 6 年 9 月 30 日	周産期医療センター完成
平成 6 年 10 月 1 日	行政組織規則の改正（平成 6 年兵庫県規則第 66 号）により、周産期医療センターを設置
平成 6 年 10 月 3 日	周産期医療センター開設記念式典
平成 6 年 10 月 4 日	周産期医療センター診療開始
平成 7 年 1 月 17 日	阪神・淡路大震災

平成7年 9月 1日	本館改修工事に着手
平成8年 4月 1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年 6月 30日	本館改修工事完了
平成11年 4月 2日	管理者変更（管理者 山本 節）
平成12年 3月 1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年 4月 24日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成13年 10月 10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年 2月 28日	立体駐車場完成
平成14年 4月 1日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第 0401006）
平成14年 4月 1日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年 10月 15日	第3次小児救急開設（稼働病床 260床）
平成15年 4月 2日	管理者変更（管理者 中村 肇）
平成15年 10月 30日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1030005号 -511,519,526,533）
平成15年 11月 28日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1128007号 -330）
平成16年 3月 22日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成16年 4月 1日	アレルギー科追加
平成18年 4月 1日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される
平成18年 4月 1日	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成19年 10月 1日	小児救急医療センターを開設（稼働病床 266床）
平成20年 4月 1日	管理者変更（管理者 丸尾 猛）
平成21年 4月 1日	医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更
平成21年 7月 3日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成21年 12月 16日	地域医療支援病院の名称使用承認
平成21年 1月 4日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成22年 4月 1日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成23年 1月 4日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始
平成23年 4月 1日	日本精神神経学会精神科専門医研修施設として認定される
平成24年 4月 9日	中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結
平成25年 2月 8日	小児がん拠点病院として指定される
平成25年 4月 1日	管理者変更（管理者 長嶋 達也）
平成26年 4月 1日	小児がん医療センター設置
平成26年 12月 8日	新生児専用ドクターズカー運行開始
平成28年 5月 1日	ポートアイランドに移転開院
	リハビリテーション科追加
平成29年 4月 1日	管理者変更（管理者 中尾 秀人）
	小児救命救急センターとして指定される
平成30年 4月 1日	兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院として指定される

3. 業 務 図

(1) 機構一覽表 (2018.12.31 現在)



(2) 担当医師表 (2018.12.31 現在)

- (1) 救急総合診療科 宅見晃子、田中亮二郎、上村克徳、林卓郎、梶原伸介、楠元真由美、津田雅世、伊藤雄介、藤田杏子、松井鋭
- (2) 感染症内科 笠井正志
- (3) 臨床遺伝科 森貞直哉
- (4) 新生児内科 中尾秀人、芳本誠司、坂井仁美、横田知之、玉置祥子
松井紗智子、武岡恵美子、山内貴未
- (5) 脳神経内科 丸山あずさ、豊嶋大作
- (6) 循環器内科 城戸佐知子、田中敏克、富永健太、小川禎治、亀井直哉、松岡道生、三木康暢
- (7) 腎臓内科 貝藤裕史、堀之内智子
- (8) 代謝内分泌内科 郷司克己、尾崎佳代
- (9) 血液・腫瘍内科 小阪嘉之、長谷川大一郎、石田敏章、田村彰広、山本暢之
岸本健治、齋藤敦郎、神前愛子
- (10) 集中治療科 長谷川智巳、黒澤寛史、青木一憲、制野勇介、長井勇樹
- (11) アレルギー・リウマチ科 中岸保夫、笠井和子
- (12) 小児外科 前田貢作、横井暁子、中尾真、福澤宏明、森田圭一、河原仁守
- (13) 心臓血管外科 大嶋義博、松久弘典、日隈智憲
- (14) 脳神経外科 河村淳史、小山淳二、阿久津宣行
- (15) 形成外科 小野田素大、平山泰樹
- (16) 整形外科 薩摩眞一、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉
- (17) リハビリテーション科 小林大介
- (18) 泌尿器科 杉多良文、春名晶子、大饗政嗣
- (19) 耳鼻咽喉科 大津雅秀、勝沼紗矢香
- (20) 眼科 野村耕治、柳沢翠芳
- (21) 精神科 関口典子、持田啓、玉岡文子
- (22) 小児歯科 小本由美子
- (23) 産科 船越徹、荻野美智、窪田詩乃
- (24) 放射線科 赤坂好宣、杉岡勇典
- (25) 麻酔科 香川哲郎、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、鹿原史寿子、上嶋江利、末田グリンドロド彩、藤原孝志、廣瀬徹也、秋泉春樹、金子隆彦、田中康智、小西麻意
- (26) 病理診断科 吉田牧子
- (27) フェロー・専攻医 倉橋幸也、張慶哲、谷澤直子、大西理史、山田優里子、飯塚理、鮫島智大、花房広昭、村田剛士、三星アカリ、菊池菜摘、近藤亜耶、穴戸亜由美、土井圭、西村明紘、山内悠輔、近藤友里子、広田幸穂 (救急総合診療科)
黒田淳平、片岡大 (新生児内科)
山口宏、徳元翔一 (脳神経内科)
久保慎吾、上村和也、林賢 (循環器内科)
稲熊洋祐 (腎臓内科)
中村さやか、二野菜々子、市川貴之、中谷尚子 (血液・腫瘍内科)
楠本耕平、宮下徳久、染谷真紀、鴻池喜彦、金子尚樹、潮見祐樹、山下由理子、花見洋太郎、山本和宏 (集中治療科)
鮫島由友、磯野香織、梶原啓資、野村皓三、植村光太郎 (小児外科)
岩城隆馬、村上優 (心臓血管外科)
安積麻衣、勝部毅 (脳神経外科)
黒田諒子 (形成外科)
加藤達雄 (整形外科)
波越朋也、大西篤史 (泌尿器科)
中野由美子、別所佳世子 (眼科)
角健司、益子沙友里、岩田隆一 (産科)
田原潤子 (放射線科)
長谷川達也、神頭彩、上野健史、喜多條真穂、畑澤佐知、横尾知樹、坪井ちづ (麻酔科)

(3) 外来診療スケジュール (2018.12.31 現在)

科目	曜日	月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	救急総合診療	◎藤田	担当医	1,3週 ◎田中(亮) 2,4週 ◎宅見	担当医	◎津田	担当医	1,3週 ◎張 2,4週 ◎倉橋	担当医	◎上村	
	アレルギー		笠井(和)	笠井(和)	笠井(和)				◎笠井(和)		
	リウマチ			中岸	◎中岸	中岸	中岸	◎中岸	中岸		
	感染症内科						◎笠井(正)				
	臨床遺伝科			◎森貞	◎森貞			◎森貞	◎森貞		
	神経	◎豊嶋 徳元	丸山 担当医		豊嶋 山口			◎山口 担当医		◎丸山 徳元	
	循環器	田中(敏) ◎亀井	亀井	◎田中(敏)	田中(敏)	城戸	◎三木 三木	◎城戸	城戸	◎富永 ◎松岡 2,4週◎小川	富永 ◎松岡 2,4週◎小川
	循環器特殊	城戸 (思春期)	城戸 (成人先天性)		小川 (OD.不整脈)			田中 (カテ)	担当医 (シナジス)		
	腎臓	◎貝藤 ◎堀之内	担当医 担当医	◎貝藤 ◎稲熊	担当医 担当医	◎田中(亮) ◎堀之内	担当医 担当医			◎貝藤 ◎田中(亮) ◎稲熊	
	代謝内分泌		検査	三星	三星	◎尾崎	尾崎	◎郷司	郷司	◎尾崎	尾崎
	新生児				3週 ◎芳本 三村 1,2,4,5週 玉置		◎三村 黒田		◎芳本 横田		◎三村 1,3,5週 片岡 2,4週 山内(貴)
血液・腫瘍	◎小阪 長谷川 齋藤/神前(長期フォロー)	田村 神前		◎小阪 化学療法のみ			◎石田	齋藤	◎長谷川 山本 化学療法のみ	岸本	
外科	小児外科	◎森田	横井 森田	◎福澤	福澤	◎中尾	中尾	◎前田	前田	◎横井	横井
	ヘルニア外来	1,3,5週◎前田 2,4週◎横井						1,3,5週◎中尾(真) 2,4週◎福澤			
	特殊外来		ストマ 尾藤	在宅 中尾(真)	在宅 中尾(真)						
	心臓		◎大嶋 松久 日隈				◎大嶋 日隈				◎大嶋 松久
	脳神経	◎小山 ◎頭の形外来	小山			◎阿久津 担当医	◎阿久津 担当医			◎河村	◎河村 二分脊椎
	形成			◎小野田 ◎平山 言語療法				◎小野田 ◎平山 言語療法			
	整形		◎小林 ◎坂田	◎薩摩 ◎坂田	◎小林 ◎衣笠 2週側弯外来	◎薩摩 ◎小林			◎衣笠 ◎河本	◎衣笠 ◎河本	二分脊椎
放射線治療科			出水						副島		
眼科	◎野村 柳沢 中野 別所			コンタクト 外来		◎野村 柳沢 中野 別所	検査	◎野村 柳沢 中野 別所	検査		
泌尿器科	◎担当医		◎杉多 春名 ◎波越 大西	検査	◎担当医			検査	◎春名 (杉多) ◎波越 大西	二分脊椎	
耳鼻咽喉科	◎大津	大津	◎勝沼	◎勝沼				◎大津	大津	◎勝沼	◎勝沼
	1週・3週 補聴器		3週・4週 補聴器								
	言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		
歯科	◎曾根	曾根	◎曾根	曾根			◎曾根	曾根	◎田村	田村	
精神科	関口	関口	◎小笠原		持田	◎持田	◎長谷川	関口	◎関口	関口	
	◎持田	◎持田	玉岡	◎玉岡	◎玉岡	玉岡	◎持田	◎持田	玉岡	◎玉岡	
卒煙外来						休診					
産科	◎船 益子 窪田 金子	超音波 検査	金子 ◎船越	超音波 外来	益子 金子	超音波 検査	◎船越 窪田	超音波 外来	担当医 ◎船越	超音波 検査	

* 急な学会・出張等で休診・代診になる場合がありますのでご了承下さい。◎印は新患担当医となります。

兵庫県立こども病院

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1-6-7

代 表 TEL 078-945-7300

予約センター直通 TEL 078-945-7329 (平日 9時~16時まで再診、9時~17時まで初診)

予約センター直通 FAX 078-945-7330 (24時間対応 初診のみ)

4. 職員

(1) 職種別人員表 (2018.12.31 現在)

職 種 別		現 員 [人]
事 務 職		17
技 術 職	医 師 ・ 歯 科 医 師	96 (67)
	薬 劑 師	19 (4)
	診 療 放 射 線 技 師	14 (1)
	臨 床 検 査 技 師	19
	栄 養 士	2
	看 護 師	565 (3)
	視 能 訓 練 士	3 (1)
	心 理 判 定 員	2
	精 神 保 健 福 祉 士	1
	医 療 福 祉 相 談 員	2
	保 育 士	4 (2)
	言 語 聴 覚 士	4 (1)
	臨 床 工 学 技 士	11
	理 学 療 法 士	3
	作 業 療 法 士	1
	小 計	746 (79)
	技 能 労 務 職	調 理 員
合 計		771 (79)

注1 「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。

2 ()外書きは、臨時的任用職員

5. 近畿厚生局長への届出に関する事項 (2018年12月31日現在)

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項について届出を行っています。

【入院基本料等の施設基準】

一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)
(一般入院)第1099号

【入院基本料等加算の施設基準】

診療録管理体制加算2 (診療録2)第255号
 医師事務作業補助体制加算2(20対1) (事補2)第166号
 急性期看護補助体制加算(25対1、5割以上)

(急性看護)第194号

療養環境加算 (療)第183号

重症者等療養環境特別加算 (重)第221号

無菌治療室管理加算1 (無菌1)第26号

医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算1含む)
(医療安全)第515号

感染防止対策加算1
(感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算含む)
(感染防止1)第78号

患者サポート体制充実加算 (患サポ)第238号

褥そうハイリスク患者ケア加算 (褥瘡ケア)第54号

ハイリスク妊娠管理加算 (ハイ妊娠)第116号

ハイリスク分娩管理加算 (ハイ分娩)第68号

入退院支援加算3 (退支)第259号

精神疾患診療体制加算 (精疾診)第34号

呼吸ケアチーム加算 (呼吸チ)第39号

病棟薬剤業務実施加算1 (病棟薬1)第137号

データ提出加算2 (データ提)第180号

【特定入院料の施設基準】

特定集中治療室管理料1
(※経皮的動脈遮断術、ダメージコントロール手術)
(集1)第11号

(早期離床・リハビリテーション加算含む)

特定集中治療室管理料2
(※経皮的動脈遮断術、ダメージコントロール手術)
(集2)第2号

(早期離床・リハビリテーション加算含む)

総合周産期特定集中治療室管理料(※一酸化窒素吸入療法)
(周)第7号

小児入院医療管理料1(プレイルーム加算を含む)
(小入1)第8号

食事療養費1(食堂加算を含む) (食)第119147号

【医学管理等】

高度難聴指導管理料 (高)第329号

がん性疼痛緩和指導料 (がん疼)第429号

がん患者指導管理料1 (がん指1)第69号

がん患者指導管理料2 (がん指2)第55号

移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
(移植管造)第10号

乳腺炎重症化予防・ケア指導料 (乳腺ケア)第37号

院内トリアージ実施料 (トリ)第75号

開放型病院共同指導料 (開)第72号

薬剤管理指導料 (薬)第485号

ハイリスク妊産婦連携指導料1 (ハイ妊連1)第27号

ハイリスク妊産婦連携指導料2 (ハイ妊連2)第11号

医療機器安全管理料1 (機安1)第170号

【検査】

遺伝学的検査 (遺伝検)第9号

検体検査管理加算(IV)(※造血管腫瘍遺伝子検査)
(検IV)第51号

遺伝カウンセリング加算 (遺伝カ)第6号

心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
(血内)第32号

胎児心エコー法 (胎心エコ)第28号

ヘッドアップティルト試験 (ヘッド)第54号

持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
(持血測)第51号

神経学的検査 (神経)第146号

補聴器適合検査 (補聴)第42号

脳波検査判断料1 (脳判)第3号

小児食物アレルギー負荷検査 (小検)第94号

【画像診断】

画像診断管理加算2 (画2)第120号

CT撮影(64列以上)及びMRI撮影(1.5以上3テスラ未満)
(※大腸CT撮影加算) (C・M)第898号

冠動脈CT撮影加算 (冠動C)第80号

心臓MRI撮影加算 (心臓M)第64号

小児鎮静下MRI撮影加算 (小児M)第15号

【投薬】

抗悪性腫瘍剤処方管理加算 (抗悪処方)第64号

【注射】

外来化学療法加算1 (外化1)第145号

無菌製剤処理科 (菌)第520186号

【リハビリテーション】

脳血管疾患等リハビリテーション料(II)
[※廃用症候群リハビリテーション料(II)]

(脳II)第475号

呼吸器リハビリテーション料(I) (呼I)第231号

集団コミュニケーション療法料 (集コ)第77号

障害児(者)リハビリテーション料 (障)第33号

がん患者リハビリテーション料 (がんリハ)第82号

運動器リハビリテーション料(I) (運I)第356号

【精神科療法】

児童思春期精神科専門管理加算 (児春専)第6号

【手術】

頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
(頭移)第5号

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
(※植込型心電図検査) (ペ)第211号
(※植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術)

大動脈バルーンパンピング法 (大)第101号

胎児胸腔・羊水腔シャント術 (胎羊)第2号

胃瘻造設術 (胃瘻造)第217号

輸血管理料 I (輸血 I)第276号

人工肛門・人口膀胱造設術前処置加算 (造設前)第77号

コーディネート体制充実加算 (コ体充)第5号

【麻酔】

麻酔管理料(I) (麻管 I)第261号

麻酔管理料(II) (麻管 II)第24号

【放射線治療】

高エネルギー放射線治療 (高放)第90号

【歯科関係】

初診料(歯科)の注1に掲げる基準 (歯初診)第2844号

歯科外来診療環境体制加算 (外来環)第673号

歯科矯正診断料 (矯診)第164号

「※」:前記届出で、届出不要

6. 研修・教育認定施設内容

厚生労働省認定病院等	<p>◆ [厚生労働省認定]</p> <p>厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定]</p> <p>日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医特殊修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会認定日本気管食道科専門医研修施設 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本小児血液・がん専門医研修施設 日本小児神経学会専門医研修施設 日本集中治療医学会 集中治療専門医研修施設 日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設</p>
姉妹提携・交流協定病院	<p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国） パース小児病院（オーストラリア） 中国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）</p>

7. 委員会一覧 (2018年4月～2019年3月)

委員会名	開催回数	活動内容と結果
幹部会	毎月第2月曜日	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
(1)運営協議会 (経営実施計画推進委員会)	毎月第4月曜日	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
(2)保険診療対策委員会	毎月最終水曜日	減点内容の検討、返戻に対する対応の検討
①DPC コーディング部会	4回	①部位不明・詳細不明コードの減少へ向けた取組検討 ②適切な傷病名コーディングの検証 ③DPC 傷病名登録の検討 ④診療報酬改定(DPC 制度)の動向の情報共有等
②在宅医療部会	1回	①在宅療養における衛生材料・保険医療材料の検討
医療事故防止対策委員会	毎月第4月曜日	リスクマネジメント部会からの報告、事故等案件の状況報告
(1)リスクマネジメント部会	毎月第2火曜日	①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④重点取り組み課題の決定と実施、評価
(2)医療事故対策部会	3回	①事故原因の追及 ②再発防止策の策定
倫理委員会	9回	詳細は別紙のとおり
(1)臨床研究専門部会	31回	31件の迅速臨床研究倫理審査を施行した
(2)利益相反部会	0回	
臓器提供に関する委員会	0回	
(1)臓器提供院内コーディネート部会	9回	臓器移植に係る院内シミュレーション・勉強会の実施
脳死判定委員会	1回	脳死判定シミュレーションの実施
虐待防止委員会	定例3回 事例発生時25回	年間事例の報告 処遇検討
衛生委員会	月1回	職員の健康障害の防止対策等について審議
防災対策委員会	0回	
医師及び看護師の負担等軽減推進委員会	2回	負担軽減計画の策定
職務発明審査会	0回	
広報委員会	6回	①ニュースレター「げんきカエル」の発行(年4回) ②2017年報の発行 ③病院ホームページの更新
研修教育委員会	毎月第2木曜日	①症例検討会の実施状況について ②各部会からの報告
(1)図書部会	9回	①医局購入図書(電子ジャーナル等)見直し ②図書室図書の管理検討
(2)臨床研修病院部会	0回	
(3)小児科専門医研修プログラム部会	毎月第3木曜日	小児科専門医研修プログラムの企画・立案と実施の管理 小児科専攻医に対する指導と評価 見学説明会の開催など小児科専攻医のリクルート
省エネルギー推進委員会		日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証
国際交流推進委員会	9回	①シアトル小児病院研修派遣について ・第11回シアトル小児病院派遣研修について ・シアトル小児病院派遣研修申請・報告について ②特別講演 ロサンゼルス小児病院麻酔科医師
患者サービス向上等推進委員会	2回	①ハートメッセージの見直し ②ボランティア活動について
(1)接遇部会		
治験審査委員会	6回	詳細は別紙のとおり
受託研究審査委員会	0回	
共同研究審査委員会	0回	
臨床研究支援室運営委員会	2回	こども病院・理研ジョイントシンポジウムについて
医療の質向上委員会	0回	
診療材料委員会	6回	①新規診療材料採用申請の審議 ②JITS システムデータに基づく診療材料変更提案の審議
医療用ガス安全管理委員会	3回	①医療用ガス設備に係る定期点検の報告 ②医療ガス安全講習会開催
情報システム管理委員会	月1回	情報システムの安定的かつ効果的な運用を推進する ①システムに関する要望について審議と対応 ②システムの運用状況、障害状況の確認 ③システム障害時の対応、マニュアル作成

診療記録等管理委員会	随時(5回)	診療録等記載マニュアル及び診療録監査要領の策定 新規帳票の承認(血液・輸血製剤同意書の様式作成等) 診療録質的監査について
院内感染対策委員会	毎月第2金曜日	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止
(1)感染対策チーム(ICT)	毎週木曜日	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
(2)抗微生物薬適正使用支援チーム(AST)	毎月1回チーム会議 週1回コアメンバー会議 週3回ショートカンファレンス	①ショートカンファレンスによる抗緑膿菌薬使用状況モニタリング ②抗微生物薬適正使用に関する職員への教育及び地域医療連携研修会の開催 ③特定抗菌薬使用届のテンプレート作成 ④AST業務手順書の策定 ⑤院内感染対策マニュアルの改訂
外来運営委員会	8回	①外来運営指標分析 ②診察待ち時間対策の検討 ③総合案内運用開始 ④初診料、再診料の算定運用の策定
病棟運営委員会	10回	①病床利用状況の報告 ②GCU病床受け入れ拡大後の状況報告 ③「身体抑制の同意書」の様式見直し ④「入院診療計画書」の作成運用見直し
手術室運営委員会	第4水曜日	①手術件数報告 ②効率的な手術室運営について ③機種保守点検、更新について ④安全、感染について ⑤手術室関連ヒアリハット・インシデントの検討
集中治療室運営委員会	随時(11回)	①病床運用状況 ②集中系病棟の機能、構造等の検討 ③集中系病棟にかかる運用の検討 ・入退室基準 ・機器、薬剤、システム運用 ・急性期、終末期の指針 ④富士通重症系システム改修について
リハビリテーション運営委員会	6回	早期離床リハにおける診療部、看護部との連携構築 兵庫県立総合リハビリテーション中央病院との連携構築
薬事委員会	3回	①医薬品の採用・中止の検討 ②医薬品の後発医薬品への切替えの検討 ③新規採用医薬品(23品目)、中止医薬品(31品目)、後発医薬品への切替え(26品目)
(1)化学療法レジメン部会	4回	①新規化学療法レジメンについて ②再発固形腫瘍レジメンの登録方法について ③陽子線治療患者の他院レジメンの継続使用について ④がん化学療法レジメン管理要綱の改定 ⑤レジメン部会の委員構成について検討及び変更
放射線安全委員会	1回	①放射線業務従事者管理状況について ②放射線安全研修会について ③放射線障害予防規程の変更について
検査委員会	2回 不定期	①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望
栄養給食委員会	1回	①平成29年度給食及び栄養指導実施状況報告 ②院内約束食事基準の改定について ③栄養サポートチーム(NST)部会運営要綱(案)について
(1)栄養サポートチーム(NST)部会	1回	①栄養指導実施状況報告 ②栄養サポートチーム(NST)部会運営要綱(案)について
輸血療法委員会	隔月第1水曜日	①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③輸血療法マニュアル改定 ④輸血に関する諸問題の対応
褥瘡対策委員会	12回	①院内の褥瘡に関する状況の報告 ②褥瘡に関する研修 ③褥瘡対策患者対象の回診 ④褥瘡に関するデータの共有とケアの評価や対策の検討
クリニカルパス委員会	11回	①クリニカルパスの広報・作成・運用・管理 ②院内クリニカルパス大会2回開催 ③新規クリニカルパス作成 ④電子パス適応に関する運用決定

在宅推進委員会	11回	①在宅医療に関する各システム、医療機器等の運用・管理について検討 ②地域医療機関との連携 施設への訪問・在宅医療者研修開催(2回/年 看護部と協働)
呼吸療法委員会	12回	①呼吸器ケアチームからの回診報告 ②呼吸器ケアチーム勉強会(年3回) ③呼吸障害ケア部会からの活動報告 ④救急医療チームからの活動報告 ⑤救急医療チーム勉強会(年1回)
(1)呼吸器ケアサポートチーム	第1、3金曜日	人工呼吸器装着患者に対する①診療支援、②医療安全の向上および環境整備、③勉強会などを通じた教育
(2)救急医療チーム	9回	①2018年9月18日からMET運用開始した 年度末まで大きな問題なし METコール件数は月1~4件 ②講演会 2019年3月19日に外部講師を招聘し勉強会を開催した (当院運用開始後の状況報告と講演の2本立て)
小児がん医療センター運営委員会	5回	①近畿ブロック小児がん診療病院連絡会/近畿ブロック小児がん拠点病院協議会の案内・報告 ②入院中患者(高校生)への教育・学習支援について ③小児がんに関する研究及び研修会などの案内・報告 ④小児がん拠点病院指定要件等の検討 ⑤がん登録にかかる案内・報告等
(1)緩和ケア部会	4回	①緩和ケアチーム チーム会議検討事項の報告 ②緩和ケアチーム 介入手順の策定 ③緩和ケア加算開始に向けた検討
総合周産期母子医療センター運営委員会	12回	産科、新生児科の病床利用率・入院患者数、周産期医療研修会について検討する
小児救命救急センター運営委員会	11回	①救急患者受付状況の報告 ②大型連休における救命救急センターの勤務体制の検討 ③医療スタッフの安全性の確保に関する検討 ④災害・多数受入れマニュアルの検討 ⑤防犯設備の設置
小児心臓センター運営委員会		開催なし
予防接種センター運営委員会	6回	予防接種センターの事業運営にかかる実績確認と課題等の検討 ①予防接種等(「接種件数」等) ②市町等に対する接種に関する情報等の提供(「ホームページ」) ③医療相談(「電話相談」) ④医療従事者向け研修(「予防接種基礎講座」)
小児アレルギー疾患センター運営委員会	3回	①アレルギー疾患連絡協議会について ②アレルギー拠点病院について ③アレルギー疾患対策事業について
地域医療支援病院委員会	1回	
病院運営懇話会	1回	
病院機能評価受審準備委員会	12回	①病院機能評価受審に向けた院内課題解決の進捗管理 ②病院機能評価訪問審査の受入準備 ③病院機能評価受審結果の取りまとめ

各種委員会（別紙）

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
倫理委員会	前田 貢作	5月9日 9:30～	会議室	11	1 日本人新生児を対象とした脊髄性筋萎縮症マス・スクリーニングのパイロット研究:SMN1遺伝子欠失の検出を目的とした新しいマス・スクリーニングシステムの確立<横田新生児内科医長> 2 白血病細胞のin vitro薬剤感受性試験<山本血液・腫瘍内科医長> 3 難治性小児中枢神経腫瘍を対象としたINF-β併用がんペプチドカクテルワクチン療法 第IIa相臨床試験(NCCV+IFNβ p2a)<山本血液・腫瘍内科医長>
倫理委員会	前田 貢作	6月13日 9:30～	会議室	8	1 遺伝子分析装置、及び呼吸器感染症起因菌遺伝子検出試薬を用いた各種検体による臨床性能評価試験:多施設研究<幸福検査技師長> 2 新生児横隔膜ヘルニアの治療標準化に関する国際共同研究<横井小児外科部長>
倫理委員会	前田 貢作	7月11日 9:30～	会議室	10	1 学童期から青年期前期における二分脊椎症児の健康関連QOLの実態及びその養育者の心理的状況の概念形成に関する研究<杉多泌尿器科部長>
倫理委員会	前田 貢作	8月8日 9:30～	会議室	10	1 多施設共同気管挿管レジストリー NEAR 4 KIDS (National Emergency Airway Registry for Children)<長井集中治療科医長> 2 疾患オミックス解析拠点研究と公的データベース・難病レジストリー構築<森貞臨床遺伝科部長> 3 食物アレルギー保有児とその両親の食生活関連調査(共同研究)<鳥井栄養管理課主査>
倫理委員会	前田 貢作	9月19日 9:30～	会議室	10	1 白金製剤による難聴発症の原因遺伝子解析に関する研究<大津耳鼻咽喉科部長> 2 小児急性骨髄性白血病難治例の前方視野的観察研究(JPLSG-AML-R15)<山本血液・腫瘍内科医長>
倫理委員会	前田 貢作	10月10日 9:30～	会議室	9	1 高リスク神経芽腫の再発・再増大における微小残存病変(MRD)の動態を検討する多施設共同観察研究<山本血液・腫瘍内科医長> 2 小児造血器腫瘍におけるクリニカルシーケンスの実行可能性に関する研究(JPLSG-CSeq-17)<山本血液・腫瘍内科医長>
倫理委員会	前田 貢作	11月14日 9:30～	会議室	8	1 高張食塩水による小児頭部外傷治療の予後に対する影響 アジア小児集中治療ネットワーク(PACCMAN)前向き多施設観察研究<黒澤集中治療科医長> 2 免疫グロブリン療法不応の川崎病に対する2nd lineとしてのインフリキシマブ投与効果に関する多施設共同観察研究<倉橋総合診療科フェロー>
倫理委員会	前田 貢作	12月19日 9:30～	会議室	10	1 先天性横隔膜ヘルニアにおける胎児MRI画像の肺の形態・成熟度を利用した重症度分類の有用性についての多施設共同研究<横井小児外科部長> 2 蛋白漏出性胃腸症患者へ対するブデソニド(センターコート@カプセル)の投与<上村循環器内科フェロー>
倫理委員会	前田 貢作	2月12日 9:30～	会議室	9	1 希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究<森貞臨床遺伝科部長>
治験審査委員会	郷司 克己	4月20日 16:30～	会議室	9	現在進行中の治験2課題の継続について審議した。また、2課題の終了と1課題の中止を報告した
治験審査委員会	郷司 克己	6月15日 16:30～	会議室	9	現在進行中の治験3課題の継続について審議した
治験審査委員会	郷司 克己	8月17日 16:30～	会議室	10	現在進行中の治験1課題の継続について審議した
治験審査委員会	郷司 克己	10月19日 16:30～	会議室	10	IDEC-C2B8(医師主導治験)の実施の適否について審議、また現在進行中の治験1課題の継続について審議した。また、1課題の終了を報告した
治験審査委員会	郷司 克己	12月21日 16:30～	会議室	8	血友病A/B患者対象の非介入試験の実施の適否について審議、現在進行中の治験2課題の継続について審議した。また、1課題の中止を報告した
治験審査委員会	郷司 克己	2月15日 16:30～	会議室	9	PKC412の実施の適否について審議、現在進行中の治験5課題の継続について審議した。また、1課題の中止を報告した

II 医事経理関係

第1節 患者数統計

1. 総括

(1) 年度別

区 分				26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
外 来	a	診療日数	日	244	243	243	244	244
	b	新患者数	人	7,744	7,687	7,347	10,498	13,019
	c	一日平均新患者数	人	31.7	31.6	30.2	43.0	53.4
	d	延患者数	人	85,527	86,135	84,099	93,614	99,518
	e	一日平均延患者数	人	350.5	354.5	346.1	383.7	407.9
	f	平均通院日数	日	11.0	11.2	11.4	8.9	7.6
入 院	g	稼働日数	日	365	366	365	365	365
	h	稼働病床数	床	266	266	267	269	275
	l	入院患者数	人	5,406	5,546	5,681	6,478	6,213
	j	一日平均入院患者数	人	14.8	15.2	15.6	17.7	17.0
	k	退院患者数	人	5,392	5,580	5,651	6,505	6,202
	l	一日平均退院患者数	人	14.8	15.2	15.5	17.8	17.0
	m	延入院患者数	人	83,843	83,583	76,733	85,354	79,417
	n	一日平均延患者数	人	229.7	228.4	210.2	233.8	217.6
	o	病床利用率	%	86.4	85.9	78.7	86.9	79.1
	p	病床回転数	回	20.3	20.9	21.2	24.1	22.6
	r	日帰入院患者数	人	237	371	369	415	393
	s	N I C U ・ G C U 入院患者数	人	961	933	720	824	797
	t	平均在院日数	日	14.5	14.0	12.5	12.1	11.8
	u	外来入院比率	%	102.0	103.1	109.6	109.7	125.3
v	入院率	%	69.8	72.1	77.3	61.7	47.7	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/ (h × g)) × 100 p 病床回転数 = ((I+k) /2) /h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) /2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100							

(2) 月別患者統計

H30 年度

区 分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
外 来	a	診 療 日 数	日	20	21	21	21	23	18	22	21	19	19	19	20	244
	b	新 患 者 数	人	997	1,107	1,051	1,262	1,284	992	1,034	1,021	1,132	1,153	929	1,057	13,019
	c	一日平均新患者数	人	49.9	52.7	50.0	60.1	55.8	55.1	47.0	48.6	59.6	60.7	48.9	52.9	53.4
	d	延 患 者 数	人	7,751	7,708	7,545	8,662	10,551	7,669	8,226	8,048	8,480	8,184	7,464	9,230	99,518
	e	一日平均延患者数	人	387.6	367.0	359.3	412.5	458.7	426.1	373.9	383.2	446.3	430.7	392.8	461.5	407.9
	f	平均通院日数	日	7.8	7.0	7.2	6.9	8.2	7.7	8.0	7.9	7.5	7.1	8.0	8.7	7.6
入 院	g	稼 働 日 数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	h	稼 働 病 床 数	床	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275
	I	入 院 患 者 数	人	525	454	486	528	624	475	532	526	475	537	484	567	6,213
	j	一日平均入院患者数	人	17.5	14.6	16.2	17.0	20.1	15.8	17.2	17.5	15.3	17.3	17.3	18.3	17.0
	k	退 院 患 者 数	人	512	488	483	472	665	458	552	490	535	471	490	587	6,203
	l	一日平均退院患者数	人	17.1	15.7	16.1	15.2	21.5	15.3	17.8	16.3	17.3	15.2	17.5	18.9	17.0
	m	延入院患者数	人	6,631	6,378	5,930	6,184	7,036	6,152	6,564	6,744	7,112	6,720	6,528	7,438	79,417
	n	一日平均延患者数	人	221.0	205.7	197.7	199.5	227.0	205.1	211.7	224.8	229.4	216.8	233.1	239.9	217.6
	o	病 床 利 用 率	%	80.4	74.8	71.9	72.5	82.5	74.6	77.0	81.7	83.4	78.8	84.8	87.2	79.1
	p	病 床 回 転 数	回	1.9	1.7	1.8	1.8	2.3	1.7	2.0	1.8	1.8	1.8	1.8	2.1	22.6
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	27	29	37	30	52	40	32	30	28	30	21	37	393
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	65	55	44	57	72	67	79	87	71	66	61	73	797
	t	平 均 在 院 日 数	日	11.8	12.5	11.2	11.4	9.9	12.2	11.1	12.3	13.0	12.4	12.4	11.9	11.8
	u	外 来 入 院 比 率	%	116.9	120.9	127.2	140.1	150.0	124.7	125.3	119.3	119.2	121.8	114.3	124.1	125.3
v	入 院 率	%	52.7	41.0	46.2	41.8	48.6	47.9	51.5	51.5	42.0	46.6	52.1	53.6	47.7	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/ (h × g)) × 100 p 病床回転数 = ((I+k) /2) /h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) /2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100															

2. 月別科別外来患者数

H30 年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	38	50	55	47	56	39	34	44	31	38	43	26	501
	再来患者数	749	616	680	752	1,090	661	737	684	775	655	668	916	8,983
	延患者数	787	666	735	799	1,146	700	771	728	806	693	711	942	9,484
腎臓内科	新患者数	12	16	8	29	38	13	6	10	16	12	6	10	176
	再来患者数	219	227	235	292	362	214	225	213	268	241	215	308	3,019
	延患者数	231	243	243	321	400	227	231	223	284	253	221	318	3,195
神経内科	新患者数	10	10	13	15	17	13	11	11	15	10	8	11	144
	再来患者数	281	278	296	285	358	261	284	323	324	332	331	354	3,707
	延患者数	291	288	309	300	375	274	295	334	339	342	339	365	3,851
血液・腫瘍内科	新患者数	9	4	7	13	4	6	13	11	4	3	6	10	90
	再来患者数	339	302	303	416	529	358	360	376	413	385	368	507	4,656
	延患者数	348	306	310	429	533	364	373	387	417	388	374	517	4,746
代謝・内分泌内科	新患者数	12	16	19	19	25	15	14	14	15	15	13	14	191
	再来患者数	456	523	487	483	645	524	518	526	514	512	519	590	6,297
	延患者数	468	539	506	502	670	539	532	540	529	527	532	604	6,488
新生児内科	新患者数	2	2	4	4	4	4	0	2	3	2	2	1	30
	再来患者数	203	188	168	178	200	187	225	185	160	189	176	213	2,272
	延患者数	205	190	172	182	204	191	225	187	163	191	178	214	2,302
心臓血管外科	新患者数	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	再来患者数	77	75	63	86	89	82	64	71	83	80	77	78	925
	延患者数	77	75	65	86	89	82	64	71	83	80	77	78	927
脳神経外科	新患者数	24	23	17	32	29	34	29	43	31	27	20	31	340
	再来患者数	316	269	250	349	469	304	277	242	369	311	280	396	3,832
	延患者数	340	292	267	381	498	338	306	285	400	338	300	427	4,172
小児外科	新患者数	34	42	39	51	57	38	40	41	37	37	38	42	496
	再来患者数	412	356	381	432	569	361	394	378	444	409	381	510	5,027
	延患者数	446	398	420	483	626	399	434	419	481	446	419	552	5,523
整形外科	新患者数	65	81	86	76	79	75	144	99	99	83	84	90	1,061
	再来患者数	627	549	537	653	801	558	575	504	599	568	496	738	7,205
	延患者数	692	630	623	729	880	633	719	603	698	651	580	828	8,266
形成外科	新患者数	29	31	32	43	38	29	28	37	36	36	32	32	403
	再来患者数	280	278	260	279	324	259	286	279	282	303	244	322	3,396
	延患者数	309	309	292	322	362	288	314	316	318	339	276	354	3,799
精神科	新患者数	19	11	9	17	18	5	14	22	23	23	20	18	199
	再来患者数	276	319	297	312	395	299	345	360	366	311	346	359	3,985
	延患者数	295	330	306	329	413	304	359	382	389	334	366	377	4,184
アレルギー内科	新患者数	2	7	2	6	5	4	4	4	4	2	8	14	62
	再来患者数	94	116	89	120	135	111	129	124	120	120	130	142	1,430
	延患者数	96	123	91	126	140	115	133	128	124	122	138	156	1,492
リウマチ科	新患者数	2	1	6	5	4	1	1	2	4	3	5	5	39
	再来患者数	90	114	105	107	142	77	111	103	114	97	101	130	1,291
	延患者数	92	115	111	112	146	78	112	105	118	100	106	135	1,330

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新患者数	2	0	4	2	1	0	2	3	0	0	0	0	14
	再来患者数	13	15	8	14	11	11	3	4	10	3	3	6	101
	延患者数	15	15	12	16	12	11	5	7	10	3	3	6	115
臨床遺伝科	新患者数	5	7	6	9	10	7	6	8	3	9	3	0	73
	再来患者数	40	46	50	60	76	50	58	59	65	67	59	72	702
	延患者数	45	53	56	69	86	57	64	67	68	76	62	72	775
泌尿器科	新患者数	65	64	57	70	76	60	76	62	62	59	56	69	776
	再来患者数	409	378	351	464	586	426	472	406	438	392	384	476	5,182
	延患者数	474	442	408	534	662	486	548	468	500	451	440	545	5,958
産科	新患者数	9	12	19	17	10	10	13	12	18	12	8	7	147
	再来患者数	98	135	129	174	181	193	264	211	184	183	125	129	2,006
	延患者数	107	147	148	191	191	203	277	223	202	195	133	136	2,153
眼科	新患者数	34	50	38	35	46	36	56	38	45	44	46	37	505
	再来患者数	705	755	740	733	911	651	732	757	657	642	623	729	8,635
	延患者数	739	805	778	768	957	687	788	795	702	686	669	766	9,140
耳鼻咽喉科	新患者数	33	35	46	43	49	29	42	38	40	36	41	40	472
	再来患者数	403	349	369	428	541	362	363	467	445	376	372	433	4,908
	延患者数	436	384	415	471	590	391	405	505	485	412	413	473	5,380
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	8	10	8	9	5	4	3	2	4	2	3	1	59
	延患者数	8	10	8	9	5	4	3	2	4	2	3	1	59
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	延患者数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
麻酔科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	再来患者数	63	48	69	63	85	66	63	78	63	55	49	69	771
	延患者数	63	48	69	63	85	66	63	79	64	55	49	69	773
総合診療科	新患者数	18	26	16	14	32	22	31	22	21	17	18	19	256
	再来患者数	202	195	208	229	280	217	231	252	219	214	207	244	2,698
	延患者数	220	221	224	243	312	239	262	274	240	231	225	263	2,954
救急科	新患者数	505	543	498	634	612	488	410	443	564	622	406	516	6,241
	再来患者数	282	346	280	367	334	309	318	283	295	430	255	293	3,792
	延患者数	787	889	778	1,001	946	797	728	726	859	1,052	661	809	10,033
小児集中治療科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科	新患者数	68	76	68	81	74	64	60	54	60	63	66	65	799
	再来患者数	112	114	131	115	149	131	155	140	137	154	123	158	1,619
	延患者数	180	190	199	196	223	195	215	194	197	217	189	223	2,418
合計	新患者数	997	1,107	1,051	1,262	1,284	992	1,034	1,021	1,132	1,153	929	1,057	13,019
	再来患者数	6,754	6,601	6,494	7,400	9,267	6,677	7,192	7,027	7,348	7,031	6,535	8,173	86,499
	延患者数	7,751	7,708	7,545	8,662	10,551	7,669	8,226	8,048	8,480	8,184	7,464	9,230	99,518

3. 月別科別入院患者数

H30年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	36	33	42	36	46	37	36	35	37	28	41	38	445
	退院患者数	36	34	46	39	54	38	34	42	41	31	43	46	484
	延患者数	475	458	544	440	432	413	555	608	579	537	529	564	6,134
腎臓内科	新規入院患者数	2	7	6	10	6	6	4	6	7	7	8	1	70
	退院患者数	7	8	10	5	10	5	5	7	6	6	11	6	86
	延患者数	100	68	56	89	107	87	92	106	117	97	124	98	1,141
神経内科	新規入院患者数	9	5	6	10	20	8	9	13	8	16	13	11	128
	退院患者数	11	14	7	16	19	13	15	15	17	15	21	15	178
	延患者数	223	193	83	129	138	158	129	181	165	192	196	195	1,982
血液・腫瘍内科	新規入院患者数	79	74	75	66	78	59	89	69	66	82	62	74	873
	退院患者数	73	85	81	59	78	68	89	63	77	72	68	72	885
	延患者数	1,359	1,474	1,400	1,376	1,430	1,258	1,298	1,222	1,372	1,317	1,241	1,352	16,099
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	1	1	3	2	4	2	0	1	4	4	4	4	30
	退院患者数	2	1	2	3	5	2	2	3	4	5	5	8	42
	延患者数	12	6	13	16	46	16	16	23	19	29	23	52	271
新生児内科	新規入院患者数	33	28	24	29	35	36	38	48	38	36	31	34	410
	退院患者数	23	35	20	16	38	29	38	29	39	20	37	33	357
	延患者数	971	934	642	788	940	884	926	999	1,241	1,050	1,041	1,152	11,568
心臓血管外科	新規入院患者数	7	6	9	17	13	7	8	10	8	10	14	10	119
	退院患者数	9	10	12	10	21	8	7	15	10	14	9	16	141
	延患者数	204	214	201	149	248	209	124	217	214	180	165	236	2,361
脳神経外科	新規入院患者数	20	14	14	16	17	14	13	10	16	19	15	8	176
	退院患者数	20	18	15	19	18	13	13	12	19	19	13	14	193
	延患者数	167	177	155	170	125	148	138	106	158	142	144	185	1,815
小児外科	新規入院患者数	62	39	58	51	79	61	53	68	65	49	49	73	707
	退院患者数	67	41	59	51	86	62	58	64	73	45	59	78	743
	延患者数	431	407	477	436	511	374	359	455	484	456	477	445	5,312
整形外科	新規入院患者数	21	25	25	25	38	14	21	28	23	23	23	30	296
	退院患者数	31	23	21	27	42	19	22	21	36	15	27	33	317
	延患者数	269	309	350	497	472	280	286	372	401	323	384	388	4,331
形成外科	新規入院患者数	24	16	13	18	27	18	25	17	18	18	18	26	238
	退院患者数	22	19	15	11	33	17	28	16	22	17	16	31	247
	延患者数	100	138	115	110	195	108	133	145	146	100	126	156	1,572
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	5	12	4	10	18	11	13	11	8	11	8	6	117
	退院患者数	5	13	4	9	19	11	13	11	8	11	8	6	118
	延患者数	5	25	4	18	22	11	13	17	8	11	8	7	149
リウマチ科	新規入院患者数	0	1	0	4	4	3	1	1	1	3	4	2	24
	退院患者数	0	1	1	4	3	4	1	1	1	2	1	6	25
	延患者数	27	38	9	43	29	35	4	11	3	8	57	53	317

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	26	27	21	33	37	23	27	27	18	21	25	29	314
	退院患者数	27	27	21	30	38	20	32	27	22	18	26	29	317
	延患者数	141	158	119	151	192	136	156	140	125	91	135	184	1,728
産科	新規入院患者数	12	7	19	21	20	20	26	22	23	23	14	23	230
	退院患者数	14	13	19	13	18	18	25	23	25	24	16	17	225
	延患者数	278	176	266	217	422	429	521	539	492	482	316	519	4,657
眼科	新規入院患者数	42	32	41	33	44	30	27	31	26	36	31	37	410
	退院患者数	43	31	42	32	44	30	31	24	33	31	31	38	410
	延患者数	190	124	168	136	198	116	110	104	124	126	127	162	1,685
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	10	13	14	12	13	10	15	10	14	14	12	10	147
	退院患者数	11	11	14	10	16	8	15	13	15	12	13	9	147
	延患者数	68	66	102	69	90	66	112	72	86	87	88	76	982
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	102	86	88	115	107	96	108	91	69	103	86	123	1,174
	退院患者数	104	96	90	111	114	90	117	88	80	105	81	127	1,203
	延患者数	938	781	631	756	781	812	995	820	722	825	715	947	9,723
救急科	新規入院患者数	6	3	2	2	1	4	0	1	2	2	0	2	25
	退院患者数	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
	延患者数	7	4	2	2	1	4	0	1	3	2	0	1	27
小児集中治療科	新規入院患者数	28	25	22	18	17	16	19	27	24	32	26	26	280
	退院患者数	5	7	4	7	9	3	7	15	6	9	5	3	80
	延患者数	666	628	593	592	657	608	597	606	653	665	632	666	7,563
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	525	454	486	528	624	475	532	526	475	537	484	567	6,213
	退院患者数	512	488	483	472	665	458	552	489	535	471	490	587	6,202
	延患者数	6,631	6,378	5,930	6,184	7,036	6,152	6,564	6,744	7,112	6,720	6,528	7,438	79,417

4. 年度別科別外来患者数

科名	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
循環器内科	新患者数	512	519	536	621	501
	再来患者数	8,451	8,638	8,525	8,924	8,983
	延患者数	8,963	9,157	9,061	9,545	9,484
腎臓内科	新患者数	138	135	135	159	176
	再来患者数	3,168	3,197	3,103	3,141	3,019
	延患者数	3,306	3,332	3,238	3,300	3,195
神経内科	新患者数	138	149	110	139	144
	再来患者数	3,573	3,134	2,916	3,289	3,707
	延患者数	3,711	3,283	3,026	3,428	3,851
血液・腫瘍内科	新患者数	80	89	66	71	90
	再来患者数	3,567	3,716	4,122	4,156	4,656
	延患者数	3,647	3,805	4,188	4,227	4,746
代謝・内分泌内科	新患者数	167	141	168	219	191
	再来患者数	4,933	5,148	5,373	6,013	6,297
	延患者数	5,100	5,289	5,541	6,232	6,488
新生児内科	新患者数	541	531	35	29	30
	再来患者数	2,653	2,709	2,200	2,271	2,272
	延患者数	3,194	3,240	2,235	2,300	2,302
心臓血管外科	新患者数	5	7	1	1	2
	再来患者数	1,509	1,610	1,330	1,097	925
	延患者数	1,514	1,617	1,331	1,098	927
脳神経外科	新患者数	328	394	338	308	340
	再来患者数	3,812	3,829	4,048	3,803	3,832
	延患者数	4,140	4,223	4,386	4,111	4,172
小児外科	新患者数	634	637	539	543	496
	再来患者数	5,223	5,463	5,360	5,144	5,027
	延患者数	5,857	6,100	5,899	5,687	5,523
整形外科	新患者数	871	807	910	1,023	1,061
	再来患者数	5,167	5,028	5,649	6,617	7,205
	延患者数	6,038	5,835	6,559	7,640	8,266
形成外科	新患者数	437	433	387	374	403
	再来患者数	2,976	3,467	2,858	3,006	3,396
	延患者数	3,413	3,900	3,245	3,380	3,799
精神科	新患者数	87	119	108	133	199
	再来患者数	3,598	3,686	3,782	3,879	3,985
	延患者数	3,685	3,805	3,890	4,012	4,184
アレルギー内科	新患者数	72	54	54	64	62
	再来患者数	1,424	1,505	1,328	1,203	1,430
	延患者数	1,496	1,559	1,382	1,267	1,492
リウマチ科	新患者数			14	28	39
	再来患者数			524	1,171	1,291
	延患者数			538	1,199	1,330

科名	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
感染症内科	新患者数			6	9	14
	再来患者数			19	121	101
	延患者数			25	130	115
臨床遺伝科	新患者数			21	52	73
	再来患者数			195	437	702
	延患者数			216	489	775
泌尿器科	新患者数	714	684	729	757	776
	再来患者数	4,694	4,463	4,407	4,982	5,182
	延患者数	5,408	5,147	5,136	5,739	5,958
産科	新患者数	539	434	183	196	147
	再来患者数	2,526	2,148	1,779	1,950	2,006
	延患者数	3,065	2,582	1,962	2,146	2,153
眼科	新患者数	517	502	451	499	505
	再来患者数	9,888	10,036	8,456	8,843	8,635
	延患者数	10,405	10,538	8,907	9,342	9,140
耳鼻咽喉科	新患者数	436	441	436	457	472
	再来患者数	5,720	6,017	5,021	4,932	4,908
	延患者数	6,156	6,458	5,457	5,389	5,380
リハビリテーション科	新患者数			0	0	0
	再来患者数			448	550	59
	延患者数			448	550	59
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	15	10	1
	延患者数	0	0	15	10	1
麻酔科	新患者数	10	16	3	4	2
	再来患者数	976	1,026	842	836	771
	延患者数	986	1,042	845	840	773
総合診療科	新患者数	164	198	218	215	256
	再来患者数	1,280	1,271	1,303	2,082	2,698
	延患者数	1,444	1,469	1,521	2,297	2,954
救急科	新患者数	586	616	1,154	3,789	6,241
	再来患者数	825	852	1,846	3,142	3,792
	延患者数	1,411	1,468	3,000	6,931	10,033
小児集中治療科	新患者数			1	0	0
	再来患者数			0	0	0
	延患者数			1	0	0
歯科	新患者数	768	781	744	808	799
	再来患者数	1,820	1,505	1,303	1,517	1,619
	延患者数	2,588	2,286	2,047	2,325	2,418
合計	新患者数	7,744	7,687	7,347	10,498	13,019
	再来患者数	77,783	78,448	76,752	83,116	86,499
	延患者数	85,527	86,135	84,099	93,614	99,518

5. 年度別科別入院患者数

科名	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
循環器内科	新規入院患者数	367	440	383	397	445
	退院患者数	443	495	420	456	484
	延患者数	8,993	8,519	5,456	5,941	6,134
腎臓内科	新規入院患者数	63	76	102	92	70
	退院患者数	80	88	136	109	86
	延患者数	1,238	1,394	1,746	1,481	1,141
神経内科	新規入院患者数	45	24	78	101	128
	退院患者数	135	90	163	173	178
	延患者数	1,961	1,722	1,847	2,577	1,982
血液・腫瘍内科	新規入院患者数	569	672	697	954	873
	退院患者数	591	717	697	965	885
	延患者数	10,559	12,166	11,520	14,642	16,099
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	41	35	66	50	30
	退院患者数	48	51	69	60	42
	延患者数	337	447	420	546	271
新生児内科	新規入院患者数	542	517	423	439	410
	退院患者数	539	526	387	404	357
	延患者数	19,549	17,900	15,021	14,185	11,568
心臓血管外科	新規入院患者数	136	133	144	133	119
	退院患者数	150	143	174	149	141
	延患者数	3,654	4,436	2,894	2,554	2,361
脳神経外科	新規入院患者数	180	171	226	202	176
	退院患者数	247	216	253	234	193
	延患者数	3,399	2,868	2,277	1,985	1,815
小児外科	新規入院患者数	741	856	766	764	707
	退院患者数	833	954	809	793	743
	延患者数	8,035	8,214	6,379	6,143	5,312
整形外科	新規入院患者数	249	239	244	296	296
	退院患者数	256	240	266	331	317
	延患者数	3,500	3,582	3,497	4,639	4,331
形成外科	新規入院患者数	257	269	217	221	238
	退院患者数	265	278	223	229	247
	延患者数	1,747	1,722	1,400	1,448	1,572
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	22	40	64	119	117
	退院患者数	48	56	81	122	118
	延患者数	374	343	228	205	149
リウマチ科	新規入院患者数			22	16	24
	退院患者数			37	17	25
	延患者数			323	195	317

科名	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
感染症内科	新規入院患者数			0	0	0
	退院患者数			0	0	0
	延患者数			0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数			0	2	0
	退院患者数			0	2	0
	延患者数			0	4	0
泌尿器科	新規入院患者数	266	264	264	337	314
	退院患者数	276	270	277	342	317
	延患者数	1,408	1,394	1,412	1,695	1,728
産科	新規入院患者数	508	415	331	345	230
	退院患者数	509	422	319	359	225
	延患者数	9,916	9,900	7,626	7,870	4,657
眼科	新規入院患者数	436	407	425	426	410
	退院患者数	438	407	423	426	410
	延患者数	1,954	1,790	1,828	1,805	1,685
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	128	128	104	136	147
	退院患者数	131	130	102	136	147
	延患者数	948	893	725	924	982
リハビリテーション科	新規入院患者数			0	0	0
	退院患者数			0	0	0
	延患者数			0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	7	5	142	926	1,174
	退院患者数	6	8	153	1,043	1,203
	延患者数	1,839	1,469	2,487	8,773	9,723
救急科	新規入院患者数	849	855	776	206	25
	退院患者数	397	489	570	39	4
	延患者数	4,432	4,824	3,447	323	27
小児集中治療科	新規入院患者数			207	316	280
	退院患者数			92	116	80
	延患者数			6,200	7,419	7,563
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	5,406	5,546	5,681	6,478	6,213
	退院患者数	5,392	5,580	5,651	6,505	6,202
	延患者数	83,843	83,583	76,733	85,354	79,417

6. 年齢別患者状況

H30年度

年齢区分	外 来		入 院	
	患者数 (人)	構成比 (%)	患者数 (人)	構成比 (%)
0歳～1歳未満	3,748	10.2%	999	20.4%
1歳以上～3歳未満	6,631	18.1%	909	18.6%
3歳～6歳未満	7,658	20.9%	936	19.2%
6歳～13歳未満	11,245	30.7%	1,275	26.1%
13歳以上～16歳未満	3,961	10.8%	333	6.8%
16歳以上	3,393	9.3%	435	8.9%
合 計	36,636	100.0%	4,887	100.0%

7. 地域別患者状況

(1) 外来

区 分	29年度		30年度			
	患者数	構成比	患者数	構成比		
兵 庫	神戸市	14,569	53.1%	17,304	56.9%	
	姫路市	1,110	4.0%	1,087	3.6%	
	尼崎市	353	1.3%	349	1.1%	
	明石市	2,172	7.9%	2,271	7.5%	
	西宮市	986	3.6%	1,071	3.5%	
	洲本市	180	0.7%	199	0.7%	
	芦屋市	360	1.3%	362	1.2%	
	伊丹市	219	0.8%	245	0.8%	
	相生市	49	0.2%	46	0.1%	
	豊岡市	270	1.0%	287	0.9%	
兵 庫	加古川市	720	2.6%	707	2.3%	
	赤穂市	119	0.4%	117	0.4%	
	西脇市	169	0.6%	154	0.5%	
	宝塚市	366	1.3%	408	1.3%	
	兵 庫	三木市	345	1.3%	345	1.1%
		高砂市	223	0.8%	215	0.7%
		川西市	126	0.5%	123	0.4%
		小野市	235	0.9%	237	0.8%
		三田市	542	2.0%	635	2.1%
		加西市	157	0.6%	123	0.4%
篠山市		148	0.5%	169	0.6%	
養父市		75	0.3%	74	0.2%	
丹波市		287	1.0%	291	1.0%	

(2) 入院

区 分	29年度		30年度			
	患者数	構成比	患者数	構成比		
兵 庫	神戸市	2,384	51.6%	2,379	53.3%	
	姫路市	155	3.4%	143	3.2%	
	尼崎市	55	1.2%	45	1.0%	
	明石市	311	6.7%	350	7.8%	
	西宮市	158	3.4%	154	3.4%	
	洲本市	30	0.6%	37	0.8%	
	芦屋市	69	1.5%	50	1.1%	
	伊丹市	35	0.8%	27	0.6%	
	相生市	6	0.1%	7	0.1%	
	豊岡市	59	1.3%	53	1.2%	
兵 庫	加古川市	107	2.3%	105	2.3%	
	赤穂市	17	0.4%	13	0.3%	
	西脇市	32	0.7%	12	0.3%	
	宝塚市	67	1.5%	39	0.9%	
	兵 庫	三木市	65	1.4%	49	1.1%
		高砂市	31	0.7%	18	0.4%
		川西市	21	0.5%	13	0.3%
		小野市	45	1.0%	39	0.9%
		三田市	94	2.0%	107	2.4%
		加西市	32	0.7%	26	0.6%
篠山市		24	0.5%	33	0.7%	
養父市		7	0.2%	17	0.4%	
丹波市		52	1.1%	41	0.9%	

区 分	29 年度		30 年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫 県	南あわじ市	214	0.8%	201	0.7%
	朝来市	131	0.5%	117	0.4%
	淡路市	257	0.9%	266	0.9%
	宍粟市	94	0.3%	86	0.3%
	加東市	189	0.7%	180	0.6%
	たつの市	184	0.7%	175	0.6%
	猪名川町	26	0.1%	34	0.1%
	多可町	65	0.2%	65	0.2%
	稲美町	104	0.4%	106	0.3%
	播磨町	117	0.4%	136	0.4%
	市川町	25	0.1%	29	0.1%
	福崎町	45	0.2%	36	0.1%
	神河町	18	0.1%	20	0.1%
	太子町	72	0.3%	76	0.2%
	上郡町	20	0.1%	21	0.1%
	佐用町	28	0.1%	28	0.1%
	香美町	45	0.2%	48	0.2%
	新温泉町	37	0.1%	26	0.1%
	その他	32	0.1%	39	0.1%
計	25,483	93.0%	28,508	93.7%	
近畿圏	971	3.5%	1,024	3.4%	
近畿圏外	959	3.5%	889	2.9%	
総 計	27,413	100.0%	30,421	100.0%	

区 分	29 年度		30 年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫 県	南あわじ市	50	1.1%	35	0.8%
	朝来市	27	0.6%	52	1.2%
	淡路市	55	1.2%	21	0.5%
	宍粟市	13	0.3%	8	0.2%
	加東市	28	0.6%	21	0.5%
	たつの市	33	0.7%	30	0.7%
	猪名川町	2	0.0%	1	0.0%
	多可町	14	0.3%	12	0.3%
	稲美町	11	0.2%	21	0.5%
	播磨町	19	0.4%	25	0.5%
	市川町	6	0.1%	5	0.1%
	福崎町	9	0.2%	6	0.1%
	神河町	1	0.0%	5	0.1%
	太子町	11	0.2%	15	0.3%
	上郡町	5	0.1%	3	0.1%
	佐用町	3	0.1%	0	0.0%
	香美町	6	0.1%	9	0.2%
	新温泉町	8	0.2%	8	0.2%
	その他	0	0.0%	9	0.2%
計	4,157	90.0%	4,043	90.5%	
近畿圏	195	4.2%	170	3.8%	
近畿圏外	265	5.7%	253	5.7%	
総 計	4,617	100.0%	4,466	100.0%	

※実患者数

8. 公費負担患者状況

H30 年度

公費負担制度	件数	構成比
1. 小児慢性特定疾患	1,354	49.1%
2. 育成医療	85	3.1%
3. 養育医療	144	5.2%
4. 児童福祉（措置）	52	1.9%
5. 特定疾患	44	1.6%
6. 生活保護	72	2.6%
7. 精神保健	44	1.6%
8. 自 費	962	34.9%
合 計	2,757	100.0%

9. 時間外患者状況

H30 年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来	0	1	1	1	2	0	1	0	3	2	0	0	11
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
	計	0	1	1	1	2	0	1	0	3	2	2	1	14
腎臓内科	外来	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	4
	入院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	計	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	6
神経内科	外来	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	入院	0	1	0	1	0	1	0	0	0	5	0	1	9
	計	0	1	0	2	0	1	0	0	0	5	0	2	11
血液・腫瘍内科	外来	0	1	1	1	0	1	1	2	2	4	1	3	17
	入院	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	1	0	5
	計	0	1	1	2	0	1	2	3	3	4	2	3	22
代謝・内分泌内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新生児内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	6	9	8	8	9	14	11	14	12	11	13	17	132
	計	6	9	8	8	9	14	11	14	12	11	13	17	132
心臓血管外科	外来	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
脳神経外科	外来	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
	入院	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
	計	0	1	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	5
小児外科	外来	2	1	1	6	2	4	2	1	4	1	2	4	30
	入院	1	0	2	1	1	2	4	2	3	3	2	2	23
	計	3	1	3	7	3	6	6	3	7	4	4	6	53
整形外科	外来	0	1	1	2	0	3	1	2	0	0	2	1	13
	入院	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4
	計	1	2	1	3	0	3	1	2	0	0	3	1	17
形成外科	外来	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	5
	入院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	計	2	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	6
精神科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リウマチ科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
臨床遺伝科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	外来	1	2	2	1	2	2	4	1	1	1	3	2	22
	入院	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	計	1	3	2	1	2	2	4	1	1	1	4	2	24
産科	外来	1	1	1	3	3	2	2	4	2	0	0	1	20
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	計	1	1	1	3	3	2	2	4	2	0	0	2	21
眼科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
耳鼻咽喉科	外来	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	5
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	5
リハビリテーション科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	外来	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	20	25	26	38	26	27	29	27	22	33	23	30	326
	計	20	25	26	38	27	27	29	27	22	33	23	30	327
救急科	外来	637	681	580	772	624	636	512	512	669	802	476	610	7,511
	入院	2	2	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	8
	計	639	683	581	772	624	637	512	512	669	803	476	611	7,519
小児集中治療科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	12	7	5	7	6	2	5	7	6	10	2	12	81
	計	12	7	5	7	6	2	5	7	6	10	2	12	81
歯科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	外来	644	690	587	788	638	650	524	522	685	812	485	622	7,647
	入院	42	47	42	58	42	47	51	52	45	64	45	65	600
	計	686	737	629	846	680	697	575	574	730	876	530	687	8,247

10. 小児がん患者入院延べ日数

平成30年度【総計】5,875日

経理状況

区 分		単 位	29年度 決 算	30年度				決算評価		
				計 画	決 算	計画対比	前年対比	計画対比	前年対比	
業務量	入院	許 可 病 床 数	床	290	290	290	0	0		
		稼働病床数	床	269	275	275	0	6		
		病 床 利 用 率	%	86.9	79.9	79.1	△ 0.8	△ 7.8	×	×
		病床利用率(一般のみ)	%	86.9	79.9	79.1	△ 0.8	△ 7.8	×	×
		延 入 院 患 者 数	人	85,354	80,189	79,417	△ 772	△ 5,937	×	×
		1日当たり患者数	人/日	234	220	218	△ 2	△ 16	×	×
		新 規 入 院 患 者 数	人	6,478	6,216	6,213	△ 3	△ 265	×	×
		平 均 在 院 日 数	日	12.1	11.9	11.8	△ 0.1	△ 0.3	○	○
	入 院 単 価	円	94,215	99,427	100,843	1,416	6,628	○	○	
	入 院 単 価 (一 般)	円	94,215	99,427	100,843	1,416	6,628	○	○	
	外来	延 外 来 患 者 数	人	93,614	98,106	99,518	1,412	5,904	○	○
		1日当たり患者数	人/日	384	402	408	6	24	○	○
		外 来 単 価	円	17,722	17,638	17,365	△ 273	△ 357	×	×
		新 規 外 来 患 者 数	人	10,498	13,165	13,019	△ 146	2,521	×	○
	紹 介 率	%	95.3	85.5	85.6	0.1	△ 9.7	○	×	
	手 術 件 数	件	4,647	3,605	3,453	△ 152	△ 1,194	×	×	
	救 急 車 搬 送 患 者 数	人	1,994	2,014	2,148	134	154	○	○	
収 支	入 院 収 益	百万円	8,042	7,973	8,009	36	△ 33	○	×	
	外 来 収 益	百万円	1,659	1,730	1,728	△ 2	69	×	○	
	そ の 他 医 業 収 益	百万円	128	133	135	2	7	○	○	
	* 医 業 収 益 *	百万円	9,828	9,837	9,872	35	44	○	○	
	医 業 外 収 益	百万円	141	156	182	26	41	○	○	
	長 期 前 受 金 戻 入 額	百万円	763	745	773	28	10	-	-	
	* 経 常 収 益 計 ① *	百万円	10,732	10,738	10,827	89	95	○	○	
	給 与 費	百万円	7,734	7,673	7,637	△ 36	△ 97			
	(うち退職給与金)	百万円	346	225	225	0	△ 121			
	(うち退職給付引当金)	百万円	140	140	81	△ 59	△ 59			
	(うち賞与引当金)	百万円	331	346	346	0	15			
	材 料 費	百万円	2,091	2,170	2,110	△ 60	19			
	(うち薬品費)	百万円	1,206	1,279	1,246	△ 33	40			
	(うち診療材料費)	百万円	814	823	794	△ 29	△ 20			
	経 費	百万円	1,944	2,013	2,060	47	116			
	減 価 償 却 費	百万円	1,330	1,304	1,301	△ 3	△ 29			
	そ の 他 の 医 業 費 用	百万円	56	48	57	9	1			
	* 医 業 費 用 *	百万円	13,155	13,208	13,165	△ 43	10			
	医 業 外 費 用	百万円	266	229	225	△ 4	△ 41			
	* 経 常 費 用 計 ② *	百万円	13,421	13,437	13,390	△ 47	△ 31			
繰 入 前 経 常 損 益 ③ (① - ②)	百万円	△ 2,689	△ 2,699	△ 2,563	136	126	○			○
一 般 会 計 繰 入 金 ④	百万円	2,322	2,455	2,455	0	133	-			-
経 常 損 益 ⑤ (③ + ④)	百万円	△ 368	△ 245	△ 109	136	259	○			○
特 別 利 益 ⑥	百万円	21	947	956	9	935	-			-
特 別 損 失 ⑦	百万円	31	8	21	13	△ 10	-			-
当 期 純 損 益 ⑤ + ⑥ - ⑦	百万円	△ 378	694	827	133	1,205	○			○
経 営 指 標	医 業 収 益 比 率	給 与 費 比 率	%	78.7	78.0	77.4	△ 0.6			△ 1.3
		材 料 費 比 率	%	21.3	22.1	21.4	△ 0.7	0.1	○	×
		(うち薬品費比率)	%	12.3	13.0	12.6	△ 0.4	0.4	○	×
		(うち診療材料費比率)	%	8.3	8.4	8.0	△ 0.3	△ 0.2	○	○
		経 費 比 率	%	19.8	20.5	20.9	0.4	1.1	×	×
経 常 収 支 比 率	%	97.3	98.2	99.2	1.0	1.9	○	○		

※紹介率=地域支援病院の紹介率

決算の推移

区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		(単位:床、%、人、千円)
	決算	算	決算	算	決算	算	決算	算	決算	算	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
稼働病床数	床	266	100.0	267	100.4	269	100.7	275	103.0	275	9
病床利用率	%	86.4	97.1	85.9	99.4	78.7	91.6	86.9	110.4	79.1	△ 7.3
平均在院日数	日	14.5	94.2	14.0	96.6	12.5	89.3	12.1	96.8	11.8	△ 2.7
延入院患者数	人	83,843	97.1	83,583	99.7	76,733	91.8	85,354	111.2	79,417	△ 4,426
(1日当り)	人	230	97.0	228	99.1	210	92.1	234	111.4	218	△ 12
新規入院患者数	人	5,406	102.6	5,546	102.6	5,681	102.4	6,478	114.0	6,213	807
延外来患者数	人	85,527	98.0	86,135	100.7	84,099	97.6	93,614	111.3	99,518	13,991
(1日当り)	人	351	98.0	354	100.9	346	97.7	385	111.3	408	57
新規外来患者数	人	7,744	96.4	7,687	99.3	7,347	95.6	10,498	142.9	13,019	5,275
入院収益	千円	7,424,137	80.2	7,203,916	79.3	6,993,826	80.7	8,041,629	81.8	8,008,664	81.1
(1日1人)	円	88,548	106.9	86,189	97.3	91,145	105.8	94,215	103.4	100,843	12,295
外来収益	千円	1,720,897	18.6	1,782,031	19.6	1,545,024	17.8	1,658,986	16.9	1,728,093	17.5
(1日1人)	円	20,121	101.7	20,689	102.8	18,371	88.8	17,722	96.5	17,365	△ 2,756
その他医業収益	千円	107,974	80.1	101,946	1.1	124,591	1.4	127,804	1.3	135,282	1.4
* 医業収益計*	千円	9,253,008	100.0	9,087,893	100.0	8,663,441	100.0	9,828,419	100.0	9,872,039	100.0
医業外収益	千円	429,262	4.6	382,166	4.2	405,326	4.7	403,261	9.2	954,753	9.7
特別利益	千円	1,263	0.0	2,737	0.0	856	0.0	20,994	0.2	956,288	9.7
** 収益合計**	千円	9,683,533	104.7	9,472,796	104.2	9,069,623	104.7	10,752,674	109.4	11,783,080	119.4
給与費	千円	6,658,655	72.0	6,740,424	74.2	7,548,291	87.1	7,733,509	78.7	7,636,741	77.4
うち退職給与金	千円	(186,486)	2.0	(165,319)	1.8	(200,489)	2.3	(346,383)	3.5	(306,010)	3.1
うち退職給与引当金	千円	(157,000)	1.7	(157,000)	1.7	(157,000)	1.8	(140,353)	1.4	(140,353)	1.4
材料費	千円	2,176,205	23.5	2,311,603	25.4	2,102,459	24.3	2,091,234	21.3	2,110,350	21.4
経費	千円	1,505,218	16.3	1,493,342	16.4	1,971,681	22.8	1,944,053	19.8	2,060,295	20.9
減価償却費	千円	590,150	6.4	437,252	4.8	242,978	2.8	1,330,259	13.5	1,300,645	13.2
資産減耗費	千円	2,101	0.0	582	0.0	90,787	1.0	5,916	0.1	6,710	0.1
研究研修費	千円	57,766	0.6	54,713	0.6	60,331	0.7	50,180	0.5	50,370	0.5
* 医業費用計*	千円	10,990,095	118.8	11,037,916	121.5	12,016,557	138.7	13,155,151	133.8	13,165,111	133.4
医業外費用	千円	182,173	2.0	168,990	1.9	249,709	2.9	265,818	2.7	224,842	2.3
特別損失	千円	26,161	0.3	10,764	0.1	2,783,070	32.1	30,881	0.3	21,187	0.2
** 費用合計**	千円	11,198,447	121.0	11,217,670	123.4	15,049,336	173.7	13,451,850	136.9	13,411,140	135.8
差引損益	千円	△ 1,514,914	△ 16.4	△ 1,744,874	△ 19.2	△ 5,979,713	△ 69.0	△ 2,699,176	△ 27.5	△ 1,628,060	△ 16.5
一般会計繰入金	千円	1,781,957	19.3	1,830,581	20.1	2,295,934	26.5	2,321,662	23.6	2,454,642	24.9
経常損益	千円	291,941	3.2	△ 95,565	△ 1.0	△ 901,565	△ 10.4	△ 367,627	△ 3.7	△ 108,519	△ 1.1
当期純損益	千円	267,043	2.9	△ 165.6	△ 0.9	△ 3,683,779	△ 42.5	△ 377,514	△ 3.8	826,582	8.4
											△ 22.4
経常収支比率	%	102.6	101.7	100.8	98.3	92.7	91.9	97.3	105.0	99.2	107.1
医業収支比率	%	84.2	99.8	82.3	97.8	72.1	87.6	74.7	103.6	75.0	104.0

III 診 療 統 計

1. 救急総合診療科（総診）

1. スタッフ

科長 田中亮二郎

宅見晃子、上村克徳、津田雅世、藤田杏子

フェロー

張慶哲、倉橋幸也

2. 活動内容

当院は小児専門病院であるため臓器別、疾患別に専門分野が細分化され、複数の臓器に問題を抱える患者さんであっても単一科で診ているケースもあった。しかし、患者さんから多様な医学的問題に関して多角的に診療をおこなって欲しいというニーズがあり、当科の総合診療部門はそのニーズに応えるために創設された。2018年4月から田中亮二郎、宅見晃子、上村克徳、津田雅世、藤田杏子、張慶哲、倉橋幸也の計7名が担当している。基礎疾患の有無に関わらず、小児救命救急センターの救急外来から入院となった患者さん（外傷などの外因性から内因性まで）の対応、他科からのコンサルテーション、外科系患者の内科管理、検診・予防接種を含めた予防医学、在宅医療の推進が当科の大きな役目となっている。最近ではリウマチ科と共同して川崎病の管理にあたっている。また当科に多い感染症疾患に関しては、感染症科と密接に連携して診療にあたっている。それぞれの医師のキャリアは異なるが、チームとして“こどもにとって最善の利益を目指し誠実かつ謙虚に診療し、地域医療への貢献と小児医療の進歩に邁進すること”を常に考え日々の診療を行っている。また専攻医教育の充実は、当科の大きな使命と考えている。木曜日以外の12:30からスタッフや専攻医がさまざまなテーマについて発表し、日々研鑽している。今年度、専攻医近藤亜耶（1月）、大野茜子（1-2月）、穴戸亜由美（2-3月）、田中俊光（2-3月）、三星アカリ（4-5月）、飯塚理（4-9月）、大西理史（4-9月）、山田優里子（6-11月）、村田剛士（10-12月）、花房宏昭（10-12月）が研修を行った。また他県立病院から初期研修医の受け入れも行った（飯田尚樹 県立尼崎医療センター4月、野谷梨紗子 県立尼崎医療センター5月、青戸一恵 県立加古川医療センター8-9月、福原悠太 県立淡路医療センター7月）。この1年間の外来患者は、2953名（内初診262名）で、入院患者数は1323名であった。

診療統計

主要疾患名	人数(人)
上気道感染症(鼻咽頭炎、咽頭炎、扁桃炎、中耳炎など)	56
インフルエンザ	12
ク룹症候群	17
下気道感染症(気管支炎、細気管支炎、肺炎、肺膿瘍など)	235
深頸部膿瘍(扁桃周囲膿瘍、咽後膿瘍、傍咽頭膿瘍など)	4
熱性けいれん(単純型、複雑型)	109
無熱性けいれん、てんかん	40
中枢神経感染症(無菌性髄膜炎、細菌性髄膜炎、脳膿瘍、急性脳炎/脳症など)	11
菌血症・敗血症(GAS、GBS、肺炎球菌など菌が判明したもの)	5
アナフィラキシー(アナフィラキシーショックを含む)	14
気管支喘息	80
尿路感染症(急性巣状細菌性腎炎を含む)	40
関節炎・骨髄炎	15
胃食道逆流症	7
消化管感染症(細菌性、ウイルス性)	56
消化管出血(上部、下部)	4
皮膚軟部組織感染症(膿痂疹、蜂窩織炎、筋炎など)	30
感染性心内膜炎	2
川崎病	59
IgA血管炎	8
腸重積症(非観血的整復症例)	15
頭部外傷(脳震盪、頭蓋骨骨折、頭蓋内出血などで内科的管理のみ行った症例)	57
その他の外傷(熱傷、溺水、高エネルギー外傷、四肢骨折などで内科的管理のみ)	53
異物(消化管、気道)	5
薬物中毒	14
身体表現性障害(転換性障害、身体化障害、疼痛性障害など)、摂食障害	12
その他	16
計	1323

2. 救急総合診療科（救急）

1. 診療活動

平成14年10月に救急医療室が開設されて当院における救急医療の歴史がスタートして以来、平成19年10月には小児救急医療センターが専用の集中治療室を持った独立した建物としてオープンし、さらに平成28年5月の新病院移転によって新たな救急医療センターが設置された。そしてこれまで15年間の三次救急医療の実績を踏まえて平成29年4月から全国で12番目、近畿圏では初めての小児救命救急センターに指定された。

新病院に移転してからは、救急外来を担当する部門、救急外来から入院する比較的軽症の患者を担当する入院部門、重症患者を担当する集中治療部門に分けて運用している。救急外来部門に関しては、小児救命救急センター長の田中亮二郎、山口善道、楠元真由美、梶原伸介、林卓郎、松井鋭、谷澤直子（フェロー）の計7名が担当した。救急患者の受け入れをより積極的に行うために、救急車の依頼を断らないことを徹底し、2次の患者や初期の患者も来院すれば受け入れることで対応し、平日の日勤帯も救急担当を配置している。その結果、総受診者数は11,530人、救急車による搬送件数は1908件に増加し、神戸市の救急隊からの応需率は100%に近い数字となっている。

平成29年10月より神戸市が開始した救急電話相談事業#7119経由で当院を紹介されて受診する軽症の外傷も増加し、外科系各科からの指導を受けながらできるだけ救急医が縫合や骨折の固定なども実施するようにしている。外因性疾患は総受診者数の3割に上るようになった。

近隣の医療施設からの出迎え搬送の依頼にもできるだけ対応するようにしているが、看護師や医師が常に搬送に出ることができる体制を組めていない現状を何とか改善したい。

今後は病院が掲げている「断らない救急」を実現すべく、体制整備を進めたい。

2. スタッフ

救急総合診療科（救急）：田中亮二郎、山口善道（1－8月）、楠元真由美、梶原伸介、林卓郎、松井鋭、谷澤直子（フェロー）

専攻医：三星あかり（平成30年2月）

大野茜子（平成30年3月）

井上葵子（平成30年4月）

岸奈津美（平成30年5月）

石田貴裕（平成30年6月）

西村明紘（平成30年7月）

菊池菜摘（平成30年8月）

広田幸穂（平成30年9月）

大西理史（平成30年10～11月）

他県立病院初期研修医の研修（1ヶ月）

野谷梨紗子（県立尼崎医療センター）、青戸一恵（県立加古川医療センター）、小野雅敬（県立淡路医療センター）、古川達也（県立淡路医療センター）、高橋諒（県立淡路医療センター）、福石悠太（県立淡路医療センター）、田辺皓（県立淡路医療センター）

小児救命救急センター 救急外来統計 2018年1月～12月

1. 救急患者数

			H28	H29	H30
平日昼間	初診	帰宅	244	448	721
		入院	143	224	256
	再診	帰宅	423	1155	1633
		入院	253	399	470
平日夜間	初診	帰宅	212	730	1624
		入院	105	191	203
	再診	帰宅	369	785	1483
		入院	145	249	280
休日	初診	帰宅	321	1109	2248
		入院	119	201	215
	再診	帰宅	516	1203	2059
		入院	179	308	338
合計			3029	7002	11530

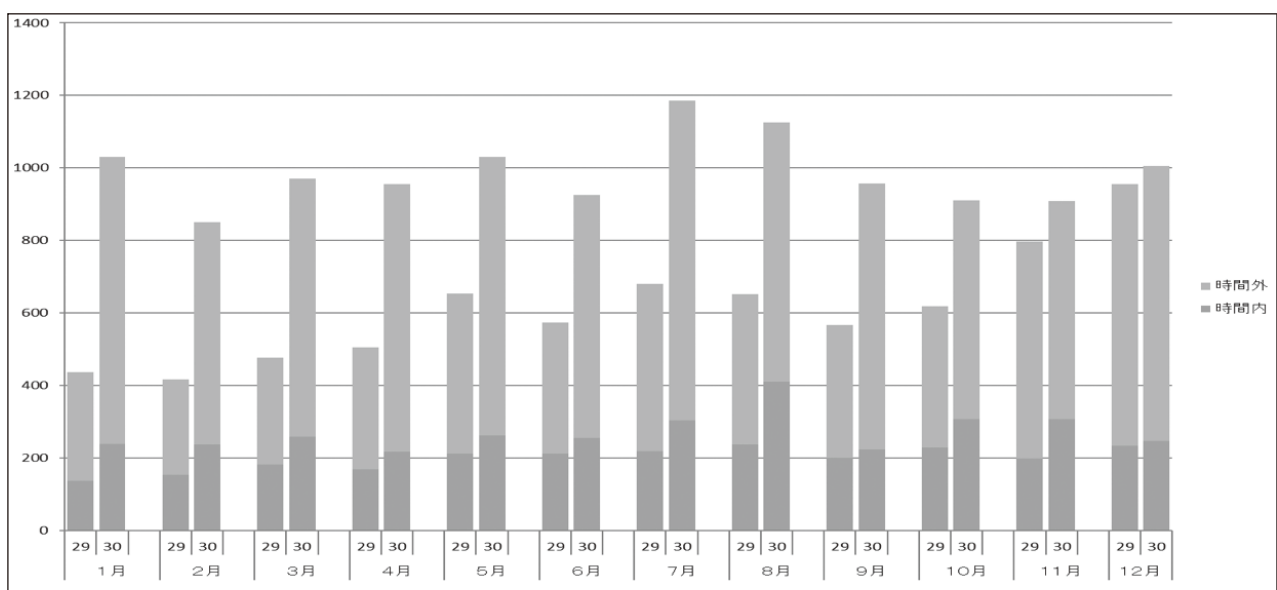
3. 住所地別患者数

	入院			帰宅			総計		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
兵庫県	892	1492	1675	1971	5186	9366	2863	6678	11041
神戸	584	1022	1164	1516	4236	8182	2100	5258	9346
阪神南	44	64	87	91	242	313	135	306	400
阪神北	36	62	62	53	117	184	89	179	246
東播磨	114	143	162	175	302	366	289	445	528
北播磨	47	85	71	58	129	155	105	214	226
中播磨	15	25	39	28	55	61	43	80	100
西播磨	11	13	15	14	31	20	25	44	35
但馬	8	10	11	4	12	5	12	22	16
丹波	13	24	26	18	29	24	31	53	50
淡路	20	44	38	14	33	56	34	77	94
県外	52	80	82	114	244	407	166	324	489
合計	944	1572	1757	2085	5430	9773	3029	7002	11530

2. 救急車、ヘリコプター搬送

	H28	H29	H30
当院救急車	8	42	27
公的救急車	890	1561	1824
他救急車	22	47	30
ヘリ	35	37	28

4. 救命救急センター総受診数の推移



3. 代謝内分泌科

1. スタッフ

部長（科長）	郷司 克己
部長	尾崎 佳代
フェロー	奥野 美佐子（2018年1月1日～9月30日）
専攻医	三星 アカリ（2018年10月1日～12月31日）

本年はスタッフ2名、フェロー1名の3名体制で診療をおこなった。10月1日付けで、フェローの奥野美佐子医師が県立淡路病院へ異動となったことに伴い、専攻医の三星アカリ医師が配属となった。また、専攻医6名が1ヶ月間の研修を行った。

2. 診療活動

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。本年度の新規外来患者数は342名と昨年より19名増加した。施設は日本内分泌学会の認定教育施設に認定され、内分泌専門医を目指す小児科医の研修支援を行っている。

糖尿病の治療においては最新の持続血糖測定モニタリングを導入したことにより、患者のQOLが改善し、血糖コントロールも良好となる症例がみられた。また、ヌーナン症候群に対する成長ホルモン治療が保険適応となったため、臨床遺伝科、循環器科と協力し成長ホルモン治療を開始した。

当科においては遺伝工学的手法を駆使して診療にあたるのが社会的要請に合致することと考え分子生物学的技術を用いた解析に努めている。本年度は、原因不明であった副甲状腺機能低下症の症例に対し、Autoimmune regulator(AIRE) 遺伝子のヘテロ接合性ミスセンス変異を同定し、病態を明らかにすることができた。今後も神戸大学小児科とも協力しながら、分子生物学的手法を用いた解析、研究を臨床の場に役立てたいと考えている。

当科は患者様に対する治療法の改善、患者様の生活の質の向上を目的とした臨床治験にも積極的に参加している。本年度は昨年に引き続き、1型糖尿病の治療に欠かせない超速攻型インスリンの新薬の治験に参加した。

外来患者（新患）

	患者数
低身長症	123
甲状腺疾患	22
性腺疾患	85
副腎	5
糖代謝異常	16
肥満	15
マススクリーニング	
クレチン症	11
先天代謝異常症	3
先天性副腎過形成	4
その他	58
計	342

入院患者

	患者数
低身長症	10
糖代謝異常	18
性腺疾患	2
甲状腺疾患	2
副腎疾患	5
その他	7
計	44

4. リウマチ科

1. 人事異動

【スタッフ】

科長	中岸 保夫
医長	笠井 和子

2. 診療活動

16歳未満で発症した小児の膠原病・リウマチ性疾患を対象に主に外来で診療している。具体的には、昔は若年性関節リウマチ（JRA）と呼ばれていた若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス（SLE）、若年性皮膚筋炎（JDM）、全身性強皮症、シェーグレン症候群、他にはクリオピリン関連周期熱症候群（CAPS）、家族性地中海熱などの自己炎症性疾患、川崎病や高安動脈炎を含めた血管炎症候群などが対象になる。入院管理は総合診療科と協力して診療にあたっている。

こどもの膠原病・リウマチ性疾患に対しては、標準的な医療のみならず、重症度に応じて適切な免疫抑制薬や生物学的製剤を用いて積極的な治療を行っている。

3. 特色

外来診療にあたっては、小児施設には数少ない日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師（リウマチケア看護師）が在籍している。患児の気持ちを理解し、患児自身が理解・納得できるようにサポートしている。

4. 診療実績

外来初診 233名（うち初診 92名）

主な疾患		入院患者	12名（総合診療科が入院管理した症例は除く）	
関節型若年性特発性関節炎	69名（13名）	内訳	全身型若年性特発性関節炎 （初発時および生物学的製剤導入のため）	4名
全身型若年性特発性関節炎	25名（4名）		関節型若年性特発性関節炎 （初発時および生物学的製剤導入のため）	3名
上記以外の若年性特発性関節炎	2名		若年性皮膚筋炎の再燃	2名
全身性エリテマトーデス	5名（1名）		高安動脈炎の再燃	2名
若年性皮膚筋炎・多発筋炎	5名		など	
全身性強皮症・限局性強皮症	4名			
シェーグレン症候群	3名			
高安動脈炎	3名			
（冠動脈病変のない）川崎病	66名（44名）			
クリオピリン関連周期性発熱	2名			
家族性地中海熱	2名			
他の自己炎症性疾患	3名（2名）			
他の初診患者				
関節痛・関節炎	17名			
不明熱	2名			
など				

5. アレルギー科

1. 人事異動

2018年度にアレルギー科とリウマチ科が分科し、アレルギー科科長が中岸から笠井に変更となった。

【スタッフ】

科長	笠井 和子 日本アレルギー学会専門医・指導医 日本リウマチ学会専門医
医長	中岸 保夫 日本リウマチ学会専門医・指導医

2. 小児アレルギー疾患センター

2018年4月に小児アレルギー疾患センターが設置された。

センター長	小阪 嘉之
副センター長	笠井 和子

3. 兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院

2014年6月に「アレルギー疾患対策基本法」が設立し、2015年12月末から施行されている。これはアレルギー疾患患者の増加に対応すべく医療提供の均てん化を目指したものである。その一環として2018年度より制度開始となった、兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院に指定された。診療以外の事業として2018年度は教育関係者に向けた相談事業に携わった。

4. 診療活動

基礎疾患に合併したアレルギー疾患や重症例にも対応しているが、地域の医療機関からのご紹介や当院救急外来受診後のフォローなど、基礎疾患を有しない軽症例にも対応している。外来は月曜日・木曜日の午後・火曜日の午前を基本外来としている。食物負荷試験は外来・入院両方で行っている。アレルギー疾患の総合的なコントロールを心がけており、スギ・ダニへの皮下・舌下免疫療法などを積極的に取り入れている。アレルギー専門看護師（小児アレルギーエドゥケーター）を中心にしたコメディカルが食物アレルギーでのエピペン指導や喘息の吸入指導、アトピー性皮膚炎の皮膚ケア、舌下免疫療法の指導などを行い、より患者に寄り添った医療を行うよう努めている。

当科は日本アレルギー学会で認定された教育病院であり、若手医師への教育を行っている。

5. 診療実績（1月～12月）

- 食物負荷試験 134件（外来 15件・入院 119件）
- ダニ・スギ舌下免疫療法 71名（12月時点での累計）
- アトピー・喘息・慢性蕁麻疹に対する生物学的製剤投与継続例 10名（12月時点での累計）
- 新規外来患者 147名

内訳（重複あり）

食物アレルギー	74名
アトピー性皮膚炎	53名
気管支喘息	53名
アレルギー性鼻炎	23名
薬剤アレルギー	10名
慢性蕁麻疹	8名
好酸球性胃腸炎	2名

6. 神経内科

1. スタッフ

部長（科長）	丸山 あずさ
医長	豊嶋 大作
フェロー	山口 宏
	徳元 翔一（2018年4月から）
	石田 悠介（2018年3月まで）

本年は石田が3月で退職し神戸大学病院に、徳元が連携大学院フェローとなった。昨年と同様、スタッフ2名と合わせ4名体制で診療を担当した。また児玉荘一先生と永瀬裕朗先生に月2回ずつ診療応援や専攻医教育、臨床研究のアドバイスなどをお願いしている。

2. 活動状況

2018年診療活動は、神経内科外来初診453名、外来延べ人数3702名であった。また入院患者数は184名であった。初診患者数は2016年290名、2017年418名と徐々に増加しているのは、救急外来患者の受け入れ増加に伴い、けいれん性疾患の院内紹介が増加した影響と考えられる。けいれん重積や意識障害が遷延する状態については、休日夜間を問わずオンコール体制でコンサルトを受けており、また当科で重点的に取り組んでいる救急集中治療領域における連続脳波モニタリングは228例に行なった。PICUのみならず救急外来初療室でも速やかに脳波モニタリングが出来る体制が整ったため、年々件数は増加傾向にある。引き続き、救急総合診療科や集中治療科と連携しながら、神経救急疾患の充実した急性期管理に尽力していきたい。

てんかん診療については、研究会を通じて地域の小児神経科のみならず成人科の神経内科、脳神経外科の先生との交流を深めた。今後も、成人を迎える患者の移行医療が円滑に行えるように取り組んでいく予定である。平成27年度からの厚生労働省の事業である「てんかん地域診療連携体制の整備事業」に於いて、当院の社会的役割は大きいと考える。

また院内では、結節性硬化症診療に関連する専門診療科で、年に2回のペースで症例提示や情報提供の目的でカンファレンスを始めた。今後は、各科と診療連携を行うことにより、診療の質の向上を目指していきたい。

当院は小児神経専門医研修施設、日本てんかん学会研修施設に認定されており、近隣の施設への情報発信、小児神経専門医を目指す小児科医の育成にも引き続き取り組んでいきたい。

学術活動については、急性脳症を中心とした臨床研究を神戸大学と連携して行なっており、2018年は学会報告16件、論文発表10件であった。また急性脳症に関しては多施設共同臨床研究も進行中である。

神経内科初診患者数 453名
 (疾患名には疑いも含む、一部重複あり)

発作性疾患 289

てんかん	119
初回非誘発性発作	49
ウェスト症候群	3
熱性けいれん	115
失神	19
心因性非てんかん発作	4
不随意運動	9

神経系感染症 19

急性脳症・脳炎	19
---------	----

自己免疫性神経疾患 10

多発性硬化症・CIS	2
急性散在性脳脊髄炎	2
急性小脳失調	2

発達障害 32

精神遅滞	20
広汎性発達障害	6

心身症、その他 43

チック	5
頭痛	16
身体表現性障害	15

神経発生異常	8
先天異常症候群	8
神経変性疾患	2
神経皮膚症候群	4

7. 血液・腫瘍内科

【人事】

2018年4月より小阪小児がん医療センター長が副院長兼任となった。他の正規医師の異動はなかった。

フェロー人事については、2018年3月末に太原鉄平医師（福岡大学小児科助教）、藤原隆弘医師（大阪大学医学部大学院）が転出し、二野菜々子医師（神戸大学医学部付属病院）、中谷尚子医師（加古川中央市民病院小児科）、市川貴之医師（和歌山大学医学部小児科）が入職した。フェロー医師4名体制に戻り、小阪副院長以下12名の体制で始動した。短期ローテーターの異動については割愛する。

副院長（小児がん医療センター長）	小阪嘉之
部長（科長）	長谷川大一郎
医長	石田敏章
医長	岸本健治
医長	神前愛子
医長	斎藤敦郎
医長	田村彰広
医長	山本暢之
フェロー	中村さやか
フェロー	二野菜々子
フェロー	中谷尚子
フェロー	市川貴之

【診療活動】

新患数と造血細胞移植数に関してはそれぞれ表1、表2を参照されたい。2018年度も診療数・移植数ともに堅調に推移している。2018年の新患数は過去最多であり、平均稼働病床も40床を超え高水準を推移した。腫瘍性疾患に関しては全国屈指／西日本最大規模の症例数であり、移植数も小児科単科の施設のものとしては多い。2017年12月に稼働開始した神戸陽子線センターとの連携強化により2018年3月からの本格稼働開始10カ月を経過して照射実績は37例となった。2019年3月に予定されている全脳全脊髄照射開始により、今後も小児陽子線治療空白地域を中心に患者紹介の増加が見込まれる。また、4床の無菌室増床を精力的に稼働させHLA半合致移植など難治例に対する難易度の高い造血幹細胞移植症例も増加している。田村彰広医長／山本暢之医長を中心に、造血幹細胞移植症例における網羅的ウイルス解析の導入に取り組んでおり、難治例に対する造血幹細胞移植に取り組む基盤整備も進みつつある。その他、難治性脳腫瘍に対するがんペプチド療法、小児急性リンパ性白血病の再発患者に対するボルテゾミブを含む多剤併用化学療法の第II相試験等の日本小児がん研究グループ（JCCG）施設限定臨床試験に取り組むことにより、再発難治例に対してより多くの治療選択肢を提供できるよう努めている。

患者集約化に対応し、且つ人材育成のために科内スタッフの専門医取得支援を進めている。本年度新たに取得したものを加えて、小児科専門医10名（指導医6名）、日本血液学会血液専門医8名（指導医4名）、日本小児血液・がん学会専門医4名（指導医1名、暫定指導医1名）、日本造血細胞移植学会移植認定医5名、がん治療認定医6名の体制となった。安全かつ質の高い診療基盤と、小児血液・がん専門医取得を目指す教育施設としてより強固な基盤を築いていけるよう体制を整えていく。

入院患者に占める 15 歳から 20 歳前後の思春期・若年成人 (Adolescent and Young Adult, AYA) の占める割合が増えている。入院患者に占める AYA 世代患者の占める割合は実数にして 10% を超えた。AYA 世代の潜在的欲求 (アンメット・ニーズ) を満足するために多角的に療養環境の整備に取り組んでいる。昨年度までに導入した長期療養中の高校生患者に対するインターネット通信を利用したオンデマンド型補助授業に加えてボランティアを活用した教育支援を導入した。また兵庫県がん生殖医療ネットワークと連携して、女性患者に対する妊孕性温存のための卵巣組織凍結保存に対する取り組みをさらに進め、がん患者に対する晩期障害低減のため今後も努力を続けていく。また、療養環境の整備の一環として、NPO 法人 Being Alive Japan によるアスリート参加による課外運動を導入した。本年度はボランティア活動の一環と位置付けているが、文部科学省が推奨する院内学級の時間外授業の一つとして評価されており、入院患者の ADL 改善や早期離床・在院日数短縮に貢献することが期待される。

また血友病を代表とする非悪性疾患に対する診療需要も増加しつつある。日本血栓止血学会が主導して進められている血友病診療連携地域中核病院に指定されることが決まった。診療部だけでなく看護部、地域医療連携部等と連携して患者の生活の質 (QOL) を最大化することを目標に質が高い先天性凝固異常症に対する診療を提供するだけでなく、地域連携の核として診療連携を深めていく。

【研究・学術活動】

臨床業務と並行して、JCCG の委員会活動・研究活動等に従事した。小阪センター長が神戸大学客員教授 / JCCG 運営委員、長谷川大一郎部長が JCCG-AML 委員会 / ユーイング肉腫委員会 / JACLS-ALL 委員会、石田敏章医長が JCCG 神経芽腫委員会に所属し、臨床試験の計画・実施に携わっている。成果として JCCG 等の臨床試験の結果が報告されたほか、近隣各種機関と連携し基礎研究や疫学研究等に取り組んでおり、岸本健治医長は神戸学院大学薬理学研究室との共同研究で神戸医療産業都市研究開発助成金 (若手研究者支援枠) (課題名: 造血細胞移植の最適化に向けた薬理遺伝解析) を受賞した。今後益々の活躍が期待される。田村彰広医長、岸本健治医長を中心に研究成果としての誌上発表に取り組んでおり、本年の研究成果は英文誌 15 編、和文誌 1 編に発表された。研究学術活動においても地域を主導する機関として益々実績を積み上げていくことが期待される。

2018年1月から12月 新患

血液腫瘍性疾患	急性リンパ性白血病 (ALL)	
	BCP	11
	T	3
	急性骨髄性白血病 (AML)	
	M4	2
	M5a	1
	M7	1
	慢性骨髄性白血病 (CML)	1
	悪性リンパ腫	
	HD	1
	LBL	1
	ALCL	2
	パーキット型	1
	骨髄異形成症候群 (MDS)	
	RCC	1
	Down 症 TAM	2
	ランゲルハンス細胞組織球症 (LCH)	3
	血球貪食性リンパ組織球症 (HLH)	1
		31
	固形腫瘍性疾患	脳脊髄腫瘍
頭蓋内胚細胞腫瘍		9
上衣腫		7
神経膠芽腫		6
髄芽腫		4
星細胞腫		3
希突起膠腫		2
その他		3
神経芽腫		8
網膜芽細胞腫		7
肝芽腫		1
腎腫瘍		1
ユーイング肉腫		5
横紋筋肉腫		4
頭蓋外胚細胞腫瘍		
成熟奇形腫		4
血管腫		2
その他の固形腫瘍		46
		112
非腫瘍性疾患		特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)
	自己免疫性好中球減少症 (AIN)	10
	好中球減少症	4
	遺伝性球状赤血球症 (HS)	6
	再生不良性貧血	2
	サラセミア	1
	巨赤芽球性貧血	1
	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
	血友病 A	3
	赤芽球ろう	2
	血小板増多症	2
	組織球性壊死性リンパ節炎 (SNL)	2
	免疫不全症	5
	カサバツハ・メリット症候群	2
	その他	56
	ドナー	13
		118
	セカンドオピニオン	11
	合計	272

造血細胞移植一覧

番号	疾患	年齢	性別	病期	移植種別	転帰
1	未分化肉腫	1	男	第2寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
2	重症複合型免疫不全症	0	男	—	臍帯血移植	無病生存
3	骨髄異形成症候群	13	女	—	非血縁者間骨髄移植	無病生存
4	非定型奇形腫様/ラブドイド腫瘍	4	男	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
5	慢性活動性EBV感染症	3	男	非寛解	血縁者間骨髄移植	無病生存
6	膠芽腫	2	女	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
7	髄芽腫	7	女	第2寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
8	骨髄異形成症候群	14	女	生着不全	臍帯血移植	無病生存
9	急性リンパ性白血病	18	男	第2寛解	非血縁者間末梢血幹細胞移植	無病生存
10	急性骨髄性白血病	11	男	非寛解	臍帯血移植	無病生存
11	急性リンパ性白血病	7	女	第2寛解	臍帯血移植	無病生存
12	神経芽腫	2	男	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
13	未分化大細胞性リンパ腫	5	女	第1寛解	臍帯血移植	無病生存
14	髄芽腫	12	男	第2寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
15	骨髄異形成症候群	16	男	—	非血縁者間骨髄移植	無病生存
16	再生不良性貧血	4	男	—	非血縁者間骨髄移植	無病生存
17	悪性末梢神経鞘腫	12	男	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	有病生存
18	急性リンパ性白血病	7	女	第1寛解	血縁者間骨髄移植	有病生存
19	神経芽腫	2	男	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存

8. 循環器内科

【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸佐知子	フェロー	上村 和也
	田中 敏克		久保 慎吾
	富永 健太		林 賢
	小川 禎治		
	亀井 直哉		
	松岡 道生		
	三木 康暢		

非常勤 佐藤 有美

スタッフ7名、フェロー3名、他に専攻医数名。専攻医は2か月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができることを主たる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられること、小児循環器学会専門医を取得すること、などが目標である。

【診療活動】

- (1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、基本2診体制で対応している。新規患者は毎日受け入れており、総新規患者数は682名で昨年に比べやや減少していた。地域の小児心臓外来が充実し、軽症の紹介患者が減少してきているためと考える。新患患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損(109)、心房中隔欠損(41)、肺動脈狭窄(13)、動脈管開存(24)、川崎病(既往含む)(8)、ファロー四徴症(2)、不整脈(32)などであった。カテーテル治療相談外来(木曜午前、担当：田中医師)や移行期外来(月曜午前、担当：城戸)、成人先天性心疾患外来(月曜午後、担当：城戸)、OD・不整脈外来(火曜午後、担当：小川)、今年度から当科に移行したペースメーカー外来(木曜午後、担当：小川・松岡)など専門外来も紹介患者が増加傾向である。成人に達した患者については、地域との医療連携の必要性を考慮に入れ、兵庫県立姫路循環器病センター、加古川中央市民病院などでの診療応援(外来応援)を続ける一方、2013年1月からは神戸大学附属病院循環器内科において成人先天性心疾患部門を立ち上げ、協力体制を強化している。また胎児心疾患診断についても、産科外来において胎児心エコーを行っているほか、他院にて診療の応援を行い、医療連携にも重点を置いて取り組んでいる。
- (2) 入院：1年間の総入院患者数は557名で、昨年と比べ大幅な増加傾向であった。6西病棟だけでは収容しきれず、7東病棟・HCU病棟・GCUにも入院を受け入れていただいた。また、心疾患の他に他疾患を合併する症例も多く、CICU、ICU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、昨年に引き続き病棟運営上の問題となっている。
- (3) 生理検査：総心電図件数6362件、Master負荷心電図件数1390件、Holter心電図件数417件、トレッドミル負荷心電図は266件で、昨年と同等の件数であった。心エコーは8396件と昨年より大幅な増加であった。胎児心エコーは210件(担当：佐藤医師、亀井医師 主として木曜日)で、昨年と同程度で

あった。また、一昨年に新たに心肺機能検査(CPX)を導入し、昨年は33件施行した。人手と時間を要する検査ではあるが、今後件数を増やしていく予定である。ヘッドアップチルト検査は87件で増加傾向であった。

- (4) 心臓カテーテル検査・治療：総件数316件、カテーテル治療の件数は154件と、昨年に比べ総件数は横ばいであったが、治療件数は23件の増加であった。今後も治療件数は増加するとされ、現在検査の待機期間が約3か月となっており、今後、待機期間を短縮するために、木曜日に脳外科がアンギオ室を使用しない時の有効利用を検討中である。
- (5) 心臓MRI：毎週火曜日の午後に行っている。総件数は41件で年々増加傾向であり、今後は心臓カテーテル検査にとって代わり、増加していくことが予想される。

【その他の活動】

- (1) カンファレンス：月曜日に心臓外科との合同カンファレンス、水曜日にカテーテル検査前カンファレンス、木曜日にカテーテル検査後カンファレンスおよび心エコー検討会、木曜日に心臓外科と合同の抄読会・検討会を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加：小児循環器病学会、JPIC 学会、胎児心臓病学会、成人先天性心疾患学会、HOT 研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。

【新規患者内訳】

全入院患者の疾患内訳	総数	感染性心内膜炎	0
(カテーテル検査入院含む同一患者の重複あり)	557	不整脈	13
フォンタン型手術関連疾患	195	エプスタイン奇形	6
(いわゆる単心室型心臓)		総動脈幹症	1
ファロー四徴症	33	僧帽弁閉鎖不全	12
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	35	肺動脈弁欠損	1
心室中隔欠損	33	肺高血圧	3
心房中隔欠損	29	大動脈・肺動脈窓	3
動脈管開存	17	修正大血管転位	4
両大血管右室起始	32	その他	20
大動脈弓離断・大動脈縮窄	17	カテーテル治療 (カテーテル総数件 316)	154
房室中隔欠損	18	弁形成 (大動脈弁・肺動脈弁)	11
大血管転位	16	血管形成	63
心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖	12	ステント留置術	3
肺動脈狭窄	4	コイル塞栓術 (動脈管開存)	5
心膜・心筋疾患	10	コイル塞栓術 (側副血管・動静脈瘻)	33
大動脈弁疾患 (狭窄・逆流)	8	バルーン心房中隔裂開術	7
川崎病・冠動脈後遺症	10	心房中隔欠損閉鎖術 (Amplatzer, FF-II)	22
総肺静脈環流異常	25	動脈管開存閉鎖術 (Amplatzer)	9
両大血管右室起始・房室中隔欠損	0	その他	1

9. 腎臓内科

【人事】

2018年3月末日をもって神田杏子医長、中川拓医長が転出し、貝藤裕史医長、堀之内智子医長が神戸大学から着任した。また4月1日より田中亮二郎部長が小児救命救急センター長に就任したことに伴い、貝藤裕史医長が腎臓内科長を拝命した。フェローは2017年度から引き続き、稲熊洋祐医師が務めた。したがって2018年度の腎臓内科は貝藤、堀之内、稲熊と、田中（小児救命救急センター長）の4名体制となった。

【診療活動】

入院患者数は年度により多少の増減はあるものの、外来紹介患者数は年々増加の一途をたどっている。本年度は20例の腎生検を施行した。また特筆すべきこととして、本年度は急性血液浄化療法を要する腎疾患患児が例年になく多かった。急性腎障害の腎代替療法や維持血液透析に移行を要する慢性腎臓病患者の血液浄化療法については集中治療科と連携して診療にあたっている。また現在2名の慢性腎臓病患児が外来維持腹膜透析を受けている。腎移植を要する患児については神戸大学泌尿器科をはじめ、他院にその手術を依頼し、慢性期管理は当院で行うことを原則としている。現在10名の腎移植後患児を外来管理している。先行的腎移植の導入が進み、腹膜透析患児は全国的に減少しているが、当院でも同様の傾向がみられる。一方で、周産期の集学的治療の進歩などによって、複雑な全身疾患を背景に有した慢性腎臓病患児が増加している。このような患児では腎移植が困難な場合も少なくないため、QOLやADLを維持・向上させよう腹膜透析が選択される機会が多い。それぞれの児に適した腎代替療法が選択できるよう、当科が中心となってあらゆる慢性腎臓病患児への関わりを積極的にすすめていきたい。また急性血液浄化療法についてもこれまで通り集中治療科と連携し、より安全でかつ適正な導入の一助となる所存である。

【研究・学術活動】

貝藤医長は日本小児腎臓病学会の代議員として小児CKD対策委員会に所属し、また田中部長は同じく日本小児腎臓病学会の代議員として渉外委員会に所属し、それぞれ委員会活動に従事した。また貝藤医長は小児特発性ネフローゼ症候群診療ガイドラインの改訂に関する委員に選任され、新たなガイドラインの作成にも貢献した。さらに3研究会（日本小児体液研究会・日本小児高血圧研究会・発達腎研究会）合同主催の「研修医のための輸液セミナー」で、急性腎障害に対する輸液療法についての講演を行った。

症例報告を含む臨床研究も積極的に行っており、稲熊医師が中心となってその成果を英文誌等に積極的に発表している。

当科は従来から医師主導治験や多施設共同臨床試験に積極的に参加してきたが、今年度も新たな多施設共同臨床研究として「小児期発症のネフローゼ症候群に対する IDEC-C2B8 の多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化並行群間比較試験 (JSKDC10)」の参加施設となった。当院は全国的にみても、症例が非常に豊富な小児腎臓病の一基幹施設であると自負している。我が国から発信する小児腎臓病診療のエビデンス構築に貢献するべく、今後もこのような臨床試験には積極的に参画していきたい。

2018 年度の入院患児内訳

疾患名	人数（人）
急性糸球体腎炎	6
慢性腎炎症候群	15
IgA 腎症	(7)
紫斑病腎炎	(6)
微小糸球体変化	(1)
巣状メサンギウム増殖性腎炎	(1)
ネフローゼ症候群	36
尿路感染症	14
慢性腎臓病	21
prune belly 症候群	1
多発性嚢胞腎	1
非典型溶血性尿毒症症候群	1
補体欠損症	1
計	96

10. 感染症内科

・陣容

科長 笠井正志、フェロー伊藤雄介の2名体制であった。

・主な業務

1. 感染症診療、2. チーム医療（ICT、AST）、3. 県予防接種センター業務が主たる業務

・感染症診療

コンサルテーションと外来を行っている。

24時間365日体制で各科からコンサルテーションを受ける診療スタイルで、院外からもコンサルテーションを受けている。2018年714件（2017年697件）であった。

年	2016年	2017年	2018年
コンサルト数	518	697	714

感染症外来では、不明熱、繰り返す発熱・感染症、先天感染症、渡航前後相談、ワクチン接種を行っている。外来入院担当ナースより発疹相談も直接受け付けている。

診療と並行して、小児科医として重要な小児感染症に関する教育を院内外で実践している。

後期研修医受け入れ7名：山田 Dr、大西 Dr、村田 Dr、土井 Dr、西村 Dr、菊池 Dr、山内 Dr
院外研修生受け入れ3名：鞍谷 Dr（市立豊中）、小柴 Dr（六甲アイランド）、明神 Dr（姫路日赤）
院外定例勉強会：姫路赤十字病院小児科（第2火曜日午後）
県立尼崎医療センター小児感染症科・感染症科（第4火曜日夕方）

・感染症のすべてに関わるチーム医療（KPIC）

Kobe Prevention and control of Infection for Children and family(KPIC)を病院組織図上には存在しないが、機能的組織として結成した。感染対策、感染症診療などでスタッフ・患者さんを「迷子」にしないように活動し、各専門部署がそれぞれの分野で責任を持って「自走」できるように体制を構築した。

・県予防接種センターとしての業務

相談、接種（接種困難者対応）、教育を行っている。

相談は、予防接種実施主体である市町村（県内外）や患者より受けている

	2016年(9月～)	2017年	2018年
予防接種相談件数	5	34	46

接種は他院では対応困難な予防接種要注意者を主に対象に依頼があれば、接種をしている。患者さんの利便性を考えて平日毎日外来枠を有している。

2018年2月3日～4日予防接種基礎講座（国立国際医療センター、厚労省共催）を開催し、37名の参加であった。

11. 臨床遺伝科

臨床遺伝科は常勤医 1 名で森貞直哉（部長、臨床遺伝専門医）が診療を担当している。

【診療活動】

臨床遺伝科は院内外からの紹介を受けた遺伝性疾患の患者（疑いを含む）の診療を行っている。外来日は火曜日と木曜日の終日であるが、そのほかにも入院中の患者や他科診療患者の突発的な依頼にも可能な限り応じることとしている。

具体的な診療内容

- ・ 遺伝性疾患のトータル管理（ダウン症候群、神経線維腫症 1 型、Noonan 症候群など）
- ・ 臨床診断されている患者の原因遺伝子解析（結節性硬化症、アペール症候群など）
- ・ 原因不明患者の網羅的遺伝子解析（神戸大学、未診断疾患イニシアチブとの共同研究）
- ・ 他施設で解析された事例の遺伝学的説明（染色体異常、心筋症家系など）
- ・ 遺伝カウンセリング

受診症例、具体的な解析数は別表のとおりである。

【遺伝子解析】

当院症例の遺伝子解析は、保険診療でできるものとできないもの両方を受諾している。

保険で対応できるものは各種検査会社や衛生検査所（かずさ DNA 研究所など）に依頼している。

保険診療で対応できないものは、主に神戸大学小児科をはじめとする研究機関との共同研究として行っている。また AMED が主導する未診断疾患イニシアチブ（Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases、IRUD）の地域拠点病院（神戸大学）の協力病院としても活動している。

【学会、研究活動】

他施設との共同研究を含め活発に行なっている。詳細は別項参照

【院外講演】

- ・ 第274回日本小児科学会兵庫県地方会 神戸 2018.5.19：小児遺伝性疾患に対するゲノム医療体制の構築に向けて
- ・ 福井赤十字病院 腎・泌尿器疾患学術講演会 福井 2018.7.12：遺伝性腎疾患の診断と遺伝カウンセリング
- ・ ファブリー病セミナーin三ノ宮 神戸 2018.10.25：小児・成人で発症する遺伝性腎疾患の遺伝カウンセリング

【今後の展望】

IRUD や出生前診断、がんゲノムなど、一般診療においても遺伝診療の重要性が高まっており、当科は兵庫県立こども病院のゲノム医療を支える診療科として活動して行く所存である。

【別表：症例】

染色体異常

疾患名	症例数
Down 症候群	15
1q21 重複	2
2q 欠失	1
3p 欠失	1
4p 欠失	2
5p 欠失	1
6p 欠失	2
6p 重複	1
6q 欠失	1
7q 欠失	1
9p 重複	1
10q 欠失	2
13q 欠失	4
15q 欠失	1
16q 重複	1
18q 欠失	1
20q 欠失	1
22q11.2 欠失	10
22q dup	1
クラインフェルター症候群	4
Xq 欠失	1
その他の染色体異常	11

神経発達疾患

疾患名	症例数
神経線維腫症 1 型	29
FOXP1 異常	1
GRIN1 異常	2
キアリ奇形	1
脊髄性筋萎縮症	2
MEF2C 異常	1
Angelman 症候群	2
視床下部過誤腫	1
滑脳症	2
Opsoclonus-Myoclonus 症候群	1
GNB1 異常	1
Dravet 症候群	2
PIK3CA 異常	1
神経線維腫症 2 型	1
Rett 症候群	1
全前脳包症	1
Joubert 症候群	6
結節性硬化症	1
小頭症	1
CMT	1
筋強直性ジストロフィー	1
West 症候群	1
STXBP1 異常	1
KCNQ2 異常	1
原因不明の筋緊張低下・運動機能障害	12
原因不明の知的発達障害	38

染色体異常

疾患名	症例数
Kabuki 症候群	4
Genitopatellar 症候群	1
Williams 症候群	4
Bardet-Biedl 症候群	3
Opitz GBBB 症候群 1 型	1
Opitz GBBB 症候群 2 型	1
Noonan 症候群	13
LEOPARD 症候群	1
Waardenburg 症候群	2
Silver-Russel 症候群	1
Sotos 症候群	2
Rubinstein-Taybi 症候群 2 型	1
Langer-Giedion 症候群	1
Beckwith-Wiedemann 症候群	3
CFC 症候群	3
Smith-Magenis 症候群	1
OFD1	1
Nicolaides-Baraitser 症候群	1
CHARGE 症候群	1
Young-Simpson 症候群	1
Prader-Willi 症候群	1
Cornelia-de lange 症候群	1
原因不明の多系統異常	11

心腎肝疾患

疾患名	症例数
先天性腎尿路異常	6
カントレル症候群	1
QT 延長症候群	4
肥大型心筋症	3
Dent 病	1
Alagille 症候群	1
Cranioectodermal dysplasia	1
腎コロボーマ症候群	1
常染色体劣性多発性嚢胞腎	1
ネフロン癆	1
その他の CKD	1

頭蓋骨早期癒合

疾患名	症例数
Crouzon 症候群	1
Muenke 症候群	1
Apert 症候群	1
頭蓋鎖骨異形成	1

その他の免疫不全	2
原因不明の骨系統疾患	3
その他の皮膚科疾患	1
原因不明の眼疾患	3

その他

疾患名	症例数
Sturge-Weber 症候群	1
Ehlers-Danlos 症候群	3
Marfan 症候群	6
Loyes-Dietz 症候群	1
MCTO	1
CLOVES 症候群	1
胎児ヒダントイン症候群	1
網膜芽細胞腫	1
SLE	1
関節過伸展	2
慢性肉芽腫症	1
ミトコンドリア異常	1
視神経鞘腫	1
多発骨端異形成	2
唇顎裂	1
CDPX2	2
NAA10 異常	1
低身長	3
両上肢欠損	1

体温調節障害	1
内臓逆位	1
多発性血管腫	1
羊膜索症候群	1
片側肥大	2
vHL 病	1
多脾症候群	1
先天性白内障	1
先天性葉酸吸収不全	1
先天性甲状腺機能低下症	1
XSCID	1
Fabry 病	1
新生児虚血性脳症	1
小顎症	1
遺伝性膵炎	1
外胚葉形成不全	1
鎖骨か動脈血流シーケンス	1

12. 精神科

【スタッフ】

部長	関口 典子
部長	持田 啓
医長	玉岡 文子
非常勤医師	長谷川 弘子（神戸市こども家庭センター） 小笠原 さゆ里
心理士	藤井 美有 沖村 心 北田 朝子
非常勤心理士	3名
精神保健福祉士	野呂 朝子

常勤医師が今年度より2名から3名に増員された。非常勤医師はこれまで同様に2名で診療を行った。非常勤医師は長谷川（木曜日）、小笠原（火曜日）が週1回半コマ外来を担当している。

【活動内容】

- 1) 対象疾患は、身体疾患など器質に由来する精神障害から、発達障害、ストレス関連障害を中心として多岐に渡る。年齢は小学生から中学生の学齢期を中心としている。
- 2) 診療活動は外来診療が主であり、初診予約待ちは4週間程度である。急を要する院内紹介には随時対応している。精神科外来のほか、総合診療科とともに発達行動外来を担当している。
- 3) コンサルテーション・リエゾン領域では、産科においてメンタルヘルス外来を開設し、周産期の精神的支援について連携を深めた。緩和ケアチームとして、啓蒙、カンファレンス参加だけでなく、直接介入を開始した。その他の分野においても心因性の身体症状や虐待をはじめとして精神科医が必要とされている分野は多く、小児がんや救急患者の家族への支援を期待されることもある。総合病院における精神科の役割として、他科とのより細やかで緊密な関係をとることを目指している。
- 4) 児童精神科領域での啓蒙、教育研修として看護学生実習の受け入れや、講演等を行った。
- 5) 兵庫県の子どものこころの診療ネットワーク事業に参加し、兵庫県内の関連施設と連携している。

平成 30 年 新患分布

			1-2	3-5	6-8	9-11	12-17		
			幼児 前期	幼児 後期	学童 前期	学童 後期	中学 高校	18歳 以上	計
F0	F06	脳損傷、脳機能不全および身体疾患による他の精神障害					1		1
	F07	脳の疾患、損傷および機能不全による人格および行動の障害			1	1	1		3
F1	F13	鎮痛薬あるいは睡眠薬使用による精神および行動の障害					1		1
F2	F20	統合失調症						1	1
F3	F31	双極性感情障害					1		1
	F32	うつ病エピソード					4		4
	F34	持続性気分[感情]障害						1	1
F4	F41	他の不安障害					2		2
	F42	強迫性障害		1		1	3		5
	F43	重度ストレス反応 [重度ストレスへの反応]および適応障害	1	6	10	16	45	26	104
	F44	解離性[転換性]障害			4	9	7		20
	F45	身体表現性障害			6	13	16	1	36
F5	F50	摂食障害				3	5		8
	F51	非器質性睡眠障害					3		3
	F59	生理的障害および身体的要因に関連した特定不能の行動症候群					1		1
F6	F63	習慣および衝動の障害			1		3		4
	F64	性同一性障害		1					1
F7	F70	軽度精神遅滞[知的障害]		1	2	2	3		8
	F71	中度[中等度]精神遅滞[知的障害]					1		1
F8	F80	会話および言語の特異的発達障害	1						1
	F81	学習の特異的発達障害			1				1
	F84	広汎性発達障害	7	13	18	26	13	1	78
F9	F90	多動性障害		1	6	6	6		19
	F91	行為障害		1	2	3	4		10
	F93	小児期に特異的に発症する社会的機能の障害	1		1	1			3
	F94	小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害			2	1	1		4
	F95	チック障害			3	1	2		6
	F98	小児期および青年期に通常発症する他の行動および情緒の障害		2		1			3
計			10	26	57	84	123	30	330

【こどもとおやの相談室について】

心理士、精神保健福祉士は、こどもとおやの相談室として活動している。他科からのコンサルテーションに対し、精神科医師、心理士、精神保健福祉士でチームとしての相談対応も行っている。今後もより広い診療科と連携を深め、こどもと家族の療養支援を実施することを目指している。

① 心理士

外来では、複数の科と連携し、心理アセスメントや心理治療を中心に行っている。

入院では、小児がん拠点病院の認定に伴い、血液腫瘍科との連携を継続している。

② 精神保健福祉士

外来、入院において、医療福祉相談、発達相談、療養の相談など様々な相談に対応している。また、患者だけでなく家族や学校、関係機関からの相談にも対応し、院内外との連携の中心として活動している。

心理士

診療科	アセスメント			本人				家族		その他	新患
	知能 発達	性格	その他	プレイ セラピー	カウ ンセリ ング	心理 サポ ート	小児ガ ンフォ ロー	相談	結果 報告		
救急総合診療科	86	13	17			75		40	2	4	61
代謝内分泌科	135		61								7
神経内科	37	1	1			2		10		2	23
血液腫瘍科	11	1	4		1		1474	109	4	20	33
循環器科	3					7		1	2	1	2
腎臓内科						44		1			
臨床遺伝科	4										2
新生児科	91		2								73
精神科	199	159	98	122	53			19	1	12	132
脳神経外科	41					4	8	7	1		33
一般外科						18					
形成外科						2		1	1		
救急集中治療科						4		37		1	10
耳鼻咽喉科	19	10						1			13
その他の科	1							1			1
合計	627	184	183	122	54	156	1482	227	11	40	390

PSW 相談内容別

相談内容／対象	本人・ 家族	院内	保健福祉 機関	こども 家庭 センター	学校・ 園・ 教育関係	訪問 看護	児童福祉 施設	その他	計
福祉・経済問題	31	102	33	3		2	9	16	196
療養問題	228	630	17	13	19	87	16	27	1037
教育問題	4	28			24				56
家庭問題	7	18	2	6			1	3	37
心理情緒的問題	160	137	3	1	1	1	1	2	306
養育問題	3	60	11	12	1			1	88
受診援助	35	132	1	27	6	4	7	16	228
その他									0
計	468	1107	67	62	51	94	34	65	1948

支援方法別

面接	426	986	5	8	9	5	5	13	1457
電話	42	120	61	52	42	65	28	47	457
文書		1	1	2		24	1	5	34
計	468	1107	67	62	51	94	34	65	1948

13. 小児外科

小児外科スタッフ

前田貢作（科長・副院長）
 横井暁子（部長）
 中尾 真（部長）
 福澤宏明（医長）
 森田圭一（医長）
 河原仁守（医長）

フェロー

村上（三浦）紫津（フェロー）（～3月まで）
 鮫島由友（フェロー）
 磯野香織（フェロー）
 梶原啓資（フェロー）
 植村光太郎（フェロー）
 野村皓三（フェロー）（4月から）

【人事異動】

大学人事で3月末に村上(三浦)医師が大阪母子医療センターに異動。4月から野村医師(金沢大学)が赴任。河原医師が医長に昇進した。

【診療活動】

入院手術は803件、日帰り手術223件、総手術件数は1026件であった。新生児外科症例は80例のうち手術症例は55例であった。

カンファレンスについては例年どおり1)術前カンファレンス・術後カンファレンス（各週1回）、2)抄読会（週1回）、3)病棟カンファレンス（毎日朝・夕）、4)ICUカンファレンス（毎日朝）、5)循環器カンファレンス（適時）を行なった。

当科の特色としては

1. 高度専門医療

- ▶ 小児呼吸器外科：気管狭窄症の手術については日本で最大の症例数と治療成績を誇っている。小児外科・心臓血管外科・麻酔科・集中治療科が密接に連携しチーム医療を推進している。
- ▶ 悪性腫瘍：小児がん拠点病院の一翼を担い、多数例の固形腫瘍手術を行なっている。4名の小児がん認定外科医を中心に、血液・腫瘍科、放射線科とチームを組んでお子さまに最善の治療を提供出来るように心掛けている。隣接する神戸陽子線センターが設立され、ますます多くの症例を扱うようになって来ている。
- ▶ 機能再建手術：鎖肛やヒルシュスプルング病及び類縁疾患などの排便機能障害の治療にも積極的に取り組んでいる。

2. 新生児外科

- ▶ 総合周産母子センターの一翼を担い、出生前からの治療に積極的に参画している。
- ▶ 5名の新生児認定外科医を中心に、新生児期に必要な外科治療については常に万全の態勢で対応できる様になっている。

3. 救急医療

- ▶ 小児救命救急センターの一員として重要な役割を担い、要請には100%対応出来るようにしている。
- ▶ 外傷を含めた小児の救急疾患に対して救急診療科、集中治療科と連携しいつでも対応できる態勢を取っている。

4. 日帰り手術

- ▶ 鼠径ヘルニアをはじめとする短時間の手術は麻酔科の協力の元、出来る限り日帰り（入院）手術を推進している。

5. 障がい児に対する外科治療

- ▶ 障がい児に対する外科治療を積極的に進め、県内の療育施設と連携を取りながら外科治療の部分を担当している。

6. 内視鏡外科手術の推進

- ▶ 身体に対する負担が少なく、キズの小さな低侵襲手術に積極的に取り組んでいる。2名の内視鏡外科技術認定医を中心に患児の病態にあわせた最も良い治療を選択できるように考えている。鼠径ヘルニアの内視鏡手術（LPEC）も積極的に導入をはじめた。

【教育活動】

神戸大学5年生、6年生の臨床実習を受け入れている。熊本大学5年生、6年生の臨床実習も受け入れている。また、兵庫県立病院群からの臨床研修、および神戸大学病院関連施設からの臨床研修も多数受け入れた。今年度は海外からの臨床研修医の受け入れはなかった。

日本小児外科学会、太平洋小児外科学会、アジア小児外科学会、日本周産期・新生児医学会、日本小児血液・がん学会、日本小児救急医学会、日本内視鏡外科学会、日本小児呼吸器外科研究会などの学術集会で演題を発表した。発表論文は邦文9編、英文7編であった。

手術症例:1026 例(入院手術 803 例+日帰り手術 223 例)

頭頸部	頸部リンパ管腫(硬化療法を含む)	2		イレウス解除術	10
	頸部嚢胞摘出術	1		腸間膜嚢胞摘出術	1
	甲状舌管嚢胞摘出術	7		腸管重複症手術	2
	梨状窩瘻手術	2		Hirschsprung 病/類縁疾患	
	喉頭気管食道裂手術	3		腹腔鏡補助下手術	0
気道	声帯外方固定術	0		径肛門的根治術	3
	声門下腔狭窄症手術			開腹根治術	0
	喉頭気管形成術	10		直腸生検	4
	PCTR	1		人工肛門造設/閉鎖術	10
	バルーン拡張	1		腸瘻造設術/閉鎖術	5
	レーザー焼灼	6		腸穿孔手術	2
	その他	3		内ヘルニア手術	0
	先天性気管狭窄症手術			腹腔鏡下虫垂切除術	26
	スライド気管形成術	11	直腸肛門	消化管ポリープ切除術	6
	バルーン拡張	2		臍腸瘻手術	1
	レーザー焼灼	6		直腸肛門奇形	
	その他の形成術	2		PSARP	5
	気管軟化症手術	0		腹会陰式	1
	大動脈胸骨固定術	2		肛門形成術	2
	腕頭動脈離断術	1		人工肛門造設術	13
	喉頭嚢胞、腫瘍摘出術			人工肛門閉鎖術	9
	喉頭気管分離術	3		痔瘻根治術	2
	気管切開術	22		肛門粘膜形成術	4
	気管切開閉鎖術	6		直腸脱手術	1
	その他の形成術	1		肛門括約筋形成術	2
肺	肺部分切除	3	肝胆膵	摘便	4
	肺葉切除	11		先天性胆道拡張症手術	
	胸腔鏡下肺切除術	0		開腹	3
	胸腔鏡下剥皮術	0		腹腔鏡下	2
胸壁・縦隔	漏斗胸手術			胆嚢瘻造設術	0
	Nuss 手術	3		胆道閉鎖症手術	4
	バー拔去	3		胆嚢摘出術	4
	その他の形成術	2		門脈圧亢進症手術	2
	胸骨裂手術	2		肝外傷開腹止血術	1
	縦隔腫瘍摘出術	2	腹壁	脾臓摘出術(腹腔鏡下)	3
横隔膜	先天性横隔膜ヘルニア手術	5		膵尾部切除	2
	胸腔鏡下横隔膜縫縮術	1		臍帯ヘルニア手術	2
食道	先天性食道閉鎖症手術			腹壁破裂手術	2
	一期的根治術	4		鼠径ヘルニア関連手術	
	気管食道瘻閉鎖+胃瘻	3		鼠径法	271
	食道吻合	3		腹腔鏡下	31
	食道延長術	1		臍ヘルニア手術	35
	その他	1		腹壁ヘルニア手術	5
	先天性食道狭窄症手術	1	泌尿・生殖器	尿管管遺残症手術	2
胃	胃瘻造設術			卵巣核出手術	4
	開腹	13		その他の手術	3
	腹腔鏡下	14	腫瘍	神経芽腫	7
	噴門形成術			肝芽腫	5
	開腹	5		腎芽腫	1
	腹腔鏡下	8		胚細胞腫瘍	2
	肥厚性幽門狭窄症手術	4		肉腫	2
	胃固定術	1	処置・検査	その他の腫瘍	13
十二指腸	先天性十二指腸閉鎖症手術	5		中心静脈カテーテル留置	88
	開腹止血術	2		中心静脈カテーテル抜去	80
小腸・大腸	腸回転異常症手術	4		テンコフカテーテル留置/抜去	8
	小腸閉鎖症手術	5		ドレナージ手術	6
	観血的腸重積症整復術	5		気管支鏡検査	177
	メッケル憩室切除術	5		消化管内視鏡検査	51
				異物摘出	
				気道	4
				消化管	1
				その他	8

新生児外科症例（80例）

病名	治療
嚢胞性肺疾患	経過観察
嚢胞性肺疾患,TOF	経過観察
嚢胞性肺疾患	左上葉切除術
肺気腫、肺動脈弁欠損症候群、TOF	気胸手術
食道閉鎖	食道閉鎖症手術
食道閉鎖, 18trisomy, AVSD,PDA	食道閉鎖症手術
食道閉鎖, 18trisomy	胃瘻造設術
食道閉鎖, 18trisomy, VSD,ASD,PDA,	気管食道瘻離断、胃瘻造設術
食道閉鎖,18trisomy,VSD,PDA	胃瘻造設術
食道閉鎖, 気管軟化症	食道閉鎖症手術
食道閉鎖, 共通尿生殖洞	気管食道瘻離断、胃瘻造設、食道閉鎖手術
食道閉鎖, 総排泄腔遺残（腸瘻）, VSD,ASD,PDA,PLSVC	胃瘻造設術、人工肛門造設術
食道閉鎖, 18trisomy 横隔膜ヘルニア ,DORV,VSD,PDA	食道バンディング、胃瘻造設術
横隔膜ヘルニア	横隔膜ヘルニア手術
横隔膜ヘルニア	横隔膜ヘルニア手術
横隔膜ヘルニア ,VSD, 再発 CDH	横隔膜ヘルニア手術
横隔膜ヘルニア	横隔膜ヘルニア手術
横隔膜弛緩症, 気胸	横隔膜縫縮術
喉頭軟化症	気管切開術
Cantrell 症候群	腹壁形成術
頸部腫瘍	頸部腫瘍摘出術、舌骨切除
甲状腺腫瘍	腫瘍摘出術
先天性気管狭窄症、PASling, 右肺低形成、VSD	保存的治療
先天性乳び胸	保存的治療
肺気腫, PDA, 壊死性腸炎	気胸手術
気管無形成, 十二指腸閉鎖, 鎖肛, 総動脈幹症, 右腎無形成, 左 MCDK	死亡
腹壁破裂, 小腸閉鎖	腹壁形成術、腸瘻造設術
臍帯ヘルニア, コルネリアデランゲ症候群	腸瘻閉鎖術
臍帯ヘルニア, 臍腸管遺残, 13trisomy,DORV,PA, 壊死性腸炎	臍帯ヘルニア手術、臍腸管切除、腸瘻造設術
嚙下障害, GER, floppy infant	経過観察
初期嘔吐, 乳児血管腫	経過観察
TTN, ミルクアレルギー	経過観察
ミルクアレルギー（開腹術施行）	保存的治療
新生児嘔吐	経過観察
新生児メレナ, 新生児急性胃粘膜病変,	経過観察
肥厚性幽門狭窄症	Ramstedt 手術
肥厚性幽門狭窄症	Ramstedt 手術
自己炎症症候群	肝生検、皮膚生検
肝血管腫	経過観察
尿管管開存症	尿管管摘出術
十二指腸狭窄症, 腸回転異常, 21trisomy, VSD, ASD	十二指腸閉鎖症手術、腸回転異常症手術
十二指腸狭窄症, 低位鎖肛, 尿道下裂, HFD	十二指腸閉鎖症手術
十二指腸閉鎖症	十二指腸閉鎖症手術
十二指腸閉鎖症	十二指腸閉鎖症手術
十二指腸閉鎖症, メッケル憩室	十二指腸閉鎖症手術、メッケル憩室切除
十二指腸閉鎖症	十二指腸閉鎖症手術
空腸閉鎖症	小腸閉鎖症手術
空腸閉鎖症	小腸閉鎖症手術
空腸閉鎖症, DORV,PS, 単腎症	小腸閉鎖症手術
空腸閉鎖症 ,LBW	腸瘻造設術
回腸閉鎖症	小腸閉鎖症手術
壊死性腸炎	腸瘻造設術
胎便関連イレウス	腸瘻造設術
腸回転異常症, 小腸軸捻転症	腸回転異常症手術
胎児腸管拡張	経過観察
胎便イレウス	腸瘻造設術
胎便性腹膜炎	腸瘻造設術
鼠径ヘルニア嵌頓	鼠径ヘルニア手術、精巣摘除
先天性胆道拡張症	胆道拡張症手術
先天性胆道拡張症	経過観察

アラジール症候群	開腹胆道造影、肝生検
門脈還流異常症	経過観察
門脈体循環シャント	経過観察
ヒルシュスプルング病	経過観察
ヒルシュスプルング病、中枢性無呼吸症候群	気管切開術
ヒルシュスプルング病疑い	直腸生検
低位鎖肛	保存的治療
低位鎖肛	保存的治療
中間位鎖肛	人工肛門造設術
中間位鎖肛, VSD	保存的治療
中間位鎖肛, 脊椎異常, 第1趾形成異常	人工肛門造設術
総排泄腔遺残, 先天性水腎水尿管水子宮膈症	人工肛門造設術
総排泄腔外反症	総排泄腔外反症手術、人工肛門造設術
膀胱外反症, 臍帯ヘルニア, 直腸会陰瘻, 馬蹄腎 (片側腎欠損)	腹壁形成術
卵巣嚢腫	経過観察
卵巣嚢腫	経過観察
卵巣嚢腫	経過観察
卵巣嚢腫	経過観察
卵巣嚢腫	経過観察
会陰部脂肪腫	腫瘤切除

14. 心臓血管外科

【スタッフ紹介】

副院長・心臓血管外科部長 大嶋 義博（昭和 57 年神戸大卒）
神戸大学医学研究科医科学専攻外科系講座客員教授、
心臓血管外科専門医、同 修練指導者

医 長 松久 弘典（平成 11 年神戸大卒）心臓血管外科専門医
医 長 日隈 智憲（平成 12 年神戸大卒）心臓血管外科専門医
フェロー 岩城 隆馬（平成 19 年愛媛大卒）心臓血管外科専門医
専攻医（心臓血管外科修練医） 村上 優（平成 23 年神戸大卒）外科専門医

【診療体制】

外来：月、水、金の午後 2 診

手術：月～金。

心臓センター開設後、外科・内科のより緊密な連携に加え、姫路赤十字病院、加古川中央市民病院や神戸大学との地域連携、救急医療の強化も含め、新たな体制づくりが進んでいる。集中治療科の充実と毎朝の合同カンファレンスにより、周術期管理をほぼ全面的に委ねる体制が整った。人事では、変更なく、松島 峻介が海外留学中で、2019 年 3 月末までハンブルグ Schäfers 教授の下で研修予定。

症例数は、出生数の減少に伴うものか、総数で 264 例（前年度 301 例）。2017 年の体外循環を用いた手術は 168 例（新生児 16 例）、体外循環非使用の心臓手術は 36 例（新生児 25 例）、その他 60 例で、新生児の体外循環症例が減少した。術後 30 日未満の手術死亡は体外循環、非体外循環各々 1 例で、計 2 症例であった。毎朝の CICU カンファレンス、麻酔科との術前カンファレンス、毎週月曜朝の術前検討会、夕方の循環器カンファレンス、金曜の術後検討会に加え、循環器科および複数科との audit meeting も定期的に行っている。また、ICT を中心とした SSI サーベイランス活動に加え、特に縦隔炎をテーマに対策会議も続けている。心臓センターとして、定期的に看護部を対象とした勉強会も開催している。

学会活動：Spring 8 における他施設共同研究が軌道に乗り、動脈管、刺激伝導系をテーマに広がり、科研費取得、複数の英文掲載、全国学会で最優秀演題に続き、AHA に推薦され、発表を行った。その他、英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、海外学会、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて発表した。

III 診療統計

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA															
CoA (simple)							2							2	
+VSD	2			2										4	
+DORV															
+AVSD	1													1	
+TGA															
+SV															
+others															
IAA (sinmple)															
+VSD															
+DORV															
+Truncus															
+TGA															
+SV															
+others															
Vascularring				6										6	
PS							1							1	
PPAorcriticalPS															
TAPVR	3			2										5	
asplenia	1			1										2	
PAPVR ± ASD							1							1	
ASD				1			11							12	
Cortriatriatum				1										1	
AVSD (partial)							1							1	
AVSD (complete)				4										4	
+TForDORV															
+others															
VSD (I)	1			1			3							5	
VSD (II or IV)	2			23			12							37	
VSD (III)															
VSD+PS															
DCRV ± VSD							1							1	
AneurysmofsinusValsalva															
TF	1			5			1							7	
(SPshunt)				1										1	
PA+VSD (Rastelli)				2			3							5	
(SPshunt)				1										1	
(UF ± shunt)				1										1	
DORV				5			1							6	
TGA (simple)	2													2	
+VSD	2			1										3	
+VSD+PS															
correctedTGA							2							2	
Truncusarteriosus							1							1	
SV (SPshunt)	1			2										3	
(BDG)				3			1							4	
(Fontan)							8							8	
TA (SPshunt)															
(BDG)				1										1	
(Fontan)															
HLHS (Norwood)				5										5	
(BDG)				1										1	
(Fontan)							5							5	
Aorticvalvelesion (形成)				2			1							3	
(弁置換)							2							2	
SAS															
supraAS															
Mitralvalvelesion (MR 形成)				1			2							3	
(MR 弁置換)				1			1							2	
(MS 形成)															
(MS 弁置換)							2							2	
Ebstein															
Coronarydisease							1							1	
その他				1										1	
再手術 VSD 再閉鎖															
PS 解除				3			1							4	
RV-PA 導管再置換							8							8	
(PVR を伴う)							(1)							(1)	
その他				1			2			1				3	1
総数	16	0	0	78	0	0	74	0	1	0	0	0	168	0	1

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA	11			1									12		
CoA (simple) +VSD +DORV +AVSD +TGA +SV +others	1												1		
IAA (simple) +VSD +DORV +Truncus +TGA +SV +others	1												1		
Vascularring				2									2		
PS															
PPAorcriticalPS															
TAPVR asplenia															
PAPVR ± ASD															
ASD															
Cortriatriatum															
AVSD (partial)															
AVSD (complete) +TForDORV +others	1			3									4		
VSD (I)															
VSD (II or IV)	3			3									6		
VSD (III)															
VSD+PS															
DCRV ± VSD															
AneurysmofsinusValsalva															
TF	1			1									2		
PA+VSD															
DORV															
TGA (simple) +VSD +VSD+PS	1												1		
correctedTGA				1									1		
Truncusarteriosus															
SV (SPshunt) (PAB)	2												2		
TA (SPshunt) (BDG) (Fontan)															
HLHS (bil.PAB) (SPshunt 追加)	2												2		
Aorticvalvesion (形成) (弁置換) SAS supraAS															
Mitralvalvesion (MR 形成) (MR 弁置換) (MS 形成) (MS 弁置換)															
Ebstein															
Coronarydisease															
その他	1												1		
再手術 VSD 再閉鎖 PS 解除 RV-PA 導管再置換 (PVR を伴う) その他				2	1		1								
総数	25			10	1		1						36		1

	症例数	死亡	在院死亡
皮下膿瘍、デブリードメント	4		
ペースメーカー植え込み	8	1	
ペースメーカー電池交換	2		
心嚢ドレナージ	13		
ECMO 装着 (ショック)	8		
ECMO 装着 (気管形成術等)	6		
横隔膜縫縮	2		

気管腕頭動脈瘻	1		
縦隔炎手術	2		
大動脈 / 肺動脈吊上げ	1		
気胸手術	3		
血腫除去	4		
その他	6		
総計	60	1	0

15. 脳神経外科

当科では2017年11月から日本こども病院神経外科医会事務局を置くこととなり、全国の小児医療施設、あるいはこれに準ずる施設に現在在籍している、または過去に在籍経験のある脳神経外科医間の円滑な情報交換を担う基幹施設となった。また2019年4月10日に第114回近畿脳腫瘍病理検討会を主管することとなった。

2018年度の脳神経外科スタッフは、河村淳史（小児がん医療センター次長 部長兼任）、小山淳二（医長）、阿久津宣行（医長）の指導医、神戸大学医学部脳神経外科教室ローテーション医師と、徳島大学医学部脳神経外科教室からのフェロー安積麻衣先生と診療に従事した。脳神経外科専門医研修の一環として、2017年10月1日—2018年1月31日に岡田真幸先生、2018年2月1日—5月31日に中村直人先生、2018年6月1日—2016年9月30日に森 達也先生、2018年10月1日—2019年1月31日に勝部 毅先生が専攻医として着任した。

診療活動では2016年5月の病院移転に伴い、兵庫県下のみならず他府県からの紹介及びセカンドオピニオン例も増加、外来患者数、手術件数も安定している。当施設脳神経外科の特色は複数科との緊密な連携によるチーム医療であり、特に小児がん拠点病院として血液腫瘍内科・放射線治療科・臨床病理部と隣接した神戸陽子線センターとの連携で、集学的治療を必要とする脳脊髄腫瘍症例をはじめ、整形外科・泌尿器科・新生児内科との治療および管理は必要な二分脊椎症例、救急・集中治療科をはじめ多数科との協力が必要な頭部外傷・多発外傷症例などを中心に積極的な治療に取り組んでいる。

特に小児脳・脊髄腫瘍に関しては小児がん拠点病院として患児・家族に対して全人的医療を実施するために必要な部署と連携して治療チームを編成し、時間を取って診療に従事している。外来では更にAYA世代に渡り長期の追跡も行っている。

また新たに頭の形外来を開設し、ヘルメットによる矯正の適応、また外科的治療の適応症例を対象に治療を行っている。

小児脳・脊髄腫瘍に対する放射線治療として晩期合併症を軽減できると期待される、陽子線治療に関しては、隣接する神戸陽子線センターへ当院1階の渡り廊下で往来できるため当施設に入院しながら治療が可能である。隔離された小児専用の照射室、診察室を備えており、小児麻酔科による毎日の鎮静による照射も可能となっている。

各症例においては地域小児医療各方面と密な連絡・連携を保ちながら、成人した時点でのQOLの向上を目指しており、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術・治療成績を積み重ねていく所存である。

脳神経外科手術ナビゲーションが順調に稼働し、新たな手術機器導入により困難な手術を支える施設面も充実した。今後も24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を維持し続けたい。

その他の活動

- (1) カンファレンス；毎週水曜日 腫瘍治療検討会、月1回 二分脊椎カンファレンス、随時 頭部外傷カンファレンス、陽子線治療検討会
- (2) 学会参加；日本小児神経外科学会、脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科コンgres、日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、日本二分脊椎研究会、日本こども病院神経外科医会、日本脳卒中学会学術総会、日本脳腫瘍学会、小児血液・がん学会学術集会、日本脳腫瘍病理学会、日本神経内視鏡学会、日本粒子線臨床研究会、日本神経外傷学会などへの参加

2018年度 脳神経外科手術件数

件数

脳神経外科的手術の総数				
1	脳腫瘍		4	奇形
	摘出術	21		頭蓋・脳
	開頭生検術	0		脊髄・脊椎
	定位的生検術	6	5	水頭症
	経蝶形骨洞手術	1		脳室シャント術
2	脳血管障害		6	内視鏡手術
	バイパス手術	4		脊髄・脊椎
	開頭血腫除去術	0		腫瘍
	脳血管奇形手術	2		脊髄空洞症
3	外傷		7	その他
	急性硬膜外血腫	2		その他
	急性硬膜下血腫	1	8	血管内手術
	減圧開頭術	0	9	定位放射線治療
	慢性硬膜下血腫	4	10	陽子線治療
	その他	9		
				168

日本脳神経外科学会の分類に準ずる

脳神経外科 専攻医指導記録

専攻医 岡田真幸
 研修期間 2018/01/01-01/31
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術			1
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術			
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫		1	
頭蓋・脳奇形			2
脊椎・脊髄奇形		1	
水頭症脳室シャント		1	
神経内視鏡手術			
脊髄・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他			
血管内手術			
計		3	3
合計			6

専攻医 中村直人
 研修期間 2018/02/01-05/31
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		4	2
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術			
急性硬膜外血腫		2	
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形		3	2
脊椎・脊髄奇形		3	1
水頭症脳室シャント		2	1
神経内視鏡手術			1
脊髄・脊髄腫瘍			

脊髄空洞症			
その他		6	
血管内手術			
計		20	7
合計			27

専攻医 森 達也
 研修期間 2018/06/01-09/30
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		2	4
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術			
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形			
脊椎・脊髄奇形		4	1
水頭症脳室シャント		3	2
神経内視鏡手術			
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他		1	1
血管内手術			
計		10	8
合計			18

専攻医 勝部 毅
 研修期間 2018/10/01-12/31
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術			1
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術		1	
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			1
頭蓋・脳奇形			
脊椎・脊髄奇形		2	2
水頭症脳室シャント		1	
神経内視鏡手術		1	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他			
血管内手術			
計		5	4
合計			9

16. 形成外科

2018年は4月より後期研修医として黒田諒子医師を迎え、7月からは山内菜都美医師の住友病院への転任に伴い平山泰樹医師が淀川キリスト教病院より赴任した。以前と同様の3人体制により診療を継続している。

新患者の紹介件数は減少傾向であるが、病院の移転当初よりの取り組みとして先天性眼瞼下垂や瞼裂狭小症に対する手術加療を積極的に行うなど、多様な症例でもって手術件数の漸増傾向は保持できている。手術実績に関しては件数のみならず一例ごとの完成度に対しより深くアプローチすることを重要視して日々の診療にあたっているが、その中で本年は再手術を要するような深刻な手術合併症を経験せずに運営できたことは大いに評価できると思われる。引き続き安定した治療実績を残すことで地域の信頼を継続的に獲得できるものと考えている。

学会発表

『乳幼児の手指動脈奇形に対し有茎鼠径皮弁にて手指再建を施行した二例』

小野田 素大

第23回 日本形成外科手術手技学会

尼崎市 2018.2.10.

『口窩重複症に眼奇形を伴った一症例の治療経験』

黒田 諒子、小野田 素大、平山 泰樹

第120回 関西形成外科学会学術集会

大阪市 2018.11.17.

年間の患者数及び手術件数

2017年1月1日～12月31日

形成外科新患者数	279名
形成外科入院患者数	245名（延べ人数ではない）
形成外科手術件数	
入院手術 全身麻酔	250件（合計250件）
腰麻・伝達麻酔	0件
局所麻酔・その他*	0件
外来手術 全身麻酔	128件（合計569件）
腰麻・伝達麻酔	2件
局所麻酔・その他*	439件* その他には無麻酔や分類不明を入れる

手術内容区分

区 分	件 数						計
	入 院 手 術			外 来 手 術			
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	12						12
II. 先天異常	174			43		1	218
III. 腫瘍	45			56		2	103
IV. 癬痕・癬痕拘縮・ケロイド	12			3		3	18
V. 難治性潰瘍	4						4
VI. 炎症・変性疾患	2						2
VII. 美容（手術）							0
VIII. その他							0
Extra. レーザー治療	1			26	2	433	462
大分類計	250	0	0	128	2	439	819

17. 整形外科

2018年度の整形外科は向原伸太郎医師が転出し、新たに河本和泉医師及び加藤達雄医師が赴任した。これにより、薩摩眞一（部長）、小林大介（リハビリテーション部長と兼任）、坂田亮介（医長）、衣笠真紀（医長）、河本和泉（医長）に加藤医師（専攻医）を加えた6人体制にて診療を行った。

従来より、股関節、足部疾患を中心に、兵庫県内のみならず他府県よりの紹介患児を幅広く受け入れ、多彩な小児整形外科疾患の診療を行ってきた。外来診療として従来の月曜日午後、火曜日終日、水曜日午前に加え、一昨年度より加えた金曜日午前の外来を稼働し、増加する外来患児の診療にあたっている。また、他院では手術が困難な全身状態を含めたハイリスク患児の手術も、集中治療部や麻酔科、外科、循環器内科などの関係各科との連携に支えられ、多数行なっている。歴史的に従事してきた小児慢性疾患に加え、新病院への移転以来、増加し続ける救急外傷診療に対応すべく人員配置や麻酔科を含めた関連各科との連携を深めた成果として、新病院移転以来約40%程度も増加した手術そして入院加療件数に対応している。

これらの診療経験及び実績を蓄積し、専攻医を含めた後進の指導を行なう一方で、日本小児整形外科学会を中心とした学術研究を推進している。さらに、北米小児整形外科学会よりのトラベリングフェローの受け入れやアジア各国からの短期研修の受け入れなど国際的な交流や医学貢献を進めている。

本年度の手術実績は、下記の通り350件であった。今後も手術、救急症例の増加が予想されるため、スタッフの教育、確保を含めた診療体制のさらなる整備が今後の課題となっていく。県内、近隣の小児整形外科患児のため今後も様々な面でのレベルアップを目指していく所存である。

2017年整形外科手術・検査内容区分

	病名	術式	手術数	小計
体幹	側弯症	矯正術	10	20
	斜頸	切腱術	3	
	側弯症	その他（ロッド切除、除圧など）	6	
	脊椎疾患（側弯を除く）	頸椎固定術など	1	
股関節	先天性股関節脱臼など （麻痺性除く）	観血的整復術	0	29
		大腿骨骨切り術	0	
		白蓋形成術（ソルター骨盤骨切り術以外）	3	
		ソルター骨盤骨切り術	5	
	ペルテス病	大腿骨骨きり術	4	
	大腿骨頭すべり	ピン入れ替え	3	
		ピンニング	6	
麻痺性股関節脱臼など、 先天性股関節脱臼以外の疾患	大腿骨骨切り 骨盤骨切り術など（大腿骨切り合併含む）	4 4		
膝関節	膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼	観血整復	4	5
	関節炎、円板状半月板など	鏡視下手術など	1	
足部	先天性内反足	アキレス腱皮下切腱術（Ponseti）	27	63
		軟部組織解離術 腱移行術 エバンス手術など	14	
	麻痺性変形（症候性）	足根骨骨切り（トリプル骨切り術など）	7	
		軟部組織解離術 腱移行術など	1	
		それ以外の変形矯正（創外固定、骨切り術含む）	0	
	垂直距骨	変形矯正術など	4	
	下腿内捻	下腿回旋骨切り	3	
尖足	アキレス腱延長	7		
下肢	脚長差変形など	脚延長、変形矯正（創外固定使用）	2	33
		成長抑止術（8プレート）	16	
		変形矯正（創外固定使用以外）	1	
		ボトックス注射	9	
	足根骨癒合症	癒合部切除	1	
	外脛骨	摘出など	1	
上肢	下枝変形	矯正、切断など	3	7
	橈骨頭脱臼	観血的整復術	3	
	上肢短縮	上肢骨延長術（上腕、前腕）	2	
外傷	内反肘	矯正骨切り術	2	68
		上肢骨の骨折脱臼（顆上、外顆など）	整復固定術	
	下肢骨折	整復固定	14	
	骨折後偽関節	骨接合術など	2	
	骨折など	鋼線牽引	4	
腱断裂、外傷	腱縫合など	3		
炎症・腫瘍	化膿性関節炎 脊椎炎	病巣搔爬、洗浄 穿刺	7	24
	腫瘍 骨髄炎、LCH、 病態不明など	生検術 病巣搔爬	0	
	腫瘍	骨 軟部	14 3	
手指・足趾	多・合指（趾）症	余剰指（趾）切除	16	20
		指（趾）間形成	3	
	手指（足趾含む）変形	矯正、骨切り術など	1	
その他	癭痕拘縮 先天性拘縮	形成術	1	62
	剛直母指	腱鞘切開	6	
	その他		55	

総数

年間手術件数		331	331
--------	--	-----	-----

検査

部位	方法		
股関節	アルトロ	10	19
股関節（先天性股関節脱臼）	牽引後、整復ギプス	7	
その他	アルトロ	2	
		19	

18. リハビリテーション科

リハビリテーション科が開設されてから3年目に突入した。2018年度は新たにリハビリテーション運営委員会が発足し今後各部署とのやり取りがスムーズになることが期待される。人の移動として4月に中田理学療法士が県立西宮病院に転出し、代わりに尼崎総合医療センターより下之園理学療法士を迎えた。また新たに南大阪療育センターの福田理学療法士を招き入れ当科としては念願の1名増員となった。兩人とも非常に意欲的であり今後の楽しみである。また産休中であった北瀬言語聴覚士の代わりとして藤村言語聴覚士を迎え見事に代役を果たした。個別にみるとPICU入院患者の早期離床加算が追加されたことにより大幅に収益は増加した。早期離床リハビリテーションのカンファレンスも頻回に開催され風通しが良くなった感がある。問題点として依然入院患者のリハビリ対応に追われ外来リハが十分にこなせてない印象がある。今後積極的に取り組んでいきたい。

スタッフ

医師のスタッフとして小林、セラピストのスタッフとして理学療法士3名、作業療法士1名、言語聴覚士5名（非常勤1名含む）の体制で行っている。

医師（リハビリテーション科部長）	1
理学療法士	3
作業療法士	1
言語聴覚士（非常勤含む）	5
計	9

平成30年度 施設基準別患者数および単位数（平成30年1月～12月）

1. 理学療法

	施設基準	患者数	単位数
入院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	2,106	2,950
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	702	1,231
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	914	1,185
	障害児リハ料6歳未満	793	1,065
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	56	86
	障害児リハ料18歳以上	30	59
	廃用症候群リハ料	40	66
	がんリハ料	409	653
外来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	62	123
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	150	303
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	10	19
	障害児リハ料6歳未満	307	672
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	28	59
	障害児リハ料18歳以上	2	3
計		5,609	8,474

	件数	保険点数
早期離床リハビリテーション加算(4月～12月)	1,926	963,000

2. 作業療法

	施設基準	患者数	単位数
入院	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	902	1,599
	運動器疾患リハ料(Ⅰ)	116	215
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	20	28
	障害児リハ料6歳未満	161	303
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	61	128
	障害児リハ料18歳以上	0	0
	廃用症候群リハ料	16	18
	がんリハ料	736	1,100
外来	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	10	25
	運動器疾患リハ料(Ⅰ)	9	20
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	0	0
	障害児リハ料6歳未満	208	484
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	4	8
	障害児リハ料18歳以上	1	2
計		2,244	3,930

3. 言語聴覚療法

	施設基準	患者数	単位数
入院	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	1,688	2,909
	障害児リハ料6歳未満	333	460
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	18	34
	障害児リハ料18歳以上	0	0
	廃用症候群リハ料	3	3
	がんリハ料	119	208
	摂食機能療法	280	
外来	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	467	1,092
	障害児リハ料6歳未満	127	239
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	3	5
	障害児リハ料18歳以上	0	0
	摂食機能療法	1	
計		3,039	4,950

検査名	実施件数
音声医学的検査	75
発達及び知能検査	65
計	140

4. 言語聴覚士耳鼻咽喉頭科関連業務件数

検査項目	件数
標準純音聴力検査	962
標準語音聴力検査	84
気導純音聴力検査	16
遊戯聴力検査	2308
補聴器適合検査 1回目	28
補聴器適合検査 2回目以降	413
発達及び知能検査(容易なもの)	17
計	3828

診療科別リハビリテーション科処方数

診療科	入院			外来		
	PT	OT	ST	PT	OT	ST
臨床遺伝科	0	0	0	0	0	0
循環器内科	11	7	13	2	0	2
腎臓内科	4	0	2	0	0	0
神経内科	9	3	11	14	3	1
血液腫瘍内科	155	148	34	3	1	0
代謝・内分泌内科	0	0	0	0	0	0
新生児内科	76	42	72	24	16	20
心臓血管外科	7	2	10	0	0	0
脳神経外科	19	18	14	18	12	5
小児外科	15	0	15	0	0	5
整形外科	109	7	1	37	4	0
形成外科	3	0	0	1	0	26
精神科	0	0	1	1	0	15
リウマチ科	1	1	0	1	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	6	0	0	55
救急科総合診療科	33	5	23	6	2	8
集中治療科	322	10	138	1	0	0
小児歯科	0	0	0	0	0	0
合計	764	243	340	108	38	137

19. 眼 科

本年度の眼科医師の異動は以下の通り。1月、中野由美子専攻医が育休から復帰。4月、安武博樹専攻医が福岡での開業のため退職。7月、中村賢和専攻医が西播磨総合医療センターに異動。代わりに別所佳世子専攻医が着任した。秋以降、専攻医が2名ともに妊婦となり、正に綱渡り的な診療体制となったが、両名とも業務に大きな穴を開けることはなかった。特に年度後半、大きくなったお腹をものともせず、手術場で術者あるいは助手として頑張る彼女たちを見て、あらためて女性の強さに感じ入った次第である。

2018年 眼科 新患統計

病名	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		1～5ヶ月	6～11ヶ月	1～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13歳以上	
屈折異常	4	28	82	246	184	96	60	35	735
弱視	0	0	3	35	21	3	3	2	67
斜視及び疑い	2	12	41	158	78	48	29	20	388
未熟眼底	0	0	0	1	0	0	0	0	1
未熟児網膜症	0	7	2	2	1	3	0	0	15
眼瞼疾患	0	13	11	33	34	18	6	0	115
涙器疾患	0	2	5	13	3	2	1	0	26
結膜疾患	3	3	1	7	3	4	2	0	23
角膜・強膜疾患	0	6	0	4	4	1	3	2	20
ブドウ膜疾患	1	3	2	3	2	2	1	0	14
網膜・硝子体疾患	1	6	7	16	4	1	3	3	41
水晶体疾患	1	5	2	13	6	4	2	1	34
眼窩疾患	0	0	0	5	0	0	0	0	5
遺伝疾患	0	0	0	0	0	0	0	1	1
視神経・視路疾患	0	7	8	14	8	9	7	5	58
眼振	0	0	1	1	2	0	0	0	4
緑内障	0	0	0	5	1	4	2	1	13
外傷	0	0	1	2	2	2	1	0	8
症候群	0	1	3	2	2	0	1	0	9
心因性視力障害	0	0	0	0	0	7	2	0	9
腫瘍	0	6	2	7	3	1	0	0	19
その他	1	1	1	4	6	4	0	0	17
小計	13	100	172	571	364	209	123	70	1622

(2) 入院手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜視	0	1	13	13	37	72	58	62	256
内反症	0	0	0	7	16	27	18	16	84
眼瞼下垂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼瞼・眼窩疾患	0	0	3	9	3	6	0	0	21
結膜疾患（腫瘍）	0	0	0	1	0	0	0	1	2
角膜疾患	0	0	1	1	0	0	0	1	3
網膜疾患（腫瘍）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
硝子体	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鼻涙管閉鎖及び異常	0	0	1	3	1	1	0	0	6
眼瞼形成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑内障	0	0	0	0	1	1	0	2	4
白内障	1	2	5	7	4	1	2	0	22
未熟児網膜症	1	0	0	0	0	0	0	0	1
眼球振盪症	0	0	0	0	0	0	0	3	3
外傷・検査・その他	0	0	0	2	0	1	1	2	6
合計	2	3	23	43	62	109	79	87	408

(3) 日帰り手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
検査	0	0	0	0	0	0	0	0	16
抜糸	0	0	0	0	0	0	0	0	106
その他									0
合計									122

2018年 訓練及び検査人数（合計 1299名）

PAT（プリズム検査）	131名
視野検査（GP）	272名 516眼
視野検査（ハンフリー）	111名 200眼
PL検査・TAC	396名
OCT	359名
ヘス（眼球運動検査）	14名
色覚検査	16名
合計	1299名

20. 耳鼻咽喉科

1. 外来診療

常勤医 2 人体制となり、外来診療は月曜・木曜が天津、火曜・金曜は勝沼がそれぞれ終日担当している。週一回言語聴覚士・補聴器技能者とともに補聴器外来を行っている。

新患者数は 897 名、延べ患者数は 5495 人であった。内訳としては、例年同様、難聴疑い、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、扁桃・アデノイド肥大、言葉の遅れの精査依頼などが多い。新生児聴覚スクリーニング検査の普及（兵庫県での受検率は 2012 年の 68% から 2016 年 86% に上昇）に伴い、聴力精査の乳幼児の受診は相変わらず増加傾向にあり年間約 100 件の精査依頼がある。高度難聴のみならず軽中等度難聴児も早期発見されるようになり、乳児期からの補聴器装用開始児が増えてきている。早期からの聴覚支援学校や難聴児通園施設との連携がますます重要となってきた。一方補聴器が安定装用できるようになった年長の感音難聴児の聴覚管理について、地域の医療機関との役割分担が今後の課題である。

聴力図の電子カルテへの登録方法には現時点で適切なものは開発されていない。当院の様に聴力検査件数の多い施設では、診療効率を維持するために電子カルテ導入後も 10 年以上紙カルテでの聴力検査結果閲覧を続ける施設もある。過去の聴力検査結果の閲覧性をどう確保するかは耳鼻科外来診療の最大の課題である。

2. 手術・入院診療

2017 年 6 月から入院手術枠が偶数週に半日、日帰り手術枠は 1 週間に約 1 時間増えたことにより、入院手術は扁桃摘出術であれば月 10 件、日帰り手術は鼓膜チューブ挿入術であれば月 24 件程度可能となった。このため 4 か月近くになっていた手術待機が特に日帰り手術ではかなり解消されてきた。手術症例数は入院と日帰り合計して 398 例と開院以来の最高を記録した。移転に伴い神戸以西からの手術紹介はやや減ったが、阪神間や神戸市東部からの紹介は徐々に増えてきている。年少児の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出術・アデノイド切除術は周術期の呼吸管理が重要であり術後数日間挿管管理を要することも多い。麻酔科や術後管理に尽力していただいている集中治療科・総合診療科各医師と集中系病棟看護スタッフの多大の協力に支えられている。医療安全に十分配慮しつつ手術治療に取り組みたい。

学術活動としては日本耳鼻咽喉科学会総会、日本小児耳鼻咽喉科学会などで発表を行った。地域貢献としては、兵庫県新生児聴覚検査専門家会議の委員として会議に参加した。また神戸聴覚特別支援学校、姫路聴覚特別支援学校と補聴器装用児の検討会を定期的に行い、医療と教育の間の連携を図っている。

入院手術（併施含む）

扁桃摘出術	95
アデノイド切除術	100
鼓膜チューブ挿入術	43
鼓室形成術、乳突削開術	1
鼻・副鼻腔内視鏡手術	2
舌根嚢胞開放術	1
膿瘍切開排膿	2
鼻涙管チューブ挿入	6
その他	8
合計症例数（他科入院 23 名含）	160

日帰り手術（併施を含む）

鼓膜チューブ挿入術	217
鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術	6
鼓膜肉芽切除術、鼓膜切開等	20
口唇粘液嚢胞摘出	1
舌小帯形成術	1
異物摘出術	2
合計症例数	238

3. 言語聴覚療法について

【人員】

言語聴覚士（以下、ST）は正規職員4名のうち1名が産育休取得により3月末までは3名体制であった。4月より1名の代替え職員を確保することができ、以後4名で対応している。

平成28年5月の移転に伴い、STの所属はリハビリテーション科となったが、耳鼻科診察日は予約状況に応じ1～3名が外来業務に従事した。

【主な業務】

耳鼻科外来では①聴力検査、②補聴器外来を行った。健診でことばの遅れが指摘された児についてはその場で医師がリハビリテーション科のST処方を出し、耳鼻科外来で対応した。

【業務詳細】

①聴力検査

一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などをケースに合わせて実施している。さまざまな検査の結果、補聴器適応となれば、補聴器外来での予約をとるよう勧めている。

②補聴器外来

週一度実施している。新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、早期からの補聴器装着ケースが増えているのにくわえ、これまで補聴器装用を勧めてこなかった軽度の難聴や、一側難聴であっても学習面での困難さや学校生活での不自由さから補聴器を求めるケースが増え、患者は増加傾向にある。補聴器を装用すれば聞こえの問題がすべて解決されるわけではなく限界もあることなどを保護者や本人に説明し、効果判定を含めながら支援を行っている。補聴器外来では各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、親への心理面を含めたサポート、難聴児通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

表1【H30年聴力検査件数】

平成30年1月－12月	件数
標準純音聴力検査	962
標準語音聴力検査	84
気導純音聴力検査	16
遊戯聴力検査	2308
補聴器適合聴力検査1回目	28
補聴器適合聴力検査2回目以降	413
発達および知能検査	17
	3828

2018年新患

	症例数	院内	耳鼻科	小児科	産科	健診	聾学校	その他	なし
言語発達遅滞	96	28	46	15	1	6			
構音障害	40	9	23	6		2			
耳介奇形・小耳症	14	1	4	3	6				
軟骨無形成症	1		1						
外耳道閉鎖・狭窄	17	5	5	4	3				
急性乳様突起副耳	1		1						
先天性耳ろう孔	2			2					
外耳道異物	5		2	2	1				
外耳道損傷	1		1						
外耳炎	2	2							
耳垢栓塞	9	8		1					
耳垢栓塞	26	20	4	2					
急性中耳炎	40	33	6	1					
反復性中耳炎	22	12	9	1					
滲出性中耳炎	264	62	181	16	1	2		1	1
慢性中耳炎	7	1	5	1					
真珠腫性中耳炎	1	1	矢引 佑樹						
癒着性中耳炎	4		4						
先天性難聴(疑い含む)	82	22	22	18	17	2			1
ムンプス難聴(疑い含む)	3		2	1					
心因性難聴	38	2	34	2					
突発性難聴	4	2	2						
高音障害型難聴	9	6	3						
低音障害型難聴	5		5						
難聴	324	62	216	35	3	6	1		1
難聴(疑)	128	62	51	8	1	5	1		
後迷路性難聴	3	2	1						
内耳奇形	4		3		1				
中耳奇形	1		1						
側頭骨骨折・耳小骨離断	2	2							
聴覚過敏	1		1						
耳鳴	2	1	1						
めまい	12	4	5	3					
顔面神経麻痺・顔面痙攣・下口唇麻痺	10	4	1	5					
慢性鼻・副鼻腔炎	127	46	67	12	1	1			
急性鼻・副鼻腔炎	34	20	11	3					
アレルギー性鼻炎	154	32	93	24	1	2		2	
鼻出血	10	10							
鼻腔異物	3	2		1					
鼻咽腔閉鎖不全	3	2		1					
後鼻孔閉鎖・狭窄/鼻腔狭窄	4	2	1	1					
後鼻孔ポリープ	1		1						
鼻腔腫瘍	1	1							
アデノイド肥大	277	48	181	42	1	2		3	
扁桃肥大	191	29	122	35	1	1		3	
扁桃炎	16	9	3	4					
睡眠時無呼吸症候群	198	28	128	36	1	2		3	
咽頭外傷/口腔内損傷	6	6							
舌腫瘍	6	2	2		2				
口腔内炎	2	1	1						
口唇粘液のう胞	1			1					
舌小帯短縮症	7	3	3	1					
唾石	4	1	3						
がま腫	2	1	1						
耳下腺炎・顎下腺炎	3		3						
耳下腺腫瘍・顎下腺腫瘍	2		2						
頸部腫瘍・頸部膿瘍	6	4		2					
側頸瘻	1		1						
咽・喉頭異物	4	4							
喉頭軟化症	57	51	1	5					
反回神経麻痺	33	33							
声帯ポリープ・喉頭肉芽	18	14	3	1					
急性喉頭炎/急性声門下喉頭炎/声門下浮腫	8	7	1						
嚥下障害	32	30	1	1					
喉頭浮腫/喉頭熱傷	6	6							
頸部リンパ節炎	9	5	4						
口蓋裂	20	11	7	1	1				
顔面外傷/鼻骨骨折	2	2							
感染症チェック	37	36	1						
健診	70	10	41	8		11			
その他	139	57	37	25	17	2	0	0	1
新患数(重複除く)	919	381	393	104	22	12	2	3	2

21. 泌尿器科

2018年3月に武中良大が退職し、4月に波越朋也、大西篤史が入職したので、2018年度は5人体制（杉多、大饗、春名、波越、大西）で診療を行った。

外来新規・再診患者数、入院患者数、手術件数は2017年と同程度であった。

杉多が泌尿器腹腔鏡技術認定医を取得した。これからも、より安全で確実な腹腔鏡手術を行い、また、後進の指導に努めたい。

学会活動は、例年と同様に、RNフォーラム（東京）、日本泌尿器科学会総会（京都）、日本小児泌尿器科学会総会（金沢）、日本泌尿器内視鏡学会総会（仙台）、日本泌尿器科学会中部総会（名古屋）において、当科の手術成績等を発表した。杉多がMBSのテレビ番組「医のココロ」で「先天性尿路疾患」につき、インタビューを受けた。

杉多が会長を務めた第29回近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会を、12月1日に当院の講堂で開催した。児童精神科でご高名な渡辺久子先生を講師として、お招きした。96名のご参加を頂戴した。

2019年度も安全・安心で良質な医療を心がけるとともに、積極的に学術活動を行いたい。（杉多記）

2018年度 手術実績【入院/342・日帰り/160】

【尿路系】

VUR手術（開腹）	53
VUR（気膀胱）	4
デフラックス注入	1
尿管尿管吻合	3
膀胱尿管新吻合	8
膀胱修復術	3
尿管形成	8
尿管カテーテル抜去	37
開腹腎盂形成	5
腹腔鏡下腎盂形成	14
腎摘出	2
内尿道切開	5
腎瘻造設	5
膀胱鏡（ステント留置含む）	18
膀胱瘻造設	1
膀胱結石摘除	2
尿管瘤切除	1
その他	6
合計	176

【性器系】

尿道下裂形成	59
外陰部腫瘍切除	14
陰茎形成	8
精巣固定	126
精巣捻転	4
停留精巣摘除	8
腹腔鏡下精巣血管結紮（F-S1期目）	3
腹腔鏡下精巣固定術（F-S2期目）	2
陰嚢水腫根治術	38
ヘルニア手術	5
包皮形成術	20
包茎手術	8
尿道下裂瘻孔閉鎖	18
陰嚢形成	3
精巣腫瘍核出	0
顕微鏡下精巣静脈低位結紮術	7
膣形成	1
膣切開	1
その他	1
合計	326

22. 小児歯科

診療内容として、全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に院内において先天性の疾患を有する患児に対しては低年齢（乳前歯萌出時期）からの定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っている。また、周術期における口腔管理が保険に組み込まれ数年たち周知されたことにより、歯科衛生士による周術期口腔ケア介入症例は増加傾向にあり、週に1度、歯科衛生士による病棟ラウンドを行っている。

人事面においては、常勤歯科医師一名（曾根由美子）の体制ではあるが、非常勤歯科医師として田村あゆみ歯科医師が5月より毎週金曜日に外来診察を担当している。

新患内訳 (2018)		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	26	3	0	0	29
	齲蝕	10	54	2	0	66
	乳歯晩期残存	9	1	0	0	10
	先天性歯	2	0	1	0	3
	その他	4	3	1	0	8
矯正歯科関連	不正咬合	16	1	2	0	19
	術前顎矯正	9	0	0	0	9
口腔外科関連	外傷	11	6	0	0	17
	埋伏歯・過剰歯	0	9	0	0	9
周術期口腔機能管理		54	0	1	0	55
その他（小児歯科以外）		4	0	0	0	4
計		145	77	7	0	229

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	1	3	4
外来手術	36	0	36
計	37	3	40

23. 麻酔科

1. 2018年の人事異動

常勤医として、神戸大学から上嶋医師が赴任した。小児麻酔の即戦力であるとともに、ペインクリニック専門医として術後鎮痛や慢性痛への対応向上が期待される。

各大学所属医師の異動としては、神戸大学からは畑澤医師、横尾医師、坪井医師が転入した。香川大学からは水田医師、喜多條医師を迎えた。大阪医大から上野医師を迎えた。兵庫県立病院麻酔科総合研修システムにおいては小西医師、田中医師が転入し、松本医師、小阪医師、山口医師の異動があった。公募医師であった飯塚医師が2年の研修を終えて転出した。また名古屋市立大学からの長谷川医師は、11月からの3か月間、当院集中治療科にて研修を行った。他、短期研修として、当院小児科から永尾医師、集中治療科から潮見医師、島根大学麻酔科から糸井医師を迎えた。

2018年12月の時点では香川、高辻、大西、池島、鹿原、末田（育休中）、藤原、廣瀬、上嶋、神頭、長谷川（集中治療科研修中）、上野、秋泉、田中、金子、小西、畑澤、喜多條、横尾、坪井、潮見（集中治療科）が従事している。

2. 活動状況

2017年に始まった手術枠の増枠により、平日日勤帯により多くの手術を受け入れることができるようになった。これにより緊急手術の受け入れがスムーズになり、より遅滞なく手術を行えるようになったと考えている。2018年の総手術件数は前年に比べて微減となったが、小児がんなどに対する病棟麻酔の件数は増加した。同じく2017年に開始したPACUは手術室業務として定着し、術後早期の安全性、快適性に寄与している。

新たな取り組みとして、術後の遷延する痛み（慢性痛）への対応を開始した。2018年には持続する痛みを訴える患者2名についてコンサルトを受け、神経ブロックおよび投薬治療を行った。種々の制約はあるが、可能な限り対応していきたいと考えている。

2018年10月20、21日には当院麻酔科が主幹となり、神戸ポートピアホテルにおいて日本小児麻酔学会第24回大会を開催することができた。これに合わせて当院の麻酔科からも数題の演題発表を行った。全体としては750名余の小児麻酔関係者が参加し、小児麻酔および関連する領域である集中治療やペインクリニック、シミュレーション医学、周術期看護といった広い領域にわたってディスカッションが行われ、知見を深めることができた。海外からは当院の姉妹病院であるシアトル小児病院麻酔科のAdrian Bosenberg先生に「Paediatric Anaesthesia in the Developing World」のタイトルで、途上国における小児麻酔の現状や援助について講演していただいた。シンポジウム「麻酔導入時のこどもの不安を取り除く」では、ファシリテッドグを用いた先進的なプレパレーションを展開してきた静岡こども病院からの発表や、当院で多数回の手術を経験されてきた榎田茜様に患者目線での麻酔・手術についての思いを聴講することができ、小児医療に従事するものにとって印象深いものとなった。懇親会では当院有志による弦楽四重奏が行われ、暖かい雰囲気の中で会員間の懇親を深めることができた。このほか演者、座長、ハンズオンセミナー、病院見学、運営など多岐にわたって当院関係者に多大な協力をいただき、成功裡に学会を終えることができたことに、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。（学会ホームページ <http://jspa2018.umin.jp/> をご覧ください）

3. 展望

当院麻酔科の使命として、①患者様に安全・快適な麻酔を提供すること、②手術・麻酔を必要とする患者様をいつでも受け入れるような体制を維持していくこと、③若手麻酔科医に対する教育や、よりよい麻酔に向けての研究を継続して行い、安全・快適な小児麻酔を提供することができる医師を育成すること、の3点が重要であり、継続して取り組んでいきたい。

4. 麻酔科 診療統計

年間総麻酔件数は4590件です。

麻酔法の内訳としては全身麻酔(主に小児)が4488件、脊椎麻酔・硬膜外麻酔(産科)が107件、その他5件でした。

場所の内訳として、手術室内で行われた麻酔は3964件(アンギオ室、日帰り手術を含む)、手術室外で行われた麻酔は626件(うちMRI検査24件、病棟での麻酔583件)でした。

年齢の区分では、新生児症例(生後1ヵ月未満)が107件、乳児症例(生後1ヶ月以上1才未満)が596件と全体の15%を占めています。

診療統計

(麻酔科管理症例数) 2018.1.1 ~ 12.31

4590 件

【ASA PS】(米国麻酔学会による麻酔のリスク分類)

予定手術 1	2	3	4	5	合計
2141	1908	239	5	0	4293
緊急手術 1E	2E	3E	4E	5E	合計
99	119	69	9	1	297

手術部位

a.脳神経・脳血管	96	h.頭頸部・咽喉部	1314
b.胸腔・縦隔	70	k.胸壁・腹壁・会陰	518
c.心臓・血管	360	m.脊椎	52
d.胸腔+腹部	10	n.股関節・四肢(含:末梢神経)	403
e.上腹部内臓	108	p.検査	792
f.下腹部内臓	562	x.その他	187
g.帝王切開	118	合計	4590

麻酔法による内訳

A.全身麻酔(吸入)	1838
B.全身麻酔(TIVA)	1994
C.全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	182
D.全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	464
E.脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	1
F.硬膜外麻酔	0
G.脊髄くも膜下麻酔	106
H.伝達麻酔	2
X.その他	3
合計	4590

年齢別内訳

	男性	女性	合計
A. ~ 1ヶ月	65	42	107
B. ~ 12ヶ月	352	244	596
C. ~ 5歳	1062	837	1899
D. ~ 18歳	1017	796	1813
E. ~ 65歳	23	152	175
F. ~ 85歳	0	0	0
G.86歳~	0	0	0
合計	2519	2071	4590

24. 新生児内科

1. 医師の異動

前年より引き続いて武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人が在任した。中尾秀人病院長は、病院全体の代表としての業務が中心であった。松井紗智子医師は育児休暇中であるが2019年度より復帰予定である。当院にてフェローとして勤務していた山内貴未医師が4月より正規スタッフとして勤務を継続した。同じくフェローの片岡大医師は引き続き勤務した。新たに東京で新生児専門医研修を開始していた黒田順平医師が神戸大学連携大学院生として着任した。フェローの李進剛医師は基礎研究の継続を希望し米国に留学のため退職した。武岡恵美子医師は配偶者の留学に伴い休職して渡米した。岡山大学産婦人科より新生児管理研修のため着任していた大平安希子医師は6ヶ月間の研修を終え帰局した。ローテート専攻医（後期研修医）として、飯塚理、菊池菜摘、広田幸穂、山内悠輔、井上葵子、石田貴裕、近藤友里子、近藤重耶、各医師が3か月ずつ研修をおこなった。また、神戸市立医療センター中央市民病院で後期研修中の山下裕加医師が希望され当科で3か月研修した。当科の特徴として女性医師も活躍できる診療体制をめざしているが、産休、育休、育児とのライフワークバランスという現実の課題に直面している。総合周産期母子医療センターとしての24時間365日の診療業務とフェロー、専攻医の研修教育という当施設に課せられた使命を全うするにはスタッフの負担はやはり過剰と言わざるをえず、持続可能な診療・教育体制の確保が引き続き急務である。

2. 診療活動

新生児病棟の診療統計は別表の通りである。当院産科の母体搬送制限により超早産、超低出生体重児を含む院内出生が著明に減少した。ただし、当院の使命である集学的管理を要する児については、心疾患、最重症先天性横隔膜ヘルニア2例を含む外科疾患、染色体異常など概ね収容できている。一方、院内出生の減少に伴い、院外からの新生児搬送入院症例は増加している。院外施設での分娩に立ち合い、初期処置後の搬送症例もあり、母体搬送困難な状況での次善の対応として今後も積極的に対応するつもりである。当院ドクターカーによる新生児搬送については搬送要請から契約運転手の到着に約30分を要しており迅速な搬送体制の整備が急務である。

3. 研究学会活動

日常診療における疑問の解決、稀な疾患管理、治療法の工夫などを臨床研究として医療チーム全体で取り組んでいる。それらの結果は順次、国内外の多くの学会で発表をおこなっており、日常診療の限られた時間の中で論文化し当院での成果を世界に発信する努力を続けている。

2018年新生児内科統計

I. 新生児病棟統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
24	28	32	33	29	24	30	38	37	40	49	39	403

2) 診療科別入院数

新生児科入院	393	新生児科からの転科	54
小児外科	4	集中治療科	34
総合診療科	3	循環器内科	8
循環器内科	2	小児外科	5
心臓血管外科	1	総合診療科	3
		代謝内分泌	2
		泌尿器科	1
		脳神経内科	1

3) 入院形態と紹介医療機関地域

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外	
院外出生	186	143	3	0	14	7	0	0	0	2	3	0
一次搬送 (14日以上)	116	106	2	0	8	0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	70	37	1	0	6	7	0	0	2	2	3	12
院内出生	207	141	4	2	31	2	1	4	6	2	2	12
緊急母体	30	19	0	0	5	1	0	1	3	0	1	0
非緊急母体	177	122	4	2	26	1	1	3	3	2	1	12
院内出生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日齢14未満一次搬送+院内出生	323	247	6	2	39	2	1	4	6	2	2	12

II. 新生児科統計

対象：新生児科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生323症例，転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科
500 g 未満	1	1	100%	0	0
500-749 g	5	5	100%	0	0
750-999 g	6	6	100%	0	0
1,000-1,499 g	15	15	100%	0	0
1,500-1,999 g	37	32	86.5%	0	0
2,000-2,499 g	73	59	80.8%	1	7
2,500 g 以上	186	89	47.8%	13	28
計	323	207	64.1%	14	35

週数	患者数	院内	率	帰院	産科
22, 23	0	0			
24, 25	6	6	100%	0	0
26, 27	4	4	100%	0	0
28, 29	7	7	100%	0	0
30, 31	9	9	100%	0	0
32, 33	22	20	90.9%	0	0
34-36	78	65	83.3%	2	3
37以上	197	96	48.7%	12	32
計	323	207	64.1%	14	35

2) 分娩方法・出生前ステロイド

出生体重	患者数	帝切	率	ANS	率
500 g 未満	1	1	100%	1	100%
500-749 g	5	5	100%	5	100%
750-999 g	6	4	66.7%	4	66.7%
1,000-1,499 g	15	15	100%	6	40.0%
1,500-1,999 g	37	33	89.2%	12	32.4%
2,000-2,499 g	73	50	68.5%	7	9.6%
2,500 g 以上	186	63	33.9%	1	0.5%
計	323	171	52.9%	36	11.1%

週数	患者数	帝切	率	ANS	率
22, 23	0				
24, 25	6	4	66.7%	5	83.3%
26, 27	4	4	100%	4	100%
28, 29	7	7	100%	2	28.6%
30, 31	9	8	88.9%	4	44.4%
32, 33	22	19	86.4%	15	68.2%
34-36	78	60	76.9%	5	6.4%
37以上	197	69	35.0%	1	0.5%
計	323	171	52.9%	36	11.1%

3) 生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	1	0	100%
500-749 g	5	0	100%
750-999 g	6	0	100%
1,000-1,499 g	15	3	80.0%
1,500-1,999 g	37	1	97.3%
2,000-2,499 g	73	1	98.6%
2,500 g 以上	186	1	99.5%
計	323	6	98.1%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	0		
24, 25	6	0	100%
26, 27	4	1	75.0%
28, 29	7	0	100%
30, 31	9	1	88.9%
32, 33	22	1	95.5%
34-36	78	2	97.4%
37 以上	197	1	99.5%
計	323	6	98.1%

4) 多胎割合 (品胎 1 組)

出生体重	患者数	多胎	率	品胎
500 g 未満	1	0	0%	0
500-749 g	5	2	40.0%	0
750-999 g	6	0	0.0%	0
1,000-1,499 g	15	2	13.3%	1
1,500-1,999 g	37	17	45.9%	2
2,000-2,499 g	73	31	42.5%	0
2,500 g 以上	186	11	5.9%	0
計	323	63	19.5%	3

週数	患者数	多胎	率	品胎
22, 23	0	0		0
24, 25	6	2	33.3%	0
26, 27	4	0	0.0%	0
28, 29	7	0	0.0%	0
30, 31	9	2	22.2%	0
32, 33	22	8	36.4%	3
34-36	78	42	53.8%	0
37 以上	197	9	4.6%	0
計	323	63	19.5%	3

5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP
500 g 未満	1	1	100%	1	1
500-749 g	5	5	100%	4	5
750-999 g	6	5	83%	2	5
1,000-1,499 g	15	10	66.7%	1	8
1,500-1,999 g	37	10	27.0%	0	16
2,000-2,499 g	73	10	13.7%	0	9
2,500 g 以上	186	31	16.7%	3	37
計	323	72	22.3%	11	81

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP
22, 23	0	0			
24, 25	6	6	100%	5	6
26, 27	4	4	100%	3	3
28, 29	7	7	100%	0	7
30, 31	9	6	66.7%	0	5
32, 33	22	9	40.9%	0	12
34-36	78	10	12.8%	0	13
37 以上	197	30	15.2%	3	35
計	323	72	22.3%	11	81

6) 特殊治療

PDA 閉鎖術	14例 (+ 二次搬送 8 例)	生後ステロイド全身投与	11例
NO 吸入療法	10例	ステロイド吸入	0例
NICU 内手術	2例	在宅酸素療法	3例
ECMO	0例	ROP レーザー	1例 (転院例)
CHDF	0例		
PD	0例		

7) 新生児搬送出動回数 123 回

入院	97	(ヘリ 1 回)
転院	25	
非搬送	1	

分娩立合い	2
時間外搬送	36

8) 多胎生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率	品胎
500 g 未満	0	0	-	0
500-749 g	2	0	100%	0
750-999 g	0	0	0%	0
1,000-1,499 g	2	0	100%	1
1,500-1,999 g	17	0	100%	2
2,000-2,499 g	31	0	100%	0
2,500 g 以上	11	0	100%	0
計	63	0	100%	3

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	0	0	-
24, 25	2	0	100%
26, 27	0	0	-
28, 29	0	0	=
30, 31	2	0	100%
32, 33	8	0	100%
34-36	42	0	100%
37 以上	9	0	100%
計	63	0	100%

25. 産 科

2018年は産科医師の退職と欠員のため3月17日（この日程は退職者の年休取得のため設定しました）から時間外の母体搬送受け入れを制限しました（平日日勤帯は受け入れております）。

大変厳しい状況でしたが大きなトラブルや事故もなく診療を継続し無事1年を終えることができ、産科スタッフ一同ならびに関連・関係各位に感謝いたします。院外から当直や外来応援に来ていただいた神戸大学産科婦人科学教室、神戸市産婦人科医会等の先生方に深謝いたします。

2018年は、船越 徹周産期医療センター次長兼産科部長、佐本 崇産科科長兼部長、高松祐幸医長、牧志 綾医長、森下 紀医長、河崎あさひ医長、鷺尾佳一専攻医の7人体制で始まりました。3月末に佐本、森下（公募）、河崎（公募）、鷺尾の4人が同時期に退職し、4月から荻野美智医長、益子沙友里フェローが入職し5人体制となり、5月末に牧志が退職し4人体制となり、6月15日付で高松が退職しました。退職者の年休取得のため実質的に6月1日から3人体制となり、診療の継続が危ぶまれる危機的状況にありましたが（総合周産期母子医療センター産科は当直が可能な医師が8人以上必要とされています。3人体制で診療を行っている施設は過去にありません）、7月に角 健司フェローが入職し4人体制となり、10月から窪田詩乃医長（産休明けのため週3日勤務）と岩田隆一専攻医が入職し6人体制（当直・オンコール可能な医師は5人）になりました。医師の退職においては慰留に努めたのですが各自のキャリアプランがありこうした結果となりました。医師退職と欠員に伴うマンパワー不足のため診療制限（時間外の母体搬送受け入れ制限と胎児形態異常のない4～7月予定日の方の他院紹介）せざるを得ず、結果的に4月から産科病棟の病床数は32→22に、看護師数（産科病棟と外来一体運用としています）も42→33名に減少しております。

医師の補充については公募ならびに神戸大学産婦人科医局にお願いしていますが、全国的に産婦人科医師が不足しており厳しい状況が続いています。私立病院に比べて国公立病院はいろいろと制約があり医師の募集や勤務の継続に対する何らかの方策やincentiveがとれないため苦戦が続いています。

人事:2018年は、船越 徹周産期医療センター次長兼産科部長、佐本 崇産科科長兼部長、高松祐幸医長、牧志 綾医長、森下 紀医長、河崎あさひ医長、鷺尾佳一専攻医の8人で始まりましたが上記の異動の結果10月以降のスタッフは

船越 徹 周産期医療センター長、産科科長兼部長、産科病棟医長 S60 卒

荻野美智 医長 H23 卒

窪田詩乃 医長 H24 卒

角 健司 フェロー H6 卒（公募）

益子沙友里 フェロー H25 卒

岩田隆一 専攻医 H26 卒（公募）

となり、船越以外は新メンバーとなりました。

当院は総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦のみを受け入れる紹介型医療施設です。病床はMFICU（母体胎児集中治療室）6床を含めて22床（2018年4月以降）です。LDR 1室、侵襲的検査処置室（羊水穿刺、羊水除去、胎児胸水穿刺等を施行する処置室）1室、陣痛室1室、分娩室2室あり、外来と病棟が隣接しています。また、産科専用手術室1室を有し、4D超音波断層装置が3台あり、2人当直制（第一当直の30%と第二当直は院外医師が担当）を行っています。そして、「近畿ブロック周産期医療広域連携

事業」における兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送にも対応しています。新生児内科は NICU 21 床、GCU 24 床です。

入院理由の上位は切迫早産、胎児形態異常、胎児発育不全、前期破水、多胎です。高年妊娠の増加に伴い 2005 年頃から羊水検査が増加していましたが、NIPT (新型出生前診断) 導入に伴い最近は減少しました (2018 年 : 9 例)。なお、当院は NIPT 実施施設ではありませんので希望者には実施施設である神戸大学病院、兵庫医大病院等をご紹介します。

本邦の出生数の減少 (2018 年 92.1 万人)、当院の須磨区からポートアイランドへの移転に伴う西区、垂水区、須磨区、長田区からの紹介患者の減少、医師退職・欠員に伴う診療制限のため、2018 年の臨床統計は昨年より減少しました。

分娩数 181、出産数 213、生産数 208、死産数 5、多胎 31 (DD 双胎 14、MD 双胎 16、品胎 1)、胎児形態異常 100、帝切数 114 (率 62.9%)、早産数 86 (率 47.5%) (22 w 0 d -25 w 6 d : 6、26 w 0 d -27 w 6 d : 5、28 w 0 d -31 d 6 d : 15、32 w 0 d -33 w 6 d : 16、34 w 0 d -36 w 6 d : 44)、出生体重 1,000 g 未満の児数 14 (率 6.7%)、1,000 ~ 1,500 g の児数 16。病床稼働率 1 ~ 3 月 58.4%、4 ~ 7 月 35.1%、8 ~ 12 月 71.6%、緊急母体搬送の受け入れ 62 件 (受け入れ率 68.1%)。

2016 年から母体搬送依頼直通電話 (母体搬送ホットライン 078-945-7374) をオープンにしております。また、胎児機能不全等の適応があれば手術決定から 15 分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行なっています。2018 年の超緊急帝切は 2 件 (28 週胎盤早期剥離、34 週骨盤位・PROM・NRFS) でした。

牧志と森下、荻野が 2018 年春に母体保護法指定医に合格しました。

河崎が周産期・新生児医学会専門医 (母体・胎児) に合格しました。

益子が日本産科婦人科学会専門医に合格しました。

12 月 8 日 (土) に当院講堂で「平成 30 年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会」を開催し、「産科と循環器内科との連携」を産科棟助産師 杉友 ユリが、「当科で過去 10 年間に管理した胎児形態異常の分析」を船越が、「当院の胎児心エコー診断の現状について」を循環器内科医長 亀井 直哉が発表しました。そして、大阪大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター小児科講師の北畠 康司先生から「あなたが送り出したダウン症児 その後どうなっているか知っていますか? —最新の臨床課題と最先端研究をだれにでもわかりやすく—」の特別講演をいただきました。当日は兵庫県医師会館で行われた産婦人科の別のイベントと重なっていましたが多数の参加者を得ることができました。

神戸赤十字病院から臨床研修医 6 人が 1 か月ずつ産科の研修を行いました。

放射線科医師と胎児 MRI を撮影した症例の経過と MRI の読影、その後の経過を検討する「MRI カンファレンス」を 1 月 29 日と 10 月 30 日に開催しました。本年から新生児内科医師も参加しています。報告書からだけでは伺えない MRI の読み方について研修することができます。

英文雑誌の抄読会を行っています (2018 年 26 回開催)。

学会活動を奨励しています (研究業績参照)。

病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。2018 年のバックトランスファー (紹介元へ戻れた方) は 140 名でした (外来レベルで行われたものも含む)。また、当院には産科以外の成人を診る常勤の専門医がおられませんので、母体合併症に関しては神戸大学医学部附属病院や神戸市立医療センター中央市民病院等をご紹介します。隣接する神戸市立医療センター中央市民病院も総合周産期母子医療センターであります。中央市民病院は母体合併症を、当院は胎児・新

生児にフォーカスした診療の棲み分け、病病連携を行なっております。お互いの紹介症例のその後の転機を検討するため、両院の産科と新生児科医師が参加して2月6日に当院講堂にて「第2回合同カンファレンス」を開催しました。病院全体でも「県立こども病院と神戸市立医療センター中央市民病院との連携会議」を年4回開催しています。紹介患者の電子カルテも相互に閲覧可能なシステムが構築されています。

1) 平成30年(2018年)産科診療状況

入院患者数*	233
うち緊急母体搬送によるもの	62
紹介元へ戻すまたは他院紹介**	140
分娩母体数(22週以降)***	181
正期産	95
早産	86
過期産	0
多胎妊娠	31
うち双胎	30
うち品胎	1
経膈分娩	67
うち吸引分娩	5
うち骨盤位牽出術	2
帝王切開術	114
出産児数(22週以降、死産含む)***	213
正期産児	99
早産児	114
過期産児	0
低出生体重児(2,500g未満)	123
巨大児(4,000g以上)	1
その他	
22週未満死産児	0
22週以降死産児	5
D I C	0

* 入院患者数は2018.1-12入院したもの
 ** 紹介元へ戻すまたは他院紹介は、外来で行なわれたものも含む
 *** 分娩母体数、出産児数は2018.1-12に出産したもの

2) 紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率	
阪神南	尼崎市	0	0%	中播磨	姫路市	4	2%	
	西宮市	7	3%		神崎郡	0	0%	
	芦屋市	4	2%		小計	4	2%	
	小計	11	5%	西播磨	相生市	0	0%	
阪神北	宝塚市	4	2%		たつの市	0	0%	
	三田市	2	1%		赤穂市	1	0%	
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%	
	伊丹市	0	0%		赤穂郡	0	0%	
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%	
	小計	6	3%		宍粟市	0	0%	
神戸市	中央区	55	24%	但馬	小計	1	0%	
	西区	33	14%		豊岡市	2	1%	
	須磨区	18	8%		美方郡	0	0%	
	東灘区	14	6%		養父市	0	0%	
	北区	9	4%		朝来市	0	0%	
	長田区	1	0%	小計	2	1%		
	灘区	8	3%	丹波	篠山市	2	1%	
	垂水区	5	2%		丹波市	0	0%	
	兵庫区	0	0%		小計	2	1%	
	小計	143	61%	淡路	洲本市	7	3%	
	東播磨	明石市	29		12%	淡路市	3	1%
		加古川市	6		3%	南あわじ市	0	0%
		高砂市	0		0%	小計	10	4%
加古郡		0	0%	他府県	大阪	5	2%	
小計		35	15%		東京	3	1%	
他	5	2%						
北播磨	西脇市	1	0%	小計	13	6%		
	三木市	0	0%	海外		0	0%	
	小野市	4	2%		院内紹介		0	0%
	加西市	1	0%	計			233	
	加東市	0	0%					
	多可郡	0	0%					
小計	6	3%						

救急隊はその所属地域にカウントした

3) 取り扱い疾患（重複あり）

疾患名*	件数	率
切迫早産	109	47%
胎児形態異常	100	43%
高齢妊娠(35歳以上)	83	36%
胎児発育不全	40	17%
多胎	35	15%
前期破水	30	13%
既往帝王切開	23	10%
羊水過多	22	9%
B群溶連菌保菌者	16	7%
胎児機能不全	16	7%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	15	6%
妊娠糖尿病	15	6%
胎位異常	13	6%
妊娠高血圧症候群	12	5%
羊水染色体検査	9	4%
甲状腺疾患	8	3%
頸管無力症	7	3%
胎児染色体異常	6	3%
他科合併症(GDM,甲状腺疾患以外)	6	3%
心疾患	5	2%
羊水過少	5	2%
胎児不整脈	4	2%
胎児水腫	4	2%
胎児死亡	4	2%
切迫流産	3	1%
常位胎盤早期剥離	3	1%
双胎胎児発育不均衡	3	1%
その他感染	3	1%
回旋異常	3	1%
その他	50	21%
計	442	

入院時、入院中に診断された疾患名

4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	182	78%
平日日勤帯		
時間外	51	22%
平日夜勤帯	31	13%
休日日勤帯	11	5%
休日夜勤帯	9	4%
計	233	

6) 分娩時間帯（流産、死産含む）

時間帯	件数	率
時間内	120	66%
平日日勤帯		
時間外	61	34%
平日夜勤帯	34	19%
休日日勤帯	7	4%
休日夜勤帯	20	11%
計	181	

8) 分娩時妊娠週数（流産、死産含む）

週数	件数	率	累積率
～21週	0	0%	0%
22～24週	3	2%	2%
25～28週	13	7%	9%
29～32週	15	8%	17%
33～36週	55	30%	48%
37～41週	95	52%	100%
42週～	0	0%	100%
不明	0	0%	100%
計	181	100%	

5) 入院時妊娠週数（母）

週数	件数	率	累積率
～21週	11	5%	5%
22～24週	27	12%	16%
25～28週	27	12%	28%
29～32週	39	17%	45%
33～36週	48	21%	65%
37週～	79	34%	99%
不明	0	0%	100%
産後	2	1%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	233		

7) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	92	81%
平日日勤帯		
時間外	22	19%
平日夜勤帯	12	11%
休日日勤帯	3	3%
休日夜勤帯	7	6%
計	114	

9) 出産時児体重（流産、死産含む）

児体重	件数	率	累積率
～499g	2	1%	1%
500～999g	12	6%	7%
1000～1499g	16	8%	14%
1500～1999g	33	15%	30%
2000～2499g	60	28%	58%
2500～2999g	61	29%	86%
3000～3499g	25	12%	98%
3500～3999g	3	1%	100%
4000～4499g	0	0%	100%
4500～4999g	1	0%	100%
計	213	100%	

10) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

月	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率
1	11	2	18%
2	13	5	38%
3	8	2	25%
4	5	4	80%
5	3	3	100%
6	2	0	0%
7	6	3	50%
8	1	0	0%
9	9	0	0%
10	7	0	0%
11	14	6	43%
12	13	5	38%
不明	0	0	
計	92	30	33%

11) 年次別搬送受け入れ不能状況

年	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率	備考
平成6年	66	12	18%	10月開設(22床)
平成7年	240	38	16%	阪神・淡路大震災
平成8年	312	76	24%	
平成9年	340	111	33%	
平成10年	324	105	32%	
平成11年	326	55	17%	フルオープン(32床)
平成12年	362	100	28%	総合周産期センターに指定
平成13年	328	60	18%	
平成14年	394	110	28%	
平成15年	367	140	38%	
平成16年	298	126	42%	
平成17年	285	120	42%	MFICU6床整備
平成18年	316	124	39%	空床情報ネットワーク整備
平成19年	285	91	32%	
平成20年	259	65	25%	
平成21年	279	88	32%	
平成22年	276	85	31%	
平成23年	256	96	38%	
平成24年	225	83	37%	
平成25年	232	30	33%	
平成26年	221	71	32%	
平成27年	160	42	26%	
平成28年	152	41	27%	5月病院移転
平成29年	153	16	10%	
平成30年	92	30	33%	医師欠員のため病床32→22床

12) 搬送依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	1	1%	中播磨	姫路市	1	1%
	西宮市	7	5%		神埼郡	0	0%
	芦屋市	0	0%		小計	1	1%
	小計	8	5%		相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	0	0%	西播磨	赤穂市	0	0%
	三田市	0	0%		宍粟市	0	0%
	川西市	0	0%		たつの市	0	0%
	伊丹市	0	0%		揖保郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		赤穂郡	0	0%
	小計	0	0%		佐用郡	0	0%
					小計	0	0%
神戸市	須磨区	10	7%	但馬	豊岡市	2	1%
	中央区	19	13%		養父市	0	0%
	西区	17	11%		朝来市	0	0%
	垂水区	0	0%		美方郡	0	0%
	灘区	3	2%		小計	2	1%
	東灘区	2	1%		篠山市	0	0%
	北区	4	3%		丹波市	0	0%
	兵庫区	0	0%		小計	0	0%
	長田区	1	1%		洲本市	4	3%
	小計	56	37%		南あわじ市	0	0%
東播磨	明石市	15	10%	淡路	淡路市	1	1%
	加古川市	0	0%		小計	5	3%
	高砂市	1	1%		大阪	1	1%
	加古郡	0	0%		高知	1	1%
北播磨	小計	16	11%	他府県	その他	0	0%
	西脇市	0	0%		小計	2	1%
	三木市	0	0%		海外	0	0%
	小野市	1	1%		院内紹介	0	0%
	加西市	0	0%		紹介なし	1	1%
	加東市	0	0%		不明	0	0%
	多可郡	0	0%		計	92	
	小計	1	1%				

救急隊はその所属地域にカウントした

13) 搬送依頼元施設種類別

施設種類	件数	率
総合周産期医療センター	11	12%
地域周産期医療センター	18	20%
一般病院	39	42%
診療所	20	22%
助産院	1	1%
救急隊	2	2%
他	0	0%
不明	1	1%
計	92	

他府県の施設も含む

14) 搬送依頼電話受信時刻

勤務帯		件数	率
時間内	平日・日勤帯	66	72%
	平日・夜勤帯	11	12%
時間外	休日・日勤帯	9	10%
	休日・夜勤帯	6	7%
不明		0	0%
計		92	

15) 搬送電話依頼時理由

搬送理由	件数	率
切迫早産	58	63%
前期破水	6	7%
胎児発育不全	5	5%
切迫流産	3	3%
妊娠高血圧症候群	3	3%
胎児形態異常	2	2%
多胎	2	2%
前回帝切	1	1%
その他	11	12%
不明	1	1%
計	92	

主たる理由で分類

16) 搬送電話依頼時妊娠週数

妊娠週数	件数	率
22 週未満	8	9%
22 ~ 24 週	24	26%
25 ~ 28 週	25	27%
29 ~ 32 週	16	17%
33 ~ 36 週	10	11%
37 ~ 40 週	6	7%
41 週以降	0	0%
分娩後	1	1%
不明	2	2%
非妊娠	0	0%
計	92	

17) 受け入れ可否返事所要時間

所要時間	件数	累積率
～ 1 分	44	48%
～ 3 分	11	60%
～ 10 分	29	91%
～ 20 分	5	97%
～ 30 分	0	97%
～ 60 分	0	97%
～ 120 分	2	99%
～ 240 分	1	100%
不明	0	100%
計	92	

18) 受け入れ不能の理由

理由	件数	率
NICU 満床	2	7%
産科満床	0	0%
両方満床	0	0%
対象外	3	10%
その他	24	80%
不明	1	3%
計	30	

その他:搬送受け入れ制限中12
当直医が手術中、分娩中、外来対応中

26. 放射線診断科／放射線治療科

1. 人事異動

放射線診断科のスタッフは赤坂好宣、杉岡勇典の2名。

フェローの松永卓明医師が兵庫県立淡路医療センターへ異動となり、代わって田原潤子医師がフェローとして転入した。

応援の藤本雄介医師（月・木：超音波検査担当）は例年通り勤務していただいている。応援医師の救急総合診療科、山口善道医師（金：超音波検査・画像読影）が8月で退職し、9月より兵庫県立尼崎総合医療センター放射線診断科の松原菜穂子医師に金曜日に兼務していただくこととなった。

2. 2018年の動向

診療業務では超音波検査がずっと件数を伸ばし続けている。

被爆なく鎮静不要のため安価で簡便に行え、あらゆる小児診療の診断へのプロセスの最初の入り口となっており今後も増加し続けるとおもわれる。

MRIは微増にとどまったがCT、RIが減少した。これらは当院の患者数の減少が影響していると考えられ、MRIは本来2台に増えた分増加傾向であると考えられる。

読影の総件数もずっと増加の一途をたどっており、マンパワーの恒常的確保が望まれる。

消化管造影検査が減少しているのは検査自体を小児外科医で行っているものが増えている影響で、小児外科医が新病院より常駐しているために小児科医、救急医のコンサルテーションを受けやすくなっていることが要因とおもわれた。

兵庫県下で小児診療規模の特に大きな尼崎総合医療センターへは赤坂が、加古川中央市民病院へは杉岡医師が診療応援で出向いて画像診断、超音波検査や消化管造影、膀胱造影検査を行うことで地域医療に貢献している。

院内、院外の小児科医を対象とした小児放射線研修も軌道に乗り、優秀で幅広い知識をもった小児科医の育成に貢献している。

放射線科読影件数（2018年）

CT	2673 件
MRI	3142 件
RI	268 件
消化管造影	202 件
超音波検査	6788 件

27. 小児集中治療科

【スタッフ】

2018年度の常勤医は黒澤寛史（診療科長）、長谷川智巳、青木一憲、制野勇介、長井勇樹の5名。フェローは楠本耕平、宮下徳久、染谷真紀、鴻池善彦、増井美苗（9月まで）、潮見祐樹、山下由理子、金子尚樹、花見洋太郎、山本和宏の10名。感染症科の伊藤雄介（集中治療専門医）が当直帯をサポート（2016年度から継続）。麻酔科からの3ヶ月間研修1名、ローテート専攻医（後期研修医）月1～2名受け入れ。

【資格】

集中治療専門医4名、小児科専門医11名（指導医3名）、麻酔標榜許可1名、救急科専門医・外科学会専門医・心臓血管外科専門医・循環器専門医・脈管専門医・移植認定医 各1名
PALS インストラクター1名、JPLS 講師1名

【診療体制】

CICU8床、PICU6床、ICU11床の25床を担当し（Closed ICU）、関係各科と連携をとりながら重篤な症例の診療に当たった。平日日中は7～8名、夜間は3名体制。休日は日中5名、夜間3名体制

【集中治療室（CICU、PICU、ICU）入室患者の内訳（2018年1月～12月）】

●入室患者数	964例（3病棟間の移床は数えない）
●月齢中央値	24.5ヶ月
●予測死亡率（PIM3）	1.8%
●実死亡率	1.1%
●搬送手段	
○院内（手術室、病棟など）	735例（70.4%）
○当院搬送チーム	7例（0.7%）
○救急車（他院同乗）	78例（8.1%）
○救急車（現場直送、ER経由）	59例（6.1%）
○ヘリコプター	21例（2.2%）
○その他（独歩など）	64例（6.6%）
●入室理由	
○術後管理	570例（59.1%）
○呼吸不全	160例（16.6%）
○循環不全	47例（4.9%）
○中枢神経系の異常	68例（7.1%）
○モニタリング	96例（10.0%）
○心肺停止蘇生後	8例（0.8%）
○その他	12例（1.2%）
●治療内容	
○人工呼吸管理	381例
○NPPV（非侵襲的陽圧人工呼吸）	61例
○High Flow Nasal Cannula	192例
○HFO	3例

○一酸化窒素吸入療法	60 例
○ECMO（体外式膜型人工肺）	13 例
○血液浄化療法 / 血漿交換	15 例

28. 病理診断科

病理診断科では、胎盤病理・死産児の剖検などの周産期の病理診断、ヒルシュスプルング病や嚢胞性肺疾患などの小児外科領域の病理診断、小児固形腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は日本小児がん研究グループ（JCCG）の病理委員会事務局である国立成育医療センターに病理標本や凍結腫瘍組織を送付して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は、電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では、検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。臨床カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝えることで診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみを検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。大学のカンファレンスや全国の講習会や研究会に積極的に参加している。

2018年の動向

2018年より EBER の in situ hybridization が院内で施行可能となった。

2018年2月22日に当院に心肺停止で搬送された行政解剖施行例4例について、救急科、兵庫県監察医務室、病理診断科で第1回 CPA カンファレンスを行った。

2018年3月6日に神戸大学医学部付属病院病理診断科の原重雄先生を講師にお招きした腎生検カンファレンスが腎臓内科主催で行われた。

2018年7月28日（土）に兵庫県立こども病院講堂において、第79回関西小児病理研究会を開催し、兵庫県立こども病院病理診断科が世話人を担当した。

2018年9月29日（土）に行われた日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会の症例検討会の病理医レビューを兵庫県立こども病院病理診断科が担当した。

2018年3月15日に院内 CPC が行われ、臨床報告は新生児科の玉置祥子先生が担当された。

2018年の件数

組織診断件数 1021件（うち迅速51件、胎盤179件、腎生検19件、他院持ち込み15件、他院8件）

細胞診断件数 190件

剖検件数 4件（新生児科1件、集中治療科2名、腎臓内科1名）

29. 看護部

看護部理念

命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます。

看護部のスローガン

「小児看護」→「笑児看護（しょうにかんご）」

「みる・まもる・つなぐ・つたえる」で、こどもと家族の輝く笑顔を引き出そう！！

看護部方針

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します。
- 看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します。
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます。

看護の体制

- より安全で質の高い看護を提供することを目的とし、パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）看護提供方式への変更に取り組む、全部署日勤帯での PNS から導入を図っています。
- 患者様が治療や検査を理解し、確実にこなせるように、プリパレーションやディストラクションを取り入れた看護を実践しています。
- 保育士と協働し、患者様の成長発達に応じた療育への支援を行っています。
- 患者様に少しでも快適で豊かな入院生活を送っていただけるよう様々なボランティアの皆様と季節折々の行事を実施しています。
- 看護系大学との事例検討会や共同研究を推進し、看護の向上に向けて取り組んでいます。

看護部目標

MISSION 遂行への飛躍

「共働・共育・共創」

1. 共働：互いに尊重し支え合うチームづくりと安全な看護の提供
2. 共育：全看護職が教え育む力を発揮し、共に成長する
患者・家族の意思決定を支援し、患者・家族看護師が共に成長する
3. 共創：看護の技の伝承と新たな挑戦を融合し専門性を高める

看護部の活動

5階西病棟

小児外科・泌尿器科疾患を中心とした混合病棟として、周術期看護とともに内科系疾患の看護として、確実な治療の提供、退院を見据えたセルケアの支援など、診療科や他職種と協働し取り組んだ。泌尿器科のクリニカルパスを積極的に導入、新たに作成するなど看護の標準化を強化した。

5 階東病棟

在宅支援病棟として、在宅支援カンファレンス、訪問看護ステーションや在宅医を含めた地域とのカンファレンスを多職種と共に行った。在宅支援目的の転棟については転棟前訪問を行い、患者のケアを共有し、家族の思いを確認しながら転棟後の不安軽減に対する取り組んだ。また、家族への医療的ケア習得支援のため、看護師の看護技術勉強会を実施し、スキルアップに努めた。退院後同行訪問を定着させ、必要時は他職種も同行できるよう調整した。

6 階西病棟

安心で安全な看護の提供を目指し、互いに尊重し合いながら共に育つことを念頭に教育をすすめた。チーム医療の推進に努め、多職種との協働、病棟間・外来連携の強化を図り、継続した看護ケアを提供することができた。また、心臓カテーテル検査のクリニカルパスを作成し、看護の標準化を図ることができた。

6 階東病棟

内科外科混合病棟として代謝内科の糖尿病教育入院や腎臓病患者教室の実施、整形外科、脳神経外科の周術期看護などこどものセルフケアの向上に向けた支援や退院支援に取り組んだ。安全で安心な看護を目指し、各診療科や他部門との勉強会やカンファレンスを実施した。

7 階西病棟

小児がん拠点病院として、化学療法に伴う不安や苦痛の緩和をめざして、看護手順を作成、ケアの統一をおこない安心・安全な医療の提供に努めた。また、多職種と協働しチーム医療を推進するとともに、がん治療に伴うリスクを予測した予防的に看護ケアを提供することができた。以上のことより看護の統一と個性のある看護計画の立案、看護ケアの提供ができるようになり看護の質の向上につながられた。

7 階東病棟

3月より神戸陽子線センターでの小児対象陽子線治療が開始となった。4月より3床増床し、増加する血液腫瘍科患者の受け入れを推進している。患者・家族が安全・安心に陽子線治療が受けられるよう、陽子線センターとのスムーズな連携とケアの充実に取り組んでいる。また、小児がん拠点病院として7階西病棟との連携を強化し、症状緩和、療養環境の調整、セルフケア支援、復学支援、退院支援、終末期の緩和ケア等に取り組み、患者・家族を支援している。

CICU

心臓外科周術期の安全なクリティカルケアの提供をチームで推進できることを目指した。

刻々と変化する患者状況に応じタイムリーなケア介入ができるよう、医師とのベッドサイドカンファレンスの見直し等、チーム医療の推進に取り組んだ。また、PNS体制や教育計画を見直し、段階的な人材育成と教育支援の強化を図った。

PICU

チーム医療を推進し、安全なクリティカルケアの提供を目指し、日々医師と共にベッドサイドカンファレンスを行ない、個別的なケアの提供につなげている。また、理学療法師とも連携し早期リハビリテーションの実施に取り組んでいる。集中治療を要する患者に対応し、より良い看護の提供ができるよう、日々トレーニングやシミュレーションに取り組んでいる。

ICU

全診療科を対象に、急性期から在宅支援・看取りと幅広い患者の受け入れをおこなった。特に今年度は、家族看護の充実を目標に取り組み、勉強会の実施、日々のカンファレンスでの意見交換・多職種とのカンファレンスをおこない看護展開をおこなった。また多職種連携にも力を入れベッドサイドカンファレンスの見直し、主科とのカンファレンス、PT・STとの連携・地域連携室との調整などをおこないチーム医療の推進

に取り組んだ。

NICU

NICUでのPNS体制を見直し、ガイドラインに沿った実践とPNSマインドを再確認した。結果、教育支援が円滑に行えるようになり、実践経験が増えた。また、医師・GCU病棟との話し合い・調整を重ねて面会時間の拡大を実現し、ファミリーセンタードケアの充実に努めた

GCU

受け入れ患者拡大に向けて業務整理を行い、予定通りに受け入れ拡大できている。また、引き続き育児参加の拡大や、タッチケアの継続、リハビリ科との連携を行い、「赤ちゃんに優しい 家族に優しい」看護ケアの提供ができるよう取り組んでいる。

産科・MFICU

出生前診断を受けた患者・家族に対し、新生児科・循環器科と連携し、出生後の児の状態・育児に関する不安の軽減に繋がる様プレネイタルビジットを行っている。神戸市が「産後うつ」早期発見の対策強化として、スクリーニングの実施を設定。当院もEPDSを用いて、検診時に導入し精神科医師と連携し対応を開始した。母乳外来では、他院で分娩した母親も対象とし、母乳栄養指導だけでなく母親の精神面での支援や、育児不安の緩和に努めることができた。

手術室

WHOの指針に基づいた「手術室安全チェックリスト」を用い、安全な手術環境を整えると共に、チーム医療の質の向上に取り組んでいる。また、他職種、他部門と協働し、手術後回復期のPACU運用など、術前・術中・術後の安全と安心に繋がる看護を推進している。

外来

安全な外来診療・看護の提供を目標とし、教育やヒヤリハットの共有、再発防止の取り組みを行っている。在宅療養支援として個々のニーズに合わせた支援に加え、今年度は移行期支援の一つとして、思春期にある患者家族に医師と協働し、性教育の支援を開始している。

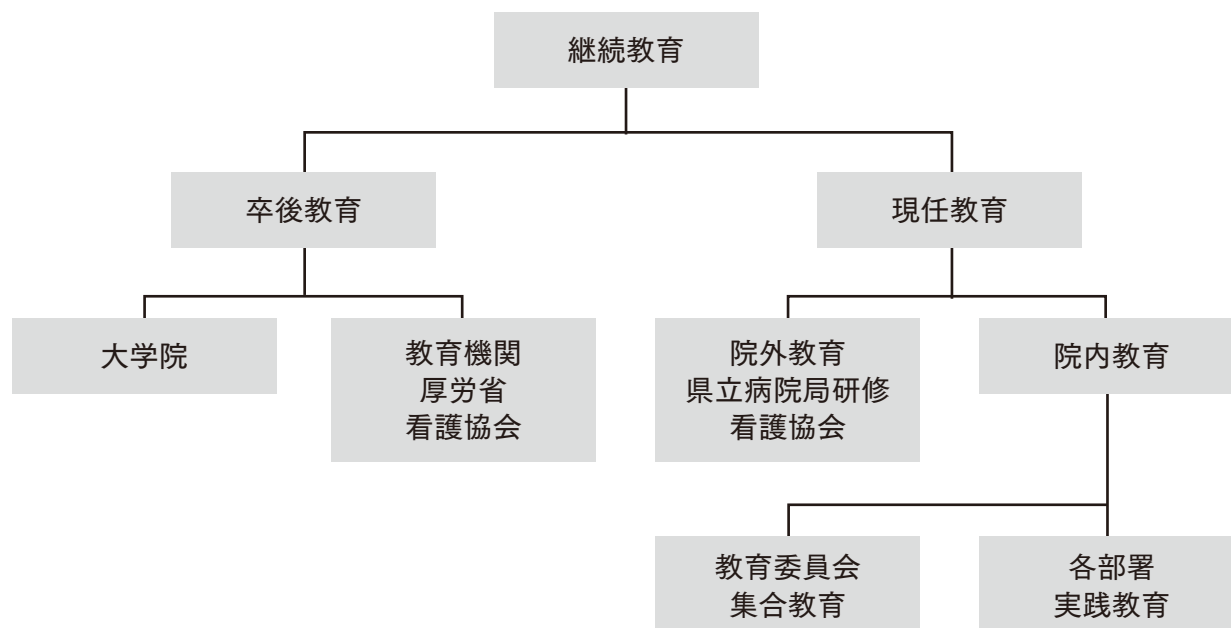
救急・HCU

「自分のこどもを託せる『小児救急』の実践を目指す」をスローガンに、救急外来では高度集学的救急医療とともに「断らない救急」を軸に、軽症から重症までの救急患者の安全な受け入れ体制の確立を目指した。また病棟は、PNSの中でリスク感性の向上と感染を考慮した療養環境整備、感染対策知識・技術の向上を目指し、安全な看護の提供を目指した。病棟だけでなく他部門での勤務もあり、多様な看護実践が求められる中、計画的に人材育成を進め、スタッフの成長に繋げることができた。

こども病院看護部教育方針

1. 高度専門的な母子看護の知識・技術をもち、エビデンスに基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. こどもの権利を守り、患者家族の思いを尊重できる看護師の育成
3. チーム医療の調整役として行動できる看護師の育成
4. 研究的視点で看護実践の改善がはかれる看護師の育成

こども病院看護部継続教育の位置づけ



看護部委員会

委員会名	開催回数	活動内容と結果
看護師長補佐会	11回	<p><目的> 各看護単位の円滑な運営と看護の質向上を図ることができる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PNSを推進することで、こども病院の看護提供方式の基盤を整備する 2. 災害時にスタッフが適切な行動をとれ、安全に避難ができる 3. 看護補助者との効果的な共働を推進する 4. 患者・家族の思いを受け止め患者サービスの向上を図る 5. 人材、コスト、物品を有効活用し働き方改革ができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイドラインに沿って実践が行えているか現状調査を行った。師長会のPNSグループと連携し、評価を師長会で活用促進を補佐会で担当し、補佐会内でのPNSプレ大会や院内スタッフ向けのマインド研修を開催した 2. 院内の防災設備についての説明会を補佐対象に開催した。ケアパッケージや被害状況リストの作成・修正を行なった。 3. 看護補助者との協働のための業務整理や職場環境の整備 <ol style="list-style-type: none"> ①補助者面談シートの作成と活用 ②補助者研修（安全・感染）の実施（全6回） 4. ハートメッセージや患者満足度アンケートの現状分析と内容の共有を行った。スタッフの対人スキル向上を目指し、接遇チェックリストの活用やポスターの掲示などの啓蒙活動を行った 5. 補佐を対象とした診療報酬や経営に関する勉強会の開催、各部署におけるSPD物品に関する問題解決のための現状調査
看護部教育委員会	12回	<p><目的> 看護職員のキャリア開発を支援するとともに、良質な看護を提供するための教育体系を整備、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年間計画に沿って、集合教育を実施し、看護のおもしろさ・やりがい感を発見することができる研修を企画する 2. 教育委員が元気で、各病棟の教育支援ができるとともに、委員としての成長ができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTとリンクした継続性のある教育の検討と実施 3. 看護師個々のキャリアに応じた支援の検討と実施
看護部教育担当者会	14回	<p><目的> 新人看護師を支援する教育体制を整備し、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護師が現場に順応し、各自のペースに合わせて目標を達成していけるよう支援できる 2. 教育担当者が、新人看護師や実地指導者への指導・教育、研修企画・運営、問題解決に関する知識やスキルを高め、成長できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護師の院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTでの継続性のある新人看護師教育の検討と実施 3. 実地指導者・教育担当者の支援・育成 4. 全スタッフで新人看護師を育成する風土づくり・体制整備

<p>臨床指導者会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 臨床指導者の育成と学生の効果的な臨床実習の受け入れ体制の整備を行う</p> <p><目標> 1. 周手術期の患者の実習を一般病棟、手術室、集中系病棟が連携し支援する 2. 病棟内の実習環境づくりを行い、スタッフ全員で実習を受け入れることができるとともに指導スキルの向上をはかる</p> <p><活動内容> 1. 各学校と実習内容の調整、目的を共有し、各病棟で実習を受け入れた 2. 集中系病棟の実習は「実習のガイドライン」に沿って、実習を行う事ができた 3. 「PNSの中で学生指導を行う上での取り決め」に沿って、PNSに学生を配置し、実習を展開することができた 4. 病院局や大学が主催する研修会に参加し、委員会内で学びを共有することができた</p>
<p>業務・手順委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 看護業務を見直し、当院に必要な看護基準・手順を作成し、安全で安楽な標準化したケアを提供する</p> <p><目標> 1. 看護業務の見直しと改善策の検討を行う 2. 各委員会と連携を図り、看護手順の作成および修正を行う</p> <p><活動内容> 1. 看護手順が遵守できるよう看護手順の2項目の監査を行い、1回目の結果から遵守できていない手順を啓蒙し、2回目の監査を実施し、遵守率の向上に向け活動した 2. 看護手順作成要綱の見直しや用語の統一表を作成し、看護手順の見直し、改正を行った 3. 看護基準の見直しを行い、内容を啓蒙した 4. 看護手順を遵守していないために起こっているヒヤリハットや手順に関する疑問点など毎月事例を抽出し、手順の不備によることか、手順が理解できていないために起こっているのかなど検討し問題解決に努めた</p>
<p>感染対策委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 1. 各看護単位での感染対策の中心的役割を担う 2. 各看護単位の感染対策を検討・改善し、感染対策に関する看護の質を向上させる 3. ICCやICT、ICNと連携し、院内の感染対策を推進する</p> <p><目標> 1. アウトブレイクが発生しない 2. 感染対策における実践モデルとしての役割がとれる</p> <p><活動内容> 1. ICTと連携して手指衛生の直接観察と手指消毒剤の使用量調査を行い、質と量の両側面から手指衛生の遵守率向上に寄与する活動を行った 2. 安全な療養環境づくりのため、ICTとともに環境ラウンドを実施し、改善活動に取り組んだ 3. 防護具の適正使用に関し、着脱ルールを部署に浸透させる活動を行った 4. ICTと連携し、感染対策マニュアルの改訂を行った 5. 委員会内で実施したミニレクチャーの内容を各部署に浸透させるための活動により、スタッフへの教育的介入を行った 6. 院内全体への教育として、ICTと連携し全職員対象感染対策研修会の企画、運営を担った 7. リンクナースとして必要な知識、技術を習得するためチェックリストによる自己評価を実施した</p>

<p>安全対策委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 看護事故防止対策を検討し、全看護職員のリスク感性向上に向けて取り組むことを目的とする</p> <p><目標> 1. リスクの高い4項(チューブ管理、注射、内服、転倒・転落)について活動し、安全な療養環境を作る 2. 安全委員がデーターを基に現状を把握し、自部署のリスク感性向上に繋がる役割が取れる</p> <p><活動内容> 1. ヒヤリハットの情報共有と各部署のヒヤリハット分析、対策について共有した 2. ヒヤリハットレベル0 報告件数の増加に向け、KYTの実施回数増加を推進した。また、環境チェックを実施し安全な療養環境の提供に向け、各部署で取り組みを推進した 3. 与薬、注射の手順の遵守に向けチェックリストによる自己・他者評価を実施し課題を共有し対策を検討した 4. 転倒・転落についてチェックリストを基に他病棟ラウンドを実施し安全委員にフィードバックを行った。家族が転落について危険である事を認識できる用にリーフレットを作成した。チューブ管理に関してはチェックリストを作成し評価を行った</p>
<p>看護部情報管理委員会</p>	<p>11回</p>	<p>目的) 病院情報システムに必要とされる「真正性」「見読性」「保存性」の3原則の確保のために、業務上看護が取り扱う情報を以下の3点に基づき管理することを目的とする</p> <p><目標> 1. 看護記録記載マニュアルの改定・周知をする 2. 機械的監査を2/年実施、監査結果2回目が1回目を上回る 3. 質的監査を2/年実施、監査結果2回目が1回目を上回る 4. ケアプロセスが確認できる看護記録ができる 5. 標準看護計画の整備</p> <p><活動内容> 1. 看護記録記載マニュアルの改定・周知を行い、患者の状況に応じた個別的な看護記録ができた。また、他職種とのカンファレンス記録、患者・家族指導記録、その反応など記録に記載できたことで継続したケアが提供できた 2. 記録の監査では、機械的、質的監査共に2回目が1回目を上回る監査結果を得られ、医療の質向上へつながる記録となった</p>
<p>看護部地域連携委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 在宅療養支援に関する院内外の現状を知り、地域連携推進に取り組む</p> <p><目標> 1. 在宅指導マニュアルを変更し、実際の在宅ケアに沿った退院指導や支援ができる 2. 各病棟で退院支援システムを活用した退院支援ができる 3. 地域の医療スタッフとの交流をはかり、地域とのつながりを深めスムーズな連携につなげる 4. 退院支援に関する課題を共有し、病棟へ還元できる</p> <p><活動内容> 1. 鼻口腔吸引マニュアル・パンフレットを作成した。吸引方法を乾式に変更し、患者指導を行った 2. 在宅推進委員会と協力し、訪問看護ステーションを対象とした研修会を2回行い、訪問看護ステーションの看護師や理学療法士など多職種との交流や意見交換を行った</p>

<p>看護部専門・認定看護師会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 病院情報システムに必要とされる「真正性」「見読性」「保存性」の3原則の確保のために、業務上看護が取り扱う情報を以下の3点に基づき管理することを目的とする</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録記載マニュアルの改定・周知をする 2. 機械的監査を2/年実施、監査結果2回目が1回目を上回る 3. 質的監査を2/年実施、監査結果2回目が1回目を上回る 4. ケアプロセスが確認できる看護記録ができる 5. 標準看護計画の整備 <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録記載マニュアルの改定・周知を行い、患者の状況に応じた個別的な看護記録ができた。また、他職種とのカンファレンス記録、患者・家族指導記録、その反応など記録に記載できたことで継続したケアが提供できた 2. 記録の監査では、機械的、質的監査共に2回目1回目を上回る監査結果を得られ、医療の質向上へつなげる記録となった
<p>看護部研究支援委員会</p>	<p>10回</p>	<p><目的> スタッフが看護研究を意欲的かつ適切に実施できるように、研究の全過程にわたって支援する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の計画や実施において、スタッフが適切な倫理的配慮を行えるよう支援する 2. スタッフが、看護に関して科学的方法を用いて探求し、新しい知見を得るために、適切な指導と支援を行う <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の倫理的配慮に対する指導・教育 2. 看護研究の計画・実施プロセスにおけるスタッフの支援
<p>皮膚・排泄ケア部会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 皮膚排泄における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストーマケア、失禁ケア、創傷ケアなどの専門知識、技術を共有する 2. 各部署におけるストーマケア、失禁ケア、創傷ケア、電子カルテでの記入不備の現状や課題を検証し改善する <p><具体的取り組み></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 褥瘡発生予防の取り組み <ol style="list-style-type: none"> ①挿管チューブによるMDRPU ②経鼻チューブによるMDRPU ③シーネ・IV固定によるMDRPU ④自重による褥瘡 3. 体圧分散寝具の適切な管理 4. 褥瘡発生報告と事例検討 5. 勉強会 <p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4項目について現状調査と対策を講じた ・ソフトナース・ペディケアマットレスの一括管理後の状況確認とシステムの定着をおこなった ・毎月褥瘡発生報告と事例検討（意見交換）をおこない予防策を講じ対応した ・褥瘡対策に関する記録の不備に関しては、毎月の調査をおこないその結果をWOCだよりにて発信した。各部会員が不備に関しては自部署へ注意喚起をおこなった ・部会内での勉強会を実施（褥瘡対策に関わる施設基準・褥瘡に関する記録記載に関して）

呼吸障害ケア部会	11回	<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸障害における専門知識を習得する 2. 呼吸障害におけるケアの質の向上を図る <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸障害における専門知識を習得し根拠を持って実践できる 2. 各呼吸器に応じた安全チェックが統一してできる 3. 呼吸器関連に関する物品を統一して行える <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸管理に関するヒヤリハットを共有し、分析をもとに対策検討と周知を図る 2. 呼吸療法マニュアルの修正 3. RSTと連携をとり、呼吸管理に関する勉強会の開催
摂食障害ケア部会	11回	<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食に関する最新の知識を学び、共有する 2. 事例検討を行い、摂食ケアの質の向上を図る <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各委員が摂食に関する知識を学び、リンクナースとしての役割が担える 2. 症例検討を通して、実際のケアを学び病棟間及び病棟外来連携ができ、継続看護が行える <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員が、摂食ケアについての基礎知識を習得できるよう上半期、勉強会を行なった。下半期は3つのグループに分かれ自分達の学びを発表した 2. 毎月各部署からの症例をアセスメントの考え方用紙を用いて検討し、ケア方法の共有や病棟間の連携に繋げた 3. 口腔マッサージを通して患者とコミュニケーションを図ることを第一目的として、各部署で各委員が口腔マッサージ方法の勉強会を開催した

平成30年度 看護部院内研修

	研修会名	日程	時間	ねらい	参加数	講師
新人	7和-研修①子どもの安全・感染	4月5日(木)	1日	<p>1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる</p> <p>2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる</p> <p>3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる</p>	83名	藤田課長、中島CN、教育担当者
	7和-研修②子どもの排泄ケア・モニター	4月6日(金)	0.5日/0.5日		41名/ 41名	コヴィディエ、フィリップス、教育担当者
	看護記録・電子カルテ操作	4月9日(月)	0.5日/0.5日		46名/ 45名	大西次長、武田師長、田原師長、情報管理委員、富士通
	7和-研修③与薬システム・経口薬与薬	4月10日(火)	0.5日/0.5日		41名/ 41名	教育担当者
	7和-研修④輸液管理・輸液ポンプ	4月17日(火)	0.5日/0.5日		42名/ 41名	テルモ、教育担当者
	7和-研修⑤点滴管理・シナーネ固定	4月20日(金)	0.5日/0.5日		41名/ 41名	教育担当者
	7和-研修⑥スキネクシア・薬剤管理	4月26日(金)	0.5(AM)		82名	鎌田CN、上田薬剤部次長、教育担当者
	7和-研修⑦静脈注射・栄養・周手術期看護麻酔・小児の呼吸と循環の基礎	5月15日(火)	1日		82名	鳥井管理栄養士、鎌田CN、津田看護師、新谷CN、新井CN、坂本CN、森本CN、教育担当者
	7和-研修⑧吸引(鼻口腔・気管)・経管栄養管理	5月25日(金)	0.5日/0.5日		41名/ 41名	教育担当者
	7和-研修⑨救急蘇生	6月14日(木) 15日(金)	1日×2		41名/ 41名	藤原CN、坂本CN、教育担当者
	7和-研修⑩子どもの権利・アレルゲン・放射線	6月25日(火)	1日		82名	栗林CNS、響看護師、助永看護師、藤田課長
	7和-研修⑪家族看護・妊産婦の心理	7月20日(金)	0.5(PM)		82名	山内検査技師、八杉検査技師、教育担当者 星尾看護師長補佐、末廣助産師、教育担当者
	7和-研修⑫多重業務	8月16日(木) 17日(金)	0.5日×2		41名/ 41名	教育担当者
	7和-研修⑬PNS・継続看護・感染安全7和-技術発表	9月21日(金)	1日		81名	伊丹看護師長、泊CN、深江課長、藤田課長中島CN、教育担当者
	7和-研修⑭看護過程1	10月19日(金)	0.5日/0.5日		80名	中谷CNS、板原看護師、教育担当者
	7和-研修⑮看護過程2	11月12日(月)	0.5日/0.5日		79名	中谷CNS、板原看護師、教育担当者
	7和-研修⑯看護過程を考える	3月5日(火) 6日(水)	0.5日×2		79名	教育担当者
	ボンプ・モニター技術演習	5月8・15・22・29日	各1時間		56名	ME、中谷CNS、佐藤看護師長
	実践力アップ7和7研修	8月7・21・28日	各1時間		21名	佐藤看護師長
	基礎研修①「ストーマケア」「理学療法」	7月20日(金)	3時間		71名	鎌田CN、細川理学療法士
基礎研修②「導尿」「糖尿病」	10月17日(水)	3時間	35名	鎌田CN、泊CN		
7和7研修③「カテーテル」・救急蘇生研修	11~2月	各1日	80名	藤原CN、坂本CN、ソフトカッター他		
既卒者研修①	5月29日(火)	0.5(PM)	8名	濱田看護部参事、河野臨床心理士		
既卒者研修②	7月31日(火)	0.5(PM)	7名	中野看護師、金看護師		
既卒者研修③	10月25日(木)	0.5(PM)	5名	河野臨床心理士、窪木看護師、西里看護師		
看護過程	5月29日(火)	0.5(AM)	28名	深江課長、星尾看護師長補佐、川端看護師		
メンバートップ・PNS研修	6月18日(月)	0.5(PM)	26名	梁看護師長補佐、佐藤看護師長		
家族看護	7月31日(火)	0.5(PM)	28名	竹村看護師、武田看護師長		
看護倫理	9月25日(火)	0.5(AM)	27名	浅井CNS 松野看護師		

3年目研修	家族看護	6月18日(月) 29日(金)	0.5日×2	1. 受け持ち看護師として支援を受けながら個別性のある家族看護が展開できる	41名 /42名	大亀看護師
	看護倫理	8月6日(月) 8月30日(木)	0.5日×2	1. 患者・家族・医療者の立場による価値観の違いを知り、子どもを主体としたケアを支援を受け実践できる	43名 /43名	栗林CNS
	ケーススタディ発表	12月10日(月) 12月27日(木)	1日×2	1. 看護過程・家族看護・看護倫理を踏まえて、事例を通して自分の大切にしている看護を明確化する	43名 /41名	教育委員
	プリセプターフォロー研修①	6月22日(金) 6月29日(金)	0.5日×2	1. プリセプターとしての役割を理解し、アソシエイトプリセプターの支援のもと、プリセプティと共育できる	36名 /31名	伊丹看護師長
	プリセプターフォロー研修②	10月25日(木) 10月30日(火)	0.5日×2	1. プリセプターとしての役割を理解し、アソシエイトプリセプターの支援のもと、プリセプティと共育できる	33名 /31名	奥井看護師、増永看護師、辻看護師 大塚看護師、佐藤看護師長
	マネジメント研修	7月27日(金)	0.5(PM)	1. 組織分析を行い、部署の目標に連動した目標立案・実践・評価ができる	22名	濱田看護部参事、檜垣看護部部長
	シミュレーション研修	6月28日(木)	1日	1. バレオジョン教育の知識を習得し、研修の企画運営に活かすことができる 2. 病棟マップに対して教育的な関わりができる	37名	井谷CN、梁CN
	シミュレーション発表会	1月22日(火)	0.5(AM)	1. バレオジョン教育の知識を習得し、研修の企画運営に活かすことができる 2. 病棟マップに対して教育的な関わりができる	37名	教育委員
	教育担当者研修	2月25日(月)	0.5(PM)	1. 新人の特徴を踏まえた効果的ななかかわりと育成ができる	30名	京都大学医学部付属病院内藤 知佐子 先生
	教育研修	1月30日(水)	0.5(PM)	1. 学習者である若手看護師の特徴を理解し、相手に合わせた教育支援ができる	50名	京都大学医学部付属病院内藤 知佐子 先生
退院支援 推進	退院支援推進者研修7ホロ7up*	8月24日(水)	3時間	1. 退院調整のプロセスを経験し、退院支援における病棟看護師の役割を理解する 2. 自身の課題と部署の課題を明確にし、部署における退院支援推進者としての役割を理解する	14名	家族支援・地域医療連携部深江課長
	退院支援推進者研修	11月22日(木)	0.5(AM)	1. 退院支援における病棟看護師の役割を理解し、自部署での退院支援に活かすことができる 2. 自部署で患者と家族の意思を尊重した退院支援を展開できる	14名	家族支援・地域医療連携部深江課長
看護研究	看護研究②	5月21日(月)	0.5(PM)	1. 看護研究の基礎知識を得ることができる	29名	中谷CNS、濱田看護師長
	看護研究③	11月22日(木)	0.5(PM)	2. 日々の実践を研究の視点で捉え、支援を受けながらメンバーの一員として研究に取り組むことができる	27名	中谷CNS
	看護研究①	2月22日(金)	0.5(PM)	3. 効果的なプレゼンテーションができる	24名	濱田看護師長
	摂食・嚥下障害看護	8月28日(火) 10月23日(火) 12月25日(火)	0.5(PM)	1. 摂食・嚥下の基本的なメカニズムについて知り、子どもにとつての食の意 味や食行動の理解を深めることができる 2. 当院に入院中の子どもたちの摂食・嚥下障害の原因について理解・推測し、 必要時、看護計画を立案及び実施・展開することができる	8名	森本CN
スキル アップ 研修	創傷ケア	8月27日(月) 10月23日(火) 12月25日(火)	0.5(AM)	1. 小児によく見られるスキントラブル(褥瘡・医療関連機器圧迫創傷・肛門 周囲皮膚炎・胃瘻周囲皮膚炎・テープ貼付による皮膚炎)に適切に対処す るために必要な知識と技術を習得する	8名	鎌田CN
	糖尿病看護		0.5(PM)	1. 糖尿病の病態理解に基づいた支援を行うために、血糖調節機構と異常を説 明できる能力を身につける 2. 糖尿病の成因と病態を理解し、小児1型糖尿病の療養支援を実践できる自 信が持てる 3. 小児1型糖尿病患者に成長発達段階をふまえた看護の実際を考えることが できる	6名	泊CN
	集中ケア	8月20日(月) 10月22日(月) 12月17日(月)	0.5(AM)	1. 適切な病態アセスメントと情報の共有、報告のスキルを身につけ、患者へ の適切なケアや治療につなげることができる 2. ラダーII以上の看護師の感染対策に対するレベルが向上する	12名	坂本CN
	感染管理		0.5(PM)	1. 現場における感染対策の風土を改善する 2. 受講者が、感染対策の基礎知識を基盤に、根拠を理解して看護ケアを展開 できる 3. 受講者が、役割モデルとして感染対策を実践、推進、スタッフへの指導が できる 4. 受講者が、常に問題意識をもって行動し、感染防止対策の改善策について 考えることができる	15名	中島CN・新谷CN

30. 薬剤部

1 薬剤部員異動

【退職者】部長	加古 学		(平成30年3月31日付)
【転出者】主査	廣瀬 晃子	県立尼崎総合医療センター	(平成30年4月1日付)
職員	舩井 佳奈	県立柏原病院	(平成30年4月1日付)
【転入者】部長	福井 由美子	県立加古川医療センター	(平成30年4月1日付)
主任	山田 真人	県立西宮病院	(平成30年4月1日付)
職員	尾向 沙由理	県立淡路総合医療センター	(平成30年4月1日付)
職員	堀本 友香	新規採用者	(平成30年4月1日付)

2 平成30年活動報告

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

(1) 日本医療評価機構による病院機能評価受審に向けての取り組み

調剤業務、医薬品管理業務、病棟薬剤業務など、それぞれの項目についてマニュアルの整備を行った。そのマニュアルに従い、各業務担当者を中心として今年度の業務改善を含めた業務全般の見直しを行い、薬剤部業務の充実を図った。

(2) 薬物治療の安全確保のためのヒヤリハット防止への取り組み

入職、転勤時の年度当初の研修会や年3回実施している薬剤業務に対する実践検証後にも研修会を実施し、当院特有の事例等を通じて部員全員で具体的なヒヤリハット防止対策に取り組んだ。また、対策の立案には背後要因分析シートを用い原因を的確に分析することで、より効果的な対策を取ることが可能となり、ヒヤリハット件数の減少に繋がった。

(3) 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の事務局としての活動

今年度より抗菌薬適正使用加算の算定を開始したことを受け、ASTの充実を図った。週3回の多職種によるショートミーティングの結果を治療へ迅速に反映させると共に、テンプレートの活用で誰でも的確に患者情報を得ることを可能にした。更に、院内外への研修会、勉強会の講師を務め、抗菌薬の適正使用についての知識の底上げを図ることにも取り組んだ。

(4) 薬学生の長期実務実習及びレジデントの受け入れ

実務実習モデル・コアカリキュラムに基づき年間16名の薬学生を受入れ指導を行った。また、レジデントについては、2名を受け入れ、病院薬剤師として必要な知識等を指導し、年度終了時には各担当業務に関する学会発表を行うことが出来た。

(5) 人材育成と自己研鑽の推進

部内業務分担において担当の権限や責任を明確化し半年単位で見直す事により、部員の適性により応じた業務を行えるよう配慮した。また新薬や新規採用の薬剤師は可能な限り部内勉強会を開催し、取得を希望する資格に関する学会への参加や発表を支援した。今年度より新設された「日病薬病院薬学認定薬剤師」には4名が認定を取得した。

3 今後の展望

多岐にわたる業務の中でも抗菌薬適正使用や抗がん剤レジメン管理など、特に薬剤師としての適性を発揮すべき業務に対して部員全体の知識の向上を目指し、病棟薬剤業務を中心として薬物療法の充実を図る。また、引き続きヒヤリハット防止に向けて、より具体的な対策の実施を推進する。

(1) 調剤件数

区 分	処 方 箋 数	合 計			内 用 薬			外 用 薬		
		処 方 数	調 剤 数	延 調 剤 数	処 方 数	調 剤 数	延 調 剤 数	処 方 数	調 剤 数	延 調 剤 数
入 院	53,175	78,407	88,393	611,976	53,020	56,205	300,477	25,387	32,188	311,499
外 来	17,962	22,326	37,375	323,017	9,690	22,469	142,799	12,636	14,906	180,218
計	71,137	100,733	125,768	934,993	62,710	78,674	443,276	38,023	47,094	491,717
一日平均	291.5	412.8	515.4	3,831.9	257.0	322.4	1,816.7	155.8	193.0	2,015.2

(2) 調剤件数

区 分	注 射 薬	
	処 方 箋 枚 数	延 本 数
入 院	111,697	722,353
外 来	11,600	21,456
計	123,297	743,809
一日平均	505.3	3,048.4

(3) 薬剤管理指導関係件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
薬剤管理指導	558	547	590	538	584	654	715	840	604	743	696	697	7,766
麻薬加算	2	0	0	2	2	6	8	10	5	7	9	13	64
退院指導	100	111	128	101	102	117	109	168	112	135	115	133	1,431

(4) 薬剤情報提供料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	494	391	395	387	460	414	487	506	443	366	372	440	5,155

(5) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	321	276	371	423	385	341	397	429	368	353	379	473	4,516
高カロリー	75	52	88	108	114	125	133	185	171	144	158	197	1,550
計	396	328	459	531	499	466	530	614	539	497	537	670	6,066

(6) TDM 件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全件数	5	5	9	17	13	6	11	40	45	9	10	4	174

(7) 院内D I 業務

① 電子メール・電子カルテ掲示板掲載による情報提供

掲 載 日	件 名
2018.1.27	医薬品安全対策情報 No.266
2018.2.8	医薬品・医療機器等安全性情報 No.350
2018.3.9	医薬品安全対策情報 No.267
2018.3.16	医薬品・医療機器等安全性情報 No.351
2018.4.9	医薬品安全対策情報 No.268
2018.4.18	医薬品・医療機器等安全性情報 No.352
2018.5.24	医薬品安全対策情報 No.269
2018.5.31	医薬品・医療機器等安全性情報 No.353
2018.7.4	医薬品安全対策情報 No.270
2018.7.4	医薬品・医療機器等安全性情報 No.354
2018.8.8	医薬品安全対策情報 No.271
2018.8.14	医薬品・医療機器等安全性情報 No.355
2018.8.31	医薬品安全対策情報 No.272
2018.10.22	医薬品安全対策情報 No.273
2018.11.14	医薬品安全対策情報 No.274
2018.11.19	医薬品・医療機器等安全性情報 No.356
2018.11.19	医薬品・医療機器等安全性情報 No.357
2018.12.25	医薬品安全対策情報 No.275

② 主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・注射薬配合変化について ・注射薬溶解後の安定性について ・注射薬のフィルター透過性について ・食品と薬剤の相互作用について ・内服薬の飲み易い飲み方について ・冷所保存医薬品の常温での安定性について 	<ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤の適切な投与方法について ・医薬品の副作用について ・血液製剤の投与方法について ・小児薬用量について ・錠剤の粉碎可否について

(8) 院内製剤

① 内用液剤

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /mL)
内服用ルゴール液	345
0.1%ミダゾラムシロップ	10000

③ 外用液剤

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /mL)
アセモトール	4000
1/2 カプトドロップ	1200
0.5% アトロピン点眼	15
25% グリセリン液	28700
20% 硝酸銀	0
30% 硝酸銀	50
40% 硝酸銀	0
10% ピオクタニン青液	50
1% ピオクタニン青液	0
0.2% ピオクタニン青液	150
30% アルコール	0
50% アルコール	0
ツェンテール液	50

② 軟 膏

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /g)
バリアー	65000
10% テストステロン軟膏	1215
0.4% エストラジオール軟膏	400

④ 予製剤

製 剤 名	製剤量 (単位 /g)	製 剤 名	製剤量 (単位 /g)
(倍散→倍散)		ベラプロスト (× 50000)	4205
0.01% ジゴシン散	100	ヒドロクロチアジド散 (× 10)	1000
(錠→散)		フラジール散 (× 4)	0
インデラル (× 100)	3000	オキシブチニン散 (× 100)	1200
グリチロン散	600	メキシチール散 (× 10)	0
コートリル散 (× 20)	1200	ロンゲス散 (× 100)	2800
デカドロン散 (× 1000)	750	イムラン散 (× 10)	0
レバチオ散 (× 50)	8100	カタプレス (75 μ g/g)	1000

31. 検査・放射線部（検査部門）

1. 人事異動（平成 30 年 4 月 1 日付）

【転出者】

主任検査技師	山岸 真代	尼崎総合医療センターへ
課長補佐	瀧本 良美	西宮病院へ
課長補佐	河村 規子	がんセンターへ
職員	大島 佳那子	姫路循環器病センターへ

【転入者】

主任検査技師	八杉 秀美	がんセンターより
主任	寺前 正純	淡路医療センターより
職員	田中 桃子	尼崎総合医療センターより
職員	池田 百香	新規採用

2. 活動報告

(1) 臨床検査業務の充実

新病院 3 年目を迎え、患者数の増加とともに臨床検査件数も増加し、対前年比 108% となった。新規業務として、1 月より生理検査室において時間内歩行検査を、病理検査室において EBER-ISH 染色を開始した。また、時間外検査項目として、尿定性検査、甲状腺 3 項目、尿中乱用薬物検査、A 群溶連菌迅速検査を開始し、拡充を図った。

(2) ヒヤリハット防止への取り組み

ヒューマンエラーや環境・設備の不備に対する感受性を高めるため、危険予知トレーニング（KYT）を行い、行動目標を立案した。また、医療安全月間では「患者情報の確認」をテーマとし、医療安全への意識向上に努めた。

(3) 院内感染対策

感染対策委員会事務局として本委員会を定期開催（年 12 回）した。感染対策チーム（ICT）の活動に力を入れ、感染管理加算 I 取得を継続している。

(4) 安全な輸血治療

輸血療法委員会事務局として本委員会を定期開催（年 6 回）した。適正な輸血療法の推進、血液製剤の有効利用を図り（廃棄率 0.8%）、輸血管理料 I 取得を継続している。

(5) 人材育成

学会や研修会・セミナー等に積極的に参加して知識を向上させ、県立病院相互研修制度を利用して技術の習得や運用改善を行った。また、業務到達度チェックリストを活用して各業務を評価し研鑽に努めた。

(6) 医療法一部改正への対応

医療法が一部改正され、検体検査の精度の確保について改正省令が平成30年12月1日施行された。これに伴い、各種標準作業書・作業日誌の作成、内部精度管理の実施、外部精度管理の受検、適切な研修の実施が規定され、順次取り組んだ。

〈認定・資格〉

超音波検査士（循環器）	6名	超音波検査士（消化器）	5名
超音波検査士（体表臓器）	2名	細胞検査士	2名
認定血液検査技師	1名	認定輸血検査技師	1名
臨床工学技士	1名	診療情報管理士	1名
二級臨床検査士（微生物）	2名	有機溶剤作業主任者	1名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	1名		

3. 次年度の課題

医療法が一部改正され、検体検査の精度の確保が求められている。そのため、標準作業書の完成、台帳等の整備、精度管理の充実等を推進していく。また、遺伝子検査に関わる技師を育成し、知識・技術の向上を図る。

チーム医療を推進するため、安全で適切な輸血療法の啓蒙や、ICT（院内感染対策チーム）の活動などに積極的に取り組んでいく。

(1) 臨床検査実施状況

*メディスコードを用いた集計に変更

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一般	2,787	2,584	3,581	2,920	2,734	2,625	3,211	4,181	2,641	3,102	2,935	3,234	27,583
血液	12,006	11,785	14,328	12,840	12,566	12,419	13,477	15,428	11,925	12,758	12,927	13,621	117,961
細菌	1,788	1,710	1,723	1,491	1,415	1,362	1,778	1,775	1,538	1,743	1,635	1,586	14,323
血清	4,864	4,509	5,555	5,288	4,638	4,826	5,749	6,237	4,567	5,255	5,105	5,327	46,992
生化学	46,488	43,022	54,378	48,393	47,014	46,539	52,381	61,463	45,303	49,185	49,163	51,361	450,802
病理	143	140	179	204	143	130	139	188	110	134	134	181	1,363
生理	1,184	1,087	1,684	1,437	1,078	1,218	1,287	2,116	1,207	1,255	1,201	1,286	12,085
外部委託	2,982	2,883	4,256	3,765	3,122	3,114	3,308	4,340	3,065	3,372	3,159	3,160	30,405
合計	72,242	67,720	85,684	76,338	72,710	72,233	81,330	95,728	70,356	76,804	76,259	79,756	701,514

(2) 時間外（日、当直）検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年度累計
休日日勤帯	720	476	545	457	562	458	536	499	618	502	545	859	5,036
準夜帯	649	719	789	622	605	677	782	844	686	651	731	702	6,300
深夜帯	1,514	1,511	1,851	1,600	1,502	1,699	1,626	1,905	1,623	1,582	1,538	1,772	14,847
合計	2,883	2,706	3,185	2,679	2,669	2,834	2,944	3,248	2,927	2,735	2,814	3,333	26,183

(3) 血液製剤使用状況

製剤		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RCC	使用量 単位数	204	196	276	215	233	204	369	315	281	308	246	249	3,096
	廃棄量 単位数	0	2	0	8	4	2	4	2	4	4	2	2	34
	廃棄率 %	0.0	1.0	0.0	3.6	1.7	1.0	1.1	0.6	1.4	1.3	0.8	0.8	1.1
FFP	使用量 単位数	55	77	189	65	111	71	208	185	173	126	87	103	1,450
	廃棄量 単位数	0	2	2	2	0	2	7	0	4	1	4	2	26
	廃棄率 %	0.0	2.5	1.0	3.0	0.0	2.7	3.3	0.0	2.3	0.8	4.4	1.9	1.8
PC	使用量 単位数	655	754	1,093	767	930	860	1,180	1,410	1,035	1,185	972	1,190	12,031
	廃棄量 単位数	0	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	20
	廃棄率 %	0.0	0.0	0.9	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
ALB	単位数	798	898	728	700	642	643	775	832	846	647	677	687	8,873
FFP/RBC 比		0.27	0.39	0.68	0.30	0.46	0.35	0.56	0.59	0.59	0.41	0.34	0.41	0.46
ALB/RBC 比		3.76	4.28	2.64	3.02	2.69	3.12	1.99	2.64	2.62	2.10	2.68	2.74	2.76

(4) 血液培養検査

実施件数	3099
複数セット採取率	26.2%
陽性率	5.6%
小児用血液培養ボトル適正量（1～3mL）採取率	65.0%

(5) 薬剤耐性（2018年の薬剤感受性試験実施株を対象）

黄色ブドウ球菌に占める MRSA 率	42.3%
大腸菌に占める ESBL 産生率	21.5%
緑膿菌のイミペネム耐性率	5.6%
腸内細菌科細菌および緑膿菌のカルバペネマーゼ産生菌分離率	0.0%

32. 検査・放射線部（放射線部門）

1. 人事異動 平成 30 年 4 月 1 日付

【転出者】	放射線技師長	山崎 敏弘	尼崎総合医療センターへ
	主任放射線技師	吉野 朗	西宮病院へ
	主任放射線技師	沼田 憲作	がんセンターへ
【転入者】	主任放射線技師	奥村 徹	がんセンターより
	主任放射線技師	前田 啓明	姫路循環器病センターより
	主査	廣瀬 悦子	尼崎総合医療センターより
	職員	西本 美香	新規採用

2. 活動状況

1) 放射線検査業務実績（表 1、2、3）

平成 30 年の放射線検査実績は、総検査人数 44,023 人で、前年より 722 人減少した。入院患者数が 1,987 人減少し、外来患者数は、1,265 人増加した。

時間外検査人数は、4,969 人で、前年より 126 人減少した。日勤検査帯人数が、259 人減少し、準夜帯及び深夜帯は、それぞれ 86 人、47 人増加した。

2) 機器の更新（表 4）

平成 22 年に導入され、7 年間稼働した医用画像システム（3 次元画像処理ワークステーション）の仕様策定行い機種が決定した。

3) 医療事故防止の取組み

患者間違いの防止に取り組んでおり、認証機器を用いた患者認証を推進し、前年に比べ患者間違いは減少している。

また、MRI 室へ金属持ち込み防止に取り組み、金属探知機の適切な使用を推進する講習会を診療放射線技師や担当看護師に対して開催するなど、事故のない検査実施に努めている。

造影剤投与時の安全確認の向上に取り組み、投与前に生理食塩水のテスト注入を行うなど、安全性向上に努めている。

4) チーム医療の推進

チーム医療推進の一環として疑義照会や依頼内容の確認を積極的に行い、正確な検査結果を提供するよう努めている。疑義照会の分析結果やパニック画像報告の事例を部内で情報共有を行った。また、X 線被ばくの低減に取り組む、線量調査と最適化により示された基準線量と診断参考レベルを記した表及びグラフを用いて説明用パンフレットを作成した。

5) 資質向上と教育

職員の資質向上を図るため、学会・研修会への積極的な参加と研究発表を行っている。

- ・学会・研修会発表 : 5 演題
- ・学会・研修会等への参加 : 成育医療研修会(診療放射線技師コース)、日本放射線技術学会学術大会、全国自治体病院学会、小児放射線技術研究会、日本核医学技術学会、兵庫県放射線技師会学術大会、電離箱式サーベイメータ比較校正実習、県立病院放射線技師部会

< 認定資格 >

第1種放射線取扱主任者	1名	放射線管理士	1名
放射線機器管理士	1名	医療情報技師	1名
医療画像情報精度管理士	2名	放射線被ばく相談員	1名
臨床実習指導教員	2名	情報処理技術者	1名
第2種放射線取扱主任者	1名	放射線治療専門放射線技師	1名
放射線治療品質管理士	1名	X線 CT 認定技師	1名
肺がんCT検診認定技師	1名	A i 認定診療放射線技師	1名
超音波検査士(循環器、消化器)	1名	救急撮影認定技師	1名

3. 平成31年の課題

放射線機器管理を適正に行い、チーム医療の推進を図り、医療事故防止について継続して取り組み、機器の安定稼働および安心安全な検査を継続する。また、放射線検査における線量調査と最適化により示された基準線量と診断参考レベルを用いて、検査におけるX線被ばくの低減を進める。

(1) 放射線検査人数 (表 1)

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
単純撮影	X線撮影	外来	1383	1257	1832	1640	1402	1420	1649	2180	1320	1498	1354	1412	18347
		入院	121	113	135	108	122	113	129	169	117	103	97	114	1441
		計	1504	1370	1967	1748	1524	1533	1778	2349	1437	1601	1451	1526	19788
	ポータブル	外来	51	33	41	59	44	39	36	41	43	56	49	54	546
		入院	747	652	781	762	734	623	714	822	717	689	871	980	9092
		計	798	685	822	821	778	662	750	863	760	745	920	1034	9638
単純撮影合計		外来	1434	1290	1873	1699	1446	1459	1685	2221	1363	1554	1403	1466	18893
		入院	868	765	916	870	856	736	843	991	834	792	968	1094	10533
		計	2302	2055	2789	2569	2302	2195	2528	3212	2197	2346	2371	2560	29426
造影撮影	消化器	外来	23	18	23	23	20	16	18	18	17	20	20	22	238
		入院	16	16	13	12	18	16	13	17	13	8	24	21	187
		計	39	34	36	35	38	32	31	35	30	28	44	43	425
	脳血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	1	0	3	1	0	0	0	3	1	0	1	3	13
		計	1	0	3	1	0	0	0	3	1	0	1	3	13
	心臓血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	21	23	26	26	29	25	26	34	25	29	26	27	317
		計	21	23	26	26	29	25	26	34	25	29	26	27	317
	その他血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	2	1	0	0	1	2	1	1	0	2	1	11
		計	0	2	1	0	0	1	2	1	1	0	2	1	11
	泌尿器系	外来	34	25	44	25	24	25	32	45	34	30	32	32	382
		入院	3	3	4	4	9	3	4	1	4	6	2	9	52
		計	37	28	48	29	33	28	36	46	38	36	34	41	434
	その他造影	外来	0	0	0	2	2	1	3	2	0	0	1	1	12
		入院	2	6	3	2	0	7	3	3	1	4	3	2	36
		計	2	6	3	4	2	8	6	5	1	4	4	3	48
造影撮影合計		外来	57	43	67	50	46	42	53	65	51	50	53	55	632
		入院	43	50	50	45	56	52	48	59	45	47	58	63	616
		計	100	93	117	95	102	94	101	124	96	97	111	118	1248
CT検査	外来	122	111	161	140	117	97	154	150	107	116	120	133	1528	
	入院	94	107	118	97	94	97	91	112	74	80	84	84	1132	
	計	216	218	279	237	211	194	245	262	181	196	204	217	2660	
MRI検査	外来	177	183	226	207	152	168	222	317	205	190	157	206	2410	
	入院	63	59	71	68	66	60	54	49	62	58	64	58	732	
	計	240	242	297	275	218	228	276	366	267	248	221	264	3142	
核医学検査	外来	11	7	14	14	10	8	25	29	19	16	22	19	194	
	入院	10	11	13	2	10	5	2	4	5	6	4	3	75	
	計	21	18	27	16	20	13	27	33	24	22	26	22	269	
放射線治療	外来	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	
	入院	23	3	43	8	55	71	23	18	18	2	15	0	279	
	計	33	3	43	8	55	71	23	18	18	2	15	0	289	
超音波検査	外来	426	406	565	393	403	388	551	773	437	479	446	514	5781	
	入院	95	87	91	57	79	59	74	109	89	80	89	96	1005	
	計	521	493	656	450	482	447	625	882	526	559	535	610	6786	
骨塩定量	外来	8	20	17	13	11	7	7	28	23	19	8	14	175	
	入院	4	2	1	3	0	2	1	3	4	6	0	2	28	
	計	12	22	18	16	11	9	8	31	27	25	8	16	203	
総合計	外来	2245	2060	2923	2516	2185	2169	2697	3583	2205	2424	2209	2407	29623	
	入院	1200	1084	1303	1150	1216	1082	1136	1345	1131	1071	1282	1400	14400	
	計	3445	3144	4226	3666	3401	3251	3833	4928	3336	3495	3491	3807	44023	

(2) 時間外 時間帯別検査人数 (表 2)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	242	161	176	210	191	135	176	170	243	159	209	290	2362
業務時間(時)	51	35	35	47	38	30	37	29	49	32	37	48	465
準夜帯検査人数	155	133	178	183	160	148	169	165	137	140	166	205	1939
業務時間(時)	48	41	54	58	46	46	56	47	42	41	23	56	555
深夜帯検査人数	59	48	42	71	63	45	64	58	65	43	48	62	668
業務時間(時)	26	21	17	27	23	18	27	24	26	18	23	24	271
検査人数(計)	456	342	396	464	414	328	409	393	445	342	423	557	4969
業務時間(計)	124	96	105	131	106	93	119	99	118	90	83	128	1291

(3) 時間外 検査種別検査人数 (表 3)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	313	229	242	297	258	209	268	273	317	224	300	407	3337
一般撮影	77	76	101	110	118	75	94	82	80	78	81	99	1071
C T	52	30	48	54	36	39	35	35	42	36	36	47	490
T V	6	5	2	0	2	2	8	3	2	3	3	3	39
M R I	8	2	3	3	0	3	3	0	3	1	2	1	29
アンギオ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3
合計	456	342	396	464	414	328	409	393	445	342	423	557	4969

(4) 新病院放射線機器 一覧表 (表 4)

機器名	製造・販売業者	装置名	
MRI 装置	フィリップス	Ingenia 1.5T CX	H28年3月
MRI 装置	フィリップス	Achieva 1.5T Nova Dual	H19年11月
全身用 CT 装置 (320 列)	東芝メディカルシステムズ	Aquilion PREMIUM	H23年3月
放射線治療位置決め用CT装置(80列)	東芝メディカルシステムズ	Aquilion PRIME	H28年3月
血管連続撮影装置	フィリップス	Allura Xper FD20/20	H21年11月
FPD システム (12 式)	富士フイルムメディカル	CALNEO Smart	H28年3月
長尺 FPD 装置 (2 台)	富士フイルムメディカル	CALNEO GL	H28年3月
泌尿器用 X 線テレビ装置	東芝メディカルシステムズ	Ultimax-i	H28年3月
消化器用 X 線テレビ装置	日立メディコ	CUREVISTA	H24年9月
診断用 X 線撮影システム (2 台)	島津製作所	RADspeed Pro	H28年3月
医用画像システム	富士フイルムメディカル	VINCENT	H22年3月
パノラマ・セファロ X 撮影装置	モリタ	Veraviewepocs 2DB	H28年3月
ガンマカメラ	GE 横河メディカル	Infinia	H20年12月
リニアック	シーメンス旭メデイテック	ONCOR Impression	H22年3月
治療計画装置	ELEKTA	Xio	H22年3月
移動型 X 線撮影装置 (2 台)	日立メディコ	Sirius 130HP	H28年3月
移動型 X 線撮影装置 (3 台)	日立メディコ	Sirius 130HP	H23年2月
線量モニタリングシステム	米国 Sun Nuclear	1137 型 IVD2	H28年3月
RI 対応安全キャビネット	日本エアータック	BHC-1307 II A2-RI-S	H28年3月
X 線骨密度測定装置	HOLOGIC	Horizon W	H28年3月
アンギオ用動画サーバー	ネクシス	Nahri AQUA	H28年3月
超音波画像診断装置	日立アロカメディカル	Ascendus	H28年3月
超音波診断装置	GE ヘルスケア・ジャパン	LOGIQ E9 with Xdclear	H25年12月
超音波診断装置	GE ヘルスケア・ジャパン	LOGIQ S8	H24年3月
外科用 X 線 C アーム装置	シーメンス	SIREMOBIL Compact-L	H23年2月
外科用 X 線 C アーム装置	シーメンス	ARCADIS Orbic	H26年4月
造影剤自動注入器 (アンギオ)	シーマン	ZONE MASTER MODELA	H21年12月
造影剤自動注入器 (MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot GX	H19年11月
造影剤自動注入器 (MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot 7	H28年3月
造影剤自動注入器 (CT)	根本杏林堂	Dual Shot GXV	H23年9月
造影剤自動注入器 (CT)	根本杏林堂	Dual Shot GX7	H28年3月
造影剤自動注入器 (TV)	シーマン	ZONE MASTER SR Fusion	H28年3月
キュリーメータ	アロカ	IGC-7E	H20年12月
分注器	安西	AZ-2000N	H20年12月

33. 栄養管理部

1. 新規就任 平成 30 年 4 月 1 日付

部長 小阪 嘉之（副院長兼小児がん医療センター長）

（主な活動報告）

- ・平成 29 年 5 月より管理栄養士 1 名の増員を図り、アレルギー科患者等の栄養指導の充実を図った。
- ・NST（チーム医療）の円滑な稼働
- ・医療事故防止対策に関する取り組み。（ひやりはっと報告）
- ・褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- ・IT化の推進（給食オーダーリングシステムの安定稼働）
- ・患者給食のサービス向上のための給食イベントの開催「病棟夏祭り」等の実施
- ・知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- ・栄養管理業務に関する研究の成果として学術学会等への積極的な参加と発表

2. これからの展望

平成 31 年（令和元年）に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養管理課の基盤業務と共に診療部門との更なる連携強化を図った栄養指導・相談を行うなど患者サービスの充実・向上に努める。

3. 給食

(1) 調製乳 月別延数

① 調製乳 人数

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
調乳のみ人員(人)		1,669	1,226	1,513	1,805	1,854	1,636	1,612	1,594	1,570	1,604	1,869	1,949	19,901	75.7
調乳食事人員：調乳(人)		477	473	431	429	559	476	463	415	457	505	589	495	5,769	22.0
小計		2,146	1,699	1,944	2,234	2,413	2,112	2,075	2,009	2,027	2,109	2,458	2,444	25,670	97.7
調乳・食事人員(食事)		64	48	49	61	63	43	56	40	45	37	51	54	611	2.3
計		2,210	1,747	1,993	2,295	2,476	2,155	2,131	2,049	2,072	2,146	2,509	2,498	26,281	100.0

(注) 調乳・食事人員・・・調乳(人) 調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳 種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
13% レーベンスミルク		9,419	7,551	8,170	10,144	11,222	9,137	8,603	8,633	8,616	8,888	8,626	9,277	108,286	58.8
15% LW		1,981	988	1,594	1,576	1,017	1,024	1,762	1,001	1,338	2,170	3,510	1,913	19,874	10.8
特殊乳	16% LW										301			301	
	9% レーベンスミルク		24											24	
	11% レーベンスミルク								24	180	180	153	150	687	
	12% レーベンスミルク					3								3	
	14% レーベンスミルク				234	243	99	24	8				20	27	655
	15% レーベンスミルク	477	488	487	530	876	353	75	110	69	205	488	536	4,694	
	16% レーベンスミルク	135	57	106	18				89						405
	17% レーベンスミルク	1,006	413	387	540	457	938	614	709	827	558	618	1,017	8,084	
	18% レーベンスミルク	153			129	444	270	297	279	288	279	396	295	2,830	
	19% レーベンスミルク						30				183	152	326	691	
	13% ARミルク	138	36	40	370	198	308	807	831	540	469	378	539	4,654	
	15% ARミルク					16									16
	16% ARミルク								24						24
	17% ARミルク	73	98	54					88	248	56				617
	13% MA -1		5			4							42		51
	14% MA -1				18										18
	15% MA -1	346	152	118	282	183	128	672	208	390	76	254	139	2,948	
	16% MA -1	81	72	36	27	82	53	36	146	91	14				638
	17% MA -1	108													108
	18% MA -1												90	190	280
	19% MA -1	45	252	234	144										675
	21% MA -1				18	279	270	279	279	270	279	180			1,854
	12% E赤ちゃん	72	54	12						11			54		203
	13% E赤ちゃん	8	201	451	324	170	160	19	121	24	3	38	126	1,645	
	5% エレメンタルフォーミュラ											12	116		128
	10% エレメンタルフォーミュラ								13	8					21
	17% エレメンタルフォーミュラ		45			36							36		117
14% MCTフォーミュラ	805	590	378	941	861	1,178	725	361	581	214	804	837	8,275		
15% MCTフォーミュラ	199		234		81									514	
16% MCTフォーミュラ	36	105			72			54		117	117		22	523	
18% MCTフォーミュラ		195	537	171	270	270	233	84			27		27	1,814	
20% MCTフォーミュラ								90			63		18	171	
21% MCTフォーミュラ											72	144		216	
22% MCTフォーミュラ													99	99	
14% 必脂MCT(721)									56				51	107	

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%	
特殊乳	16% 必脂 MCT(721)												12	12		
	13% 8806 (低カリウム中リノール酸)					16								16		
	17% 8806 (低カリウム中リノール酸)							89	7						96	
	13% エレンタール	142					7		232	15		18	30	444		
	15% エレンタール												24	24		
	16% エレンタール								32	80					112	
	18% エレンタール				108						80				188	
	20% エレンタール	9	9								101	9			128	
	26% エレンタール		162	27	29	69	64				5	9			365	
	27% エレンタール			29			26						5	36	96	
	5% エレンタールP												12	8	20	
	10% エレンタールP					107	157						226	449	939	
	13% エレンタールP	72	71	78	11	39	18						52	357	698	
	14% エレンタールP									45			45		90	
	15% エレンタールP	27	85				45							143	300	
	16% エレンタールP	9	27			39	156						126		357	
	17% エレンタールP						77							18	95	
	18% エレンタールP			20	30		26	367	349	314	327	217	237	1,887		
	20% エレンタールP						27	48	107		19	137	104	442		
	21% エレンタールP											117	171	288		
	24% エレンタールP				71	138		9	72	8		10	10	318		
	25% エレンタールP												31	31		
	26% エレンタールP			66	54	4									124	
27% エレンタールP	6				4					90	106	47		253		
7% ケトンフォーミュラ	6													6		
14% ケトンフォーミュラ	75	5					5	12	31					128		
18% ケトンフォーミュラ								60	4					64		
特殊乳 小計	4,028	3,146	3,294	4,049	4,691	4,665	4,611	4,475	4,126	3,522	4,975	6,029	51,611	28.0		
濃厚流動食	GFO	19	6	30	5	14	5	2	23	29	59	51	16	259		
	アイソカルジュニア	142	148	172	189	163	208	187	162	231	254	199	174	2,229		
	MA-8 プラス	93	84	70	60	62	60	62	78	90	85	10		754		
	MA-ラクフィア											50	62	112		
	レナウェル3							7	1			19		27		
	ペプタメン スタンダード	86	77	129	41	31	42	73	83	54	28	4	4	652		
	ペプタメン AF			30	37	11									78	
	濃厚流動食 小計	340	315	431	332	281	315	331	347	404	426	333	256	4,111	2.2	
滅菌水			30	6	16		32	44	14	5	33	15	195	0.1		
合計	15,768	12,000	13,519	16,107	17,227	15,141	15,339	14,500	14,498	15,011	17,477	17,490	184,077	100.0		
空瓶 大 200 c c	5,419	3,897	4,938	4,599	4,891	5,152	4,270	4,743	5,298	5,727	4,951	5,700	59,585	50.9		
空瓶 小 100 c c	6,195	4,992	5,856	5,424	3,768	3,696	3,288	4,152	4,512	4,757	4,944	5,952	57,536	49.1		
合計	11,614	8,889	10,794	10,023	8,659	8,848	7,558	8,895	9,810	10,484	9,895	11,652	117,121	100.0		

(2) 患者食事数

① 患者食事数

(単位 食)

区 分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
常食	学 童 食	2,157	2,491	3,203	2,827	2,761	2,658	3,032	3,904	2,504	2,375	2,100	2,483	32,495
	妊 産 婦 食	1,402	1,538	1,299	507	431	611	508	1,090	1,129	1,279	1,387	1,165	12,346
	小 計	3,559	4,029	4,502	3,334	3,192	3,269	3,540	4,994	3,633	3,654	3,487	3,648	44,841
軟菜・幼児・ 離乳	幼 児・ 離 乳 食	7	11	9	3,291	3,332	2,704	2,927	2,558	2,844	2,902	3,114	3,114	26,813
	軟 菜・ 流 動 食	1,219	1,065	957	1,088	1,088	1,020	1,011	1,244	998	908	926	878	12,402
	小 計	1,226	1,076	966	4,379	4,420	3,724	3,938	3,802	3,842	3,810	4,040	3,992	39,215
非加算特別食	ペ ー ス ト 食	155	132	104	131	275	224	155	132	118	161	146	124	1,857
	ア レ ル ギ ー 食													0
	自 由 食													0
	口 蓋 裂 食	7	17	60	43	29	19	89	147	35	5	27	38	516
	扁 摘 術 後 食	115	130	168	129	98	194	114	129	116	213	129	146	1,681
	移 植 対 応 食	249	198	261	232	323	487	631	438	259	440	554	537	4,609
	ク ロ ー ン 病 食													0
	低 残 査 食	9		44	12	21	15	22	51	70	9	26	73	352
	肥 満 食	78	29	16	5							4		132
	ケ ト ン 食						5	52	64				1	122
	減 塩 食													0
	そ の 他 特 別 食	516	433	585	581	514	391	481	485	416	427	301	388	5,518
小 計	1,129	939	1,238	1,133	1,260	1,335	1,544	1,446	1,014	1,255	1,187	1,307	14,787	
加算特別食	腎 臓 食	235	218	253	204	4	31	38	11	122	123	198	204	1,641
	肝 臓 食	82	171	75	65	138	86	108	201	51	15	126	79	1,197
	糖 尿 病 食	45	78	97	101	31	22	11	88	30	34		29	566
	乳 び 胸 食	19	20	30	61			1		3	23			157
	心 臓 食													0
	低ナトリウム食													0
	検 査 食 (加)													0
	妊 娠 中 毒 症 食	83	24	9	41		73	53			56	18	113	470
	妊 産 婦 糖 尿 病 食													0
	妊 産 婦 肝 臓 病 食													0
	高 尿 酸 血 症 食													0
小 計	464	511	464	472	173	212	211	300	206	251	342	425	4,031	
合 計		6,378	6,555	7,170	9,318	9,045	8,540	9,233	10,542	8,695	8,970	9,056	9,372	102,874
検食等	保 存 食	186	168	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,190
	検 食	261	235	260	252	260	251	260	258	254	259	251	262	3,063
	合 計	447	403	446	432	446	431	446	444	434	445	431	448	5,253
総 合 計		6,825	6,958	7,616	9,750	9,491	8,971	9,679	10,986	9,129	9,415	9,487	9,820	108,127

② 患者おやつ数

(単位 食)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
おやつ数	2,350	2,468	2,577	2,573	2,489	2,274	2,456	2,801	2,189	2,169	2,142	2,294	28,782

(3) 患者外食事数 (保育食)

(単位 食)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
保育児食	197	190	230	167	155	142	136	176	117	126	135	121	1,892

4. 栄養指導 月別種類別件数

(単位 件)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1型糖尿病		38	40	40	39	44	39	38	38	41	43	36	39	475
2型糖尿病		15	12	13	11	11	13	16	11	13	15	10	10	150
妊娠糖尿病		1	3	1				2			1		2	10
肥満		15	8	13	6	15	11	12	16	22	11	14	24	167
腎臓病		2	4	2	3	4	2	3	3	3	3	3	5	37
妊娠高血圧症候群		1			1									2
心臓病		10	5	4	2	9	4	2	1	5	4		3	49
肝臓病			1	2		1		1					1	6
膵臓病		1							1					2
フェニルケトン尿症		1	2	1	2	1	2	1	2	1	3	1	2	19
ガラクトース血症			2	2		1		2		2		1	1	11
脂質異常症		6	5	7	3	9	3	4	6	6	4	9	2	64
高尿酸血症			2	2								1		5
胃潰瘍食														0
低残渣食														0
小児食物アレルギー		22	21	18	11	22	24	34	20	19	31	27	22	271
貧血食								1		1	2			4
移植対応食						1	1	3	1	2	2	1	2	13
てんかん食(ケトン食)							1	2	3			1		7
がん		11	16	14	13	5	6	11	10	6	13	23	15	143
摂食・嚥下機能低下			3	2	2	1	1		1	1	2			13
ミキサー食(胃ろう)		2	1	1		1	1	3	1	1	1		1	13
低栄養		3	3	5	3	10	9	5	14	3	5	5	4	69
調乳(標準ミルク)														0
調乳(特殊ミルク)					1									1
調乳(高濃度ミルク)		1		2				1						4
その他		15	10	12	11	12	11	8	11	15	7	16	10	138
合計(件)		144	138	141	108	147	128	149	139	141	147	148	143	1,673
件数	外来	118	108	109	85	125	108	124	105	117	107	110	114	1,330
	入院	26	30	32	23	22	20	25	34	24	40	38	29	343
合計(件)		144	138	141	108	147	128	149	139	141	147	148	143	1,673
人数	外来	235	230	220	183	270	231	261	208	237	212	236	223	2,746
	入院	50	59	62	48	45	42	53	73	46	85	72	53	688
合計(人)		285	289	282	231	315	273	314	281	283	297	308	276	3,434

(注) 件数に比べ人数が多いのは、患者1人1件において、本人以外の親等にも栄養指導を行い、その人数に含めているためである。

34. 家族支援・地域医療連携部

I. 組織

2018年は、各スタッフが担当病棟を決めて、入院時から退院への支援が行えるように、毎日病棟でのカンファレンスに参加した。各病棟との連携もさらに強化され、家族の支援に努めることができた。

また、地域との連携にも力を入れて、積極的に地域の医療機関との情報交換に努め、新たに連携する医療機関も増加した。

部長	宅見晃子（総合診療科医師）
課長	深江登志子（看護師）
看護師	渡邊千恵 水本智子（8月まで） 藤定睦子 坂本文子（8月から）
MSW	小橋諒子 松尾さおり 進藤美佳

予約センターでは、委託業者が受診予約を担当している。

II. 2018年活動

< 2018年の主な活動 >

1. 新たな紹介病院、診療所の登録
 - ① 病院訪問による紹介依頼
2. 広報活動の推進（ホームページ更新、年報作成、広報誌「げんきカエル」作成）
3. 在宅療養支援の推進
 - ① 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催・研修会開催）
 - ② 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催・病院訪問）
 - ③ 制度活用支援・医療機器等の購入支援
 - ④ 周産期センターからの退院児への支援
 - ⑤ 在宅支援病棟での在宅支援の後方支援
4. 院内各科の診療支援
 - ① 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
 - ② 返書作成の支援
 - ③ 家族背景へのケースワーク
5. 患者家族の不安への対応
 - ① 医療制度・福祉制度の説明
 - ② 在宅での医療資源・福祉資源の紹介
 - ③ 各種手続きのサポート
 - ④ その他、治療や生活全般の不安に対する不安の解消への手助け

6. 発達支援・養育支援

- ① 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
- ② 事故予防活動（事故予防相談・地域との連携）
- ③ 育児相談活動（評価、関わり方指導）

7. 教育支援

- ① 教育機関とのカンファレンス

<今後の活動目標>

- ① 医療的ケアを必要とする児と家族が安心して在宅生活を送れるように支援する
- ② 高度専門医療機関としての役割の広報に務め、地域との連携を強化していく
- ③ 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修に貢献するよう努める
- ④ 疾病を抱えた子どもと家族の育児支援に努める
- ⑤ 事故予防・虐待予防を含めた子育て支援に努める
- ⑥ 子どもと家族の不安の解消に努める
- ⑦ 入院時から退院後の生活を見据えた支援を行い、地域とともに子どもと家族の生活を支える
- ⑧ 広報活動を強化し、患者獲得に努める

家族支援・地域医療連携部

表1 支援内容別業務統計

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月累計
1	療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	295	286	249	290	216	220	200	175	150	214	208	201	2704	2839
2	退院援助	61	60	71	38	62	34	43	35	31	32	32	27	526	892
3	社会復帰援助	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	8
4	受診・受療援助	22	19	8	18	18	9	9	18	10	14	3	5	153	336
5	経済的問題の解決・調整援助	67	72	79	71	68	62	61	67	58	77	71	64	817	771
6	地域活動	30	3	14	15	6	6	12	10	7	14	13	16	146	282
7	養育支援(虐待予防を省く)	4	4	13	10	5	4	5	11	7	3	6	3	75	94
8	虐待・虐待予防関連	5	6	4	5	4	2	5	5	5	1	6	1	49	59
9	発達・発育指導	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
10	一時保護	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3	4
11	がん患者の社会的問題の解決・調整	33	51	39	32	34	52	23	34	32	44	28	19	421	377
12	その他	1	2	2	2	2	2	0	5	3	4	3	0	26	35
	合 計	518	503	482	483	415	391	358	360	304	405	370	336	4925	5700

表2 機関別延べ連絡調整数

	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月累計
1	教育機関	2	3	8	7	2	2	5	3	6	2	0	5	45	37
2	保健所・保健センター	58	42	51	54	35	30	39	52	32	40	45	31	509	533
3	福祉事務所	13	22	18	12	9	14	11	13	10	9	3	8	142	233
4	こども家庭センター(児童相談所)	10	15	18	16	9	7	2	7	11	25	17	15	152	190
5	児童福祉施設	7	14	5	16	6	15	4	1	0	10	4	20	102	82
6	訪問看護ステーション	65	41	45	43	51	56	28	35	40	51	50	25	530	505
7	地域医療機関	33	33	36	53	58	45	37	52	41	38	27	32	485	474
8	地域生活支援センター	0	0	0	1	3	2	2	1	2	2	0	2	15	
	合 計	188	170	181	202	173	171	128	164	142	177	146	138	1980	2054

表3 関係機関カンファレンス件数

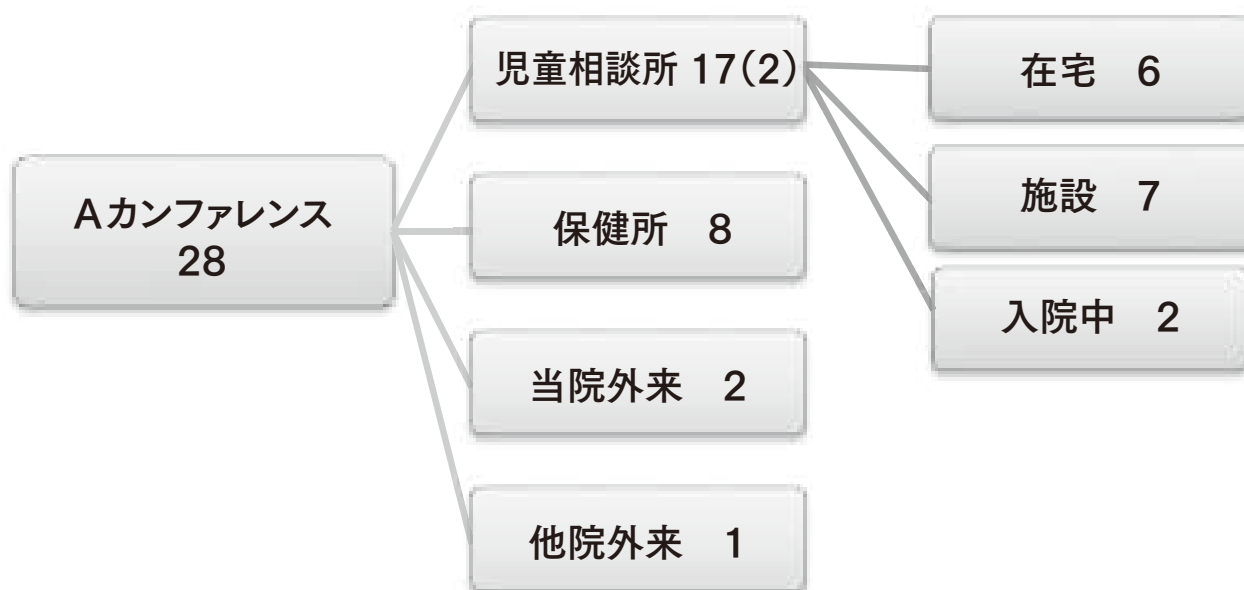
	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月累計
1	被虐待児等症例検討会	0	3	4	3	3	0	2	2	2	1	4	0	24	21
2	外傷カンファレンス	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	2
3	施設入所カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	在宅病棟移行前カンファレンス	2	1	3	2	3	1	0	2	2	0	0	2	18	20
5	在宅病棟カンファレンス	16	13	19	11	11	12	16	24	16	16	14	16	184	216
6	外泊前カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
7	退院前カンファレンス	3	0	5	3	4	2	2	3	1	4	4	2	33	31
8	教育機関カンファレンス	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
9	臓器提供Aカンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	その他	1	1	1	1	1	0	1	3	0	1	1	4	15	9
	合 計	23	18	32	20	22	15	24	35	21	22	23	24	279	303

4. その他

	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月累計
1	N I C U 退院調整件数	20	27	31	33	31	18	23	37	26	34	40	35	355	311
2	電話相談(入力分以外)	9	11	12	6	15	10	9	9	6	11	8	7	113	108
	合 計	29	38	43	39	46	28	32	46	32	45	48	42	468	419

2018年1月～12月 Aカンファレンス 外傷（疾患）別処遇

	一時保護	児童相談所	保健所	外来のみ	フォローなし	合計
くも膜下出血	0	0	1	0	0	1
頭蓋骨骨折	0	0	0	0	0	0
硬膜外血腫	0	0	0	0	0	0
硬膜外血腫+頭蓋骨骨折	0	0	0	1	0	1
硬膜下血腫	0	1	2	0	0	3
硬膜下血腫+頭蓋骨骨折	0	0	0	0	0	0
頭部打撲	0	2	0	0	0	2
上腕骨骨折	0	0	0	1	0	1
大腿骨骨折	0	0	1	0	0	1
ネグレクト	0	3	1	0	0	4
医療ネグレクト	0	0	0	0	0	0
顔面叩打	0	2	0	0	0	2
腹部叩打	0	0	0	0	0	0
薬物中毒	0	2	2	0	1	5
心肺停止	0	0	0	0	0	0
熱傷	0	0	0	0	0	0
多発性皮下血腫	0	1	0	0	0	1
溺水	0	0	0	0	0	0
殺人未遂	1	0	0	0	0	1
遺棄	1	0	0	0	0	1
性感染症	0	2	0	0	0	2
性器損傷	0	1	0	0	0	1
縛られる	0	1	0	0	0	1
交通外傷	0		1	0	0	1
合計	2	15	8	2	1	28



家族支援・地域医療連携部（予約センター）

予約センターは委託職員が従事し、主に初診患者の予約や受診報告書の発送、再診患者の予約業務を行っている。

1. 業務内容

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計・平均	平成29年度
メール相談対応数	2	7	5	3	10	8	21	9	5	8	6	4	88	59
（内訳）各科医師相談	0	1	2	0	1	1	3	2	1	1	1	0	13	18
地域医療連携・他 部署で返答	2	6	3	3	9	7	18	7	4	7	5	4	75	41
セカンドオピニオン数	6	3	2	2	5	2	1	4	3	4	6	0	38	47
受診報告書発送数 （紹介状件数）	438	379	503	436	515	457	526	591	420	502	513	478	5758	5694
返書率	91.9	91.8	92.5	93.4	92.6	93.6	94.1	92.9	92.2	91.8	91.1	92.3	93.4	89.5
紹介医療機関全登録件数	28	22	25	22	21	30	26	32	24	23	26	21	300	294
新患 FAX 予約受付件数	340	341	402	370	427	425	446	422	362	472	419	414	4840	4596
新患電話予約受付件数	262	283	300	239	310	273	306	280	297	384	314	278	3526	3569
新患予約キャンセル受 付件数	20	17	22	14	14	9	12	29	15	23	18	17	210	151
再診対面・電話予約件数	2344	2107	2037	2002	2753	2261	2344	2100	2012	2130	1918	1836	25844	26608
その他 予約日確認な どの電話件数	698	715	880	836	933	814	886	745	696	709	625	654	9191	9483

※新患、再診ともに予約受付件数内に変更件数含む

2. 紹介元新規医療機関

①月別登録件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平成29年	累計
新規登録件数	28	22	25	23	21	30	26	32	24	23	26	21	301	296	5192

※累計：平成17年度～平成30年12月

②地域別登録件数

	兵庫県		県外	合計
	神戸市	神戸市以外		
件数	80	106	114	300
	186			

* 地域別の新規登録件数では36%が県外であり、神戸市内よりも多い件数となっている

35. ME 室

【スタッフ紹介】

主査 横山 真司 体外循環技術認定士
 秋元 明日香 体外循環技術認定士
 三坂 勇介 体外循環技術認定士
 秋山 正太
 立野 聡
 土谷 海雲
 井原 智弘
 橋本 健太郎
 川相 俊太
 西中 夕貴

【業務実績】

医療機器管理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
院内修理	14	21	19	18	24	25	10	15	10	23	23	21	223
依頼点検	12	18	11	13	10	18	17	5	8	20	10	12	154
定期点検	1627	1552	1864	1879	1778	1615	1655	1967	1614	1673	1858	1904	20986
メーカー修理・点検	0	0	3	2	2	3	0	0	0	2	0	0	12
CICU・PICU・ICUラウンド	80	72	80	80	82	81	77	68	70	79	78	81	928
病棟ラウンド	7	7	3	10	11	9	4	2	2	3	4	7	69
アンビューバルブ点検	85	113	72	89	86	75	86	81	63	74	68	61	953
その他	0	2	1	2	0	2	1	0	0	2	0	1	11

臨床業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
体外循環	11	12	18	12	15	12	21	20	13	11	19	14	178
ECMO	2	1(1)	0	0	0	0	2	4(3)	2	1(1)	1	1	14
人工心肺・ECMOスタンバイ	0	2	4	3	5	3	0	1	0	2	2	4	26
血液浄化	3	5	10	8	0	1	4	16	31	23	2	0	103
自己血回収	12	14	18	13	16	13	21	20	15	12	19	14	186
MEP	1	1	1	1	1	2	0	0	2	1	0	0	10
SPECTRA	1	1	3	1	2	0	1	0	0	1	0	0	10
BMP	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3

各種委員会活動

仕様策定委員会

リスクマネジメント委員会

感染対策委員会

手術室運営委員会

集中治療室運営委員会

呼吸療法委員会 (RST)

呼吸ケア部会

36. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全部長を室長、管理局長、看護部長を副室長、副院長、診療部長、薬剤部長、医療安全対策担当課長、実働メンバーとして13名の総括リスクマネージャーと総務部長、総務部次長で構成され、院内の安全管理を担っている。

主な活動内容

1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策・周知について

- 1) 総括リスクマネージャー会議を毎週木曜日に開催し、送られてきたヒヤリハット報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。
- 2) 月1回のリスクマネジメント部会では、各部門が前月分のヒヤリハット内容と評価・対策を報告し、院内で起こったヒヤリハットについて集約し検討を行った。改善策を手順化し共有した。
- 3) リスクマネジメント部会での報告・検討結果を医療事故防止委員会に報告した。

2. Morbidity & Mortality カンファレンスの開催は、H 31 年 2 月とした。

3. コード 99 症例は、医療安全管理室よりメール配信し情報の共有を行った。

4. 院内ラウンドは、多部門での定期的開催はできなかったが、ヒヤリハットに応じてラウンドを行った。

5. マニュアルの改訂および新規にリスクマネジメント部会で作成し承認を得た。

6. ヒヤリハット報告

2018年のヒヤリハット報告件数は、2951件で前年度より437件増加した。今年度より臨床工学技士のヒヤリハットを集計に加えた。

レベル別報告数においては、レベル0は970件33%(前年度より312件増)、レベル1は1844件62.5%(前年度より95件増)、レベル2は99件3.4%、レベル3aは38件1.3%であった。また、レベル3bの医療事故報告が1件と前年度より5件減少した。内容は、手術に関連するものであった。

部門別にみると看護部からの報告件数が2309件78.2%、診療部は225件7.6%(前年度より2.2%増、89件増)。薬剤部は31件1.1%(前年度より0.9%減)、放射線部165件5.6%(前年度より1.6%減)、検査部60件2.0%(前年度より1%増)、リハビリ58件1.8%(前年度より0.8%増、)栄養指導課28件1%(前年度より1%減)、臨床工学技士79件(2.7%)であった。

リスクレベルにおいては、レベル0が3%減少し、レベル2が2%増加、レベル3aが1%増加した。医療事故の報告は1件と前年度と同件数であった。外部委員を入れての院内事故調査を実施した。

ヒヤリハット報告において診療部の報告が7.6%と上昇した。薬剤部からスクマネージャーに薬剤の10倍量及び1/10量の処方間違いについて報告し、リスクマネージャーが当事者の指導及びヒヤリハット報告の提出を促すことを取り決めたことで、医師の報告する文化の醸成につながりつつある。また、オカレンス報告の基準を作成したことで報告件数は増加した。ヒヤリハットについてリスクマネジメント部会で対策を検討し周知しているが、さらに周知と評価する仕組み作りに重点を置き、安全な医療の提供を目指すことが課題である。

1) レベル別報告件数

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b
970件(33%)	1844件(62.5%)	99件(3.4%)	38件(1.3%)	1件(0.03%)

2) 部門別ヒヤリハット報告件数

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	臨床工学技士	リハビリ	栄養指導課	医事課
225(7.6%)	2309(78.2%)	60(2.0%)	165(5.6%)	31(1.1%)	79(2.7%)	53(1.8%)	28(1.0%)	1(0.03%)

7. 主な改善に向けた取り組み

- 1) 検査・外科的処置における鎮静の同意書について作成し運用を開始した。
- 2) インフォームド・コンセント推進マニュアルの改訂と患者誤認防止対策、移送基準、口頭指示について、手順・基準の新規作成を行った。電子カルテの医療安全マニュアルに掲載し周知した。
- 3) 薬剤アレルギーとして登録していた薬剤の誤投与があり、安全ニュースの発行とメールにより再度、周知した。
- 4) e-ラーニングを導入し、全職員対象の医療安全研修会で4項目活用した。また、他の研修会やヒヤリハット事発生時の振り返りに活用した。
- 5) 薬剤関連のヒヤリハット事例について医局会メールや会議を通じて情報を発信した。
- 6) ヒヤリハット事例の改善策としてシステムの変更を行った。(造影検査 EOB のオーダー、培養検査ラベルに採取部位の表示など)

8. 医療安全研修会、勉強会の開催

テーマ	開催日	参加者
各部門の安全への取り組み、“KYTで患者安全” DVD 視聴会 6回開催	3月13日	237名 (DVD)415名 合計 652名
医療安全研修会(e-ラーニング 4項目) 患者確認、アレルギー歴既往の確認不足、パニック値 対応、輸液ポンプ	10月21日～ 12月12日	全職員 810名
新採用看護師安全教育	4月4日	25名
新採用医師安全教育	4月5日	90名
新採用補助者・ボランティア安全教育	採用時	約15名

9. 医療安全情報の提供

- 1) 日本機能評価機構からの医療安全情報の提供を月1回行った。
- 2) 院内、院外での重要なヒヤリハット事例を、医療安全ニュースとして発行し情報提供を行った。

37. 感染対策室

室長：笠井正志（感染症内科）、感染管理認定看護師 中島由佳

感染予防対策に関する最高の審議機関である感染対策委員会は、委員長を副院長、副委員長を感染症科部長、看護部次長とし、委員を院長、総務部長、検査技師長、薬剤部長、栄養管理課長、看護部長、医療安全対策担当課長、感染管理認定看護師 2 名の他、診療部 7 名、看護部 4 名、検査部 4 名、薬剤部 1 名、放射線部 1 名、臨床工学技士 1 名、リハビリ部門 1 名、医事企画課 1 名で構成され、院内の感染管理を担っている。

感染対策の実働部隊である感染対策チーム（ICT）は、看護部 2 名、診療部 4 名（委員会外から 2 名）、検査部 1 名、薬剤部 1 名で活動している。

抗菌薬治療の適正化を支援・推進する実働部隊である抗微生物薬適正使用チーム（AST）は、薬剤部 3 名、診療部 8 名（委員会外から 3 名）、検査部 1 名、看護部 1 名で活動している。

主な活動内容

1. 定期的な会議、ラウンドの実施

1) 院内感染対策委員会（毎月第 2 金曜日）

病原微生物の分離状況、抗緑膿菌活性薬の使用状況、ICT および AST 活動などを報告、検討

2) ICT 関連

・ ICT 会議（毎週木曜日）

病原微生物の分離状況、ICT ラウンド結果の共有と検討、その他事項について検討

・ ICT ラウンド（毎週木曜日）

環境ラウンド、手指衛生直接観察ラウンドを実施

・ デバイスサーベイランスカンファレンス（毎週水曜日）

デバイス関連感染症の判定の他、感染対策の評価、改善策の検討と実施を CICU および PICU スタッフとともに実施

・ 微生物検査ミーティング（毎日）

グラム染色結果、培養結果、無菌検体（主に血液培養）陽性患者、ウイルス迅速検査結果、感染症科フォロー患者、感染対策が必要な患者について情報共有

3) AST 関連

・ AST 定例会議（毎月第 1 月曜日）

DOT 報告、特定抗菌薬使用患者（抗緑膿菌活性薬）、抗菌薬長期使用患者、血液培養陽性患者の抗菌薬適使用状況について報告、その他抗菌薬適正使用のための取り組みについて報告

・ AST コアメンバー会議（毎週木曜日）

抗菌薬適正使用のための取り組み

・ AST ショートミーティング（毎週月・水・金）

特定抗菌薬使用患者（抗緑膿菌活性薬）、抗菌薬長期使用患者、血液培養陽性患者の抗菌薬適正使用について検討

平成 30 年度実績（平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月）

抗緑膿菌薬使用症例	血液培養陽性症例	抗菌薬長期使用症例	その他
425	312	54	106

平成 30 年度に取り組んだ事項

- ①研修会開催
- ②特定抗菌薬使用届のテンプレート化
- ③ AST ショートミーティング記録のテンプレート化
- ④ AST 業務手順書 制定
- ⑤感染対策マニュアル 改訂

2. 職員教育

4 月	新規採用医師感染対策オリエンテーション、看護師新人フォロー研修、新規採用者防護具着脱演習
5 月	看護師新人フォロー研修
6 月	看護師新人フォロー研修、保育師対象感染対策研修会、第 1 回 ASP セミナー※
7 月	平成 30 年度第 1 回全職員対象感染対策研修会
7 月～8 月	平成 30 年度第 1 回全職員対象感染対策研修上映会
8 月	清掃・リネン業務職員対象感染対策研修会
9 月	看護師新人フォロー研修
10 月	看護補助者研修
11 月	平成 30 年度第 2 回全職員対象感染対策研修撮影会、院内研修会
2 月	第 1 回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会※
2 月～3 月	平成 30 年度第 2 回全職員対象感染対策研修 e-learning

※ AST 業務開始に伴い、今年度より開催

3. 手指衛生遵守率向上のための取り組み

看護部感染対策委員会と協同して毎月直接観察を実施し、結果を院内全体に広報した。現場での直接指導、手指消毒剤の使用を啓発する表示や家族向けのポスターの掲示などを行った。また、手指消毒剤の使用量調査も開始した。

手指衛生遵守率の推移 (%)

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
54	53	—	63	62	53	62	62	65	71	75	80

4. 各種サーベイランスの実施

CICU・PICU におけるデバイスサーベイランス

	中心静脈カテーテル関連 血流感染症 (/1000 デバイス日)		尿道留置カテーテル関連 尿路感染症 (/1000 デバイス日)		人工呼吸器関連肺炎 (/1000 デバイス日)	
	2017 年	2018 年	2017 年	2018 年	2017 年	2018 年
CICU	0.0	0.6	5.9	6.5	3.6	4.1
PICU	0.0	0.0	1.1	6.0	5.9	5.1

フィードバックは 3 回実施した。現場スタッフとともに予防バンドルを運用したが感染率の低減には至らなかった。集中治療室感染対策チームを立ち上げ、改善策の検討を開始した。

その他：一般外科消化器手術 SSI サーベイランス、AUR サーベイランス

5. 各種ガイドライン、マニュアルなどの作成

インフルエンザの総合対策の作成、日帰り入院手術をうける患者の水痘ワクチン接種ルールの改訂、CRE・CPE の感染対策ガイドラインの作成、手袋着用ルールの作成、感染対策マニュアルの全面改訂

6. 感染症発生時の対応

- ・アウトブレイクが2回発生した。

7月：救急病棟のRSウイルス感染症、2月：6E病棟のインフルエンザ

- ・感染経路別予防策が必要な患者の発生時、適宜対応した（疑い含む）。

空気感染予防策	2件	結核疑い2
飛沫感染予防策	111件	インフルエンザ58、RSウイルス感染症32、百日咳5、ムンプス1、マイコプラズマ感染症2、パルボウイルス感染症2、アデノウイルス感染症6、A群溶連菌感染症5
接触感染予防策	56件	ノロウイルス胃腸炎20、ロタウイルス胃腸炎7、CDI2、ウイルス性胃腸炎22、CRE3、O1571、その他1
空気・接触感染予防策	10件	水痘3、播種性帯状疱疹5、VZV髄膜炎1、麻しん疑い1
飛沫・接触感染予防策	47件	救急病棟におけるRSウイルス感染症47

職員のインフルエンザ発症は61例（アウトブレイクや患者への伝播なし）

7. 感染対策に関する各種相談への対応

予定入院患者の水痘ワクチン関連44件、患者・家族の感染症9件、職員の感染症13件、患者ケア2件、害虫5件、その他20件

8. 各種啓発活動

ICT NEWSの発行（5回）、院内の感染症発生情報（随時）、市中の感染症情報配信（随時）

9. ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言と感染対策の強化

各種業務（清掃、リネン、滅菌）の定例会への出席

10. 職業感染防止の活動

- ・全新規採用職員の抗体検査とワクチン接種を実施

抗体採血	水痘ワクチン	風疹ワクチン	ムンプスワクチン	MRワクチン
146名	5名	5名	16名	38名

- ・職員対象のインフルエンザワクチンの接種（11月） 接種率95%
- ・職員対象のB型肝炎ワクチンの接種 112名（新規：75名、既職員：56名）
- ・針刺し・切創、血液・体液曝露についての事象発生時の対応
24件（針刺し15件、切創2件、咬創3件、血液・体液曝露4件）

11. 院外活動

- ・県立病院リハビリ部門研修会に感染対策チームから講師として出席（6月）
- ・感染防止対策加算関連
加算1：相互ラウンド実施（神戸中央病院を6月に訪問、9月に神戸市立西市民病院が来院）
加算2：みどり病院と連携。施設間カンファレンス開催（7月、8月、10月、3月）
- ・小児総合医療施設協議会（JACHRI）関連
小児感染管理ネットワーク多職種会議（2月、今年度幹事として運営）。相互ラウンド実施（あいち小児総合保健医療センターが10月に来院、福岡市立こども病院を1月に訪問）
- ・県立病院感染対策会議出席（11月）
- ・神戸市新型インフルエンザ等対策病院連絡会参加（8月、11月、2月）

38. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として小児外科医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、医事課職員により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

主な活動内容

1. 褥瘡対策状況

褥瘡対策委員会を月に1回開催し、褥瘡対策に関する報告、情報の共有を行い、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

1) 褥瘡発生率

2.8%（発生率は過去16年で4番目に低い値。過去の発生率は2.5%～4.0%）

褥瘡発生率＝褥瘡発生数÷総新規入院数

2) 褥瘡推定発生率

1.6%（過去11年で2番低い値 過去の発生率は1.4～2.7%）

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率＝（調査日に褥瘡を保有する患者数－院外発生患者数）÷調査日の入院患者数

3) 褥瘡リスクアセスメント実施数 6268件（月平均522件）

4) 褥瘡ハイリスク患者特定数 906件（月平均76件）

5) 褥瘡対策実施件数 3650件（月平均304件）

6) 褥瘡ハイリスク患者ケア実施件数 1290件（月平均107件）

7) 褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数 173件

褥瘡発生個数 191個（自重関連褥瘡は50個、医療関連機器圧迫創傷は141個）

褥瘡発生件数の多い部署

CICU（50）、PICU（44）、ICU（12）、救急・HCU（11）、NICU（11）、5東（10）、手術室（9）

2. 褥瘡回診・カンファレンス状況

週1回木曜日午後に形成外科医師と皮膚・排泄ケア認定看護師（月1回は褥瘡対策委員会のメンバーも加わり拡大褥瘡回診としている）により、褥瘡発生者を中心に『褥瘡回診』と『カンファレンス』をおこなっている。回診、カンファレンスでは褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価・検討している。

褥瘡回診・カンファレンス実施回数44回 患者数270名（のべ）

3. 新人看護師対象の褥瘡講義の実施

4. 領域別看護ケア向上委員会における事例検討と勉強会の実施

5. 各部署カンファレンスや病棟会における褥瘡勉強会の実施

39. がん相談支援室

がん相談支援室は、小児がんセンター長のもと、血液腫瘍科医師、小児看護専門看護師、医療福祉相談員が小児がんに関する相談に応じている。

スタッフ

医師 石田敏章（血液腫瘍内科医師）
 看護師 中谷扶美・栗林佑季（小児看護専門看護師）
 医療福祉相談員（MSW） 松尾さおり、進藤美佳
 医師クラーク 西ノ上、山之内

平成 30 年 主な活動内容

1. 院内外の小児がんと診断された子どもと家族に対する対面相談、電話相談
 - ・小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供
 - ・小児がん患者の発育、教育及び療養上の相談
 - ・地域における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供 等
2. 小児がんの子どもと家族の療養環境の改善
 - ・がんサロン（名称：nanaくつろぎサロン）の開催（2か月に1回）
 - ・アロマサロンの開催（ボランティアによるマッサージの提供）の開催（毎月1回）
 - ・高校生の学習支援体制の検討、復学支援カンファレンスへの参加
 - ・家族教室の開催（長期フォローアップ勉強会）
 - ・相談室通信の発行（2か月に1回）
3. 院内外の医療従事者への小児がんに関する情報提供
 - ・小児がん看護研修会の企画、運営（小児がん看護推進ワーキング、緩和ケアチームとの共同開催）
 - ・近畿ブロック小児がん拠点病院相談員研修の開催（近畿ブロック5病院共催）
 - ・問い合わせに対する相談対応
4. 小児がんを対象とする患者会との調整窓口
5. 相談支援室会議
 - ・月1回開催、小児がんに関する情報の共有、相談支援室の活動の評価・検討
6. 小児がん中央機関、その他の小児がん拠点病院、成人がん診療病院との連携体制強化
 - ・小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会への出席、メーリングリストへの参加
 - ・中国四国ブロック小児がん相談支援部会（TV会議）への参加
 - ・兵庫県がん診療連携協議会情報・連携部会、神戸市がん相談支援センター連絡会への参加

平成 30 年 がん相談支援室相談対応件数

	会議資料	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
がん相談件数 (院内)	相談総件数	31	48	65	37	38	55	38	34	55	62	47	47	557
	1) 対面相談	31	48	65	37	35	49	34	29	50	58	44	46	526
	2) 電話相談	0	0	0	0	3	6	4	5	5	4	3	1	31
院外電話相談		1	2	2	0	4	1	0	0	2	3	3	1	19
	計	32	50	67	37	42	56	38	34	57	65	50	48	576

40. 院内学級（神戸市立友生支援学校 病弱部門 みなと分教室・わらび訪問学級）

1. 体制

従前までは長期入院のため登校できない小中学生に、友生支援学校「わらび訪問学級」としてこども病院にも訪問指導を行っていたが、こども病院のポートアイランド移転(2016年)に伴い、友生支援学校の病弱部門の教員がこども病院の院内学級「みなと分教室」として常駐するようになった。こども病院に入院中の小中学生は院内学級「みなと分教室」に在籍し、市内の他病院に入院中の児童生徒は従前通り訪問指導として「わらび訪問学級」に在籍している。

院内学級の児童生徒は教室で授業を受けられるようになったとは言うものの、児童生徒の病状からほとんどがベッドサイドでの訪問指導を受けている状況であった。2017年度より、それまで教室に登校することを許可されていなかった児童生徒も、一定以上の抵抗力がある状態になれば、主治医の判断により登校できるようになり、教室での授業もかなり多くなった。

保護者への入級説明、小中学校との連絡調整などについては主治医や病棟の紹介を経て当部署が行っている。

なお、院内学級の職員は、こども病院外で入院治療中の児童生徒に対しては、従前通り訪問指導を継続している。

2. 在籍状況

2018年度 院内学級（みなと分教室） 在籍状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間実在籍者数
小学部	10	13	16	15	15	16	16	15	13	14	15	13	36
中学部	1	6	6	4	3	3	2	2	3	3	4	3	13
合計	11	19	22	19	18	19	18	17	16	17	19	16	49

※その月に1日でも在籍していれば1人と数える。また、「わらび訪問学級」の児童生徒は含んでいない。

3. 授業の状況

2018年度 授業全体に対する教室授業の割合

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
小学生低学年	17.3%	34.9%	36.6%	33.3%	5.9%	42.3%	55.5%	49.0%	5.3%	40.3%	29.6%	0.0%	34.9%
小学生高学年	11.1%	13.8%	31.6%	29.8%	0.0%	21.1%	23.8%	32.8%	8.2%	30.1%	11.8%	15.9%	22.3%
中学生	29.5%	8.8%	9.5%	20.4%	0.0%	30.0%	1.5%	0.0%	10.2%	14.0%	29.9%	18.8%	15.9%

4. 次年度の課題

2018年度の全授業に対する教室授業の割合は、1年を通じて小学生低学年で34.9%、小学生高学年で22.3%、中学生は15.9%と、決して多いとは言えず、学年が上がるにつれて少なくなっている。児童生徒が、病室（生活スペース）から離れ、教室で気分をかえて学習に励むことができれば、学力向上はもちろんのこと、当該児童生徒の治療に向かう意欲を高めることにもつながると考えられる。病室を離れることが可能な児童生徒が、少しでも教室で授業を受けられるようにするために、医療現場の現状に合わせた上で、少しでも早くその条件が整うよう、これまで以上に、病院スタッフ等と話し合いながら、連携を強めていく必要がある。

41. 医師事務作業補助者（医師クラーク）

医師の業務負担軽減を図り、診療に専念できる環境をつくることを目的に、2008年の診療報酬の改定に伴い医師事務作業補助体制加算が定義された。施設基準を満たした場合、医師事務作業補助者を採用することにより診療報酬の対象となる。

兵庫県立こども病院では2012年に本格的に導入され8名でスタートしたが、その後段階的に人員が補充され2018年現在21名が在籍。

医局に隣接した医局クラーク室で、診療部長の指導の下、診療科からの依頼を受け業務を行っている。2016年5月に病院が移転し電子カルテが導入されて以降、外来診療補助に携わる業務が増し、他部署とのコミュニケーションを図りながら業務に取り組んでいる。

（業務内容）

- ・ 外来診療補助
電子カルテへの入力補助、病名登録、診察・検査予約
患者様へのご説明、ご案内等
診察・手術・検査に関する電話 等
- ・ 文書作成補助
診断書、主治医意見書、生命保険会社の手続き書類、紹介状等の作成補助 等
- ・ 診療に関するデータ整理、管理に関する事務
新規患者、手術などの台帳管理及び入力、統計 等
- ・ 治験資料、学会等からの各種調査資料等の作成、管理に関する事務
- ・ 院内がん登録、手術症例登録等の統計、調査に関する事務
- ・ 研修やカンファレンスのための資料作成等の準備事務
- ・ その他所属長が必要と認める事務
症例検討会、講演会、抄読会等の準備
文献・画像等の取り込み、及び管理
医師宛の外線電話への対応 等

IV 学会・研究・教育活動

1) 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
若年成人特有の問題	循環器内科	城戸佐知子	共著	日本小児循環器学会	小児・成育循環器病学	289	293	診断と治療社	2018年7月
肺動脈弁狭窄	循環器内科	田中敏克	共著	日本小児循環器学会	小児・成育循環器病学	391	394	診断と治療社	2018年7月
心房中隔欠損症	循環器内科	田中敏克	共著	小児内科・小児外科編集委員会	小児疾患の診断治療基準(第5版)	518	519	東京医学社	2018年11月
小児感染症	感染症内科	笠井正志	共著	笠井正志	これだけ!知っておきたいこどもの感染症10×3(単行本)			日本医事新報社	2018年
小児症候学	感染症内科	笠井正志	共著	上村克徳、笠井正志	小児症候学89(単行本)			東京医学社	2018年
小児・新生児外科疾患	小児外科	前田貢作	共著	田口智章	ナースのための小児・新生児の外科疾患	41	46	メヂカ出版	2018年1月
胆道閉鎖症	小児外科	前田貢作	共著	日本胆道閉鎖症研究会	胆道閉鎖症診療ガイドライン	65	67	へるす出版	2018年10月
胆道閉鎖症	小児外科	前田貢作	共著	日本胆道閉鎖症研究会	胆道閉鎖症診療ガイドライン	71	72	へるす出版	2018年10月
気管食道瘻	小児外科	前田貢作	共著	森山寛	今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針第4版	448	449	医学書院	2018年6月
気管軟化症	小児外科	前田貢作	共著	森山寛	今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針第5版	449	451	医学書院	2018年6月
純型肺動脈閉鎖	心臓血管外科	松久弘典	共著	日本小児循環器学会	小児・成育循環器学	446	449	診断と治療社	2018年7月
神戸陽子線センターにおける小児がんの治療体制	脳神経外科	河村淳史	共著	長嶋達也	小児がんの陽子線治療 小児固形がん患者のQOL向上を指して	15	21	なるにあ	2018年4月
発育性股関節形成不全	整形外科	衣笠真紀	共著	白木和夫、高田哲	ナーズとコメディカルのための小児科学	423	426	日本小児医事出版社	2018年2月
小児の麻痺性足部疾患(CP,CMT,Spina bifida)	整形外科	薩摩真一	共著	大関寛、熊井司	足の外科テキスト	265	272	南江堂	2018年11月
先天性内反足に対する解離術	整形外科	薩摩真一	共著	中村茂	OS NEXUS 小児の四肢手術	184	193	メディカルビュー社	2018年11月
発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼)	整形外科	薩摩真一	共著	小児科臨床編集委員会	小児科臨床、特集『よくある疾患の診かた—他科からの助言—』	2031	2036	日本小児医事出版社	2018年
安定型大腿骨頭すべり症に対するin situ pinning (ISP)	整形外科	小林大介	共著	中村茂	OS NEXUS 16 小児の四肢手術 これだけは知っておきたい	100	109	メディカルビュー	2018年11月
多指症などを含む四肢手術	麻酔科	香川哲郎	共著	山蔭道明、新山幸俊	術式対応「わがまま」術後鎮痛マニュアル	146	147	克誠堂	2018年4月
比較的低侵襲な体表なとの他の手術	麻酔科	香川哲郎	共著	山蔭道明、新山幸俊	術式対応「わがまま」術後鎮痛マニュアル	148	149	克誠堂	2018年4月

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
心臓手術	麻酔科	香川哲郎	共著	山蔭道明、新山幸俊	術式対応「わがまま」術後鎮痛マニュアル	150	151	克誠堂	2018年4月
漏斗胸	麻酔科	廣瀬徹也、香川哲郎	共著	宮部雅幸、川名信	カンファでおさえる小児麻酔	27	35	克誠堂	2018年9月
小児鼠径ヘルニアを [全身麻酔+仙骨麻酔]で周術期管理してください	麻酔科	山脇緑、香川哲郎	共著	大塚浩司、上嶋浩順	続・末梢神経ブロックの疑問～実践編～	192	195	中外医学社	2018年10月
小児処置鎮静時・MRI鎮静時の注意点と問題点	麻酔科	鹿原史寿子、香川哲郎	共著	安宅一晃、駒澤伸泰	鎮静ポケットマニュアル	138	149	中外医学社	2018年10月
小児ヘルニア手術、包茎手術	麻酔科	香川哲郎	共著	永井良三、稲田英一	麻酔科研修ノート第3版	628	629	診断と治療社	2018年11月
妊娠糖尿病の診断	産科	船越 徹	共著	藤井知行	週数別妊婦健診マニュアル	124	127	医学書院	2018年5月
人工呼吸器離脱・抜管	小児集中治療科	青木一憲	共著	竹内宗之	小児救命救急・ICUピックアップ②呼吸管理	71	80	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2018年11月
挿管人工呼吸管理を行う疾患・病態 -小児-	小児集中治療科	青木一憲	共著	安宅一晃	なるほど人工呼吸管理	260	266	メディカ出版	2018年12月
PICUハンドブック	小児集中治療科	黒澤寛史	共著	黒澤寛史、杉本晃一	PICUハンドブック	1	244	テコム	2018年11月
電解質異常	小児集中治療科	黒澤寛史	共著	鉄原健一	小児救急の基本	3076	3083	羊土社	2018年2月
小児における処方・投与量設定の考え方とコツ	小児集中治療科	黒澤寛史	共著	志馬伸朗	救急・ICUの頻用薬をいこなせ	1951	1956	羊土社	2018年10月
急性脳症の管理	小児集中治療科	黒澤寛史	共著	加藤精彦、早川浩	私の処方2018	790	801	日本小児医事出版社	2018年5月
熱中症	小児集中治療科	黒澤寛史	共著	「小児内科」「小児外科」編集委員会	小児疾患の診断治療基準	916	917	東京医学社	2018年11月
小児のストーマケア	看護部	鎌田直子	共著	宮嶋正子・藤本かおり	はじめてでもやさしいストーマ・排泄ケア	38	43	学研メディカル秀潤社	2018.2.28
小児の失禁ケア	看護部	鎌田直子	共著	宮嶋正子・藤本かおり	はじめてでもやさしいストーマ・排泄ケア	144	146	学研メディカル秀潤社	2018.2.28
鎮痛・鎮静・せん妄	看護部 PICU	坂本佳津子	共著	三浦規雅	重症小児患者ケアガイドブック	145	162	(株)総合医学者	2018.10.20
終末期ケア	看護部 PICU	坂本佳津子	共著	三浦規雅	重症小児患者ケアガイドブック	236	246	(株)総合医学者	2018.10.20
体外式ベースメーカー	看護部 PICU	坂本佳津子	共著	三浦規雅	重症小児患者ケアガイドブック	252	258	(株)総合医学者	2018.10.20

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
子どもの成長発達と支援	看護部	中谷扶美	共著	道又元裕	重傷小児患者ケアガイドブック	216	223	総合医学社	2018年10月
小児の蘇生	救急・HCU	藤原健太	共著	三浦規雅	重症小児患者ケアガイドブック	9	31	総合医学社	2018.10.20
脳幹部腫瘍をもつ子どもを中心に考えた治療方針の決定	7E	濱田米紀	共著	鶴若麻理他	看護師の倫理調整力	46	51	日本看護協会出版会	2018.5.1
小児の集中治療管理に必要な基本的ケア ①安全確保	7E	濱田米紀	共著	道又元裕監修	重症小児患者ケアガイドブック	98	103	総合医学社	2018.10.20
小児のNSTにおける管理栄養士の役割	栄養管理部	鳥井隆志	共著	日本小児栄養消化器肝臓学会	小児臨床栄養学 改訂第2版	402	404	診断と治療社	2018年10月

2) 雑誌発表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
抗菌薬の適正使用と院内感染対策 について消化器領域：急性胃腸炎	救急総合診療 科(総診)	張 慶哲	小児科臨床	17	12	2559	2560		2018
抗菌薬の適正使用と院内感染対策 について消化器領域：虫垂炎	救急総合診療 科(総診)	張 慶哲	小児科臨床	17	12	2561	2563		2018
発熱を伴うけいれん重積状態を呈 したSCN5A変異をもつ心室頻拍 の男児例	救急総合診療 科(救急)	永尾宏之、松井鋭、 小川禎治、瓦野昌大、 梶原伸介、西田尚樹、 畑由紀子、廣野恵一、 市田露子、黒澤寛史	日本小児救急医学会雑誌	17	3	512	516		2018
輸液、経口補水療法。	救急総合診療 科(救急)	松井鋭	レジデントノート 小児救急の基本「子どもは苦 手」を克服しよう!			56	57	羊土社	2018
血液ガス分析。	救急総合診療 科(救急)	松井鋭	小児科診療 今さら聞けない?小児救急の 総復習			1605	1609	診断と治療社	2018
先天性胆道拡張症 戸谷の分類	救急総合診療 科(救急)	山口善道	画像診断37 (増刊)			174	181		2018
外傷の評価の違い 虐待、小児の外傷の特徴含む	救急総合診療 科(救急)	林 卓郎	レジデントノート 小児救急の基本「子どもは苦 手」を克服しよう!			212	223	羊土社	2018
Nonconvulsive seizure detection by reduced-lead electroencephalography in children with altered mental status in the emergency department.	救急総合診療 科(救急)	Yamaguchi H, Nagase H, Nishiyama M, Tokumoto S, Ishida Y, Tomioka K, Tanaka T, Fujita K, Toyoshima D, Nishimura N, Kurosawa H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Iijima K	J Pediatr in press						2018
21水酸化酵素欠損症患者における TNXA/TNXBキメラ遺伝子の頻度 と臨床的特徴	代謝内分泌科	尾崎佳代、向山祐理、 奥野美佐子、 飯島一誠、郷司克己	日本小児科学会雑誌	122	5	860	866	日本小児科学会	2018.5

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Soluble CD163, a unique biomarker to evaluate the disease activity, exhibits macrophage activation in systemic juvenile idiopathic arthritis.	リウマチ科	Sakumura N, Shimizu M, Mizuta M, Inoue N, Nakagishi Y, Yachie A.	Cytokine	110		459	465	Elsevier	2018.5.17
Early prediction for over two years efficacy of the first biologic agent for polyarticular juvenile idiopathic arthritis: A multi-institutional study in Japan.	リウマチ科	Kubota T, Takei S, Shimizu M, Yasumura J, Nakagishi Y, Kizawa T, Yoshiro M, Wakiguchi H, Yamasaki Y, Kawano Y.	Mod Rheumatol	28	5	826	831	Taylor & Francis	2018.9.28

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
若年性特発性関節炎に対するアバタセプト治療の手引き (解説)	リウマチ科	木澤敏毅、藺花幸祐、井上なつみ、大倉有加、岡本奈美、久保田知洋、清水正樹、中岸保夫、西村謙一、水田麻雄、八代将登、八角高裕、安村純子、山出晶子、脇口宏之、梅林宏明、森雅亮、厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(免疫アレルギー疾患等政策研究事業(免疫アレルギー疾患政策研究分野)))	小児リウマチ	9	1	81	87	日本小児リウマチ学会	2018.11
Nonconvulsive seizure detection by reduced-lead electroencephalography in children with altered mental status in the emergency department.	神経内科	YamaguchiH, NagaseH, NishiyamaM, TokumotoS, Ishida Y, TomiokaK, TanakaT, FujitaK, ToyoshimaD, NishimuraN, KurosawaH, NozuK, MaruyamaA, TanakaR, IijimaK.	J Pediatr.	Epub ahead of print					2018 Nov

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Lipid and thyroid hormone levels in children with epilepsy treated with levetiracetam or carbamazepine: A prospective observational study.	神経内科	NishiyamaM, TakamiY,IshidaY, TomiokaK, TanakaT,NagaseH, NakagawaT, TokumotoS, YamaguchiH, ToyoshimaD, MaruyamaA, NozuK,NishimuraN, IijimaK.	Epilepsy&Behavior	90		15	19		2018 Nov
Spontaneous spinal epidural hematoma mimicking Guillain-Barre Syndrome.	神経内科	KondoA, YamaguchiH, IshidaY,ToyoshimaD, AzumiM,AkutsguN, KoyamaJ, KurosawaH, KawamuraA, MaruyamaA.	Brain Dev.	Epub ahead of print					2018 Nov
Acute focal bacterial nephritis characterized by acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion.	神経内科	YamaguchiH, NagaseH,ItoY, MatsunosaitaN, MizutaniM, MatsushigeT, IshidaY,ToyoshimaD, KasaiM,KurosawaH, MaruyamaA, IijimaK.	J Infect Chemother	24	11	932	935		2018 Nov
Acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion accompanied by Takotsubo cardiomyopathy.	神経内科	YamaguchiH, NagaseH,YoshidaS, TokumotoS, HayashiK, ToyoshimaD, KurosawaH, TanakaT, MaruyamaA, IijimaK.	Brain Dev.	Epub ahead of print					2018 Oct

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Fosphenytoin vs. continuous midazolam for pediatric febrile status epilepticus.	神経内科	NishiyamaM, NagaseH,TomiokaK, TanakaT, YamaguchiH,IshidaY, ToyoshimaD,FujitaK, MaruyamaA, KurosawaH, UetaniY,NozuK, Taniguchi-kedaM, MoriokaI,TakadaS, IijimaK.	Brain Dev.	40	10	884	890		2018 Aug
De novo variants in RHOBTB2, an atypical Rho GTPase gene cause epileptic encephalopathy.	神経内科	BelalH, NakashimaM, MatsumotoH, YokochiK, Taniguchi-edaM, AotoK,AminMB, MaruyamaA, NagaseH, MizuguchiT, MiyatakeS,MiyakeN, IijimaK,NonoyamaS, MatsumotoN, SaituH.	Hum Mutat.	39	8	1070	1075		2018 Aug
Early risk factors for mortality in children with seizure and/or impaired consciousness accompanied by fever without known etiology.	神経内科	TomiokaK,NagaseH, TanakaT, NishiyamaM, YamaguchiH, IshidaY,ToyoshimaD, MaruyamaA,FujitaK, Taniguchi-kedaM, NozuK,MoriokaI, NishimuraN, KurosawaH, UetaniY,IijimaK.	Brain Dev.	40	7	552	557		2018 Aug
Harlequin Syndrome.	神経内科	YamaguchiH,YokoiA, KamimuraK,IshidaY, ToyoshimaD, MaruyamaA.	Indian J Pediatr.	85	8	700	701		2018 Aug

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Diurnal occurrence of complex febrile seizure and their severity in pediatric patients needing hospitalization.	神経内科	YamaguchiH, NagaseH,IshidaY, ToyoshimaD, MaruyamaA, TomiokaK,TanakaT, NishiyamaM, FujitaK,MarikoT, Nozuka,MoriokaI, NishimuraN, KurosawaH, TakadaS,UetaniY, IijimaK.	Epilepsy Behav.	80		280	284		2018 Mar
Successful Treatment of Transplantation-associated Atypical Hemolytic Uremic Syndrome With Eculizumab.	血液・腫瘍内科	Hasegawa D, Saito A,Nino N, Uemura S, Takafuji S,Yokoi T, Kozaki A,Ishida T, Kawasaki K, Yasumi T,Sakata N, Ohtsuka Y,Hirase S, Mori T,Nishimura N, Kusumoto M, Ogawa Y, Tominaga K, Nakagawa T, Kanda K,Tanaka R, Kosaka Y.	J Pediatr Hematol Oncol.	40	1	e41	e44		1月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Prognostic value of genetic mutations in adolescent and young adults with acute myeloid leukemia.	血液・腫瘍内科	Kuwatsuka Y, Tomizawa D, Kihara R,Nagata Y, Shiba N, Iijima-Yamashita Y, Shimada A,Deguchi T, Miyachi H,Tawa A, Taga T,Kinoshita A, Nakayama H,Kiyokawa N, Saito AM,Koh K, Goto H,Kosaka Y, Asou N,Ohtrake S, Miyawaki S, Miyazaki Y, Sakura T,Ozawa Y, Usui N,Kanamori H, Ito Y,Imai K, Suehiro Y,Kobayashi S, Kitamura K,Sakaïda E, Ogawa S,Naoe T, Hayashi Y,Horibe K, Manabe A, Mizutani S,Adachi S, Kiyoi H.	Int J Hematol.	104	2	201	210		2月
Clinical significance of SH2B3 (LNK) expression in paediatric B-cell precursor acute lymphoblastic leukaemia.	血液・腫瘍内科	Yano M,Imamura T, Asai D,Deguchi T, Hashii Y,Endo M, Sato A,Kawasaki H, Kosaka Y,Kato K, Hori H,Yumura-Yagi K, Hara J,Oda M, Horibe K.	Br J Haematol.	183	2	327	330		10月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
ETV6-ABL1 fusion combined with monosomy 7 in childhood B-precursor acute lymphoblastic leukemia.	血液・腫瘍内科	Uemura S, Nishimura N, Hasegawa D, Shono A,Sakaguchi K, Matsumoto H, Nakamachi Y, Saegusa J,Yokoi T, Tahara T,Tamura A, Yamamoto N, Saito A,Kozaki A, Kishimoto K, Ishida T,Nino N, Takafuji S,Mori T, Iijima K,Kosaka Y.	Int J Hematol.	107	5	604	609		5月
Risk-stratified therapy for children with FLT3-ITD-positive acute myeloid leukemia: results from the JPLSG AML-05 study.	血液・腫瘍内科	Shimada A, Iijima-Yamashita Y, Tawa A, Tomizawa D, Yamada M,Norio S, Watanabe T,Taga T, Iwamoto S,Terui K, Moritake H, Kinoshita A, Takahashi H, Nakayama H, Koh K,Goto H, Kosaka Y,Saito AM, Kiyokawa N, Horibe K,Hara Y, Oki K,Hayashi Y, Tanaka S,Adachi S.	Int J Hematol.	107	5	586	595		5月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Low Incidence of Osteonecrosis in Childhood Acute Lymphoblastic Leukemia Treated With ALL-97 and ALL-02 Study of Japan Association of Childhood Leukemia Study Group.	血液・腫瘍内科	Sakamoto K, Imamura T, Kihira K, Suzuki K, Ishida H, Morita H, Kanno M, Mori T, Hiramatsu H, Matsubara K, Terui K, Takahashi Y, Suenobu SI, Hasegawa D, Kosaka Y, Kato K, Moriya-Saito A, Sato A, Kawasaki H, Yumura-Yagi K, Hara J, Hori H, Horibe K.	Journal of Clinical Oncology	36	9	900	907		5月
Successful Combination Therapy of Liposomal Amphotericin B and Caspofungin for Disseminated Fusariosis in a Pediatric Patient With Acute Lymphoblastic Leukemia.	血液・腫瘍内科	Uemura S, Tamura A, Yamamoto N, Saito A, Nakamura S, Fujiwara T, Tahara T, Kozaki A, Kishimoto K, Ishida T, Hasegawa D, Muraosa Y, Kamei K, Kosaka Y.	Pediatr Infect Dis J.	37	10	e251	e253		10月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Human CD134 (OX40) expressed on T cells plays a key role for human herpesvirus 6B replication after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	血液・腫瘍内科	Nagamata S, Nagasaka M, Kawabata A, Kishimoto K, Hasegawa D, Kosaka Y, Mori T, Morioka I, Nishimura N, Iijima K, Yamada H, Kawamoto S, Yakushijin K, Matsuoka H, Mori Y.	J Clin Virol.	102		50	55		5月
Intensification of induction therapy and prolongation of maintenance therapy did not improve the outcome of pediatric Langerhans cell histiocytosis with single-system multifocal bone lesions: results of the Japan Langerhans Cell Histiocytosis Study Group-02 Protocol Study.	血液・腫瘍内科	Morimoto A, Shioda Y, Imamura T, Kudo K, Kitoh T, Kawaguchi H, Goto H, Kosaka Y, Tsunematsu Y, Imashuku S; Japan LCH Study Group.	Int J Hematol.	108	2	192	198		8月
Low-dose azacitidine maintenance therapy after allogeneic stem cell transplantation for high-risk pediatric acute myeloid leukemia.	血液・腫瘍内科	Tamura A, Ishida T, Saito A, Yamamoto N, Yokoi T, Uemura S, Nino N, Fujiwara T, Tahara T, Nakamura S, Kozaki A, Kishimoto K, Hasegawa D, Kosaka Y.	Pediatr Blood Cancer.	65	10				

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Co-occurrence of hypertrophic cardiomyopathy and juvenile myelomonocytic leukemia in a neonate with Noonan syndrome, leading to premature death.	血液・腫瘍内科	Tamura A, Uemura S, Matsubara K, Kozuki E,Tanaka T, Nino N,Yokoi T, Saito A,Ishida T, Hasegawa D, Umeki I,Niihori T, Nakazawa Y, Koike K,Aoki Y, Kosaka Y.	Clin Case Rep.	6	7	1202	1207		5月
Impact of adjuvant lorazepam with granisetron on chemotherapy-induced nausea and vomiting in pediatric patients with acute lymphoblastic leukemia.	血液・腫瘍内科	Ono A,Kishimoto K, Hasegawa D, Goldman RD, Kosaka Y.	Support Care Cancer.						
Hematopoietic cell transplantation for asymptomatic X-linked lymphoproliferative syndrome type 1.	血液・腫瘍内科	Tamura A, Uemura S, Yamamoto N, Saito A,Kozaki A, Kishimoto K, Ishida T, Hasegawa D, Hiroki H,Okano T, Imai K,Morio T, Kanegane H, Kosaka Y.	Allergy Asthma Clin Immunol.						
小児急性リンパ性白血病女児の知的能力の推移	血液・腫瘍内科	佐藤聡美、瀧本哲也、 藤井美有、石田敏章、 小阪嘉之、大六一志	日本小児血液・がん学会雑誌	54	5	403	407	日本小児血液・がん学会	4月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
胎児期より拡張型心筋症と診断され周産期死亡した兄弟例	循環器内科	平海良、佐藤有美、 亀井直哉、 城戸佐知子、 廣野恵一、市田蒔子、 畑由紀子、西田尚樹、 田中敏克	日本小児循環器学会雑誌	34	1	39	45	日本小児循環器学会	2018.1
当院で経験したScimitar症候群	循環器内科	永尾宏之、田中敏克、 亀井直哉、松岡道生、 小川禎治、富永健太、 城戸佐知子	日本小児科学会 雑誌	122	8	1320	1325	日本小児科学会	2018.1
Acute myocardial infarction due to vegetation in a 13-year-old girl	循環器内科	Miki Y,Waki K, Arakaki Y,Komiya T	Pediatr Int.	60	4	382	383	日本小児科学会	2018.4
Maximum QTc on Holter electrocardiography in children	循環器内科	Ogawa Y,Tanaka T, Kido S	Pediatr Int.	60	6	507	512	日本小児科学会	2018.6
Postoperative lung perfusion with anomalous origin of one pulmonary artery from aorta	循環器内科	Miki Y,Waki K, Arakaki Y	Int Heart J.	59	5	1166	1168		2018.5
Successful treatment of transplantation-associated atypical hemolytic uremic syndrome with eculizumab.	腎臓内科	Hasegawa D, Saito A,Nino N, Uemura S, Takafuji S,Yokoi T, Kozaki A,Ishida T, Kawasaki K, Yasumi T, Sakata N, Ohtsuka Y, Hirase S,Mori T, Nishimura N, Kusumoto M, Ogawa Y, Tominaga K, Nakagawa T, Kanda K,Tanaka R, Kosaka Y.	J Pediatr Hematol Oncol	40		e41	e44		2018

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Detection of copy number variations by pair analysis using next-generation sequencing data in inherited kidney diseases.	腎臓内科	Nagano C, Nozu K, Morisada N, Yazawa M, Ichikawa D, Numasawa K, Koirakata H, Matsumura C, Tazoe S, Tanaka R, Yamamura T, Minamikawa S, Horinouchi T, Nakanishi K, Fujimura J, Sakakibara N, Nozu Y, Ye MJ, Kaito H, Iijima K.	Clin Exp Nephrol	22		881	888		2018

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月	
Mutation in six nephrosis genes delineate a pathogenic pathway amenable to treatment.	腎臓内科	Ashraf S,Kudo H, Rao J,Kikuchi A, Widmeier E,Lawson JA, Tan W,Hermle T, Warejko JK,Shril S, Airik M,J,Jobst-Schwan T, Lovric S, Braun DA, Gee HY, Schapiro D, Majmudar AJ, Sadowski CE, Pabst WL,Daga A, van der Ven AT, Schmidt JM, Low BC,Gupta AB, Tripathi BK, Wong J,Campbell K, Metcalf K,Schanze D, Niifori T,Kaito H,Nozu K, Tsukaguchi H,Tanaka R, Hamahira K,Kobayashi Y, Takizawa T,Funayama R, Nakayama K,Aoki Y, Kumagai N,Iijima K, Fehrenbach H, Kari JA,EL Desoky S, Jalalah S,Bogdanovic R, Stajic N,Zappel H, Rakhmetova A, Wassmer SR, Jungraithmayr T, Strehlau J,Kumar AS, Bagga A,Soliman NA, Mane SM,Kaufman L, Lowy DR,Jairajpuri MA, Lifton RP,Pei Y, Zenker M,Kure S, Hildebrandt F.	Nat Commun	17	9	1960				2018

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Strong association of the HLA-DR/DQ locus with childhood steroid-sensitive nephrotic syndrome in the Japanese population.	腎臓内科	Jia X,Horinouchi T, Hitomi Y,Shono A, Khor SS,Omae Y, Kojima K,Kawai Y, Nagasaki M,Kaku Y, Okamoto T, Ohwada Y, Ohta K,Okuda Y, Fujimaru R, Hatae K, Kumagai N, Sawanobori E, Nakazato H, Ohtsuka Y, Nakanishi K, Shima Y,Tanaka R, Ashida A,Kamei K, Ishikura K,Nozu K, Tokunaga K, Iijima K, Research Consortium on Genetics of Childhood Idiopathic Nephrotic Syndrome in Japan.	J Am Soc Nephrol	29	2	2189	2199		2018
Complement activation associated with ADAMTS13 deficiency may contribute to the characteristic glomerular manifestations in Upshaw-Schulman syndrome.	腎臓内科	Itami H, Hara S, Matsumoto M, Imamura S, Kanai R, Nishiyama K, Ishimura M, Ohga S,Yoshida M, Tanaka R,Ogawa Y, Asada Y, Sekita-Hatakeyama Y, Hatakeyama K, Ohbayashi C	Thrombosis Research	170		148	155		2018

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinicopathological characteristics and renal outcomes of childhood-onset lupus nephritis with acute kidney injury: a multicenter study.	腎臓内科	Ishimori S, Kaito H, Shima Y, Kamioka I, Hamahira K, Nozu K, Nakanishi K, Tanaka R, Yoshikawa N, Iijima K	Mod Rheumatol	18		1	7		2018
Lisinopril versus Lisinopril and losartan for mild childhood IgA nephropathy: a randomized controlled trail (JSKDC01) study	腎臓内科	Shima Y, Nakanishi K, Sako M, saito-Oba M, Hamasaki Y, Hataya M, Kamei K, Ishikura K, Ito S, Kaito H, Tanaka R, Nozu K, Nakamura H, Ohashi Y, Iijima K, Yoshikawa N; Japanese Study Group of Kidney Disease in Children (JSKDC).	Pediatr Nephrol	3					2018
Clinical and Genetic Characteristics in Patients With Gitelman Syndrome.	腎臓内科	Fujimura J, Nozu K, Yamamura T, Minamikawa S, Nakanishi K, Horinouchi T, Nagano C, Sakakibara N, Nakanishi K, Shima Y, Miyako K, Nozu Y, Morisada N, Nagase H, Ninchoji T, Kaito H, Iijima K.	Kidney Int Rep	28	4	119	125		2018

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
The utility of urinary CD80 as a diagnostic marker in patients with renal diseases.	腎臓内科	Minamikawa S, Nozu K, Maeta S, Yamamura T, Nakanishi K, Fujimura J, Horinouchi T, Nagano C, Sakakibara N, Nagase H, Shima H, Noda K, Ninchoji T, Kaito H, Iijima K.	Sci Rep	23	8				2018
Three Severe Cases of Viral Infections with Post-Kidney Transplantation Successfully Confirmed by Polymerase Chain Reaction and Flow Cytometry.	腎臓内科	Nakanishi K, Kaito H, Ogi M, Takai D, Fujimura J, Horinouchi T, Yamamura T, Minamikawa S, Ninchoji T, Nozu K, Imadome KI, Iijima K.	Case Rep Nephrol Dial	25	8	198	206		2018
Study protocol: mycophenolate mofetil as maintenance therapy after rituximab treatment for childhood-onset, complicated, frequently-relapsing nephrotic syndrome or steroid-dependent nephrotic syndrome: a multicenter double-blind, randomized, placebo-controlled trial (JSKDC07) .	腎臓内科	Horinouchi T, Sako M, Nakanishi K, Ishikura K, Ito S, Nakamura H, Oba MS, Nozu K, Iijima K.	BMC Nephrol	1	19				2018

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Strong Association of the HLA-DR/DQ Locus with Childhood Steroid-Sensitive Nephrotic Syndrome in the Japanese Population.	腎臓内科	Jia X,Horinouchi T, Hitomi Y,Shono A, Khor SS,Omae Y, Kojima K,Kawai Y, Nagasaki M,Kaku Y, Okamoto T, Ohwada Y,Ohta K, Okuda Y,Fujimaru R, Hatae K,Kumagai N, Sawanobori E, Nakazato H, Ohtsuka Y, Nakanishi K, Shima Y,Tanaka R, Ashida A,Kamei K, Ishikura K,Nozu K, Tokunaga K, Iijima K; Research Consortium on Genetics of Childhood Idiopathic Nephrotic Syndrome in Japan.	J Am Soc Nephrol	29	8	2189	2199		2018

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Detection of Splicing Abnormalities and Genotype-Phenotype Correlation in X-linked Alport Syndrome.	腎臓内科	Horinouchi T, Nozu K,Yamamura T, Minamikawa S, Omori T, Nakanishi K, Fujimura J, Ashida A,Kitamura M, Kawano M, Shimabukuro W, Kitabayashi C, Imafuku A, Tamagaki K, Kamei K, Okamoto K, Fujinaga S,Oka M, Igarashi T, Miyazono A, Sawanobori E, Fujimaru R, Nakanishi K, Shima Y,Matsuo M, Ye MJ,Nozu Y, Morisada N,Kaito H, Iijima K.	J Am Soc Nephrol	29	8	2244	2254		2018
Congenital chloride diarrhea needs to be distinguished from Bartter and Gitelman syndrome.	腎臓内科	Matsunoshita N, Nozu K, Yoshikane M, Kawaguchi A, Fujita N,Morisada N, Ishimori S, Yamamura T, Minamikawa S, Horinouchi T, Nakanishi K, Fujimura J, Ninchoji T, Morioka I,Nagase H, Taniguchi-Ikeda M, Kaito H,Iijima K.	J Hum Genet	63	8	887	892		2018

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Development of ultra-deep targeted RNA sequencing for analyzing X-chromosome inactivation in female Dent disease.	腎臓内科	Minamikawa S, Nozu K, Nozu Y, Yamamura T, Taniguchi-Ikeda M, Nakanishi K, Fujimura J, Horinouchi T, Shima Y, Nakanishi K, Hattori M, Kanda K, Tanaka R, Morisada N, Nagano C, Sakakibara N, Nagase H, Morioka I, Kaito H, Iijima K.	J Hum Genet	63	5	589	595		2018
Detection of a Splice Site Variant in a Patient with Glomerulopathy and Fibronectin Deposits.	腎臓内科	Tsuji Y, Nozu K, Sofue T, Hara S, Nakanishi K, Yamamura T, Minamikawa S, Nozu Y, Kaito H, Fujimura J, Horinouchi T, Morisada N, Morioka I, Taniguchi-Ikeda M, Matsuo M, Iijima K.	Nephron	138	2	166	171		2018
腎血管性高血圧	腎臓内科	田中亮二郎	小児疾患の診断治療基準第5版			676	677	東京医学社	2018
腎性低尿酸血症	腎臓内科	貝藤裕史	小児疾患の診断治療基準第5版			690	691	東京医学社	2018
【小児医療における診断・治療の進歩2018】治療技術 小児難治性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ療法	腎臓内科	貝藤裕史、飯島一誠	小児科	59	12	1837	1844	金原出版株式会社	2018
Non-typeable Haemophilus influenzae purulent pericarditis in a healthy child.	感染症内科	Kanno K, Yamaguchi H, Imuta N, Nishi J, Kasai M.	Pediatr Int.	60	9	886	887		2018.9

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Acute focal bacterial nephritis characterized by acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion.	感染症内科	Yamaguchi H, Nagase H,Ito Y, Matsunoshita N, Mizutani M, Matsushige T, Ishida Y, Toyoshima D, Kasai M, Kurosawa H, Maruyama A, Iijima K.	Infect Chemother.	24	11	932	935		2018.9
JAID/JSD感染症治療ガイドライン 2017-敗血症およびカタエーテル関連 血流感染症-	感染症内科	荒川創一、笠井正志、 河合伸、坂田宏、 真弓俊彦	日本化学療法学会雑誌	66	1	82	117		2018
腹部症状を伴わず有熱性けいれん で発症したCampylobacter jejuni菌 血症の1歳女児例と文献的考察	感染症内科	田中俊光、笠井正志、 伊藤雄介、田坂佳資	小児感染免疫	30	1	45	48		2018
救急・小児科外来あるいは入院直 後に死亡した小児患者とその家族 への対応状況と医療従事者へ与え る影響	感染症内科	井上信明、笠井正志、 西原正人、 鍋谷まこと	日本小児救急医学会雑誌	17	1	18	23		2018
A型インフルエンザに罹患しリン 酸オセルタミビルを内服後、十二 指腸潰瘍を発症し出血性ショック を来した幼児の2例	感染症内科	増井美苗、黒澤寛史、 笠井正志、大方祐一、 福澤宏明、前田貢作	日本小児救急医学会雑誌	17	1	18	23		2018
テーマ医療を立ち上げる！	感染症内科	笠井正志	coffee doctors (M3)						2018
「抗微生物薬適正使用の手引き」 のエッセンスを患者さんと共有す るために	感染症内科	笠井正志	診療と新薬	55	3	41	79		2018
感染症科紹介	感染症内科	笠井正志	神戸市医師会報	647	4				2018
小児のワクチン	感染症内科	笠井正志	総合診療	28	4	511	513		2018
抗菌薬を知って正しく使うために	感染症内科	梶原伸介、笠井正志、 高橋揚子	保険総合大百科(中・高校編)			133	135		2018
小児の血液培養-現状と課題-	感染症内科	笠井正志	Medical Technology	46	8	781	785		2018
血液培養	感染症内科	笠井正志	小児科診療	81	11	1617	1621		2018

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
予防できている小児重症感染症とこれから	感染症内科	笠井正志	兵庫県小児科医会報	70	2	2	6		2018
私を変えたあの一言	感染症内科	伊藤雄介	インフエクションコントロール	27	9			メデイカ出版	2018.9
Detection of Splicing Abnormalities and Genotype-Phenotype Correlation in X-linked Alport Syndrome.	臨床遺伝科	Horinouchi T, Nozu K, Yamamura T, Minamikawa S, Omori T, Nakanishi K, Fujimura J, Ashida A, Kitamura M, Kawano M, Shimabukuro W, Kitabayashi C, Imafuku A, Tamagaki K, Kamei K, Okamoto K, Fujinaga S, Oka M, Igarashi T, Miyazono A, Sawanobori E, Fujimaru R, Nakanishi K, Shima Y, Matsuo M, Ye MJ, Nozu Y, Morisada N, Kaito H, Iijima K.	J Am Soc Nephrol.	29	8	2244	2254	American Society of nephrology	2018.8
Congenital chloride diarrhea needs to be distinguished from Bartter and Gitelman syndrome.	臨床遺伝科	Matsunoshita N, Nozu K, Yoshikane M, Kawaguchi A, Fujita N, Morisada N, Ishimori S, Yamamura T, Minamikawa S, Horinouchi T, Nakanishi K, Fujimura J, Ninchoji T, Morioka I, Nagase H, Taniguchi-Ikeda M, Kaito H, Iijima K.	J Hum Genet.	63	8	887	892	Nature publishing	2018.7

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinically diverse phenotypes and genotypes of patients with branchio-oto-renal syndrome.	臨床遺伝科	Unzaki A, Morisada N,Nozu K, YeMJ,Ito S, Matsunaga T, Ishikura K,Ina S, Nagatani K, Okamoto T,Inaba Y, Ito N,Igarashi T, Kanda S,Ito K, Omune K,Iwaki T, Ueno K,Yahata M, Ohtsuka Y,Nishi E, Takahashi N, Ishikawa T,Goto S, Okamoto N,Iijima K.	J Hum Genet	63	5	647	656	Nature publishing	2018.5
Development of ultra-deep targeted RNA sequencing for analyzing X-chromosome inactivation in female Dent disease.	臨床遺伝科	Minamikawa S, Nozu K,Nozu Y, Yamamura T, Taniguchi-Ikeda M, Nakanishi K, Fujimura J, Horinouchi T, Shima Y,Nakanishi K, Hattori M,Kanda K, Tanaka R, Morisada N, Nagano C, Sakakibara N, Nagase H,Morioka I, Kaito H,Iijima K.	J Hum Genet	63	5	589	595	Nature publishing	2018.5

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Detection of copy number variations by pair analysis using next-generation sequencing data in inherited kidney diseases.	臨床遺伝科	Nagano C, Nozu K, Morisada N, Yazawa M, Ichikawa D, Numasawa K, Kourakata H, Matsumura C, Tazoe S, Tanaka R, Yamamura T, Minamikawa S, Horinouchi T, Nakanishi K, Fujimura J, Sakakibara N, Nozu Y, YeM J, Kaito H, Iijima K	Clin Exp Nephrol.	22	4	881	888	Springer	2018.8
腎合併症を持つ発達障害・重症心身障害児と移行期医療	臨床遺伝科	森貞直哉、飯島一誠	日本腎臓学会誌	60	7	992	995	日本腎臓学会	2018.8
未診断疾患における網羅的ゲノム解析時代の遺伝カウンセリング小児慢性腎臓病（CKD）の原因遺伝子解析と遺伝カウンセリング	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	日本遺伝カウンセリング学会誌	39	1	31	36	日本遺伝カウンセリング学会	2018.4
Branchio-oto-renal症候群に脳海綿状血管腫を合併し、EYA1の新規変異を認めた1例	臨床遺伝科	岩城拓磨、若林誉幸、井上杏海、入江加奈子、福家典子、近藤健夫、小西行彦、岡田仁、日下隆、森貞直哉、飯島一誠	日本小児腎臓病学会雑誌	31	1	44	50	日本小児遺伝学会	2018.4
指定難病最前線（Volume 58） 鰓耳腎（BOR）症候群の特徴と診療の実際	臨床遺伝科	森貞直哉、飯島一誠	新薬と臨牀	67	4	461	464	医薬情報研究所	2018.4
遺伝学的検査の実態	臨床遺伝科	森貞直哉	小児科診療	81	12	1711	1715	診断と治療社	2018.9
精神科臨床においてアタッチメントを考える	精神科	玉岡文子、田中究	こころの科学		198	38	45	日本評論社	2018

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
A型インフルエンザに罹患しリン酸オセルタミビルを内服後、十二指腸潰瘍を発生し出血性ショックを来した幼児の2例	小児外科	増井美苗、黒澤寛史、笠井正志、大片祐一、福澤宏明、前田貢作	日本小児救急医学会雑誌	17	1	69	72	日本小児救急医学会	2018.2
CPAMに対する肺葉切除術	小児外科	前田貢作	小児外科	50	3	293	298	東京医学社	2018.3
小児の外科的救急疾患 地域との連携について	小児外科	前田貢作	兵庫県小児科医会報	69	1	8	12	兵庫県小児科医会	2018.4
新生児先天性横隔膜ヘルニアに対する胸腔鏡下根治術	小児外科	福澤宏明、梶原啓資、鮫島由友、河原仁守、磯野香織、前田貢作	手術	72	6	827	832	金原出版	2018.5
H型気管食道瘻に対する胸腔鏡手術	小児外科	三島泰彦、福澤宏明、前田貢作	小児外科	50	5	449	451	東京医学社	2018.5
新生児先天性気管狭窄症に対する治療戦略	小児外科	森田圭一、前田貢作	小児外科	50	6	643	645	東京医学社	2018.6
術後腸閉塞の診断 発症時期と先行手術によるピットフォール	小児外科	鮫島由友、前田貢作、梶原啓資、野村皓三、植村光太郎、河原仁守、磯野香織、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井暁子	小児外科	50	8	807	810	東京医学社	2018.8
食道延長術としての頸部食道瘻	小児外科	横井暁子	小児外科	50	9	884	886	東京医学社	2018.9
先天性嚢胞性肺疾患の術前・術後管理	小児外科	前田貢作	小児外科	50	10	974	980	東京医学社	2018.10
Bronchoscopic assessments and clinical outcomes in pediatric patients with tracheomalacia and bronchomalacia.	小児外科	Okata Y, Hasegawa T, Bitoh Y, Maeda K.	Pediatr Surg Int	34	1	55	61	Springer	2018.1
Congenital tracheal stenosis: what should we look at for successful tracheoplasty?	小児外科	Yokoi A	Transl Pediatr	7	3	229	232	AME	2018.7
Pediatric ovarian dysgerminoma with highly elevated serum neuron-specific enolase	小児外科	Hayase T, Matsubara D, Maeda K, Aihara T, Morimoto A	Pediatr Int	60	10	982	983	Wiley	2018.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinical features and risk factors of bile duct perforation associated with pediatric congenital biliary dilatation.	小児外科	Fukuzawa H, Urushihara N, Miyakoshi C, Kajihara K, Kawahara I, Isono K, Samejima Y, Miura S, Uemura K, Morita K, Nakao M, Yokoi A, Fukumoto K, Yamoto M, Maeda K.	Pediatr Surg Int	34	10	1079	1086	Springer	2018.10
Experimental validation of laryngotracheal growth and recurrent laryngeal nerve preservation after partial cricotracheal resection in a growing rabbit model.	小児外科	Morita K, Maeda K, Kawahara I, Bitoh Y.	Pediatr Surg Int	34	10	1053	1058	Springer	2018.10
A new approach to risk stratification using fetal MRI to predict outcomes in congenital diaphragmatic hernia: the preliminary retrospective single institutional study.	小児外科	Yokoi A, Ohfuji S, Yoshimoto S, Sugioaka Y, Akasaka Y, Funakoshi T.	Transl Pediatr	7	4	356	361	AME	2018.10
Clinical outcomes after tracheoplasty in patients with congenital tracheal stenosis in 1997-2014.	小児外科	Yokoi A, Hasegawa T, Oshima Y, Higashide S, Nakatani E, Kaneda H, Kawamoto A, Nishijima E.	J Pediatr Surg	53	11	2140	2144	Elsevier	2018.11
位相差X線CTを用いた大動脈縮窄症における動脈管組織進展の三次元的評価	心臓血管外科	岩城隆馬、松久弘典、 大嶋義博	日本心臓血管外科学会雑誌	47	4 (Proceedings)	22	28	日本心臓血管外科学会	2018.1.1
小児テント上脳室内腫瘍の外科治療	脳神経外科	小山淳二、河村淳史、 阿久津宣行、 長嶋達也	小児の脳神経	43	1	6	13	一般社団法人日本小児神経外科学会	2018.3

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Endoscopic third ventriculostomy for hydrocephalus in osteopetrosis: a case report and review of the literature.	脳神経外科	Akutsu N, Koyama J, Kawamura A, Nagashima T, Taniguchi M, Kohmura E.	Childs Nerv Syst.	34	5	991	994	Springer	2018.5
小児もやもや病に対する間接血行再建術	脳神経外科	阿久津宣行、安積麻衣、小山淳二、河村淳史、長嶋達也、甲村英二	小児の脳神経	43	3	350	354	日本小児神経外科学会	2018.9
小児脳脊髄腫瘍集学的治療における陽子線治療（原著論文）	脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、副島俊典、出水祐介、長嶋達也	小児の脳神経	43	3	379	384	日本小児神経外科学会	2018.9
先天性内反足と垂直距骨—治療法の変遷と Ponseti 法—	整形外科	薩摩眞一	日整会誌	92	1	24	30	日本整形外科学会	2018
先天性内反足	整形外科	薩摩眞一	日本義肢装具学会誌	34	3	181	185	日本義肢装具学会	2018
エビデンスから考える成人への橋渡しとしての小児股関節治療	整形外科	小林大介	関節外科	37	10	115	122	メデイカルビュー	2018.10
大腿骨頭すべり症症例登録	整形外科	北野利夫、一戸貞文、稲葉裕、大谷卓也、尾崎敏文、小林大介、西須孝、高橋裕子、服部義、星野裕信	Bone Joint Nerve	30	8	387	393	アークメディア	2018
Navigated total knee arthroplasty for osteoarthritis with extra-articular deformity.	整形外科	谷和泉、中野直樹、高山孝治、石田一成、黒田良祐、黒坂昌弘	Acta Ortopedica Brasileira	26	3	170	174	Atha Editora	2018.1
骨端症	整形外科	坂田亮介	小児内科	50	増刊	880	881	東京医学社	2018.11
下肢変形矯正術後に遷延治療をきたした骨形成不全症の1例	整形外科	坂田亮介	近畿小児整形外科	30		4	7	近畿小児整形外科懇話会	2018.1
9歳で初診となり手術加療を行ったDDHの1例	整形外科	衣笠真紀	近畿小児整形外科	30		28	31	近畿小児整形外科懇話会	2018.1.25
無舌症児の構音獲得に関する一考察	リハビリテーション科	住友亜佐子、阪本浩一、波多野博頭、田中義之、大津雅秀	音声言語医学	59	3	251	259	日本音声言語医学会	2018.7

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
エキスパートに学ぶ 角膜輪部デルモイドの手術適応は どの様に考えたらよいですか？	眼科	野村耕治	眼科手術	31	3	414	415	メディカル薬出版	2018.7.30
後部尿道弁に対する経尿道的切開術	泌尿器科	杉多良文、武中良大、 大饗政嗣	臨床泌尿器科増刊号 泌尿器 内視鏡手術のすべて	72	4	250	253	医学書院	2018.4.5
Gentalmobilization of intravesical phall us associated with covered cloacal extrophy : a case report	泌尿器科	Akiko Haruna, Eigi Hisamatsu, Taketoshi Nara, Yoshifumi Sugita	Urology	115		171	173	Urology	2018.5.1
〈小児手術〉膀胱尿管逆流に対す る手術 (Cohen法)	泌尿器科	杉多良文	臨床泌尿器科 8	72	9	742	745	医学書院	2018.8.20
精巢固定術：位置に応じた開放手 術－Jones法からBianchi法まで	泌尿器科	杉多良文	臨床泌尿器科 9	72	10	796	801	医学書院	2018.9.20
術前からの多職種連携が有用であっ た新生児娩出直後手術の麻酔経験	麻酔科	舟井優介、 松波小百合、 池島典之、大西広泰、 鈴木毅、香川哲郎	Cardiovascular Anesthesia	22	1	73	77	日本心臓血管麻酔学会	2018
小児の整形外科的先天異常の麻酔 導入前の評価と準備を十分に行 い、JSA気道管理ガイドラインに 沿って対応する	麻酔科	長谷川達也、 香川哲郎	LISA	25	10	1050	1052	メディカルサイエンスイ ンターナショナル	2018.10
アジア小児麻酔学会	麻酔科	秋泉春樹、藤原孝志、 香川哲郎	臨床麻酔	42	10	1403	1404	真興交易	2018.10
新生児遷延性肺高血圧症 (PPHN) 診断・治療・予後改善 のポイント	新生児科	横田知之	Neonatal Care 【NICU最前線 検査から治療・ ケアまで 新生児の循環器疾患 予後改善のプラスワン!】	31	2	26	32	メディカ出版	2018.2
平成28年(2016年)「兵庫県周産 期医療システム母体紹介・搬送情 報提供書」の集計結果	産科	船越徹	兵庫県産科婦人科学会報		58			兵庫県産科婦人科学会	2018.3
押さえておきたい臨床・画像分類： 先天性食道閉鎖症	放射線診断科	赤坂好宣	画像診断増刊号	38	11	A202	A205	秀潤社	2018.9.10
押さえておきたい臨床・画像分類： 総排泄腔遺残	放射線診断科	赤坂好宣	画像診断増刊号	38	11	A254	A257	秀潤社	2018.9.10
Successful use of automated external defibrillation in a 1-month-old infant.	小児集中治療科	Kazunori Aoki, Hiroshi Kurosawa	Pediatrics International	60	7	670	672	Japan Pediatric Society	2018.7

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Characterization of pediatric in-hospital cardiopulmonary resuscitation quality metrics across an international resuscitation collaborative	小児集中治療科	Niles ED, Duval-Arnould J, Kurosawa H, et al.	Pediatr Crit Care Med	19	5	421	432	Society of Critical Care Medicine	2018.5
Ultrasonographic Assessment of Vocal Cord Paralysis in an Infant after Cardiovascular Surgery	小児集中治療科	Tomomi Hasegawa, Minae Masui, Hiroshi Kurosawa	Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery	2	2	101	103	Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery	2018.7
D-22) Large B-cell lymphoma with IRF4 rearrangement の 1 例	1)病理診断科 2)血液腫瘍科 3)放射線科 4)市立福知山市民病院病理診断科	吉田牧子 1)、石田敏章 2)、太原鉄平 2)、長谷川大一郎 2)、小坂嘉之 2)、杉岡勇典 3)、赤坂好宣 3)、永田昭博 4)	日本小児血液・がん学会雑誌	55	1	105	105	日本小児血液・がん学会	2018.6.19
認定看護分野Q&A：摂食嚥下障害看護編 小児の摂食嚥下障害	看護部 6西病棟	森本葉子	看護技術	64	9月	91	92	メジカルフレンド社	2018.9.20
小児外科疾患をもつ子どもの家族の再構築を支えるためのケアマネジメント	看護部 外来	浅井桃子	小児看護	41	13	1677	1683	へるす出版	2018.12
保存版 どこ見る？ どう伝える？ 環境整備ICTマニユアル 第5章 8 小児科のプレイルーム	看護部	鳴滝由佳	INFECTION CONTROL		夏季増刊	175	179	メデイカ出版	2018.8
保存版 どこ見る？ どう伝える？ 環境整備ICTマニユアル 第6章 3 NICU	看護部	鳴滝由佳	INFECTION CONTROL		夏季増刊	211	216	メデイカ出版	2018.8

3) 学会発表

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
心収縮低下を来した川崎病の2症例	救急総合診療科 (総診)	村田剛士、津田雅世、倉橋幸也、張慶哲、藤田杏子、上村克徳、田中亮二郎、田中敏克、黒澤寛史	第31回	近畿小児科学会	大阪市	2018/3/11
ダブトマイシンを用いて治療を行ったMRSA骨髄炎の一例	救急総合診療科 (総診)、感染症科	田中俊光、倉橋幸也、藤田杏子、津田雅世、上村克徳、田中亮二郎、伊藤雄介、笠井正志	第31回	近畿小児科学会	大阪市	2018/3/11
壊血病による股関節内および腸腰筋血腫から重度の貧血と歩行障害を呈した自閉症児	救急総合診療科 (総診)	土井圭、張慶哲、田中俊光、倉橋幸也、藤原隆弘、齋藤敦郎、藤田杏子、津田雅世、長谷川大一郎、上村克徳、田中亮二郎	第120回	小児科学会	福岡市	2018/4/20
歯ブラシ外相を契機に深頸部膿瘍に至った2歳女児	救急総合診療科 (総診)	近藤重耶、張慶哲、伊藤雄介、山口善道、笠井正志、黒澤寛史、上村克徳、田中亮二郎、上谷良行	第120回	小児科学会	福岡市	2018/4/21
自家用車の排気不良による一酸化炭素中毒の家族発症例	救急総合診療科 (総診)	倉橋幸也、張慶哲、藤田杏子、津田雅世、林卓郎、上村克徳、田中亮二郎	第120回	小児科学会	福岡市	2018/4/21
フロー四徴症術後に合併した特発性肺へモジゲロースの一例	救急総合診療科 (総診)	村田剛士、津田雅世、倉橋幸也、張慶哲、藤田杏子、上村克徳、田中亮二郎、三木康陽、田中敏克、黒澤寛史	第120回	小児科学会	福岡市	2018/4/21
会陰部熱感に対し感染制御目的に人工肛門増設術を行った一例	救急総合診療科 (総診)	西村明紘、張慶哲、倉橋幸也、藤田杏子、津田雅世、上村克徳、田中亮二郎、伊藤雄介、笠井正志、黒澤寛史	第120回	小児科学会	福岡市	2018/4/22
当院における在宅支援病棟の取り組み	救急総合診療科 (総診)、神経内科	藤田杏子、張慶哲、倉橋幸也、津田雅世、上村克徳、丸山あずさ、田中亮二郎、宅見晃子、倉橋幸也	第274回	兵庫県地方会	神戸市	2018/5/19
川崎病における薬物治療の進歩 ～当院の治療状況を含めて～	救急総合診療科 (総診)	倉橋幸也		Pediatric Biologics Meeting	神戸市	2018/5/24
当院における在宅支援病棟の取り組み	救急総合診療科 (総診)	藤田杏子、張慶哲、倉橋幸也、津田雅世、上村克徳、丸山あずさ、田中亮二郎、宅見晃子、上谷良行	第60回	日本小児神経学会	千葉市	2018/6/1
小児の急性期体液電解質管理の考え方 ～経口補水液療法から経静脈輸液療法まで～	救急総合診療科 (総診)	上村克徳	第32回	日本小児救急医学会	茨城県	2018/6/2
こども病院における総合診療科の役割と課題 ～新体制となった1年を振り返って～	救急総合診療科 (総診)	津田雅世、張慶哲、倉橋幸也、藤田杏子、津田雅世、上村克徳、宅見晃子、田中亮二郎	第30回	県立病院学会	神戸市	2018/9/8
小児の術後管理と医原性低ナトリウム血症	救急総合診療科 (総診)	上村克徳		小児麻酔学会	神戸市	2018/10/20
水泳を契機に発症したアナフィラキシーショックで診断に至った全身型寒冷麻疹の一例	救急総合診療科 (総診)、アレルギー科	倉橋幸也、張慶哲、藤田杏子、津田雅世、林卓郎、上村克徳、田中亮二郎	第55回	日本小児アレルギー学会	岡山市	2018/10/21

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
手術組織検体から直接のPCR検査で早期にBCG骨髄炎の診断に至った一例	救急総合診療科 (総診)、アレルギー科、整形外科、東京医科大学微生物講座	三星アカリ、伊藤雄介、張慶哲、衣笠真紀、笠井正志、上村克徳、大楠清文、田中亮二郎	第50回	日本小児感染症学会	福岡市	2018/11/10
第8回教育セミナー 症例1 ブドウ球菌感染症	救急総合診療科 (総診)	張慶哲	第50回	日本小児感染症学会	福岡市	2018/11/10
Tracheostomy-associated respiratory tract infection (TARTI) at Children's hospital in Japan	Division of Emergency and Hospital Medicine, Department of Pediatrics, Division of Infectious Diseases, Department of Pediatrics	Yoshiaki Cho, Masashi Kasai, Katsunori Kamimura, Masayo Tsuda, Kyoko Fujita, Yukiya Kurahashi, Yusuke Ito, Ryojiro Tanaka	第9回	ACPID	福岡市	2018/11/10
Osteomyelitis pubis of a rugby player diagnosed 2 months after onset	Division of Emergency and Hospital Medicine, Department of Pediatrics, Division of Infectious Diseases, Department of Pediatrics	Yukiya Kurahashi, Yoshiaki Cho, Kyoko Fujita, Masayo Tsuda, Yusuke Ito, Masashi Kasai, Katsunori Kamimura, Ryojiro Tanaka	第9回	ACPID	福岡市	2018/11/10
こども病院総合診療科における小児科専門医研修	救急総合診療科 (総診)	上村克徳	第18回	日本小児医学教育研究会	大阪市	2018/12/8
固形物摂取後に上気道狭窄をきたし、誤嚥との鑑別を要した熱傷性喉頭蓋炎の男児例	救急総合診療科 (救急)	稲熊洋祐、松井鋭、楠元真由美、梶原伸介、林卓郎、山口義道、神納幸治、制野勇介、黒澤寛史、中川元子、上谷良行	第121回	日本小児科学会学術集会	福岡	2018.4.20-4.22
小児傷病者を対象にした病院前医療と救急医療弱点を知るー小児病院救急外来から転送症例を検討する	救急総合診療科 (救急)	林卓郎、上谷良行、田中亮二郎、山口義道、楠元真由美、松井鋭、谷澤直子	第21回	日本臨床救急医学会総会・学術集会	名古屋	2018.5.31-6.2
多施設間連携によって救命し得た重症腎損傷の1例	救急総合診療科 (救急)	梶原伸介、上谷良行、田中亮二郎、山口義道、楠元真由美、松井鋭、谷澤直子、有吉孝一、畑菜摘	第32回	日本小児救急医学会学術集会	つくば市	2018.6.2-6.3
小児救命医療の最適化に向けて 小児傷病者を対象とした病院前救護の課題	救急総合診療科 (救急)	六車崇、新田雅彦、林卓郎、榎本有希、松本正太郎、賀来典之、間田千晶、塚原紘平、安達晋吾、守谷俊	第46回	日本救急医学会総会学術集会	横浜市	2018.11.20

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
1. Products and useful tools in the emergency room. Made in Japan? 2. Minor Trauma in Child ~ What's the matter. 3. Symposium Present and Future of Emergency Medicine in Japan.	救急総合診療科 (救急)	林卓郎	7th	World Congress in Emergency Medicine Mexico.	Mazathian	
Autoimmune regulator(AIRE)遺伝子のヘテロ接合性ミスセンス変異に起因する副甲狀腺機能低下症の1例	代謝内分泌科	尾崎佳代、奥野美佐子、郷司克己	第91回	日本内分泌学会学術総会	宮崎市	2018.4.26-28
脳腫瘍による器質性中枢性思春期早発症の臨床像	代謝内分泌科	奥野美佐子、尾崎佳代、郷司克己	第52回	日本小児内分泌学会学術集会	東京都	2018.10.4-6
リウマチ性疾患の疫学2 本邦若年性特発性関節炎の疫学的特徴 全国小児リウマチ中核施設の調査結果・診断時	リウマチ科	岡本奈美、謝花幸祐、梅林宏明、岩田直美、大倉有加、久保田知洋、清水正樹、中岸保夫、西村謙一、水田麻雄、八代将登、八角高裕、安村純子、脇口宏之、森雅亮	第62回	日本リウマチ学会総会・学術集会	東京都	2018.4.26
リウマチ性疾患の疫学2 本邦若年性特発性関節炎の疫学的特徴 全国小児リウマチ中核施設の調査結果・予後	リウマチ科	梅林宏明、岡本奈美、謝花幸祐、岩田直美、大倉有加、久保田知洋、清水正樹、中岸保夫、西村謙一、水田麻雄、八代将登、八角高裕、安村純子、脇口宏之、森雅亮	第62回	日本リウマチ学会総会・学術集会	東京都	2018.4.26
小児の膠原病および若年性特発性関節炎 本邦若年性特発性関節炎の疫学的特徴 全国小児リウマチ中核施設の調査結果・最終観察時	リウマチ科	謝花幸祐、岡本奈美、梅林宏明、岩田直美、久保田知洋、水田麻雄、中岸保夫、西村謙一、大倉有加、清水正樹、脇口宏之、八代将登、八角高裕、安村純子、森雅亮	第62回	日本リウマチ学会総会・学術集会	東京都	2018.4.26
リウマチ性疾患と感染症2:B型肝炎・HTLV1・インフルエンザ・ニューモシトラス 本邦JIA患者におけるインフルエンザ感染及びワクチン接種に関する現状調査 全国小児リウマチ中核施設の調査結果	リウマチ科	久保田知洋、中岸保夫、岡本奈美、梅林宏明、岩田直美、大倉有加、清水正樹、謝花幸祐、西村謙一、水田麻雄、八代将登、八角高裕、安村純子、脇口宏之、森雅亮	第62回	日本リウマチ学会総会・学術集会	東京都	2018.4.26
全身型若年性特発性関節炎に合併したマクロファージ活性化症候群における活動性指標の経時的変化	リウマチ科	清水正樹、水田麻雄、岩田直美、大倉有加、金城紀子、八角高裕、梅林宏明、久保田知洋、中岸保夫、西村謙一、八代将登、安村純子、山崎和子、脇口宏之、岡本奈美、森雅亮	第62回	日本リウマチ学会総会・学術集会	東京都	2018.4.26
全身型若年性特発性関節炎に合併したマクロファージ活性化症候群における診断バイオマーカーの比較検討 血清 neopterin 値の有用性	リウマチ科	高桑麻衣子、清水正樹、水田麻雄、井上なつみ、谷内江昭宏、中岸保夫	第28回	日本小児リウマチ学会総会・学術集会	東京都	2018.10.26
JIA患者におけるインフルエンザ罹患時の発熱期間と治療背景に関する検討	リウマチ科	久保田知洋、中岸保夫、岡本奈美、梅林宏明、岩田直美、大倉有加、清水正樹、村田卓士、謝花幸祐、西村謙一、水田麻雄、八代将登、八角高裕、安村純子、脇口宏之、森雅亮	第28回	日本小児リウマチ学会総会・学術集会	東京都	2018.10.26
マクロファージ活性化症候群における基礎疾患による血清サイトカインプロファイルの比較検討	リウマチ科	伊良部仁、清水正樹、水田麻雄、井上なつみ、宇佐美雅章、高桑麻衣子、作村直人、中岸保夫、谷内江昭宏	第28回	日本小児リウマチ学会総会・学術集会	東京都	2018.10.26
本邦小児における赤血球中ポリグルタミル化メトトレキサートの有用性及び至適用法量の検討	リウマチ科	岡本奈美、中岸保夫、西村謙一、清水正樹、大倉有加、安村純子、脇口宏之、謝花幸祐、水田麻雄、森雅亮	第28回	日本小児リウマチ学会総会・学術集会	東京都	2018.10.26

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
関節型若年性特発性関節炎における病態評価と病勢マーカーとしての血清sCD26、sCD30値の臨床的有用性	リウマチ科	水田麻雄、清水正樹、井上なつみ、作村直人、伊良部仁、高桑麻衣子、笠井和子、中岸保夫、谷内江昭宏	第28回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	東京都	2018.10.26
アバタセプトで治療中の難治性全身型若年性特発性関節炎の1例	リウマチ科	中岸保夫、浜田佳奈、笠井和子	第28回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	東京都	2018.10.26
腔水症のため心臓および腹部ドレナージを要した小児全身性エリテマトーデスの一例	リウマチ科	浜田佳奈、中岸保夫、笠井和子	第28回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	東京都	2018.10.26
Methotrexate Polyglutamates As an Evaluation Tool for Appropriate Dosage of Oral Methotrexate Administration in Pediatric Patients	リウマチ科	Nami Okamoto, Kosuke Shabana, Yasuo Nakagishi, Kenichi Nishimura, Mao Mizuta, Yuka Okura, Masaki Shimizu, Hiroyuki Wakiguchi, Junko Yasumura and Masaaki Mori		2018 ACR/ARHP Annual Meeting	Chicago	2018.11.5
SYSTEMIC TYPE of Juvenile Idiopathic Arthritis is A RISK FACTOR of Influenza Infection -A multi-institutional questionnaire survey in JAPAN-	リウマチ科	T. Kubota, Y. Nakagishi, N. Okamoto, H. Umebayashi, K. Nishimura, N. Iwata, Y. Okura, M. Shimizu, M. Mizuta, K. Shabana, M. Yashiro, T. Yasumi, J. Yasumura, H. Wakiguchi, N. Kinjo, S. Takeji, M. Mori		25th European Pediatric Rheumatology Congress	Lisbon, Portugal	2018.9.5
全身型JIA	リウマチ科	中岸保夫	第6回	小児リウマチ研修会	東京都	2018.2.17
食物アレルギー患児を持つ両親の大規模災害に対する意識調査—阪神淡路大震災から20年経過した神戸市から	アレルギー科	平瀬敏志、岡藤郁夫、笠井和子、田中裕也、田中由起子、松本和徳、鶴田悟	第67回	日本アレルギー学会	千葉	2018.6.22
シャブーンによる重篤な接触性皮膚炎のため、脱毛と微熱・体重減少をきたした1女児例	アレルギー科	笠井和子	第67回	日本アレルギー学会	千葉	2018.6.22
屋外プールでアナフィライキシーショックを呈した寒冷蕁麻疹の1小児例	アレルギー科	倉橋幸也、笠井和子	第55回	日本小児アレルギー学会学術大会	岡山	2018.10.21
感染対策のために抗IL-4/13モノクローナル抗体を導入した重症アトピー性皮膚炎の一例	アレルギー科	浜田佳奈、笠井和子	第275回	日本小児科学会兵庫県 地方会	姫路市	2018.9.26
痛みへの過敏反応と病識の薄さに対して工夫を行った難治性喘息へのオマリズマブ導入症例	アレルギー科	笠井和子	第1回	小児重症喘息ネット ワーク研修会	神戸市	2018.6.13
食物アレルギーについて	アレルギー科	笠井和子		平成30年度 公益社団法人兵庫県栄養士会 生涯教育研修会	神戸市	2018.8.25
学校等におけるアレルギー疾患の児童生徒への対応	アレルギー科	笠井和子		明石市教育委員会における研修会	明石市	2018.10.5
小児のアレルギー疾患対応について	アレルギー科	笠井和子		神戸市養護教諭研究会 幼稚園部研修会	神戸市	2018.12.14
頭部MRIで異常を指摘されず眼底所見からTay-Sachs病の診断に至った1歳男児例	神経内科	石田悠介、山口宏、豊嶋大作、丸山あずさ、森貞直哉、成田綾、永瀬裕朗、飯島一誠	第63回	日本小児神経学会近畿 地方会	大阪市	2018.3.3
複雑型熱性けいれんの好発時間帯とその重症度	神経内科	山口宏、永瀬裕朗、石田悠介、豊嶋大作、丸山あずさ、雷岡和美、田中司、西山将広、藤田杏子、黒澤寛史、高田哲、上谷良行、飯島一誠	第121回	日本小児科学会学術集会	福岡市	2018.4.20-4.22

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
急性散在性脳脊髄炎の髄液所見の検討	神経内科	西山将広、永井正志、坊亮輔、富岡和美、前山花織、田中司、栗野宏之、永瀬裕朗、佐々木香織、親里嘉展、中川卓、高見勇一、山口宏、石田悠介、豊嶋大作、丸山あずさ、飯島一誠	第274回	日本小児科学会兵庫県 地方会	神戸市	2018.5.19
小児けいれん重積治療ガイドライン2017をどう生かすか-診療現場からの意見、異見-けいれん重積治療における持続脳波モニタリング	神経内科	丸山あずさ、永瀬裕朗	第60回	日本小児神経学会学術 集会	千葉市	2018.5.31-6.2
小児救急外来における非けいれん性発作を示す小児患者の臨床的特徴	神経内科	山口宏、石田悠介、富岡和美、田中司、西山将広、豊嶋大作、丸山あずさ、永瀬裕朗、高田哲、上谷良行、飯島一誠	第60回	日本小児神経学会学術 集会	千葉市	2018.5.31-6.2
サイトカインストームによる急性脳症が予測される小児に対するステロイドパルス療法の有効性	神経内科	石田悠介、山口宏、富岡和美、田中司、西山将広、藤田杏子、豊嶋大作、丸山あずさ、永瀬裕朗、黒澤寛史、上谷良行、高田哲、飯島一誠	第60回	日本小児神経学会学術 集会	千葉市	2018.5.31-6.2
発熱に伴う難治性けいれん重積状態に対するバルビツレート昏睡療法の最適な鎮静深度に関する多施設共同研究	神経内科	富岡和美、永瀬裕朗、田中司、西山将広、起塚庸、高見勇一、山口宏、石田悠介、豊嶋大作、丸山あずさ、黒澤寛史、藤田杏子、上谷良行、高田哲、飯島一誠	第60回	日本小児神経学会学術 集会	千葉市	2018.5.31-6.2
複雑型熱性けいれんの急性期の臨床経過の特徴	神経内科	田中司、永瀬裕朗、富岡和美、西山将広、山口宏、石田悠介、豊嶋大作、丸山あずさ、黒澤寛史、藤田杏子、上谷良行、高田哲、飯島一誠	第60回	日本小児神経学会学術 集会	千葉市	2018.5.31-6.2
急性散在性脳脊髄炎24例における発症から軽快までの経時的な臨床経過の特徴	神経内科	西山将広、永瀬裕朗、富岡和美、田中司、佐々木香織、親里嘉展、中川卓、高見勇一、山口宏、石田悠介、豊嶋大作、丸山あずさ、高田哲、飯島一誠	第60回	日本小児神経学会学術 集会	千葉市	2018.5.31-6.2
結節性硬化症の定期検査により早期発見に至った無症候性巨細胞性星細胞腫(SEGA)の一	神経内科	豊嶋大作、徳元翔一、山口宏、丸山あずさ、永瀬裕朗	第275回	日本小児科学会兵庫 地方会	姫路市	2018.9.29
強直間代発作でてんかんと診断し、問診から欠伸発作重積状態が疑われた一例	神経内科	徳元翔一、山口宏、豊嶋大作、丸山あずさ、岡本賢治、永瀬裕朗、飯島一誠	第64回	日本小児神経学会近畿 地方会	神戸市	2018.10.20
有熱時痙攣発症から6時間で心停止および平坦脳波に至った劇症型急性脳症	神経内科	山口宏、徳元翔一、豊嶋大作、丸山あずさ、永瀬裕朗、飯島一誠	第64回	日本小児神経学会近畿 地方会	神戸市	2018.10.20
有熱性けいれん重積状態の小児における非けいれん性発作	神経内科	丸山あずさ、徳元翔一、山口宏、石田悠介、田中司、西山将広、豊嶋大作、永瀬裕朗	第52回	日本てんかん学会学術 集会	横浜市	2018.10.25-10.27
一過性意識消失発作を主訴に小児神経外来を受診した101例の検討	神経内科	豊嶋大作、徳元翔一、山口宏、石田悠介、田中司、小川慎治、田中敏克、丸山あずさ、永瀬裕朗	第52回	日本てんかん学会学術 集会	横浜市	2018.10.25-10.27
三次診療施設における小児のけいれん重積治療と予後	神経内科	永瀬裕朗、丸山あずさ	第52回	日本てんかん学会学術 集会	横浜市	2018.10.25-10.27

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児におけるカルバマゼピンとレベチラセタムによる血清脂質および甲状腺ホルモンの変化	神経内科	西山将広、高見勇一、石田悠介、富岡和美、田中司、永瀬裕朗、中川卓、徳元翔一、山口宏、豊嶋大作、丸山あずさ、飯島一誠	第52回	日本てんかん学会学術集会	横浜市	2018.10.25-10.27
低ナトリウム血症による痙攣重積後に頭部MRIで両側前頭葉・頭頂葉深部白質に異常信号を認め、発症2年後に消退傾向を示した幼児	神経内科	山口宏、徳元翔一、豊嶋大作、丸山あずさ	第13回	小児神経放射線研究会	京都市	2018.10.13
一過性意識消失発作を主訴に小児神経外来を受診した101例の検討-小児循環器科との連携-	神経内科	豊嶋大作	第6回	神戸てんかん治療連携の会	神戸市	2018.11.15
同種移植後42日目における血小板減少の意義:危険因子と予後への影響	血液・腫瘍内科	中村さやか、岸本健治、藤原隆弘、太原鉄平、山本暢之、田村彰広、斎藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第40回	日本造血細胞移植学会総会	札幌	2018.2.1
CBFA2T3-GLIS2陽性急性巨核芽球性白血病の女児例	血液・腫瘍内科	田村彰広、中村さやか、藤原隆弘、太原鉄平、神前愛子、斎藤敦郎、岸本健治、石田敏章、松井啓治、中町祐司、長谷川大一郎、嶋田明、小阪嘉之	第60回	神戸血液病研究会	神戸市	2018.2.10
兵庫県立がん・生殖ネットワークにおける小児がん患者に対する卵巣組織保存の試み	血液・腫瘍内科	中村さやか、岸本健治、藤原隆弘、太原鉄平、山本暢之、田村彰広、斎藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、藤本裕、柴原浩章、小阪嘉之	第40回	近畿小児血液がん研究会	大阪	2018.2.17
Reduced-intensity conditioning transplantation for X-linked lymphoproliferative syndrome type 1	血液・腫瘍内科	田村彰広、植村優、山本暢之、中村さやか、藤原隆弘、太原鉄平、斎藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、廣木暹、今井耕輔、森尾友宏、小阪嘉之、金兼弘和	第40回	造血細胞移植学会	札幌	2018.3.3
難治性EBV-HLHに対して非寛解状態で緊急同種造血幹細胞移植を施行し救命しえた1例	血液・腫瘍内科	矢戸亜由美、斎藤敦郎、二野菜々子、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、黒澤寛史、坂田尚巳、今留謙一、小阪嘉之	第31回	近畿小児科学会	大阪市	2018.3.11
再発神経芽腫の臨床的検討	血液・腫瘍内科	石田敏章、太原鉄平、中村さやか、藤原隆弘、山本暢之、田村彰広、斎藤敦郎、神前愛子、岸本健治、吉田牧子、赤坂好宣、副島俊典、前田真作、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第121回	日本小児科学会学術集会	福岡	2018.4.20
小児急性白血病に対する化学療法的好中球減少期における予防的抗菌薬	血液・腫瘍内科	中村さやか、岸本健治、藤原隆弘、太原鉄平、山本暢之、田村彰広、斎藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第121回	日本小児科学会学術総会	博多	2018.4.20
兵庫県立がん・生殖医療ネットワークを通じた小児がん患者における卵巣凍結保存の取り組み	血液・腫瘍内科	山本暢之、藤本裕、中谷尚子、市川貴之、二野菜々子、中村さやか、田村彰広、神前愛子、斎藤敦郎、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、柴原浩章、小阪嘉之	第274回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸市	2018.5.19
汎血球減少、呼吸窮迫を呈した乳児例	血液・腫瘍内科	市川貴之1)、石田敏章1)、中谷尚子1)、二野菜々子1)、中村さやか1)、田村彰広1)、山本暢之1)、神前愛子1)、斎藤敦郎1)、岸本健治1)、長谷川大一郎1)、河田知子2)、戸澤雄介3)、山田雅文3)、小阪嘉之1)	第34回	兵庫県小児血液腫瘍研究会	神戸市	2018.6.1

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児専門医療機関における緑膿菌菌血症の抗菌薬感受性と予後因子	血液・腫瘍内科	岸本健治、伊藤雄介、笠井正志	第92回	日本感染症学会	岡山市	2018.6.2
神戸陽子線センターとの連携による小児の陽子線治療の実際	血液・腫瘍内科	山本暢之、中谷尚子、市川貴之、二野菜々子、中村さやか、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、出水祐介、長谷川大一郎、河村淳史、鈴木毅、副島俊典、小阪嘉之	第72回	小児がんカンファレンス	大阪	2018.8.18
速やかな免疫寛容療法の開始によって良好な経過を結んだ高力価インヒビター保有血友病Aの一症例	血液・腫瘍内科	中村さやか、岸本健治、市川貴之、中谷尚子、二野菜々子、山本暢之、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之、河田知子		姫路・加古川カンファレンス	姫路市	2018.8.30
本邦の小児がん診療施設における口腔ケアについての現状調査報告	血液・腫瘍内科	山本暢之、福高啓太郎、鈴木孝二、篠田邦大、矢野道広、石田裕二、大曾根真也、加藤陽子、齋藤雄弥、佐野弘純、澤田明久、新小田雄一、森尚子	第3回	がんサポーターブレイク学会	福岡	2018.8.31
診断未確定の先天性免疫不全症疑いの2歳男児	血液・腫瘍内科	山本暢之、二野菜々子、田村彰広、中谷尚子、市川貴之、中村さやか、神前愛子、齋藤敦郎、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、今井耕輔、金兼弘和、森尾友宏、小阪嘉之	第8回	関西免疫不全症研究会	大阪	2018.9.8
ELANE 遺伝子変異を有する重症感染症を合併しない好中球減少症の1例	血液・腫瘍内科	中谷尚子1)、齋藤敦郎1)、市川貴之1)、二野菜々子1)、中村さやか1)、山本暢之1)、田村彰広1)、神前愛子1)、岸本健治1)、石田敏章1)、長谷川大一郎1)、唐川修平2)、川口浩2)、小阪嘉之1) 1)兵庫県立こども病院血液・腫瘍内科 2)広島大学病院小児科	第80回	日本血液学会学術集会	大阪	2018.10.12
経時的なqRT-PCRにより、急性GVHD出現後に初めてMRDの消失を確認したNUP98-NSD1陽性AML例	血液・腫瘍内科	山本暢之、田村彰広、長谷川大一郎、中町祐司、松本久幸、松井啓治、中谷尚子、市川貴之、二野菜々子、中村さやか、藤原隆弘、太原敦平、神前愛子、齋藤敦郎、岸本健治、石田敏章、三枝淳、西村範行、小阪嘉之	第80回	日本血液学会学術集会	大阪	2018.10.12
小児造血幹細胞移植における非典型型溶血性尿毒症症候群とエクリズマブの安全性・有効性の後方視的調査研究	血液・腫瘍内科	齋藤敦郎、小阪嘉之、長谷川大一郎、石村匡崇、百名伸之、工藤寿子、長江千愛、河崎裕英、石黒精、嶋緑倫、龍正志、大賀正一	第60回	日本小児血液・がん学会学術集会	京都市	2018.11.14
小児造血幹細胞移植後に発生した二次性甲状腺癌	血液・腫瘍内科	神前愛子、市川貴之、中谷尚子、二野菜々子、中村さやか、田村彰広、山本暢之、齋藤敦郎、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第60回	日本小児血液・がん学会学術集会	京都市	2018.11.14
BCOR-ITD陽性未分化肉腫に対する大量化学療法中、真菌血症後に皮膚病変を発生したムコール症の一例	血液・腫瘍内科	中谷尚子1)、齋藤敦郎1)、伊藤雄介2)、笠井正志2)、市川貴之1)、二野菜々子1)、中村さやか1)、山本暢之1)、田村彰広1)、神前愛子1)、岸本健治1)、石田敏章1)、長谷川大一郎1)、小阪嘉之1) 1)兵庫県立こども病院血液・腫瘍内科 2)兵庫県立こども病院感染症科	第60回	日本小児血液・がん学会学術集会	京都市	2018.11.14

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
中枢神経系転移を認めた初回再発神経芽腫の臨床的検討	血液・腫瘍内科	石田敏章、市川貴之、中谷尚子、二野菜々子、中村さやか、山本暢之、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、岸本健治、吉田牧子、河村淳史、赤坂好宣、副島俊典、長谷川大一郎、小阪嘉之	第60回	日本小児血液・がん学会学術集会	京都市	2018.11.14
小児ALL寛解導入療法後のL-アスパラギナーゼ治療相では著明な低線溶能傾向を来す	血液・腫瘍内科	Takashi Ishihara, Keiji Nogami, Satoshi Ochi, Toshiaki Ishida, Yoshiyuki Kosaka, Akihisa Sawada, Masami Inoue, Shinya Osone, Toshihiko Imamura, Hajime Hosoi, Midori Shima	第60回	日本小児血液・がん学会学術集会	京都市	2018.11.14
先天性8番染色体短腕部分欠失・重複の患者に発症した縦隔卵黄嚢腫瘍	血液・腫瘍内科	山本暢之、田村彰広、森田圭一、松久弘典、森貞直哉、中谷尚子、市川貴之、二野菜々子、中村さやか、神前愛子、齋藤敦郎、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第60回	日本小児血液・がん学会学術集会	京都市	2018.11.14
AYA世代ALLの寛解導入療法中に発症した脳静脈血栓症	血液・腫瘍内科	山本暢之、二野菜々子、田村彰広、中谷尚子、市川貴之、中村さやか、神前愛子、齋藤敦郎、岸本健治、石田敏章、米谷昇、石川隆之、石原卓、萩原健一、野上恵嗣、嶋緑倫、長谷川大一郎、小阪嘉之	第60回	日本小児血液・がん学会学術集会	京都市	2018.11.14
同種移植後1カ月以内に発症する高血圧の検討：臨床像と危険因子	血液・腫瘍内科	中村さやか、岸本健治、市川貴之、中谷尚子、山本暢之、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第60回	日本小児血液・がん学会学術集会	京都市	2018.11.14
汎血球減少、呼吸窮迫を呈した先天性葉酸吸収不全症の一例	血液・腫瘍内科	市川貴之1)、石田敏章1)、中谷尚子1)、二野菜々子1)、中村さやか1)、田村彰広1)、山本暢之1)、神前愛子1)、齋藤敦郎1)、岸本健治1)、長谷川大一郎1)、河田知子2)、戸澤雄介3)、山田雅文3)、小阪嘉之1)	第60回	日本小児血液・がん学会学術集会	京都市	2018.11.14
肝芽腫における免疫組織学的予後予測マーカーの解析	血液・腫瘍内科	田村彰広、吉田牧子、山本暢之、二野菜々子、市川貴之、中谷尚子、中村さやか、齋藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、福澤宏明、横井暁子、前田眞作、長谷川大一郎、小阪嘉之	第60回	日本小児血液・がん学会学術集会	京都市	2018.11.15
Development of a palliative care team in a pediatric referral center	血液・腫瘍内科	Kenji Kishimoto, Noniko Sekiguchi, Noriyuki Ikejima, Aiko Kozaki, Kohei Norimatsu, Miu Fujii, Yuki Tsukada, Fumi Nakatani, Kazumi Ozawa, Daichiro Hasegawa, Atsufumi Kawamura, Yoshiyuki Kosaka	第60回	日本小児血液・がん学会学術集会	京都市	2018.11.15
Programmed cell death 1(PD-1) and programmed cell death ligand 1 (PD-L1) expression patterns in Ewing and Ewing-like sarcoma	血液・腫瘍内科	田村彰広、吉田牧子、山本暢之、二野菜々子、市川貴之、中谷尚子、中村さやか、齋藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第50回	国際小児がん学会 (SIOP)	京都	2018.11.17
Low-dose azacitidine maintenance therapy post allogeneic stem cell transplantation for high-risk pediatric acute myeloid leukemia	血液・腫瘍内科	田村彰広、石田敏章、齋藤敦郎、横井健人、榎村優、二野菜々子、中村さやか、神前愛子、岸本健治、長谷川大一郎、小阪嘉之	第50回	国際小児がん学会 (SIOP)	京都	2018.11.17

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Paranasal sinusitis at diagnosis predicts the development of invasive fungal disease in children and adolescents receiving chemotherapy	血液・腫瘍内科	Kenji Kishimoto, Ryoji Kobayashi, Daiki Hori, Hirozumi Sano, Daisuke Suzuki, Kunihiko Kobayashi	第50回	Congress of the International Society of Paediatric Oncology	京都市	2018.11.18
同胞ドナー・レシピエント間の大きな体重差を安全に克服したフィブリンゲラスチムを用いた末梢血幹細胞採取	血液・腫瘍内科	中村さやか、岸本健治、市川貴之、中谷尚子、二野菜々子、山本暢之、田村彰広、斎藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第5回	兵庫県小児がん治療講演会	神戸市	2018.11.22
Coagulation and Fibrinolysis Imbalance Demonstrated By Novel Simultaneous Thrombin and Plasmin Generation Assay during L-Asparaginase Treatment Phase of Induction Therapy in Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia	血液・腫瘍内科	Takashi Ishihara, Keiji Nogami, Satoshi Ochi, Toshiaki Ishida, Yoshiyuki Kosaka, Akihisa Sawada, Masami Inoue, Shinya Ozone, Toshihiko Imamura, Hajime Hosoi and Midori Shima	第60回	American Society of Hematology annual meeting	San Diego	2018.12.1
The Prognostic Value of TP53 Mutations Depends on Clinical Backgrounds in Pediatric Patients with Acute Lymphoblastic Leukemia	血液・腫瘍内科	Hiroo Ueno, Kenichi Yoshida, Yusuke Shiozawa, Yasuhito Nannya, Yuka Iijima- Yamashita, Nobutaka Kiyokawa, Yuichi Shiraiishi, Kenichi Chiba, Hiroko Tanaka, Tomoya Isobe, Masafumi Seki, Shunsuke Kimura, Hideki Makishima, Nobuyuki Kakiuchi, Keisuke Kataoka, Tetsuichi Yoshizato, Hiroyuki Tsukamoto, Dai Nishijima, Takao Deguchi, Kentaro Ohki, Atsushi Sato, Hiroyuki Takahashi, Yoshiko Hashii, Sadao Tokimasa, Junichi Hara, Yoshiyuki Kosaka, Koji Kato, Takeshi Inukai, Junko Takita, Toshihiko Imamura, Satoru Miyano, Atsushi Manabe, Keizo Horibe, Seishi Ogawa and Masashi Sanada	第60回	American Society of Hematology annual meeting	San Diego	2018.12.1
Hematopoietic Cell Transplantation for Children with Acute Megakaryoblastic Leukemia without Down Syndrome	血液・腫瘍内科	Asahito Hama, Takashi Taga, Daisuke Tomizawa, Hideki Muramatsu, Daichiro Hasegawa, Souichi Adachi, Nao Yoshida, Maiko Noguchi, Masami Inoue, Keiko Okada, Katsuyoshi Koh, Yoshiko Atsuta and Hiroyuki Ishida	第60回	American Society of Hematology annual meeting	San Diego	2018.12.1

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Clinical Feature and Genetic Alterations in Myeloid/ Natural Killer (NK) Cell Precursor Acute Leukemia and Myeloid/NK Cell Acute Leukemia	血液・腫瘍内科	Akira Nishimura, Kazuaki Yokoyama, Chika Yamagishi, Takuya Naruto, Tomohiro Morio, Akinori Kanai, Hirotaka Matsui, Naoko Higuchi, Akiko Takada, Haruna Okuno, Shoji Saito, Shuhei Karakawa, Shogo Kobayashi, Hideki Sano, Takashi Koike, Daisuke Hasegawa, Hiroyuki Fujisaki, Daichiro Hasegawa, Kazutoshi Koike, Atsushi Ogawa, Akitoshi Kinoshita, Norio Shiba, Mizuka Miki, Hideki Nakayama, Yozo Nakazawa, Toshihiko Imamura, Takashi Taga, Souichi Adachi, Katsuyoshi Koh, Atsushi Manabe, Tomohiko Taki, Yasushi Ishida, Arinobu Tojo and Masatoshi Takagi	第60回	American Society of Hematology annual meeting	San Diego	2018.12.1
フォントーン型手術後患者の妊娠出産管理戦略	循環器内科	城戸佐知子, 亀井直哉, 田中敏克, 三木康暢, 松岡道生, 小川禎治, 富永健太	第20回	日本成人先天性心疾患 学会	東京	2018.1.27-28
18歳以上の症例に施行したカテーテル治療の検討	循環器内科	田中敏克, 城戸佐知子, 三木康暢, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 富永健太	第20回	日本成人先天性心疾患 学会	東京	2018.1.27-28
AZUR CX 35の使用経験 —その適応と有効な使い方—	循環器内科	松岡道生, 田中敏克, 瓦野昌大, 上村和也, 谷口由記, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 富永健太, 城戸佐知子	第29回	JPIC学会	福岡	2018.1.18-20
小児循環器領域におけるCodman SPECTRAの使用 経験	循環器内科	田中敏克	第29回	JPIC学会	福岡	2018.1.18-20
Fontan術後の循環不全に対し、fenestrationのバル ーン拡大を施行した症例の検討	循環器内科	谷口由記, 田中敏克, 瓦野昌大, 上村和也, 三木康暢, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 富永健太, 城戸佐知子	第29回	JPIC学会	福岡	2018.1.18-20
長いPDAに対するカテーテル治療の工夫	循環器内科	田中敏克, 松岡道生, 瓦野昌大, 上村和也, 谷口由記, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 富永健太, 城戸佐知子	第29回	JPIC学会	福岡	2018.1.18-20
Rastelli型手術におけるhand-made valved conduitへ のバルーン拡張術	循環器内科	三木康暢, 田中敏克, 谷口由記, 瓦野昌大, 上村和也, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 富永健太, 城戸佐知子	第29回	JPIC学会	福岡	2018.1.18-20
食道異物が原因で発見された右鎖骨下動脈起始異常 の一例	循環器内科	村田剛士, 田中敏克	第273回	日本小児科学会兵庫県 地方会	西宮市	2018.2.3
妊娠中期に急速に進行した重症Ebstein奇形の一例	循環器内科	佐藤有美, 亀井直哉, 三木康暢, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 富永健太, 田中敏克, 城戸佐知子	第24回	胎児心臓病学会	埼玉	2018.2.16-17
小児のQT延長症候群、および、その他の小児不整脈 の最新の話	循環器内科	小川禎治		西宮市小児科医学会学術 講演会	西宮市	2018.3.1
Figulla Flex II 留置直後に洞機能・房室伝導能の低下 を認め留置を断念したASDの一例	循環器内科	田中敏克, 松岡道生, 瓦野昌大, 上村和也, 谷口由記, 三木康暢, 亀井直哉, 小川禎治, 富永健太, 城戸佐知子	第32回	日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会	大阪	2018.3.4

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
短腸症候群に合併した貧血・カルニチン欠乏による心不全の一例	循環器内科	三木康暢、田中敏克、瓦野昌大、上村和也、谷口由記、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第32回	日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会	大阪	2018.3.4
拘束型血行動態によると思われる高度肺高血圧を呈した心筋緻密化障害の新生児例	循環器内科	山田慶里子、上村和也、亀井直哉、田中敏克、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第274回	日本小児科学会兵庫県 地方会	神戸市	2018.5.19
当初は正常大血管関係と判断したが、その後完全大血管転位症の診断に至った一例	循環器内科	亀井直哉、佐藤有美、田中敏克、城戸佐知子	第12回	近畿胎児心臓病研究会	大阪	2018.5.27
右下肺静脈が左心房と下大静脈の両方に交通する Scimitar variant の一例	循環器内科	矢野由美、瓦野昌大、上村和也、谷口由記、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子、田中敏克	第54回	日本小児循環器学会	横浜市	2018.7.5-7
手術で離断した起始異常を伴う鎖骨下動脈から増生した体肺側副動脈に対し、上腕動脈アプローチでコイル塞栓術を施行した Fontan candidate の3例	循環器内科	瓦野昌大、田中敏克、上村和也、谷口由記、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第54回	日本小児循環器学会	横浜市	2018.7.5-7
PDA に対する Amplatzer Vascular Plug II を用いた閉鎖術	循環器内科	田中敏克、瓦野昌大、上村和也、谷口由記、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第54回	日本小児循環器学会	横浜市	2018.7.5-7
当院の術後肺静脈狭窄症例に対する計画的カテーテル治療の試み	循環器内科	松岡道生、田中敏克、瓦野昌大、上村和也、谷口由記、三木康暢、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第54回	日本小児循環器学会	横浜市	2018.7.5-7
純型動脈閉鎖の治療成績：20年の中期成績	循環器内科	三木康暢、瓦野昌大、上村和也、谷口由記、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第54回	日本小児循環器学会	横浜市	2018.7.5-7
両方向性 Glenn 手術後、TCPC へ至ることができない症例の検討	循環器内科	上村和也、瓦野昌大、谷口由記、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第54回	日本小児循環器学会	横浜市	2018.7.5-7
胎児期に circular shunt を呈した症例の検討	循環器内科	亀井直哉、佐藤有美、上村和也、瓦野昌大、谷口由記、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第54回	日本小児循環器学会	横浜市	2018.7.5-7
QT 延長症候群疑いの小児における、遺伝子検査提出基準作成の試み	循環器内科	小川禎治、上村和也、瓦野昌大、谷口由記、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第54回	日本小児循環器学会	横浜市	2018.7.5-7
心臓外病変を有する閉塞性肥大型心筋症類似疾患の3例	循環器内科	富永健太、上村和也、瓦野昌大、谷口由記、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、田中敏克、城戸佐知子	第54回	日本小児循環器学会	横浜市	2018.7.5-7
RV-PA 導管狭窄に対するバルーン拡張術後に緊急でスラント留置術を施行した HLHS の一例	循環器内科	林賢、亀井直哉、松岡道生、三木康暢、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第2回	関西小児カテーテル治 療研究会	大阪	2018.9.1
幼児期に感冒を契機として発見された大動脈縮窄症の一例	循環器内科	西村明敏、亀井直哉、林賢、久保慎吾、上村和也、三木康暢、松岡道生、小川禎治、富永健太、城戸佐知子、田中敏克	第274回	日本小児科学会兵庫 地方会	姫路市	2018.9.29
拘束型血行動態によると思われる高度肺高血圧を呈した心筋緻密化障害の新生児例	循環器内科	田中敏克、上村和也、亀井直哉、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第27回	日本小児心筋疾患学 会	東京都	2018.10.13

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Figulla Flex II 留置直後に洞機能・房室伝導能の低下を認め留置を断念したASDの一例	循環器内科	田中敏克、松岡道生、三木康暢、亀井直哉、小川慎治、富永健太、城戸佐知子	第23回	日本小児心電学会	奈良	2018.11.30-12.1
当院の胎児心エコー診断の現状	循環器内科	亀井直哉		兵庫県立こども病院 周産期医療センター 研究会	神戸市	2018.12.8
M-type phospholipase A2 receptor staining in Japanese pediatric patients with idiopathic membranous nephropathy	腎臓内科	Yosuke Inaguma, Atsutoshi Shiratori, Taku Nakagawa, Kyoko Kanda, Makiko Yoshida, Shigeo Hara, Hiroshi Kaito, Kandai Nozu, Kazumoto Iijima, Norishige Yoshikawa, Ryojiro Tanaka		ISN Frontiers meetings 2018	東京都	2018.2.22-2.25
ノンアドヒアランスにより早期に末期腎不全に至った非神経因性神経因性膀胱とIgA腎症合併女児の一例	腎臓内科	稲熊洋祐、中川拓、神田杏子、田中亮二郎	第31回	近畿小児科学会	大阪府 大阪市	2018.3.11
腎動脈ではなく末梢の腎血管狭窄による高血圧症が疑われたもやもや病の一例	腎臓内科	稲熊洋祐、中川拓、神田杏子、堀之内智子、貝藤裕史、長野智那、野津寛大、飯島一誠、田中亮二郎	第121回	日本小児科学会	福岡県 福岡市	2018.4.20-4.22
造血幹細胞移植後の急性腎障害および長期的な腎予後の検討	腎臓内科	稲熊洋祐、中川拓、神田杏子、齋藤敦郎、長谷川大一郎、小坂嘉之、田中亮二郎	第61回	日本腎臓学会	新潟県 新潟市	2018.6.8-10
当院での小児の初発ネフローゼ症候群における感染症の検討	腎臓内科	中川拓、稲熊洋祐、神田杏子、田中亮二郎	第61回	日本腎臓学会	新潟県 新潟市	2018.6.8-10
リツキマンプ投与により成長の改善が得られたネフローゼ症候群の1例	腎臓内科	稲熊洋祐、中川拓、神田杏子、田中亮二郎	第53回	日本小児腎臓病学会	福島県 福島市	2018.6.29-30
当院での小児のネフローゼ症候群における感染症の検討	腎臓内科	中川拓、稲熊洋祐、神田杏子、田中亮二郎	第53回	日本小児腎臓病学会	福島県 福島市	2018.6.29-30
胃瘻造設と腹膜カテーテル留置の同時手術後にMRSA腹膜炎をきたした幼児腎不全の1例	腎臓内科	稲熊洋祐、堀之内智子、貝藤裕史、田中亮二郎	第40回	日本小児腎不全学会	宮崎県 宮崎市	2018.11.8-9
重篤な消化器症状を呈したYersinia Pseudotuberculosis感染症の14歳女児例	腎臓内科	稲熊洋祐、堀之内智子、貝藤裕史、田中亮二郎	第275回	日本小児科学会兵庫県 地方会	兵庫県 姫路市	2018.9.29
低用量のカルペリチドの併用が浮腫に有効であったステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の1例	腎臓内科	稲熊洋祐、堀之内智子、貝藤裕史、田中亮二郎	第40回	日本小児液体液研究会	愛知県 名古屋	2018.9.15
小児AKIにおける輸液療法	腎臓内科	貝藤裕史		研修医のための輸液セミナー	愛知県 名古屋	2018.9.16
血流感染マネジメントバンドル(シンポジウム)	感染症内科	笠井正志	第29回	日本臨床微生物学会総会	岐阜市	2018.2.9
小児の血液培養の精度管理(パネルディスカッション)	感染症内科	笠井正志、日馬由貴	第29回	日本臨床微生物学会総会	岐阜市	2018.2.11
小児の血液培養の理想と現実(教育講演)	感染症内科	笠井正志	第29回	日本臨床微生物学会総会	岐阜市	2018.2.11
穏やかなASP活動で経口第3世代セフトロスポリンを減らすことができる(ポスター)	感染症内科	笠井正志	第121回	日本小児科学会総会	福岡市	2018.4.22
小児敗血症の診断と抗菌治療(シンポジウム)	感染症内科	笠井正志、伊藤雄介	第92回	日本感染症学会総会	岡山市	2018.6.2
小児敗血症のガイドライン(シンポジウム)	感染症内科	笠井正志、伊藤雄介	第32回	日本小児救急学会総会	つくば市	2018.6.3
SIG2 Happy! こどものみかた(ワークショップ)	感染症内科	笠井正志、見玉和彦、牟田広実	第28回	日本外来小児科学会総会	東京都	2018.8.25
地域に拡げられる小児感染症診療(口演)	感染症内科	伊藤雄介、笠井正志	第16回	県立病院学会	神戸市	2018.9.8

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児AMR対策(教育講演)	感染症内科	笠井正志	第439回	日本小児科学会京都地方会学術集会	京都市	2018.9.15
CICUにおける発熱の考え方とマネジメント(教育講演)	感染症内科	笠井正志、楠本耕平	第4回	日本小児循環器集中治療研究会学術集会	神戸市	2018.9.22
小児呼吸器感染症におけるパネル検査の有用性〜こどもに優しい微生物検査〜(教育セミナー)	感染症内科	笠井正志	第50回	日本小児感染症学会総会	福岡市	2018.11.10
Developing the Management bundle of Blood Stream Infection (BSI) in Japan 2018(Poster)	感染症内科	MASASHI KASAI, YOSHIKI KUSAMA	第9回	ASIAN CONGRESS OF PEDIATRIC INFECTIOUS DISEASES	福岡市	2018.11.11
小児夜間外来における抗菌薬の考え方(教育講演)	感染症内科	笠井正志	第88回	日本感染症学会西日本地方会学術集会総会	鹿児島市	2018.11.17
抗微生物薬適正使用-本邦小児AMR対策の今とこれから-(教育講演)	感染症内科	笠井正志	第220回	大阪小児科学会	大阪市	2018.12.1
小児集中治療室における人工呼吸器管理関連事象(VAE)多施設協同研究	感染症内科	伊藤雄介、笠井正志	第45回	日本集中治療医学会総会	千葉市	2018.2.22
小児の侵襲性感染症今昔物語 (教育講演)	感染症内科	伊藤雄介	第34回	日本救急医学会中国四国地方会	広島市	2018.5.12
MULTICENTER PROSPECTIVE OBSERVATIONAL STUDY OF VENTILATOR ASSOCIATED EVENT IN PEDITATRIC INTENSIVE CARE UNIT (Poster)	感染症内科	伊藤雄介	9th	the 9TH World Congress on Pediatric Intensive and Critical Car	Singapore	2018.6
小児における多施設前向きサーベイランスからみるVAEサーベイランスの問題点(シンポジウム講演、座長)	感染症内科	伊藤雄介	第40回	呼吸療法医学会総会	東京都	2018.8.4
小児麻酔のための小児感冒のみかた(教育講演)	感染症内科	伊藤雄介、笠井正志	第24回	小児麻酔科学会	神戸市	
周術期抗菌薬に関する院内手引きの導入による抗菌薬の使用量変化とその問題点	感染症内科	伊藤雄介、笠井正志	第50回	日本小児感染症学会	福岡市	2018.11.10
OFD11に変異を有するシリオパターの生存男児3例	臨床遺伝科	柳原菜々、森貞直哉、青砥悠哉、石河慎也、長野智那、南川将吾、山村智彦、清水順也、和田卓三、島友子、中西浩一、野津寛大、飯島一誠	第40回	日本小児腎不全学会学術集会	宮崎市	2018.11.8
先天性腎尿路異常の臨床像と遺伝子変異の関連性:単施設64例の解析	臨床遺伝科	石和翔、佐藤舞、金森透、西健太郎、奥津美夏、小椋雅夫、佐古まゆみ、亀井宏一、伊藤秀一、森貞直哉、野津寛大、飯島一誠、石倉健司	第40回	日本小児腎不全学会学術集会	宮崎市	2018.11.8
常染色体優性間質性腎疾患(ADTKD)の原因遺伝子と臨床像	臨床遺伝科	森貞直哉、柳原菜々、長野智那、運崎愛、岡田絵里、今澤俊之、野津寛大、飯島一誠	第63回	日本人類遺伝学会	横浜市	2018.10.20
PIK3CAの体細胞モザイク変異によるCLOVES症候群の1女児例	臨床遺伝科	花房宏昭、森貞直哉、野村正、運崎愛、小林大介、森健、野津寛大、中尾秀人、飯島一誠	第63回	日本人類遺伝学会	横浜市	2018.10.19

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
GRIN1変異による重度知的障害にてんかんを伴った1女児例	臨床遺伝科	運崎愛、花房宏昭、石田悠介、徳元翔一、山口宏、豊嶋大作、丸山あずさ、森貞直哉、飯島一誠	第63回	日本人類遺伝学会	横浜市	2018.10.19
KAT6B異常による Genitopatellar 症候群の1女児例	臨床遺伝科	森貞直哉、運崎愛、坂田亮介、杉多良文、田中敏克、田中亮二郎、飯島一誠	第275回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路市	2018.9.29
次世代シークエンサーによるネフロロン傍関連シリオパチーの包括的遺伝子解析	臨床遺伝科	榎原菜々、森貞直哉、長野智那、藤村順也、堀之内智子、中西啓太、南川将吾、山村智彦、貝藤裕史、野津寛大、飯島一誠	第53回	日本小児腎臓病学会	福島市	2018.6.28
CopyNumber Variations 解析により遺伝学的診断が臨床診断と異なる結果を得た4症例の検討	臨床遺伝科	長野智那、野津寛大、森貞直哉、松村千恵子、榎原菜々、中西啓太、藤村順也、堀之内智子、南川将吾、山村智彦、貝藤裕史、飯島一誠	第53回	日本小児腎臓病学会	福島市	2018.6.28
男性腎不全の家族歴からネフロロン傍関連シリオパチーの診断に至った3歳男児例	臨床遺伝科	和田卓三、島友子、田中侑、佐藤匡、浜武継、向山弘展、鈴木啓之、森貞直哉、野津寛大、飯島一誠、中西浩一	第53回	日本小児腎臓病学会	福島市	2018.6.28
MKKS 遺伝子変異を認めた稀なネフロロン傍関連症候群:Bardet-Biedl 症候群の兄弟例	臨床遺伝科	相澤知美、渡邊祥二郎、津川浩二、敦賀和志、田中完、伊藤悦朗、澤田朋啓、丹代論、高橋義博、森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	第53回	日本小児腎臓病学会	福島市	2018.6.28
糖尿病を契機にHNF1B異常を同定した先天性腎尿路異常の1例	臨床遺伝科	久富隆太郎、三浦健一郎、神田祥一郎、谷口洋平、長澤武、伴英樹、白井陽子、高木陽子、金子直人、藪内智朗、石塚喜世伸、秋岡祐子、原太一、森貞直哉、飯島一誠、服部元史	第53回	日本小児腎臓病学会	福島市	2018.6.28
NPHP1ホモ全欠失を合併した原発性アルドステロン血症の1例	臨床遺伝科	森一越、鈴木繁、川村研、森貞直哉、野津寛大	第53回	日本小児腎臓病学会	福島市	2018.6.28
学校検尿を契機に診断された鰹弓耳腎症候群の二例	臨床遺伝科	大塚泰史、森貞直哉、溝端理恵、陣内久美子、大串榮彦、岡政史、佐藤忠司、飯島一誠、松尾宗明	第53回	日本小児腎臓病学会	福島市	2018.6.28
3歳児健診で発見された腎コロボーマ症候群の1例	臨床遺伝科	正木綾香、内藤岳史、西田真佐志、磯田賢一、森貞直哉、飯島一誠、細井創	第53回	日本小児腎臓病学会	福島市	2018.6.28
小児遺伝性疾患に対するゲノム医療体制の構築に向けて	臨床遺伝科	森貞直哉	第274回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸市	2018.5.19
両側高度水腎症を合併した17q12領域欠失症候群の1例	臨床遺伝科	龍神雅子、森貞直哉、野津寛大、飯島一成	第31回	近畿小児科学会	大阪市	2018.3.11
次世代シークエンサー疾患関連遺伝子パネルを用いた未診断患者への網羅的遺伝子解析	臨床遺伝科	森貞直哉、池田真理子、野津寛大、飯島一誠	第31回	近畿小児科学会	大阪市	2018.3.11
本邦における鰹耳腎(BOR)症候群の原因遺伝子と臨床像	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、石倉健司、伊藤秀一、松永達雄、飯島一誠	第40回	日本小児遺伝学会	東京都	2018.1.13
PAX2関連腎疾患の遺伝子型と臨床像	臨床遺伝科	森貞直哉、Rini Rossanti、貝藤裕史、野津寛大、田中亮二郎、飯島一誠	第27回	発達腎研究会	名古屋市	2018.9.15
在宅管理中に心不全を来した広範囲型Hirschsprung 病の1例	小児外科	鮫島由友、横井暁子、前田貢作	第48回	日本小児消化管機能研究会	仙台市	2018.2.11

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
出生前診断された先天性間葉芽腎腫の1例	小児外科	三浦紫津、前田眞作、梶原啓資、植村光太郎、 鯨島由友、河原仁守、磯野香織、森田 圭一、 福澤宏明、中尾真、横井曉子、吉田牧子、 杉岡勇典、赤坂好宣、太原鉄平、石田敏章、 小坂嘉之	第40回	近畿血液・小児がん研 究会	千里市	2018.2.17
小児肝外傷の一例	小児外科	前田眞作	第20回	神戸小児外科カンファ レンス	神戸市	2018.3.11
成長過程にある動物モデルを用いたpartial cricotracheal resectionにおける気道の成長と反回神 経温存の実験的検証	小児外科	森田圭一、前田眞作	第20回	神戸小児外科カンファ レンス	神戸市	2018.3.11
D-乳酸アシドーシスの管理に難渋している短腸症候 群の1例	小児外科	三浦紫津、福澤宏明、梶原啓資、植村光太郎、 鯨島由友、河原仁守、磯野香織、森田圭一、 中尾真、横井曉子、前田眞作	第79回	小児外科わからん会	大阪市	2018.3.17
気管気管支を合併した先天性気管狭窄症の管理	小児外科	前田眞作	第8回	KSH研究会	横浜市	2018.3.17
Novel insight into the pathogenesis of Hirschsprung's disease by a gain-of-function RET mutant	小児外科	Okamoto M, Uesaka T, Itoh K, Maeda K, Enomoto H	第51回	太平洋小児外科学会	札幌市	2018.5.13-17
Diagnosis and management of a spectrum of laryngotracheal anomalies associate with esophageal atresia	小児外科	Maeda K, Kajihara K, Morita K, Murakami S, Kawahara I, Samejima Y, Isono K, Uemura K, Fukuzawa H, Nakao M, Yokoi A	第51回	太平洋小児外科学会	札幌市	2018.5.13-17
Congenital lobar emphysema associated with congenital heart disease	小児外科	Yokoi A, Nakao M, Murakami S, Yoshida M	第51回	太平洋小児外科学会	札幌市	2018.5.13-17
徹底討論！小児外科医の理想的な働き方	小児外科	横井曉子、日本小児外科学会ワークショップパ ランス検討委員会	第55回	日本小児外科学会学術 集会	新潟市	2018.5.29-6.1
小児気道異物に対する治療戦略	小児外科	前田眞作	第55回	日本小児外科学会学術 集会	新潟市	2018.5.29-6.1
新生児外科症例の身体的ならびに精神的長期予後 先 天性横隔膜ヘルニア術後の長期経過観察における発 達評価の現状と今後の課題	小児外科	近藤琢也、横井曉子、白井規朗、田口智章、 新生児横隔膜ヘルニア研究グループ	第55回	日本小児外科学会学術 集会	新潟市	2018.5.29-6.1
新生児期に手術を行った卵巣脱出または滑脱ヘルニ ア症例の検討	小児外科	中尾真、植村光太郎、梶原啓資、鯨島由友、 川原仁守、磯野香織、三浦紫津、森田圭一、 福澤宏明、横井曉子、前田眞作	第55回	日本小児外科学会学術 集会	新潟市	2018.5.29-6.1
声門下腔狭窄症の気管切開からの離脱に関する当院 15例の検討	小児外科	鯨島由友(兵庫県立こども病院小児外科)、 梶原啓資、植村光太郎、河原仁守、磯野香織、 三浦紫津、森田圭一、福澤宏明、中尾真、 横井曉子、前田眞作	第55回	日本小児外科学会学術 集会	新潟市	2018.5.29-6.1
先天性胆道拡張症における胆道穿孔のリスク因子	小児外科	福澤宏明、漆原直人、福本弘二、梶原啓資、 河原仁守、磯野香織、鯨島由友、三浦紫津、 植村光太郎、森田圭一、中尾真、横井曉子、 前田眞作	第55回	日本小児外科学会学術 集会	新潟市	2018.5.29-6.1

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
動物モデルを用いたPartial cricotracheal resectionにおける反回神経温存の実験的検証	小児外科	森田圭一、河原仁守、尾藤祐子、前田貢作	第55回	日本小児外科学会学会 集会	新潟市	2018.5.29-6.1
機能獲得型RET変異体によるヒルシュブルング病の可能性	小児外科	岡本光正、上坂敏弘、伊藤藤子、前田貢作、櫻本秀樹	第55回	日本小児外科学会学会 集会	新潟市	2018.5.29-6.1
先天性肝芽腫の2例	小児外科	磯野香織、梶原啓資、植村光太郎、鮫島由友、河原仁守、三浦紫津、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井曉子、前田貢作	第55回	日本小児外科学会学会 集会	新潟市	2018.5.29-6.1
18trisomy児に肝芽腫を合併した自験例4例の検討	小児外科	河原仁守、梶原啓資、植村光太郎、鮫島由友、磯野香織、三浦紫津、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井曉子、前田貢作	第55回	日本小児外科学会学会 集会	新潟市	2018.5.29-6.1
先天性食道閉鎖症に合併した喉頭気管奇形の4例	小児外科	梶原啓資、植村光太郎、鮫島由友、河原仁守、磯野香織、三浦紫津、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井曉子、前田貢作	第55回	日本小児外科学会学会 集会	新潟市	2018.5.29-6.1
先天性心疾患術後の気腫性肺嚢胞に対する手術治療症例の検討	小児外科	三浦紫津、梶原啓資、植村光太郎、鮫島由友、河原仁守、磯野香織、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井曉子、前田貢作	第55回	日本小児外科学会学会 集会	新潟市	2018.5.29-6.1
小児に対する埋め込み型中心静脈ポート及びカテーテルの検討	小児外科	植村光太郎、福澤宏明、梶原啓資、河原仁守、鮫島由友、磯野香織、三浦紫津、森田圭一、中尾真、横井曉子、前田貢作	第55回	日本小児外科学会学会 集会	新潟市	2018.5.29-6.1
長期気管切開児に対する言語聴覚士の関わりについての一考察	小児外科	住友重佐子、大津雅秀、小林大介、小松岳、北瀬幸子、都倉明乃、前田貢作	第19回	日本語聴覚学会	富山市	2018.6.22
	小児外科			日本小児ストーム・排泄・創傷研究会	東京都	2018.6.30
新生児先天性横隔膜ヘルニアにおける気胸発症の実態とリスク因子の解析	小児外科	白井規朗、奥山宏臣、照井慶太、早川昌弘、増本幸二、豊島勝昭、甘利昭一郎、漆原直人、稲村昇、横井曉子、岡崎任晴、岡和田学、古川泰三、内田恵一、田口智章	第54回	日本周産期・新生児医学 学会学会集会	東京都	2018.7.8-10
出生前診断された先天性横隔膜ヘルニア症例における出生時週数と見の予後に関する検討	小児外科	川西陽子、遠藤誠之、甘利昭一郎、白井規朗、内田恵一、漆原直人、岡和田学、金森豊、田口智章、照井慶太、豊島勝昭、早川昌弘、古川泰三、横井曉子、奥山宏臣	第54回	日本周産期・新生児医学 学会学会集会	東京都	2018.7.8-10
気管無形成10症例の検討	小児外科	片岡大、李進剛、大平安希子、山内貴未、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人、森田圭一、前田貢作	第54回	日本周産期・新生児医学 学会学会集会	東京都	2018.7.8-10
新生児期・乳児期にみられる先天性気管狭窄症の診断と治療	小児外科	森田圭一、前田貢作	第54回	日本周産期・新生児医学 学会学会集会	東京都	2018.7.8-10
消化管穿孔を来した多発十二指腸閉鎖症の1例	小児外科	鮫島由友、野村皓三、梶原啓資、植村光太郎、河原仁守、磯野香織、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井曉子、前田貢作	第54回	日本小児外科学会近畿 地方会	神戸市	2018.8.25

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
胎児診断されていた巨大肺嚢胞性病変の極低出生体重児の1例	小児外科	野村皓三、福澤宏明、梶原啓資、植村光太郎、鯨島由友、河原仁守、磯野香織、森田圭一、中尾真、横井曉子、前田貢作	第80回	小児外科わからん会	大阪市	2018.9.15
先入性胆道拡張症における胆道穿孔のリスク因子	小児外科	梶原啓資、福澤宏明、漆原直人、福本弘二、矢本真也、河原仁守、磯野香織、鯨島由友、三浦紫津、植村光太郎、森田圭一、中尾真、横井曉子、前田貢作	第41回	日本膵・胆管合流異常研究会	東京都	2018.9.8
Transanal endorectal pull-through for Hirschsprung's disease in the neonate and early infant	小児外科	Kosaku Maeda	第25回	Pediatric Colorectal Club	東京都	2018.10.5-10.7
膵・胆管合流異常における胆汁逆流の機序	小児外科	福澤宏明	第9回	KSH研究会	静岡市	2018.10.6
嚢腫に直接合流する(胆/膵)管の症例	小児外科	磯野香織	第9回	KSH研究会	静岡市	2018.10.6
生後2か月にみられた腸重積症の1例	小児外科	梶原啓資、森田圭一、植村光太郎、野村皓三、鯨島由友、河原仁守、磯野香織、福澤宏明、中尾真、横井曉子、前田貢作		神戸市中央区医師会学術集団会	神戸市	2018.10.13
当院で在宅管理を行っている気管切開患者の現況	小児外科	中尾真、前田貢作、横井曉子、福澤宏明、森田圭一、磯野香織、河原仁守、鯨島由友、野村皓三、梶原啓資、植村光太郎	第29回	小児外科QOL研究会	金沢市	2018.10.20
喉頭気管食道裂(LETIC)IV型に対する外科治療の工夫	小児外科	河原仁守、梶原啓資、植村光太郎、野村皓三、鯨島由友、磯野香織、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井曉子、前田貢作	第29回	日本小児呼吸器外科研究会	東京都	2018.10.26
気管気管支を伴った先天性気管狭窄症に対するスライド気管形成術	小児外科	前田貢作、森田圭一、河原仁守、梶原啓資、野村皓三、植村光太郎、鯨島由友、磯野香織、福澤宏明、中尾真、横井曉子	第29回	日本小児呼吸器外科研究会	東京都	2018.10.26
先天性心疾患を合併した先天性気管狭窄症例の治療戦略	小児外科	前田貢作、森田圭一、河原仁守、梶原啓資、野村皓三、植村光太郎、鯨島由友、磯野香織、福澤宏明、中尾真、横井曉子、松久弘典、大嶋義博	第29回	日本小児呼吸器外科研究会	東京都	2018.10.26
総排泄腔外反 総排泄腔外反症根治術後の人工肛門合併症についての検討	小児外科	磯野香織、梶原啓資、植村光太郎、野村皓三、鯨島由友、河原仁守、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井曉子、前田貢作	第34回	小児外科学会秋季シンポジウム	東京都	2018.10.27
出血を契機に診断された胆道閉鎖症の検討	小児外科	磯野香織、梶原啓資、植村光太郎、野村皓三、鯨島由友、河原仁守、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井曉子、前田貢作	第45回	日本胆道閉鎖症研究会	久留米市	2018.11.3
肝芽腫における病理免疫組織学的予後予測マーカーの検討	小児外科	田村彰広、吉田牧子、山本暢之、二野菜々子、市川貴之、中谷尚子、中村さやか、齋藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、福澤宏明、横井曉子、前田貢作、長谷大一郎、松山英三、小阪嘉之	第60回	日本小児血液・がん学会	京都市	2018.11.14-16
Multistage reconstruction of aero-digestive tract of tracheal agenesis and esophageal atresia with proximal and distal TEJ	小児外科	Maeda K, Kawahara I, Uemura K, Samejima Y, Kajihara K, Nomura K, Isono K, Morita K, Fukuzawa H, Nakao M, Yokoi A	第25回	アジア小児外科学会	ドバイ	2018.11.29-12.1

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Challenges and Excellent Outcome for a type IV Laryngotracheoesophageal cleft (LITEC)	小児外科	Kawahara I, Maeda K, Uemura K, Samejima Y, Kajihara K, Nomura K, Isono K, Morita K, Fukuzawa H, Nakao M, Yokoi A	第25回	アジア小児外科学会	ドバイ	2018.11.29-12.1
総排泄腔外反症の人工肛門における合併症の検討	小児外科	磯野香織、梶原啓資、植村光太郎、野村皓三、鯨島由友、河原仁守、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田貢作	第29回	近畿小児小児ストーマ・排泄・創傷研究会	神戸市	2018.12.1
抜管前リハビリが気管カニューレ離脱に有用であった2例	小児外科	鯨島由友、梶原啓資、植村光太郎、野村皓三、河原仁守、磯野香織、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田貢作	第29回	近畿小児小児ストーマ・排泄・創傷研究会	神戸市	2018.12.1
腹腔鏡手術を行った単径ヘルニア関連疾患の2例	小児外科	森田圭一	第22回	神戸小児外科カンファレンス	神戸市	2018.12.9
小児先天性胆道拡張症手術における腹腔鏡下再建法：細径胆管の吻合法 小児腹腔鏡下胆道拡張症手術の肝門部胆管空腸吻合	小児外科	福澤宏明、野村皓三、植村光太郎、梶原啓資、磯野香織、鯨島由友、河原仁守、森田圭一、中尾真、横井暁子、前田貢作	第31回	日本内視鏡外科学会総会	福岡市	2018.12.6-8
小児内視鏡手術におけるヒヤリ・ハット・ハット：腹腔鏡下胆嚢摘出術時に誤って総胆管を切離した1例	小児外科	河原仁守、福澤宏明、梶原啓資、植村光太郎、野村皓三、鯨島由友、磯野香織、森田圭一、中尾真、横井暁子、前田貢作	第31回	日本内視鏡外科学会総会	福岡市	2018.12.6-8
傍心臓型総肺静脈流異常に対する山岸変法	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智恵、岩城隆馬、村上優、圓尾文子	第48回	日本心臓血管外科学会学術総会	三重県津市	2018.2.19-21
大動脈縮窄/大動脈弓離断に対する自己肺動脈壁パッチを用いた大動脈弓再建法	心臓血管外科	日隈智恵、村上優、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博	第48回	日本心臓血管外科学会学術総会	三重県津市	2018.2.19-21
位相差X線CTを用いた大動脈縮窄症における動脈管組織進展の3次元的评价	心臓血管外科	岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博、篠原玄、森田喜代造、森下寛之、金子幸裕、高橋昌、赤池徹、南沢享、星野真人、八木直人、栗部卓郎	第48回	日本心臓血管外科学会学術総会	三重県津市	2018.2.19-21
Norwood術後の肺動脈狭窄に対する介入の検討	心臓血管外科	村上優、岩城隆馬、日隈智恵、松久弘典、大嶋義博	第48回	日本心臓血管外科学会学術総会	三重県津市	2018.2.19-21
当院の低出生体重児の外科治療戦略	心臓血管外科	日隈智恵、村上優、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博	第32回	日本小児循環器学会近畿・中四国地方会	大阪府大阪市	2019.3.4
先天性気管狭窄症を合併した心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症に対する段階的修復術	心臓血管外科	岩城隆馬、大嶋義博、松久弘典、日隈智恵、村上優、森田圭一、前田貢作	第32回	日本小児循環器学会近畿・中四国地方会	大阪府大阪市	2019.3.4
Circular shuntを伴う重症Ebstein病早産児の1例	心臓血管外科	村上優、岩城隆馬、日隈智恵、松久弘典、大嶋義博	第32回	日本小児循環器学会近畿・中四国地方会	大阪府大阪市	2019.3.4
新大動脈後壁吻合先行による安全な動脈スイッチ手術	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智恵、岩城隆馬、村上優	第61回	関西胸部外科学会学術集会	愛知県名古屋	2018.6.21-22
片側肺静脈が胸腔内を走行する混合型総肺静脈還流異常症に対する肺静脈-心膜吻合	心臓血管外科	村上優、岩城隆馬、日隈智恵、松久弘典、大嶋義博	第61回	関西胸部外科学会学術集会	愛知県名古屋	2018.6.21-22
ポスター 40 外科治療 6 座長	心臓血管外科	大嶋義博	第54回	日本小児循環器学会総会・学術集会	神奈川県横浜	2018.7.5-7
TAPVCに対するsutureless repair導入後に残された課題	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智恵、岩城隆馬、村上優、田中敏克、城戸佐知子	第54回	日本小児循環器学会総会・学術集会	神奈川県横浜	2018.7.5-7
気管狭窄を合併した先天性心疾患に対する治療戦略：一期的同時修復か、段階的アプローチか	心臓血管外科	日隈智恵、村上優、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博	第54回	日本小児循環器学会総会・学術集会	神奈川県横浜	2018.7.5-7

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
当院における心臓手術後呼吸管理の変遷と結果	心臓血管外科	岩城隆馬、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、村上優、黒澤寛史、青木一憲	第54回	日本小児循環器学会総会・学術集会	神奈川県横浜市	2018.7.5-7
血管輪を伴わない異型鎖骨下動脈に対する介入	心臓血管外科	村上優、岩城隆馬、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第54回	日本小児循環器学会総会・学術集会	神奈川県横浜市	2018.7.5-7
Ebstein-like で dysplastic 三尖弁を有する PA-IVS に対し、delamination、自己心膜による弁尖延長、Carpenter 変法(長田法)の3段階手術で逆流制御に成功した症例	心臓血管外科	日隈智憲、村上優、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博	第18回	小児心臓手術手技研究会	神奈川県横浜市	2018.7.5
上下心に対する二心室修復術後の成人例	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、村上優	第3回	兵庫成人先天性心疾患カンファレンス	兵庫県神戸市	2018.7.20
閉鎖に工夫を要する VSD の2例	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、村上優	第22回	心臓外科研究懇話会	静岡県焼津市	2018.9.16
位相差 X 線 CT を用いた動脈管構造研究の総括的紹介	心臓血管外科	岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博、篠原玄、森田紀代造、森下寛之、金子幸裕、高橋昌、赤池徹、南沢享、築部卓郎	第22回	心臓外科研究懇話会	静岡県焼津市	2018.9.16
卒業教育セミナー Advanced コース 先天性・心臓他 右室低形成に対する手術と考え方	心臓血管外科	大嶋義博	第71回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京都港区	2018.10.3-6
房室中隔欠損に対する修復術-Scoop index に基づく術式選択-	心臓血管外科	大嶋義博	第71回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京都港区	2018.10.3-6
3DCT を用いた心外型総肺静脈還流異常に対する治療戦略	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、村上優	第71回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京都港区	2018.10.3-6
Long gap を有する大動脈弓離断症 type B の大動脈弓再建法-自己肺動脈壁パッチと左鎖骨下動脈の付加的利用法-	心臓血管外科	日隈智憲、村上優、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博	第71回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京都港区	2018.10.3-6
Surgical ostial angioplasty of the coronary arteries for children	心臓血管外科	岩城隆馬、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、村上優	第71回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京都港区	2018.10.3-6
Long-term Outcomes of the Arterial Switch Operation	心臓血管外科	村上優、岩城隆馬、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第71回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京都港区	2018.10.3-6
Three Dimensional Evaluation of Ductal Tissue in Coarctation of Aorta Using X-ray Phase-Contrast Tomography Ryumalwaki	心臓血管外科	Ryumalwaki, Hironori Matsuhisa, Susumu Minamisawa, Toru Akaike, Masato Hoshino, Naoto Yagi, Kiyozo Morita, Gen Shinohara, Yukihiko Kaneko, Hiroyuki Morishita, Masashi Takahashi, Takuro Tsukub and Yoshihiro Oshima		AHA scientific session	chicago	2018.11.10-14
右側房室弁の straddling を伴う AVSD に対する閉鎖術	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、村上優	第71回	兵庫県心臓血管外科懇話会	神戸市	2018.12.7
上臃帆から発生した幼児 AT/RT	脳神経外科	小山 淳二	第30回	北六甲脳神経外科カンファレンス	神戸市	2019.3.27
開頭術後に内視鏡下で再手術を施行した後頭蓋下くも膜嚢胞の一例	脳神経外科	阿久津宣行	第22回	関西ニューロエングスコープ研究会	大阪	2018.2.17
家庭内発症の小児重症頭部外傷の検討	脳神経外科	阿久津宣行、安積麻依、小山淳二、河村淳史、甲村英二	第41回	日本脳神経外傷学会	東京都	2018.2.24

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
著明な血管攣縮を認めた出血部位不明の小児くも膜下出血の1例	脳神経外科	安積麻衣、河村淳史、小山淳二、阿久津宣行	第43回	日本脳卒中学会学術集会	福岡	2018.3.15
小児頭蓋内海綿状血管腫の臨床像	脳神経外科	小山淳二、河村淳史、阿久津宣行、安積麻衣	第43回	日本脳卒中学会学術集会	福岡	2018.3.15-3.18
Occipital transtentorial approach (OTA)にて摘出した後頭蓋窩 Atypical teratoid/rhabdoid tumor (AT/RT) の一例	脳神経外科	岡田真幸、安積麻依、阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第75回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	大阪	2018.4.7
頭蓋縫合早期癒合症に対する縫合切除術	脳神経外科	阿久津宣行、安積麻依、小山淳二、河村淳史	第46回	日本小児神経外科学会学術集会	東京都	2018.6.8-6.9
慢性特発性脊椎硬膜外血腫の1例	脳神経外科	安積麻衣、河村淳史、小山淳二、阿久津宣行	第46回	日本小児神経外科学会学術集会	東京都	2018.6.8-6.9
小児髄芽腫治療における術後後療法開始遅延	脳神経外科	小山淳二、河村淳史、阿久津宣行、安積麻衣	第46回	日本小児神経外科学会学術集会	東京都	2018.6.8-6.9
当施設における DIPG(diffuse intrinsic pontine glioma) に対する緩和治	脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、安積麻衣	第46回	日本小児神経外科学会学術集会	東京都	2018.6.8-6.9
Expansile suboccipital cranioplasty with dural tenting for the treatment of pediatric Chiari malformation type 1	脳神経外科	Koyama J, Kawamura A, Akutsu N, Azumi M	第46回	日本小児神経外科学会学術集会	東京都	2018.6.8-6.9
Palliative treatment for DIPG (diffuse intrinsic pontine glioma) at Kobe Children's Hospital in Japan	脳神経外科	Atsufumi Kawamura, Koyama Junji, Akutsu Nobuyuki, Azumi Mai	2018	Inter National Symposium of Pediatric Neuro-Oncology (ISPNO)	Denber	2018.6.29-7.3
箸による後頭蓋窩の穿通性頭部外傷の1例	脳神経外科	森達也、安積麻衣、阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第48回	兵庫県脳神経外科医懇話会	神戸市	2018.7.21
胸腰椎移行部の脊柱管内に発生した bronchogenic cyst の1例	脳神経外科	森達也、安積麻衣、阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第76回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	大阪	2018.9.8
長期生存水無脳症の管理と問題点	脳神経外科	阿久津宣行、安積麻依、小山淳二、河村淳史	第77回	日本脳神経外科学会学術総会	仙台市	2018.10.10-10.13
頭蓋骨縫合早期癒合症の受診診断の遅れの検討	脳神経外科	安積麻衣、河村淳史、小山淳二、阿久津宣行	第77回	日本脳神経外科学会学術総会	仙台市	201.10.10-10.13
兵庫県立こども病院における小児脳脊髄腫瘍に対する陽子線治療の現状	脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、安積麻衣、森達也、出水祐介、副島俊典	第77回	日本脳神経外科学会学術総会	仙台市	2018.10.10-10.13
小児水頭症における Codman-Hakim programmable valve の破損	脳神経外科	小山淳二、阿久津宣行、安積麻衣、河村淳史	第77回	日本脳神経外科学会学術総会	仙台市	2018.10.10-10.13
小児脳神経外科領域における神経内視鏡手術	脳神経外科	阿久津宣行、安積麻依、小山淳二、河村淳史	第25回	日本神経内視鏡学会学術集会	新潟	2018.10.26
Re-considering old strategies as palliative treatment for DIPG (diffuse intrinsic pontine glioma)	脳神経外科	Atsufumi Kawamura, Junji Koyama, Nobuyuki Akutsu, Mai Azumi, Kenji Kishimoto, Akhiro Tamura, Nobuyuki Yamamoto, Toshiaki Ishida, Daichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka, Toshinori Soejima	第60回	日本小児血液・がん学会学術集会	京都	2018.11.16-11.19

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
当施設における小児再発頭蓋咽頭腫に対する陽子線治療	脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、安積麻衣、出水祐介、副島俊典	第36回	日本脳腫瘍学会学術集会	小田市	2018.12.2-12.4
赤ちゃんの頭の形外来について	脳神経外科	阿久津宣行	2018	神戸大学脳神経外科同門会学術集会	神戸市	2018.12.9
乳幼児の手指動脈脈奇形に対し有茎鼠径皮弁にて手指再建を施行した二例	形成外科	小野田素大	第23回	日本形成外科手術手技学会	尼崎市	2018.2.10
口窩重複症に眼奇形を伴った一症例の治療経験	形成外科	黒田諒子	第120回	関西形成外科学会学術集会	大阪市	2018.11.17
こどもの脚長補正手術の考え方 一仮骨延長術と成長抑制術一	整形外科	薩摩真一		神大整形同門会生涯教育学術講演会	神戸市	2018.1.6
下腿延長中に骨髄炎を発生し治療に難渋した1例	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、向原伸太郎、新倉隆宏、福井友章	第61回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2018.1.27
内反母趾変形を伴う多趾症で、治療に難渋した1例	整形外科	衣笠真紀	第61回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2018.1.27
知っておくために小児整形外科疾患	整形外科	小林大介	第1回	東灘スキルアップセミナー	神戸市	2018.3
発育性股関節形成不全(DDH)の診断・治療で残された課題	整形外科	薩摩真一	第33回	東海小児整形外科懇話会	名古屋	2018.2.10
小児の足部変形とその対応 一新生児期から学童期まで一	整形外科	薩摩真一	第23回	北海道下肢と足部疾患研究会	札幌市	2018.2.17
裂手症	整形外科	衣笠真紀	第4回	上肢先天異常勉強会	大阪	2018.3.17
乳児健康診査における股関節脱臼二次検診について	整形外科	薩摩真一		小児運動器疾患指導管理医師DVDセミナー	神戸市	2018.4.28
Surgery for atlantoaxial instability in Down syndrome patients who have neurological disturbance - initial series of 10 patients operated by a single surgeon	整形外科	Satsuma S, Takahashi J, Uno K.	第34回	annual meeting Cervical Spine Research Society - Europe (CSRS - Europe)	ポルトガル	2018.5.9-11
脚延長術の適応と手術時期 一主に合併症の見地からの考察一	整形外科	小林大介、薩摩真一、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉 加藤達雄	第90回	日本整形外科学会学術集会	神戸市	2018.5
8歳で両側性股関節脱臼を指摘されたTurner症候群の1例	整形外科	河本和泉、加藤達雄、衣笠真紀、坂田亮介、小林大介、薩摩真一	第57回	日本小児股関節研究会	仙台市	2018.6.22-23
兵庫県神戸市における「乳児股関節健診の推奨項目と二次検診への紹介」使用状況と精査率の推移	整形外科	薩摩真一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉、加藤達雄	第57回	日本小児股関節研究会	仙台市	2018.6.22-23
Salter 骨盤骨切り術におかえる腸骨下骨片の確実な固定法の検討	整形外科	衣笠真紀、小林大介、薩摩真一、坂田亮介、河本和泉 加藤達雄	第57回	日本小児股関節研究会	仙台市	2018.6.22-23
大腿骨頭の外方化を伴った類骨骨腫の二症例	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、河本和泉、加藤達雄	第62回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2018.7.28
遅延性亜脱臼の手術適応に対する一考察一手術適応年齢で急速に骨盤発育が加速した症例から一	整形外科	衣笠真紀、小林大介、薩摩真一、坂田亮介、河本和泉 加藤達雄	第62回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2018.7.28

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
1歳男児に発症した踵骨骨髄炎の1例	整形外科	河本和泉、加藤達雄、衣笠真紀、坂田亮介、小林大介、薩摩真一	第62回	近畿小児整形外科	大阪	2018.7.28
呼吸障害を来した神経筋原性側弯症の1例	整形外科	加藤達雄、宇野耕吉、鈴木哲平、藏川拓外、薩摩真一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉、津田雅世	第62回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2018.7.28
年齢別に見た小児整形外科疾患とその治療	整形外科	薩摩真一	第28回	安比夏季セミナー	岩手	2018.8.16
Arthrolysis	整形外科	薩摩真一	第25回	日本小児教育研修会	東京都	2018.8.25-26
大腿骨頭の外方化を伴った類骨骨腫の二症例	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、河本和泉、加藤達雄	第131回	中部日本整形外科災害外科学会学術集会	倉敷市	2018.10.4-5
小児運動器疾患の診かた・治しかた —6歳未満児—	整形外科	薩摩真一	第33回	日整会基礎	奈良	2018.10.11-12
二分脊椎の病態と足部変形 Pathology of Spina Bifida and Foot Deformity	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、河本和泉、加藤達雄	第43回	日本足の外科学会学術集会	木更津市	2018.11.1-2
発育性股関節形成不全・診断 治療 展望・屈指症	整形外科	小林大介		播但地区集談会	神戸市	2018.11
先天性脛骨列欠損	整形外科	衣笠真紀	第5回	上肢先天異常常勉強会	大阪	2018.11.24
当院における Ponsetti 法の治療成績	整形外科	衣笠真紀	第20回	近畿小児整形外科症例検討会	大阪	2018.12.1
比較的若年で発症した大腿骨近位部類骨骨腫の治療経験	整形外科	小林大介、薩摩真一、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉、加藤達雄	第29回	日本小児整形外科学会	名古屋	2018.12.14-15
呼吸障害を来した神経筋原性側弯症の2例	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、河本和泉、加藤達雄	第29回	日本小児整形外科学会学術集会	名古屋市	2018.12.14-15
小児に発症した踵骨骨髄炎の3例	整形外科	加藤達雄、宇野耕吉、鈴木哲平、藏川拓外、薩摩真一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉、津田雅世	第29回	日本小児整形外科学会	名古屋市	2018.12.14-15
新生児・乳児の哺乳障害に対する言語聴覚士の関わり	リハビリテーション科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、坂田亮介、河本和泉、加藤達雄	第29回	日本小児整形外科学会	名古屋市	2018.12.14-15
長期気管切開児に対する言語聴覚士の関わりについての一考察	リハビリテーション科	小松岳		神戸大学医学部附属病院 栄養研修会 平成30年度第1回NEST勉強会	神戸市	2018.5.7
発見が遅れた難聴児への対応と経過 ～ことばの遅れに難聴が関与した症例～	リハビリテーション科	住友重佐子、大津雅秀、小林大介、小松岳、北瀬幸子、都倉明乃、前田貢作	第19回	日本語聴覚学会	富山市	2018.6.22-23
当院集中治療病棟における言語聴覚士の取り組み	リハビリテーション科	都倉明乃		兵庫県言語聴覚士会 総会 症例検討会	神戸市	2018.6.3
当院における早期離床リハビリテーションチームの活動報告	リハビリテーション科	住友重佐子、小松岳、都倉明乃、藤村愛、細川康徳、小林大介	第16回	県立病院学会	神戸市	2018.9.8
哺乳障害を呈した22q11.2欠失症候群乳児に対する摂食嚥下支援の経験	リハビリテーション科	細川泰徳	第16回	県立病院学会	神戸市	2018.9.8
	リハビリテーション科	小松岳、田中義之、住友重佐子、大津雅秀、阪本浩一、中村美紀、小林大介	第24回	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	仙台市	2018.9.8-9

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
ミルクのとりこみ濃度が人工乳首からのミルクの流量に与える影響の調査～キサンタンガム系とろみ剤の場合～	リハビリテーション科	小松岳、永井崇恵、斉藤哲、住友亜佐子、田中義之、阪本浩一、大津雅秀、中村美紀	第24回	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	仙台市	2018.9.8-9
筋緊張の高いこどもへの支援	リハビリテーション科	福田哲也		平成30年度 第一回兵庫県在宅医療研修会	神戸市	2018.10.6
乳児用調整粉乳のとりこみ濃度が人工乳首からの流出量に与える影響の調査～キサンタンガム系増粘剤とローカストビーンガム系増粘剤の場合～	リハビリテーション科	小松岳、杉森恵美、永井崇恵、斉藤哲	第28回	日本新生児看護学会	東京都	2018.11.23-24
ステロイド緑内障に対して手術加療を要した症例	眼科	中村賢和、野村耕治	第41回	日本眼科手術学会	京都	2018.1.27
シンボジウム「ROPの新しい問題点」視機能予後からみたレーザー治療	眼科	野村耕治	第43回	日本小児眼科学会総会	名古屋	2018.3.2
未熟児網膜症の光凝固の影響	眼科	柳沢翠芳、野村耕治	第43回	日本小児眼科学会総会	名古屋	2018.3.2
早期に診断・治療を行った外眼筋線維症の双生児症例	眼科	中野由美子、野村耕治	第74回	日本弱視斜視学会	倉敷市	2018.7.6
口蓋扁桃摘出術を施行したPFAPA症候群の3例	耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香、大津雅秀	第119回	日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	横浜市	2018.05.30-06.02
嗅覚の基礎と臨床－嗅神経細胞の再生医療－	耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香、大津雅秀	第10回	Airway Club 東京	東京都	2018.06.06
当科における新生児聴覚スクリーニング検査後の精密検査の現況	耳鼻咽喉科	大津雅秀、勝沼紗矢香	第13回	日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	横浜市	2018.07.12-13
就学後に難聴と確定診断され補聴器装用を開始した児の検討	耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香、大津雅秀	第13回	日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	横浜市	2018.07.12-13
口蓋扁桃摘出術を施行したPFAPA症候群の4例	耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香、大津雅秀	第189回	日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会	神戸市	2018.07.14
BOR症候群典型例と非典型例の臨床遺伝学的検討	耳鼻咽喉科	貫野彩子、務台英樹、奈良清光、守本倫子、仲野敦子、杉内智子、岡本康秀、増田和子、勝沼紗矢香、増田正次、小川郁、松永達雄	第28回	日本耳科学会総会・学術講演会	大阪市	2018.10.03-06
高齢者難聴と補聴器並びに学会の取り組みについて	耳鼻咽喉科	大津雅秀		厚生労働省委託事業 補聴器販売者技能向上研修会	神戸市	2018.12.2
膀胱尿管逆流を伴った後部尿道弁と前部尿道弁の臨床的検討	泌尿器科	武中良大・春名晶子・大饗政嗣・杉多良文	第26回	日本逆流性腎症フォーラム	東京都	2018.2.3
小児深在性腎損傷の臨床的検討	泌尿器科	大饗政嗣	第106回	日本泌尿器科学会総会	京都	2018.4.19
Reduced port surgeryによる小児腹腔鏡下腎摘除術の初期経験	泌尿器科	杉多良文	第106回	日本泌尿器科学会総会	京都	2018.4.21
Obstructed hemivagina and ipsilateral renal anomaly (OHVIRA)症候群5例の臨床的検討	泌尿器科	春名晶子	第106回	日本泌尿器科学会総会	京都	2018.4.21
非触知精巢の診断と治療－診断アプローチと手術戦略－	泌尿器科	杉多良文	第55回	日本小児外科学会学術集会	新潟	2018.5.31
尿管瘤	泌尿器科	杉多良文	第27回	日本小児泌尿器科学会総会	金沢市	2018.6.27

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
尿道下裂の臨床研究-overview-	泌尿器科	杉多良文	第27回	日本小児泌尿器科学会 総会	金沢市	2018.6.27
Reduced port surgeryによる小児腹腔鏡下腎摘除術の 初期経験	泌尿器科	杉多良文・春名晶子・大饗政嗣・波越朋也	第27回	日本小児泌尿器科学会 総会	金沢市	2018.6.27
異所性尿管瘤に対する上部尿路手術の臨床的検討	泌尿器科	波越朋也・大饗政嗣・春名晶子・杉多良文	第27回	日本小児泌尿器科学会 総会	金沢市	2018.6.27
経尿道的尿管瘤切開術を行った異所性尿管瘤17例の 臨床的検討	泌尿器科	春名晶子・波越朋也・大饗政嗣・杉多良文	第27回	日本小児泌尿器科学会 総会	金沢市	2018.6.27
[進む企画]ヤングドクター・ディベートコンテスト・リ ターンズ高度尿道下裂でも一期的手術	泌尿器科	春名晶子・波越朋也・大饗政嗣・杉多良文	第27回	日本小児泌尿器科学会 総会	金沢市	2018.6.28
尿道形成術後の再手術例における口腔粘膜利用尿道 形成術の臨床的検討	泌尿器科	大饗政嗣・波越朋也・春名晶子・杉多良文	第27回	日本小児泌尿器科学会 総会	金沢市	2018.6.28
腹腔鏡下精巣固定術における精巣下降経路の臨床的 検討	泌尿器科	大饗政嗣	第54回	日本小児外科学会近畿 地方会	神戸市	2018.8.25
精巣捻転症例における精巣鞘膜パッチ術の検討	泌尿器科	大西篤史・波越朋也・春名晶子・大饗政嗣・ 杉多良文	第68回	日本泌尿器科学会中部 総会	名古屋	2018.10.5
胎児診断された腎盂尿管移行部通過障害 grade4 84例 の臨床的検討	泌尿器科	春名晶子・大西篤史・波越朋也・大饗政嗣・ 杉多良文	第68回	日本泌尿器科学会中部 総会	名古屋	2018.10.5
異所性尿管瘤に対する上部尿路手術の臨床的検討	泌尿器科	波越朋也・大饗政嗣・大西篤史・春名晶子・ 杉多良文	第70回	西日本泌尿器科学会総会	長崎	2018.11.3
兵庫県立こども病院における非触知精巣に対するス トラテジーとタクティクス	泌尿器科	杉多良文	第32回	日本泌尿器科内視鏡学 会総会	仙台市	2018.11.28
経尿道的尿管瘤切開術を行った異所性尿管瘤17例の 臨床的検討	泌尿器科	大西篤史・波越朋也・春名晶子・大饗政嗣・ 杉多良文	第32回	日本泌尿器科内視鏡学 会総会	仙台市	2018.11.29
Reduced port surgeryによる小児腹腔鏡下腎摘除術の 初期経験	泌尿器科	大饗政嗣・大西篤史・波越朋也・春名晶子・ 杉多良文	第32回	日本泌尿器科内視鏡学 会総会	仙台市	2018.11.29
腹腔鏡下精巣固定術における精巣下降経路の臨床的 検討	泌尿器科	大饗政嗣・大西篤史・波越朋也・春名晶子・ 杉多良文	第32回	日本泌尿器科内視鏡学 会総会	仙台市	2018.11.29
膀胱皮膚瘻造設を施行した30例の臨床的検討	泌尿器科	春名晶子	第29回	近畿小児ストーマ	神戸市	2018.12.1
当院における小児がん病棟に対する歯科ラウンドの 取り組み	小児歯科	木村仁美、曾根由美子、栗林茜、中村美紀	第57回	近畿公衆衛生学会	神戸市	2018.6.1
エイトプレートを用いた骨端線成長抑制術に対する 持続大腿神経ブロックと単回坐骨神経ブロックの有 効性	麻酔科	神頭彩、末田彩、高辻小枝子、香川哲郎	第5回	区域麻酔学会	大阪市	2018.4.20
小児におけるPACU (postanesthesia care unit)の退室 基準についての検討 - Aldrete スコアとNCUH (Nagoya City University Hospital) スコアの比較 -	麻酔科	長谷川達也、神頭彩、山脇緑、秋泉春樹、 廣瀬徹也、香川哲郎	第65回	日本麻酔科学会	横浜市	2018.5.18
ANESTHETIC MANAGEMENT OF TRACHEAL AGENESIS WITH ESOPHAGEAL ATRESIA	麻酔科	Haruki Akiizumi, Sho Matsumoto, Takashi Fujiwara, Tetsuro Kagawa	第15回	Asian Society of Paediatric Anaesthesiologists	バンコク	2018.8.18

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児の薬剤投与量の間違いを防ぐための取り組み	麻酔科	辰巳仁美、藤原孝志、廣瀬徹也、鈴木毅、香川哲郎	第24回	日本小児麻酔学会	神戸市	2018.10.20
イリザロフ法を用いた下腿延長術に対する持続大腿神経ブロックおよび持続坐骨神経ブロック併用の有効性	麻酔科	黒田ジュリオ健司、神頭彩、末田彩、高辻小枝子、香川哲郎	第24回	日本小児麻酔学会	神戸市	2018.10.20
後頭部巨大脳腫新生児の麻酔経験	麻酔科	桑田繁宗、香川哲郎、大西広泰、池島典之、鹿原史寿子	第24回	日本小児麻酔学会	神戸市	2018.10.20
原因不明のアナフィラキシー様反応で対応に難渋した一例	麻酔科	金子隆彦、高辻小枝子、上嶋江利、上野健史、水田大介、香川哲郎	第24回	日本小児麻酔学会	神戸市	2018.10.20
兵庫県立子ども病院における緩和ケアチームの活動報告	麻酔科	池島典之、香川哲郎、上嶋江利、岸本健治	第24回	日本小児麻酔学会	神戸市	2018.10.20
先天性無痛無汗症患者の整形外科手術に対する麻酔経験	麻酔科	山脇緑、山口由莉、小西麻意、小阪真之、香川哲郎	第24回	日本小児麻酔学会	神戸市	2018.10.21
気管無形成および食道閉鎖を合併した児の麻酔経験	麻酔科	松本祥、秋泉春樹、藤原孝志、鈴木毅、香川哲郎	第24回	日本小児麻酔学会	神戸市	2018.10.20
小児病院にPost-Anesthesia Care Unit(PACU)は必要か：開設準備から実際の運用でみえた有用性と問題点	麻酔科	長谷川達也、香川哲郎	第24回	日本小児麻酔学会	神戸市	2018.10.21
日帰り包茎手術に対する陰莖背神経ブロック	麻酔科	藤原孝志、末田彩、香川哲郎、前川俊	第24回	日本小児麻酔学会	神戸市	2018.10.20
気管無形成・食道閉鎖を合併した極低出生体重児の一例	新生児科	飯塚理、片岡大、李進剛、大平安希子、山内貴未、武岡恵美子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人、西田吉伸	第273回	日本小児科学会兵庫県地方会	西宮市	2018.2.3
当院におけるタナトフォリック骨異形成症の長期予後	新生児科	片岡大、山内貴未、李進剛、武岡恵美子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第31回	近畿小児科学会	京都市	2018.3.11
高度胃食道逆流症、Peters 奇形を合併した口窩重複症の一例	新生児科	大西理史、片岡大、山内貴未、李進剛、武岡恵美子、玉置祥子、松井紗智子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第121回	日本小児科学会総会	福岡市	2018.4.20-22
未熟児動脈管閉鎖術目的入院例の時代的変遷	新生児科	芳本誠司、片岡大、山内貴未、李進剛、武岡恵美子、松井紗智子、大久保紗紀、玉置祥子、横田知之、三村仁美、中尾秀人	第121回	日本小児科学会総会	福岡市	2018.4.20-22
生後早期にNICU内の手術室で修復術を行った先天性横隔膜ヘルニアの一例	新生児科	山内貴未、秋田大輔、生田寿彦、李進剛、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第121回	日本小児科学会総会	福岡市	2018.4.20-22
血小板減少と胆汁うっ滞性肝障害を呈した全身型若年性黄色肉芽腫の新生児例	新生児科	山内貴未、横田知之、大平安希子、片岡大、李進剛、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第54回	日本周産期新生児医学会	東京都	2018.7.8-10
在宅人工呼吸管理(気管切開下・経鼻式)にて退院した重症慢性肺疾患罹患児の退院後経過	新生児科	芳本誠司、大平安希子、片岡大、山内貴未、李進剛、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、中尾秀人	第54回	日本周産期新生児医学会	東京都	2018.7.8-10

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
早産児動脈管閉存症を対象としたイブプロフェンリジン塩の静脈内投与による多施設共同非盲検試験	新生児科	平野慎也、北島博之、豊島勝昭、近藤昌敏、伊藤裕司、芳本誠司、高橋伸方、大城達男、北東功、瀬川隆一、杉浦弘 小児治療ネットワーク	第54回	日本周産期新生児医学会	東京都	2018.7.8-10
在胎24週以下の超早産児において動脈管閉鎖術が短期予後に与える影響	新生児科	玉置祥子、芳本誠司、片岡大、山内貴未、李進剛、武岡恵美子、松井紗智子、横田知之、三村仁美、中尾秀人	第54回	日本周産期新生児医学会	東京都	2018.7.8-10
気管無形性10症例の検討	新生児科	片岡大、李進剛、大平安希子、山内貴未、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、芳本誠司、横田知之、三村仁美、中尾秀人、森田圭一、前田貢作	第54回	日本周産期新生児医学会	東京都	2018.7.8-10
肝被膜下血腫により出血性ショックを呈し、救命困難であった極低出生体重児の2例	新生児科	大平安希子、横田知之、片岡大、山内貴未、李進剛、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第54回	日本周産期新生児医学会	東京都	2018.7.8-10
男性化徴候のない副腎不全症状と副腎腫大から先天性リポイド過形成を疑い早期に診断できた一例	新生児科	片岡大、山内悠輔、山内貴未、黒田淳平、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第12回	新生児内分泌研究会	京都市	2018.9.22
心臓脱、肺動脈閉鎖症を伴う完全型Cantrell症候群の一例	新生児科	井上葵子、黒田淳平、片岡大、山内貴未、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人、亀井直哉、松久弘典、福沢宏明、小野田素大、佐藤有美	第275回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路市	2018.9.29
当センターで発症したMRSA敗血症3症例の検討	新生児科	石田貴裕、山内貴未、片岡大、黒田淳平、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第275回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路市	2018.9.29
男性化徴候を伴わない副腎不全症状と副腎の著明な腫大から先天性リポイド過形成症を疑った一例	新生児科	山内悠輔、片岡大、山内貴未、黒田淳平、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第275回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路市	2018.9.29
在胎30週未満早産児における修正40週以前の心電図変化	新生児科	芳本誠司、片岡大、山内貴未、黒田淳平、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、中尾秀人	第63回	日本新生児成育医学会	東京都	2018.11.22-24
妊娠24週未満の前期破水母体より出生した早産児の短期・長期予後	新生児科	横田知之、片岡大、山内貴未、黒田淳平、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第63回	日本新生児成育医学会	東京都	2018.11.22-24
心臓脱、肺動脈狭窄を伴った完全型Cantrell症候群の一例	新生児科	黒田淳平、片岡大、山内貴未、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第63回	日本新生児成育医学会	東京都	2018.11.22-24
重症慢性肺疾患罹患児の心電図変化	新生児科	芳本誠司、片岡大、山内貴未、黒田淳平、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、中尾秀人	第16回	新生児循環管理研究会	和歌山市	2018.5.25

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
僧帽弁異形成により重度僧帽弁逆流、大動脈弁狭窄、卵円孔狭小化、著明な左心拡大をきたした超早産児の一例	新生児科	玉置祥子、片岡大、山内貴未、黒田淳平、武岡恵美子、松井紗智子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第16回	新生児循環管理研究会	和歌山市	2018.5.25
平成28年(2016年)「兵庫県周産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書」の集計結果	産科	船越徹	平成29年度	兵庫県周産期医療センター・協力病院等連絡懇談会	神戸市	2018.3.10
当院で管理した腹壁破裂16例の検討	産科	船越徹	第70回	日本産科婦人科学会学会術講演会	仙台市	2018.5.10-13
血液培養により診断したCandida glabrataによる絨毛膜羊膜炎の1例	産科	河崎あさひ、船越徹、佐本崇、高松祐幸、牧志綾、森下紀、鷺尾佳一	第70回	日本産科婦人科学会学会術講演会	仙台市	2018.5.10-13
当院への母体搬送入院1506例の解析	産科	船越徹	第138回	近畿産科婦人科学会学会術集会	大阪市	2018.6.9-10
妊娠27週に出生した単胎48例の背景と短期予後	産科	船越徹	第54回	日本周産期・新生児医学会学会術集会	東京都	2018.7.8-10
臍帯嚢胞で発見され、臍帯浮腫を伴った尿管遺残の1症例	産科	森下紀、鷺尾佳一、河崎あさひ、牧志綾、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第54回	日本周産期・新生児医学会学会術集会	東京都	2018.7.8-10
尿サイトメガロウイルス(CMV)スクリーニングで同定した先天性CMV感染児の前方視的観察研究	産科	神戸大学大学院医学研究科小児科学分野1)、同産科婦人科学分野2)、なでしこレディースホスピタル3) 福嶋祥代1)、森岡一朗1)、芦名満理子1)、生田寿彦1)、大山正平1)、大久保紗紀1)、山名啓司1)、藤岡一路1)、森實真由美2)、出口雅士2)、谷村豊司2)、船越徹、大橋正伸3)、飯島一誠1)、山田秀人2)	第54回	日本周産期・新生児医学会学会術集会	東京都	2018.7.8-10
胎児モニタリングと分娩管理	産科	船越徹	平成30年度	兵庫県看護協会 CLoCMiPレベルIII認定申請のため の研修	神戸市	2018.9.5
当科で過去10年間に管理した胎児形態異常の分析	産科	船越徹	平成30年度	兵庫県立こども病院 周産期医療センター一 研修会	神戸市	2018.12.8
小児の尿路感染症と腎尿路奇形	放射線診断科	赤坂好宣	第91回	日本超音波医学会学会術集会	神戸市	2018.6.10
先天性間葉芽腎腫の3例	放射線診断科	杉岡勇典、田原潤子、松永卓明、山口善道、赤坂好宣	第54回	日本小児放射線学会	東京都	2018.6.15
頸部に発生した小児神経芽腫の1例	放射線診断科	杉岡勇典、田原潤子、赤坂好宣	第320回	日本医学放射線学会関西 西地方会	大阪	2018.11.10
小児集中治療室での終末期医療に関する多施設共同アンケート調査	小児集中治療科	制野勇介、黒澤寛史、椎間優子、新津健裕	第45回	日本集中治療医学会学会術集会	東京都	2018.2.21-2.23
教育講演：小児の蘇生と心拍再開後集中治療の最新の話題	小児集中治療科	黒澤寛史	第45回	日本集中治療医学会学会術集会	東京都	2018.2.21-2.23

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
シンポジウム座長：小児集中治療・小児重症患者の臨床研究の推進と将来	小児集中治療科	黒澤寛史	第45回	日本集中治療医学会学術集会	東京都	2018.2.21-2.23
当院における先天性心疾患の周術期に酸化窒素吸入療法を行った症例の実態調査	小児集中治療科	増井美苗、長谷川智巳、制野勇介、青木一憲、椎間優子、黒澤寛史	第45回	日本集中治療医学会学術集会	東京都	2018.2.21-2.23
小児ICUにおける Cornell Assessment of Pediatric Delirium(CAPD)を使用したせん妄発生率の調査	小児集中治療科	平田旭、制野勇介、青木一憲、椎間優子、黒澤寛史	第45回	日本集中治療医学会学術集会	東京都	2018.2.21-2.23
小児院外心停止患者におけるAAM(Advanced Airway Management)の有効性～SOS-KANTO 2012データから～	小児集中治療科	青木一憲、清水直樹、櫻井淳	第11回	蘇生科学シンポジウム	福岡市	2018.4.19
AEDによる高エネルギー除細動で救命し得た乳児の一例	小児集中治療科	鴻池善彦、青木一憲、制野勇介、椎間優子、長谷川智巳、黒澤寛史	第121回	日本小児科学会学術集会	福岡市	2018.4.20-4.22
シンポジウム座長：蘇生後の長期神経学的転帰は改善しているのか？	小児集中治療科	黒澤寛史	第11回	日本蘇生科学シンポジウム	福岡市	2018.4.20
感染に伴う中枢神経症状を呈する小児における評価・管理のpitfall	小児集中治療科	染谷真紀、制野勇介、青木一憲、椎間優子、笠井正志、黒澤寛史	第32回	日本小児救急医学会	つくば市	2018.6.1-3
術後の反回神経麻痺の診断における声帯エコーの有効性	小児集中治療科	増井美苗、長谷川知巳、黒澤寛史	第54回	日本小児循環器学会	横浜市	2018.7.6
小児敗血症 J-SSCG2016,2017ACCCMアルゴリズム	小児集中治療科	黒澤寛史	第9回	日本集中治療医学会リフレクチャーセミナー	東京都	2018.7.21
集中治療につながる小児救急医療	小児集中治療科	黒澤寛史	第8回	小児科学会インテレンシアコース	京都市	2018.8.18
小児集中治療からみる小児外科	小児集中治療科	黒澤寛史	第54回	小児外科学会近畿地方会	神戸市	2018.8.25
当院CICUの抗菌薬適正使用	小児集中治療科	楠本耕平、笠井正志	第4回	小児循環器集中治療研究会	神戸市	2018.9.22
The background of empyema patients in Japanese Children's hospital	小児集中治療科	Kohei Kusumoto, Masashi Kasai, Keiichi Morita	第9回	The 9th Asian congress of pediatric infectious diseases	福岡市	2018.11.10-12
一回換気量は6-8ml/kgを目指す	小児集中治療科	制野勇介	第26回	小児集中治療ワークショップ	京都市	2018.10.13-14
薩長同盟 -Aラインの管理法について-	小児集中治療科	潮見祐樹	第26回	小児集中治療ワークショップ	京都市	2018.10.13-14
ミニ基礎講座 呼吸	小児集中治療科	長井勇樹	第26回	小児集中治療ワークショップ	京都市	2018.10.13-14
腎代替療法導入を契機に脳浮腫の進行を来した重症小児の2例	小児集中治療科	鴻池善彦、制野勇介、長井勇樹、青木一憲、黒澤寛史	第26回	小児集中治療ワークショップ	京都市	2018.10.13-14
小児救急と麻酔科医の関わり	小児集中治療科	制野勇介	第24回	日本小児麻酔学会学術集会	神戸市	2018.10.20
子どもの終末期医療を考える 集中治療医の立場から	小児集中治療科	黒澤寛史	第1回	あいち小児保健医療総合センターシンポジウム	大府市	2018.11.06

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
つまらなくない、つまらない話 - 当院で経験したカテーテル関連血栓症と深部静脈血栓症 -	小児集中治療科	山下由理子	第5回	Critical Kimki Kids	神戸市	2018.11.23
脳腫瘍の1剖検例	病理診断科1)、血液腫瘍科2)、脳神経外科3)、放射線診断科4)、放射線治療科5)	吉田牧子1)、藤原隆弘2)、齋藤敦郎2)、長谷川大一郎2)、小坂嘉之2)、河村淳史3)、小山淳二3)、阿久津宣行3)、杉岡勇典4)、赤坂好宣4)、副島俊典5)	第78回	関西小児病理研究会	大阪市	2018. 1. 13
脳腫瘍の1例	病理診断科1)、脳神経外科2)、血液腫瘍科3)、放射線診断科4)、放射線治療科5)	吉田牧子1)、河村淳史2)、小山淳二2)、阿久津宣行2)、安積麻衣2)、石田敏章3)、市川貴之3)、長谷川大一郎3)、小坂嘉之3)、杉岡勇典4)、赤坂好宣4)、副島俊典5)	第79回	関西小児病理研究会	神戸市	2018.7.28
Gastrointestinal stromal tumor 肺転移	病理診断科	吉田牧子	2018年度	小児腫瘍症例検討会	さいたま市	2018. 8. 31
脳腫瘍の1例	病理診断科1)、脳神経外科2)、血液腫瘍科3)、放射線診断科4)、放射線治療科5)	吉田牧子1)、河村淳史2)、小山淳二2)、阿久津宣行2)、安積麻衣2)、石田敏章3)、市川貴之3)、長谷川大一郎3)、小坂嘉之3)、杉岡勇典4)、赤坂好宣4)、副島俊典5)	第38回	日本小児病理研究会学術集会	さいたま市	2018. 9. 1
低出生体重児のススキケア	看護部	鎌田直子	平成29年度	愛育会周産期医療研修5看護コースNICU・大阪編	大阪市	2018.2.13
ストーマケア	看護部	鎌田直子		明石市立松陰保育所	明石市	2018.5.30
二分脊椎外来におけるチーム医療～皮膚・排泄ケア認定看護師による排泄ケア	看護部	鎌田直子	第46回	日本小児脳神経外科学会	東京都	2018.6.8
便失禁の対応 失禁用品と浣腸・洗腸方法の実際	看護部	鎌田直子	第23回	日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー	大阪市	2018.6.16
ストーマケア	看護部	鎌田直子		三木市立志染保育所ストーマケア研修	三木市	2018.6.23
A小児専門病院における親水性コーティングを有するカテーテル導入の実態調査	看護部	鎌田直子	第27回	日本小児泌尿器科学会	金沢市	2018.6.27
小児期から排泄ケアを必要とする患者の職業選択と就労の現状調査～第一報～	看護部	鎌田直子	第32回	日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	東京都	2018.6.30
当院における二分脊椎患者の排便管理の移行期支援	看護部	鎌田直子	第35回	日本二分脊椎研究会	横浜市	2018.7.14
小児ストーマケア	看護部	鎌田直子	第40回	関西ストーマケア講習会	加古川市	2018.9.17
先天性気管狭窄症の周術期の後頭部褥瘡予防～荷重分散能の高いウレタンフォームポジションングパットの効果	看護部	鎌田直子	第29回	近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	神戸市	2018.12.1
造血幹細胞移植を受ける思春期の患者の口腔ケアに関するセルフケア支援	看護部	窪木菜美	第40回	近畿小児血液・がん研究会	大阪	2018.2.17

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
先天性白血病の子どもを持つ父親に焦点を当てた家族支援	看護部	里内美優	第16回	小児がん看護学会	京都	2018.11.16
学童期・思春期のフォロワー看護後患者への運動を取り入れた患者教室の取り組み	看護部 6西病棟	藤原あずさ	第54回	日本小児循環器学会総会・学術集会	横浜市	2018.7.6
長期安静が必要とされた乳児の運動発達支援	看護部	工藤彩加	第15回	兵庫県立病院学会	神戸市	2018.9.8
保護者同伴入室がおよぼす児への効果について	看護部 手術室	堤田真那	第16回	県立病院学会	神戸市	2018.9.8
術後のこどもの安全、安楽を守る ～共働・共育・共創を柱としたPACU導入～	看護部 手術室	新谷茜	第16回	県立病院学会	神戸市	2018.9.8
シンポジウム：小児周術期看護最前線 「看護の真髄～再考して最高へ～」 こどもの安全とがんばりを支える術後回復室PACUを導入して見えてきたこと	看護部 手術室	新谷茜	第24回	日本小児麻酔科学会	神戸市	2018.10.20
PICUにおけるグリーフカンファレンスの効果	看護部 PICU	坂本佳津子	第16回	県立病院学会	神戸市	2018.9. 8
PICUにおけるグリーフカンファレンスの効果	看護部 PICU	坂本佳津子	第46回	集中治療学会	京都	2019.3. 3
家族の危機を力にする～急性疾患の子どもと家族への支援～	看護部	浅井桃子	第65回	日本小児保険協会学術集会	米子	2018.6.14
基礎疾患をもつ思春期の若年性特発性関節炎患者へのセルフケア支援	看護部	辻田利香	第28回	小児看護学会学術集会	名古屋	2018.7.22
幼児期に1型糖尿病を発症した子どもと家族への小児学校入学に向けた支援	看護部	泊菊子	第28回	小児看護学会学術集会	名古屋	2018.7.22
小児がん拠点病院が主催する小児がん看護研修の取り組み	看護部	中谷扶美	第15回	県立病院学会	神戸市	2018.9.8
1型糖尿病の見への疾患や治療の理解に向けた支援を行う病棟看護師への教育	看護部	栗林佑季	第15回	県立病院学会	神戸市	2018.9.8
小児専門病院外来における移行期支援への取り組み	看護部	後藤恵美	第15回	県立病院学会	神戸市	2018.9.8
腹膜透析導入となった思春期の患者と家族への支援	看護部	栗林佑季	第32回	日本小児PD・HD研究会	広島	2018.10.4
長期フォローアップを受ける晩期合併症を持つ小児がん治療に思春期の患者・家族の支援	看護部	小澤一美	第60回	日本小児血液がん学術集会	京都	2018.11.13
県立病院職員のフレックシブルプログラム再構築～患者を守る、職員を守る～	看護部	中島由佳	第16回	兵庫県立病院学会	神戸市	2018.9.8
小児感染症におけるGM-TDMプロトコルに基づく介入	薬剤部	乗松耕平	第39回	日本病院薬剤師会近畿学術大会	京都市	2018.2.3-4
兵庫県立こども病院における薬剤師主導の抗菌薬適正支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team:AST) 活動について	薬剤部	宇戸裕介	第39回	日本病院薬剤師会近畿学術大会	京都市	2018.2.3-4
こども病院における薬剤師主導型ASTの取り組みとその成果	薬剤部	山田真人	第16回	兵庫県立病院学会	神戸市	2018.9.8

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
腎臓病教室への薬剤師の取り組み ～患者に寄り添った腎臓病教室を行うために～	薬剤部	齋藤あゆみ	第16回	兵庫県立病院学会	神戸市	2018.9.8
小児専門病院における薬剤師主導AST活動	薬剤部	三輪祐太郎	第45回	日本小児臨床薬理学会 学術集会	東京都	2018.10.6-7
吸入指導内容の統一に向けた取り組み ～小児特有の問題点に対して～	薬剤部	中西有璃	第28回	日本医療薬学会	神戸市	2018.11.23-25
小児SSI予防抗菌薬の適正使用 ～経口第三世代セフェム許可制による使用動向～	薬剤部	渡邊優子	第28回	日本医療薬学会	神戸市	2018.11.23-25
小児血液培養ボトルの接種量と陽性率の関連性の検討	検査部	亀山和明、大上朋子、伊藤雄介、笠井正志	第29回	日本臨床微生物学会	愛知県	2018.2.10
LSBL産生 Escherichia coli の流行に関わる subclone FimH30の役割	検査部	寺前正純	第60回	日本医学検査学会	浜松市	2018.5.12-13
薬剤感受性検査について	検査部	寺前正純	平成30年度	兵衛技微生物検査研修会	神戸市	2018.5.19
CLSI M100以外の薬剤感受性検査 ～Corynebacterium spp. の場合～	検査部	寺前正純	平成30年度	兵衛技微生物検査研修会	神戸市	2018.6.21
明日から検査室に通いたくなる微生物の話	検査部	寺前正純	第2回	初心者のための兵庫小 児感染症セミナー	神戸市	2018.6.24
小児病院における血液培養検査の現状と課題	検査部	寺前正純	第4回	感染症診断フォーラム	大阪市	2018.10.6
求められる検査室に向けて ～品質マネジメントシステムって何？～	検査部	八杉秀美	平成30年度	全国自治体病院臨床検査 部会研修会	東京都	2018.6.29
生理検査に精度管理って？ - ISO15189に準拠する と	検査部	八杉秀美	平成30年度	県立病院生理超音波部 会講習会	神戸市	2018.11.17
9年後の溯及調査により原因究明された輸血後HBV 感染の1症例	検査部	野口啓子、芳井佳奈、田中桃子、筑紫和江、 山内田里子、幸福淳子	第16回	兵庫県立病院学会	神戸市	2018.9.8
プロジェクトK ～血液培養陽性時対応24時間体制への挑戦～	検査部	亀山和明、大上朋子、寺前正純、八杉秀美、 幸福淳子	第16回	兵庫県立病院学会	神戸市	2018.9.8
金属探知機操作の標準化	放射線部	田島将行	第54回	兵庫県立病院MR部会	西宮市	2018.6.23
放射線業務従事者の水晶体の放射線防護に関する動 向と当院の取り組みについて	放射線部	原誠	第51回	兵庫県立病院画像評価 部会	尼崎市	2018.9.8
単純X線撮影時の患者介助における診療放射線技師 の水晶体被ばく防護に向けた検討	放射線部	原誠	第16回	兵庫県立病院学会	神戸市	2018.9.8
ハンダ型金属探知機の特性解析と検出率改善の検証 ～MRI金属探知機インシデント減少への期待～	放射線部	田島将行	第16回	兵庫県立病院学会	神戸市	2018.9.8
仰臥位低血圧症候群予防体位の定量評価 ～MRIを用いて～	放射線部	田島将行	第57回	全国自治体病院学会	福島県	2018.10.17-19
小児の病態栄養療法 小児肥満症の栄養指導	栄養管理部	鳥井隆志	第21回	日本病態栄養学会学術 総会	京都市	2018.01.14
角膜炎化症を来したたビタミンA欠乏症に対する炊飯 添加サプリメントの使用経緯	栄養管理部	鳥井隆志	第40回	日本臨床栄養学会総会	東京都	2018.10.6

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
チーム医療において多職種が看護師に期待すること	栄養管理部	鳥井隆志		平成30年度兵庫県立病院看護師ラダーⅢ・Ⅳチーム医療推進研修Ⅱ	神戸市	2018.07.03 2018.07.10
障がい児の栄養評価について	栄養管理部	鳥井隆志		平成30年度肢体不自由教育給食関係者調理・摂食支援講習会	神戸市	2018.07.31
こどもの便秘と食事について	栄養管理部	鳥井隆志	第35回	兵庫県小児保健協会総会シンポジウム	神戸市	2018.08.04
小児の栄養について	栄養管理部	鳥井隆志		兵庫県栄養士会生涯学習	神戸市	2018.08.25
小児専門病院における栄養障害への取り組み	栄養管理部	鳥井隆志		宮城県立こども病院小児NST研修会	仙台市	2018.10.26
保育所におけるアレルギー対応ガイドラインについて	栄養管理部	鳥井隆志		兵庫県保育協会保育士等キャリアアップ研修	神戸市	2018.10.31
障がい児の栄養評価について	栄養管理部	鳥井隆志		平成30年度兵庫県特別支援学校知的障害教育研究協議会第2回養護教諭部会	神戸市	2018.12.14
長期入院中小児の食事イベントによるストレス緩和の取り組み～移動カフェ実現に向けて～	栄養管理部	竹谷菜美、堀田亮子、田中紀子	第16回	兵庫県立病院学会	神戸市	2018.9.8

4) 報道

テーマ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日
抗菌薬説明加算について	感染症科	笠井正志	MBS ちんぷいぷい	2018.3.20
先天性尿路疾患	泌尿器科	杉多良文	TBS 「医のこころ」	2018.6.16

5) 実習生・研修生受け入れ状況

①実習生

診療部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
Universitas Gadjah Mada	国立国際医療研究センター医療技術等 国際展開推進事業	1	11.29-12.8	血液・腫瘍内科
市立豊中病院	小児感染症研修	1	8月-11月	感染症科
姫路赤十字病院	小児感染症研修	1	1月-12月	感染症科
六甲アイト病院	小児感染症研修	1	1月-12月	感染症科
神戸大学医学部	BSL 実習		2018年4月-2019年2月	整形外科および手術室
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	10.29-11.30	リハビリテーション科および耳鼻咽喉科外 来・病棟・手術室見学
神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科		2	6.20-7.13	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科		2	11.20-12.7	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科		2	12.11-12.21	歯科外来・他

看護部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学看護学部	総合看護	11	5/21-6/14 (24日間)	病棟 (7E,6W,)、産科病棟
	生涯広域看護	8	6/25-7/5 (9日間)	産科病棟、新生児
	生涯広域看護	25	7/9-7/20 (9日間)	病棟 (7W,6W,5E, HCU) 産科病棟、新生児
	生涯広域看護	16	10/1-12 (8日間)	病棟 (7W,7E,6W,HCU)
	生涯広域看護	17	10/15-25 (9日間)	病棟 (7W,6E,5W, HCU)
	生涯広域看護	2	10/16・19・24・25 (4日間)	新生児
	生涯広域看護	16	10/29-11/9 (9日間)	病棟 (7W,6W,5W,HCU)
	生涯広域看護	2	10/29・11/2・11/7・11/8 (4日間)	新生児
	生涯広域看護	24	11/12-22 (8日間)	病棟 (7E,6W,6E,5E) 産科病棟、新生児
	生涯広域看護	26	11/26-12/7 (9日間)	病棟 (7W,6E,5E,HCU) 産科病棟、新生児
	実践研究	3	9月 (2~4日間)	病棟 (5W,6W,6E)

学 校 名	実 習 名	実 習 生 数	実 習 期 間	実 習 場 所
兵庫県立総合衛生学院	小児看護学 (看護学科全日制)	4	9/4-14 (8日間)	病棟 (5W)
	小児看護学 (看護学科全日制)	5	9/18-28 (8日間)	病棟 (5W)
	小児看護学 (看護学科定時制)	3	8/27-9/7 (7日間)	病棟 (6W)
	小児看護学 (看護学科定時制)	8	9/11-21 (8日間)	病棟 (6W,6E)
	小児看護学 (看護学科定時制)	4	10/16-26 (8日間)	病棟 (5E)
	助産学科	2	10/3-5 (3日間)	新生児
	助産学科	3	1/8-10 (3日間)	新生児
	助産学科	2	1/16-18 (3日間)	新生児
	看護学科定時制 (母性)	4	8/21-8/23 (3日間)	産科病棟
	看護学科定時制 (母性)	4	9/25-27 (3日間)	産科病棟
	総合実習	8	6/11-29 (13日間)	病棟 (7W,6E)
	短期大学通信制課程	6	8/16-17 (2日間)	病棟 (7W,7E,6W,6E,5E)
	総合実習	5	6/25-7/7 (8日間)	病棟 (7E,5W)
	こども看護	5	10/1-5 (5日間)	病棟 (7E,5W)
	こども看護	5	10/15-19 (5日間)	病棟 (7E,5W)
	こども看護	6	10/22-26 (5日間)	病棟 (7E,5W)
	こども看護	7	10/29-11/2 (5日間)	病棟 (7E)
こども看護	4	11/12-16 (5日間)	病棟 (5W)	
こども看護	5	11/26-30 (5日間)	病棟 (5W)	
こども看護	5	12/10-14 (5日間)	病棟 (5W)	
こども看護	4	1/15-18 (5日間)	病棟 (7E)	
こども看護	5	1/21-25 (5日間)	病棟 (7E)	
こども看護	5	1/28-2/1 (5日間)	病棟 (7E)	
関西国際大学	統合看護実習 (母性看護学)	3	8/27-9/12 (10日間)	産科病棟、新生児
神戸市看護大学	ウィメンズヘルス看護	3	9/25・26 (2日間)	新生児
	ウィメンズヘルス看護	3	9/27・28 (2日間)	新生児
	ウィメンズヘルス看護	3	10/9・10 (2日間)	新生児
	ウィメンズヘルス看護	3	10/11・12 (2日間)	新生児
	ウィメンズヘルス看護	2	10/15・16 (2日間)	新生児
	ウィメンズヘルス看護	3	10/17・18 (2日間)	新生児

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所	
神戸市看護大学	ウィメンズヘルス看護	3	10/22・23 (2日間)	新生児	
	ウィメンズヘルス看護	3	10/24・25 (2日間)	新生児	
	統合実習	7	5/7-5/18 (10日間)	病棟 (6E,5E)	
	統合実習	7	5/21-6/1 (10日間)	病棟 (6E,5E)	
	成育看護実習Ⅱ (小児)	11	7/30-8/9 (9日間)	病棟 (6E,5E)	
	成育看護実習Ⅱ (小児)	11	10/1-12 (8日間)	病棟 (6E,5E)	
	課題探求	3	7/16-27 (10日間)	病棟 (6E,5E)	
	課題探求	4	8/20-31 (10日間)	病棟 (6E,5E)	
	課題探求	3	9/3-9/14 (10日間)	病棟 (6E,5E)	
	課題探求	3	9/18-9/28 (8日間)	病棟 (6E,5E)	
神戸女子大学 助産	総合実習	1	9/25-9/27 (3日間)	産科病棟、新生児	
	小児看護学実習	5	1/21-25 (5日間)	病棟 (7E,5W)	
	小児看護学実習	5	1/28-2/1 (5日間)	病棟 (7E,5W)	
	小児看護学実習	5	2/4-8 (5日間)	病棟 (7E,5W)	
	小児看護学実習	5	2/12-15 (5日間)	病棟 (7E,5W)	
	小児看護学実習	5	2/18-22 (5日間)	病棟 (7E,5W)	
	小児看護学実習	5	2/25-3/11 (5日間)	病棟 (7E,5W)	
	小児看護学実習	6	1/7-11 (5日間)	病棟 (7W,6W)	
	小児看護学実習	6	1/14-18 (5日間)	病棟 (7W,6W)	
	小児看護学実習	3	1/21-25 (5日間)	病棟 (7W,6W)	
兵庫医療大学	小児看護学実習	6	1/28-2/1 (5日間)	病棟 (6W,5E)	
	小児看護学実習	6	2/4-8 (5日間)	病棟 (7W,5E)	
	小児看護学実習	6	2/12-15 (4日間)	病棟 (7W,5E)	
	小児看護学実習	8	2/18-22 (5日間)	病棟 (7W,5E)	
	看護学科 見学	63	8/23		
	看護学科 見学	33	1/28		
	看護学科 見学	40	2/26		
	松江総合医療専門学校				
	平成淡路看護専門学校				
	阪奈中央看護学校				

大学院生

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学院看護学研究科	小児看護学専攻	2	9月～2月	病棟 (7W、7E、6E、5W、5E)
神戸市看護科大学大学院看護学研究科	急性期看護学特講演習	2	6/11～3/29	新生児、外来、病棟 (5W、5E)
	小児看護学専攻分野	1	7/11～12	救急病棟、救急外来
大阪府立大学大学院看護学研究科	小児看護学見学実習	1	8/15、24 9/12	病棟、外来
関西医科大学大学院看護学研究科	こども高度看護学実習 I	1	12/3～3/29	病棟 (7W、7E、6W) 新生児
慶應義塾大学マネジメント研究科		1	8/6～12/11	救急・HCU

保育

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
川崎医療短大	保育学科	3	7/20～31 (9日間)	病棟 (7E、6W、6E)
	保育学科	3	9/3～9/14 (9日間)	病棟 (6W、6E、5E)
姫路獨協大学	こども保健学科	4	2/4～18、2/19～3/4 (10日間)	病棟 (6W、6E)

薬剤部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
京都薬科大学	薬学生実務実習	1	1.9～3.23	薬剤部と主な部署
神戸薬科大学	薬学生実務実習	1	1.9～3.23	薬剤部と主な部署
武庫川女子大学	薬学生実務実習	1	1.9～3.23	薬剤部と主な部署
京都薬科大学	薬学生実務実習	1	5.7～7.20	薬剤部と主な部署
神戸学院	薬学生実務実習	2	5.7～7.20	薬剤部と主な部署
神戸薬科大学	薬学生実務実習	2	5.7～7.20	薬剤部と主な部署
京都薬科大学	薬学生実務実習	1	8.6～10.19	薬剤部と主な部署
神戸学院	薬学生実務実習	1	8.6～10.19	薬剤部と主な部署
神戸薬科大学	薬学生実務実習	2	8.6～10.19	薬剤部と主な部署
兵庫医療大学	薬学生実務実習	1	8.6～10.19	薬剤部と主な部署
京都薬科大学	薬学生実務実習	2	11.5～1.25	薬剤部と主な部署
神戸学院	薬学生実務実習	1	11.5～1.25	薬剤部と主な部署
神戸薬科大学	薬学生実務実習	3	11.5～1.25	薬剤部と主な部署

検査・放射線部（検査）

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸常盤大学保健科学部医療検査学科	臨床検査 臨地実習	2	1.11～3.7	検査部
神戸学院大学栄養学部栄養学科	臨床検査 臨地実習	1	8.1～8.14	検査部
神戸大学医学部保健学科	臨床検査 臨地実習	2	10.30～11.16	検査部
神戸大学医学部保健学科	臨床検査 検査統合実習	2	12.4	検査部
金沢大学医薬保健学域保健学類	臨床検査 見学	1	3.25	検査部
神戸常盤大学保健科学部医療検査学科	臨床検査 見学	10	6.12	検査部
大阪行岡医療専門学校	臨床検査 見学	1	7.26	検査部

栄養管理課

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
同志社女子大学	臨床栄養学及び給食経営管理	2	2/19～3/2	栄養管理課
兵庫県立大学	臨床栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習	2	3/5～3/16	栄養管理課
神戸学院大学	校外実習	7	3/6、3/8、3/13、3/15 (原則、いづれか1日)	栄養管理課
神戸松蔭女子大学	臨床栄養学 臨地実習	2	6/11～6/22	栄養管理課
神戸学院大学	管理栄養士臨地実習	4	6/25～7/6	栄養管理課
神戸学院大学	栄養指導論実習 I（施設見学）	105	7/2、7/18、7/24 (いづれかの日1時間)	講堂、栄養相談室
甲子園大学	隣地実習Ⅲ・Ⅳ（臨床栄養学）	2	8/6～8/17	栄養管理課
神戸女子大学	臨床栄養学臨地実習	2	8/20～8/31	栄養管理課
神戸女子大学	臨床栄養学臨地実習	2	9/3～9/14	栄養管理課
武庫川女子大学	隣地実習Ⅱ（臨床栄養学実習）	2	10/15～10/26	栄養管理課

②研修生
診療部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
尼崎総合医療センター小児科	小児放射線診断研修	2	3か月	超音波室、読影室
淡路医療センター放射線科	小児放射線診断研修	1	3か月(週1回)	超音波読、読影室

看護部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
兵庫県立尼崎総合医療センター	CICU 看護実務研修	1	2018.4.16～4.27	CICU
	CICU 看護実務研修	1	2018.5.7～5.18	CICU
	CICU 看護実務研修	1	2018.5.21～6.2	CICU
	CICU 看護実務研修	2	2018.6.5～6.16	CICU
	CICU 看護実務研修	2	2018.6.19～6.30	CICU

検査・放射線部(検査)

依頼元	研修名	研修生数	研修期間	研修場所

③長期院外研修
診療部

研修先施設名	研修名	研修者名	研修期間	研修場所
シアトル小児病院	シアトル小児病院長期研修 (血液・腫瘍内科)	山本暢之	6.18-7.13	
シアトル小児病院	シアトル小児病院長期研修 (小児集中治療科)	宮下	6.18-7.13	

看護部

研修先施設名	研修名	研修者名	研修期間	研修場所
兵庫県立尼崎総合医療センター	助産実務研修	中西亜希子・ 松下奈央	2018.4.1～6.30	兵庫県立尼崎総合医療センター
	助産実務研修	寺澤美展 太田君子	2018.7.1～9.30	兵庫県立尼崎総合医療センター
	助産実務研修	新開優・ 中村雪音・ 新井志歩	2018.10.1～12.31	兵庫県立尼崎総合医療センター

6) 研修 (2018年)

1) 公開研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者/担当	所属科名
第250回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	1月12日	17:45-18:30	2階講堂	14	2	16	『小児のてんかんの基本〜ご紹介頂いた症例の診断とその後〜』	山口 宏	神経内科
第251回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	1月25日	17:45-18:30	2階講堂	24	1	25	『一絨毛膜二羊膜性双胎の管理と合併症について』	鷲尾 佳一	産科
第252回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	2月8日	17:45-18:30	2階講堂	33	2	35	『泌尿器 救急疾患』	春名 晶子	泌尿器科
第253回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	2月22日	17:45-18:30	2階講堂	24	20	44	『脳性麻痺児の姿勢調整の試み〜反りのつよいつよい8ヶ月児〜』	金澤 美佳	リハビリテーション科
第254回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	3月8日	17:45-18:30	2階講堂	33	1	34	『兵庫県立こども病院における日帰り手術の麻酔〜現状と次の40年にむけて〜』	秋泉 春樹	麻酔科
第255回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	3月22日	17:45-18:30	2階講堂	27	3	30	『当院の川崎病治療の現状』	津田 雅世	救急総合診療科
第256回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	4月12日	17:45-18:30	2階講堂	33	5	38	『現場から集中治療室まで ~救命の連鎖をつなぐための取り組み〜』	宮下 徳久	集中治療科
第1回 こども病院院内研修会	研修教育委員会	4月26日	17:45-18:30	2階講堂	26	3	29	『自家用車の排気不良による一酸化炭素中毒の家族発症例』 『壊血病による股関節内および腸腰筋血腫から十度の貧血と歩行障害を呈した自閉症児』 『複雑型熱性けいれんの後発時間帯とその重症度』	倉橋 幸也 土井 圭 山口 宏	救急総合診療科 救急総合診療科 神経内科
第257回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	5月10日	17:45-18:30	2階講堂	28	4	32	『開腹歴のない絞扼性イレウスに対し分割手術で短腸症候群を回避した一例』	植村 光太郎	小児外科
第2回 こども病院院内研修会	研修教育委員会	5月24日	17:45-18:30	2階講堂	21	4	25	『遺伝子診断と遺伝カウンセリング ~実際の診断症例を通じて〜』	森貞 直哉 運崎 愛	臨床遺伝科
第258回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	6月14日	17:45-18:30	2階講堂	24	5	29	『喘息既往のある2歳女児が呼吸困難で来院。ERでの対応は?』	梶原 伸介	救急科
第3回 こども病院院内研修会	研修教育委員会	6月28日	17:45-18:30	2階講堂	76	2	78	『耐性菌の悪質タックルから身を守る方法、伝授します』	山田 真人 張 慶哲	感染症科
第259回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	7月12日	17:45-18:30	2階講堂	25	3	28	『汎血球減少・呼吸窮迫を呈した乳児例』	市川 貴之	血液腫瘍内科
第4回 こども病院院内研修会	研修教育委員会	7月26日	17:45-18:30	2階講堂	22	2	24	『小児の腎機能に関する最新の知見と当院での取り組み』	貝藤 裕史	腎臓内科
第5回 こども病院院内研修会	研修教育委員会	8月23日	17:45-18:30	2階講堂	0	0	0	台風のため中止		
第260回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	9月1日	17:45-18:30	2階講堂	14	8	22	『差明を主訴に紹介となった発達遅滞のある4歳児』	倉橋 幸也	救急総合診療科

第6回 こども病院院内研修会	研修教育委員会	9月27日	17:45-18:30	2階講堂	38	8	46	『SAFEELLITE SEMINAR 2018』 『集中治療領域における体温管理法』 『冬眠の臨床応用について』	鴻池 善彦 砂川 文志	集中治療科 理化学研究所
第261回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	10月11日	17:45-18:30	2階講堂	16	4	20	『幼児期に感冒を契機として発見された大動脈縮窄複 合の一例』	西村 明紘	循環器内科
第7回 こども病院院内研修会	研修教育委員会	10月25日	17:45-18:30	2階講堂	27	0	27	『当院における放射線業務従事者の被ばく管理の現 状と課題』	原 誠	放射線科
第262回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	11月8日	17:45-18:30	2階講堂	33	11	44	『ついでのアレルギーマーチでしつかりトリアージ！ ～症例を通してみる教科書にないコツ～』	笠井 和子	アレルギー科
第8回 こども病院院内研修会	研修教育委員会	11月22日	17:45-18:30	2階講堂	30	2	32	『インフルエンザ ～そこが知りたいQ&A～』	倉橋 幸也・ 梶原 伸介 薬剤師： 野田 有貴子 看護師： 新谷 茜	看護部
第263回 こども病院症例検討会	研修教育委員会	12月13日	17:45-18:30	2階講堂	16	3	19	『当院 Dr.カーで搬送入院となり、低体温療法を行 った重症新生児仮死の一例』	片岡 大	新生児科
第9回 こども病院院内研修会	研修教育委員会	12月27日	17:45-18:30	2階講堂	16	0	16	『小児専門病院における栄養障害への取り組み』	管理栄養士： 鳥井 隆志	栄養管理部 栄養管理課
平成30年度水上消 防署との地域病院 研修プログラム	兵庫県立 こども病院	10月26日		こども病院				水上特別救急隊 (BLUE-CAT) の概要	水上消防署 救急第一係/ 福井 淳	
平成30年度水上消 防署との地域病院 研修プログラム	兵庫県立 こども病院	10月26日		こども病院				現場での迅速な小児の評価法 ーバイタルサイン以外にも病院が知りたい情報も踏 まえて	松井 鋭	救急総合診療科
予防接種基礎講座	予防接種センター	2月2-3日	9:00-16:00	こども病院講堂			37人	予防接種に基本的セミナー	倉橋 幸也 他	感染症科、 総合診療科
兵庫小児感染症セ ミナー	感染症科	6月23日	9:00-13:00	神戸中央市民 病院	10人	55人	65人	小児感染症の基礎を学ぶ	笠井/伊藤	感染症科
こどもの血液培養 と菌血症カレッジ	日本 BD	9月2日	9:00-13:00	大阪	5人	145人	150人	小児血液培養について考える	笠井/伊藤	感染症科
第10回神戸市西部 小児科JOINT会	神戸市西部小 児科JOINT会	9月29日	16:00-17:30	生田神社会館	1人	20人	21人	軽度域、グリーゾーンの生きづらさ	関口 典子	精神科
平成30年度兵庫県 立こども病院周産 期医療センター研 修会	産科・ 新生児内科	12月8日	14:00-17:30	こども病院講堂	50人	50人	100人	1) 当科と循環器内科との連携 2) 当科の胎児心エコー診断の現状について 3) 当科で過去10年間に管理した胎児形態異常の分析 4) あなたが送り出したダウン症児その後どうなっ ているか知っていますか？ー最新の臨床課題と最先 端研究をだれにでもわかりやすくー	1) 杉友ユリ 2) 亀井直哉 3) 船越徹 4) 北畠康司	1) 産科病棟 2) 循環器内科 3) 産科 3) 大阪大学医学 部附属病院小児 科
PALS 講習会	日本小児集中 治療研究会	3月17-18日	2日間	兵庫県立こども 病院 講堂		15	15	小児の二次救命処置の講習会	青木 一憲	小児集中治療科

PALS 講習会	日本小児集中治療研究会	7月21日	1日間	京都第一赤十字病院	20	20	小児の二次救命処置の講習会	青木 一憲	小児集中治療科
PALS 講習会	日本小児集中治療研究会	9月9日	1日間	神戸中央市民病院	15	15	小児の二次救命処置の講習会	青木 一憲	小児集中治療科
PALS 講習会	日本小児集中治療研究会	10月6-7日	2日間	横浜労災病院	15	15	小児の二次救命処置の講習会	青木 一憲	小児集中治療科
PALS 研修	阪神北広域こども急病センター	7月14日	12:00-14:00	阪神北広域こども急病センター	30	30	小児の二次救命処置の講習会	青木 一憲	小児集中治療科
第2回 ships	兵庫県立こども病院	1月6日		神戸市立中央市民病院	30	40	細菌性髄膜炎	楠本 耕平	小児集中治療科

2) 院内全体研修

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	講師 / 発表者	所属
院内講演会	麻酔科・国際交流委員会	10月22日	17:30-18:45	講堂	医師 38名 看護師 26名	手術室外の麻酔・鎮静	名越真	ロサンゼルス小児病院 麻酔科
第1回RST勉強会	呼吸療法委員会	2月16日	17:30-18:30	北館 スキルラボ	51名	加温・加温について	制野勇介	小児集中治療科
第2回RST勉強会	呼吸療法委員会	8月8日	17:45-18:45	北館 スキルラボ	40名	在宅人工呼吸器Trilogyハンズオンセミナー～倫理と実践の架け橋～	業者	
第3回RST勉強会	呼吸療法委員会	10月19日	17:45-18:30	北館 スキルラボ	40名	目の前で気切患者のSpO2が下がったら？	制野勇介	小児集中治療科
第2回医療安全研修会	医療安全管理室	H30.3.13 H30.3.27より 6回	1時間	講堂、 3F看護部 会議室(D VD視聴)	237 415	各部門の活動報告 KYTで患者安全	各部門の リ スク マ ネ ー ジャ ー 藤田	各部門医療 安全管理室
第1回医療安全研修会	医療安全管理室	H30.10. 20～12月10 日	40分	各自	691	e-ラーニング（アレルギー確認、輸液ポンプの操作、パニック値、指差し呼称）	無し	無し
新規採用医師 感染対策オリエンテーション	感染対策委員会	4月2日	15:30-16:00	総務部前 会議室	40	小児専門病院の感染対策	伊藤雄介	感染対策 チーム
防護具着脱演習	感染対策委員会	4月5日	12:50-16:30	講堂	32	防護具の正しい着脱について演習	鳴滝由佳	感染対策 チーム
第1回ASPセミナー	感染対策委員会	6月28日	17:45-18:30	講堂	61	耐性菌の悪質タックルから身を守る方法、伝授します	山田真人 張慶哲	抗菌薬適正 使用支援 チーム
第1回全職員対象感染対策研修会	感染対策委員会	7月19日	17:30-18:30	講堂	224	STOP！手袋・エプロンウオーク～つけたらはずす～	伊藤雄介 中島由佳 新谷茜	感染対策 チーム
保育士対象感染対策研修会	看護部	7月25日	14:00-14:30	5Fカンファ レンス室	6	手指衛生・防護具の適正使用	中島由佳	感染対策 チーム
第1回全職員対象感染対策研修 会上映会	感染対策委員会	7月31日	14:00-15:00	講堂	39	STOP！手袋・エプロンウオーク～つけたらはずす～	中島由佳	感染対策 チーム
第1回全職員対象感染対策研修 会上映会	感染対策委員会	8月1日	①14:00-15:00 ②15:00-16:00 ③16:00-17:00	講堂	①20 ②29 ③19	STOP！手袋・エプロンウオーク～つけたらはずす～	中島由佳	感染対策 チーム

第1回全職員対象感染対策研修上映会	感染対策委員会	8月7日	14:00-15:00	講堂	32	STOP!手袋・エプロンウオーク～つけたらはずす～	中島由佳	感染対策チーム
第1回全職員対象感染対策研修上映会	感染対策委員会	8月21日	①15:00-16:00 ②16:00-17:00	講堂	①45 ②40	STOP!手袋・エプロンウオーク～つけたらはずす～	中島由佳	感染対策チーム
第1回全職員対象感染対策研修上映会	感染対策委員会	8月22日	①15:00-16:00 ②16:00-17:00	講堂	①40 ②52	STOP!手袋・エプロンウオーク～つけたらはずす～	中島由佳	感染対策チーム
第1回全職員対象感染対策研修上映会	感染対策委員会	8月28日	14:00-15:00	講堂	67	STOP!手袋・エプロンウオーク～つけたらはずす～	中島由佳	感染対策チーム
清掃・リネン業務職員対象感染対策研修会	感染対策委員会	8月31日	①12:00-12:30 ②12:30-13:00 ③17:00-17:30	看護部会議室	31	手の衛生と手袋の正しい使い方	中島由佳	感染対策チーム
輸血療法研修会	輸血療法委員会	1月18日	17:30-18:30	2階講堂	101	血液製剤の取り扱い方法	小島正太郎	兵庫県赤十字血液センター
臨床検査研修会	検査部	1月30日	17:30-18:30	2階講堂	59	冬季のウイルス感染症について	笠井正志	感染症科

3) 複数科合同カンファレンス

名称	対象科	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医	1月11日		カンファレンス室3		合同リサーチカンファレンス	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、薬剤部	1月18日		カンファレンス室3		BCG骨髄炎（総合診療科 張）	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医	2月8日		カンファレンス室3		合同リサーチカンファレンス	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、薬剤部	2月15日		カンファレンス室3		IVIg不応川崎病 IPFXの現在地 （総合診療科 倉橋）	
総合診療科・HCU M&Mカンファレンス	総合診療科、専攻医、 HCU病棟看護師	2月28日		カンファレンス室3		気管切開カニューレ予定外抜去の対応について	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、薬剤部	3月22日		カンファレンス室3		淋菌（感染症科 伊藤）	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医	5月10日		カンファレンス室3		合同リサーチカンファレンス	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、薬剤部	5月17日		カンファレンス室3		「熱」の話（感染症科 笠井）	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、薬剤部	5月31日		カンファレンス室3		細菌検査（検査部 寺前）	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医	6月7日		カンファレンス室3		合同リサーチカンファレンス	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、薬剤部	6月14日		カンファレンス室3		インドネシアの文化 （インドネシアからの研修 Dinda）	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、薬剤部	6月21日		カンファレンス室3		3か月未満の発熱（総合診療科 倉橋）	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、薬剤部	7月5日		カンファレンス室3		感染症の有病率（感染症科 笠井）	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医	7月19日		カンファレンス室3		合同リサーチカンファレンス	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、検査部	7月26日		カンファレンス室3		細菌検査（検査部 亀山）	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、薬剤部	8月23日		カンファレンス室3		口腔内感染症（感染症科 鞍谷）	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医	8月30日		カンファレンス室3		3か月未満の発熱（総合診療科 倉橋）	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、薬剤部	9月6日		カンファレンス室3		特別講演 （HHV-6再活性化の共同研究 神戸大学 森）	
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、検査部	10月11日		カンファレンス室3		真菌培養の感受性（検査部 寺前）	

熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医、薬剤部	10月25日			カンファレンス室3	スウェーデン研修報告会		
熱病カンファレンス	総合診療科、感染症科、 専攻医	12月20日			カンファレンス室3	無脾症（総合診療科 張）		
第2回SSI勉強会	心臓血管外科、麻酔科、 看護部、感染症科等	3月1日	17:30-18:30		CICUカンファラ室	当院の開胸術に伴う感染症	笠井正志	
第2回SSI team勉強会	心臓センター、感染症 科、麻酔科、手術室	1月25日	17:30-18:30		CICUカンファラ室	Heart SSIチーム立ち上げについて	笠井/新谷	
第3回SSI team勉強会	心臓センター、感染症 科、麻酔科、手術室	3月1日	17:30-18:15		CICUカンファラ室	縦隔洞炎症例振り返り	村上/新谷	
第4回SSI team勉強会	心臓センター、感染症 科、麻酔科、手術室	4月25日	17:30-18:15		CICUカンファラ室	縦隔洞炎症例振り返り	村上/新谷	
麻酔科・心臓外科・循環器科・集中治療科 合同カンファレンス	麻酔科、心臓外科、循環 器内科、集中治療科、看 護師、臨床工学士	通年、毎日	7:55-8:10		CICU	当日の心臓外科症例についてのカンファレンス	手術・麻酔 担当医	
モーニングカンファレンス	産科、看護部、薬剤部	毎日	8:30-8:50		産科病棟 詰所	当直報告と産科入院症例の状態報告、連絡事項		
周産期カンファレンス	産科、新生児内科、小児 外科、病理診断科、看護 師、検査技師、薬剤部	毎月(月が休日 の場合は火)	16:00-16:30		新生児科カ ンファレン ス室1	未分娩妊婦の症例提示と新生児の経過報告		
ウィークエンドカンファレンス	産科、看護部、薬剤部	毎金(金が休日 の場合は木)	16:00-16:20		産科病棟 詰所	産科入院症例の状態報告		
MRIカンファレンス	産科、新生児内科、放射 線科	1月29日 10月30日	17:00-18:00		産科カンフ アレックスル ーム	胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、 その後の経過		
こども病院・中央市民病院 合同カンファレンス	産科、新生児内科	2月6日	17:30-18:30		2階講堂 (交互開催)	当院と中央市民病院産科、新生児科の紹介症例 のその後の転機を検討する		
MRI勉強会	放射線部、看護部	7月25日	16:30-17:30		MRI室	MRI金属探知研修	田島	
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科、泌 尿器科、作業療法士、皮 膚・排泄ケア認定看護師	3月23日	16:00～16:30		整形外科ギ プス室	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察 患者の情報共有 対象患者4名		
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科、泌 尿器科、作業療法士、皮 膚・排泄ケア認定看護師	7月23日	15:35～15:50		整形外科ギ プス室	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察 患者の情報共有 対象患者5名		
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科、泌 尿器科、作業療法士、皮 膚・排泄ケア認定看護師	10月26日	15:35～16:00		整形外科ギ プス室	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察 患者の情報共有 対象患者6名		

4) 部署別勉強会・カンファレンス

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
補聴器外来カンファレンス	耳鼻科	3月7日	15:00-16:00	耳鼻科診察室	4名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
補聴器外来カンファレンス	耳鼻科	4月4日	15:00-16:00	耳鼻科診察室	4名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
補聴器外来カンファレンス	耳鼻科	5月2日	15:00-16:00	耳鼻科診察室	4名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
補聴器外来カンファレンス	耳鼻科	6月12日	15:00-16:00	耳鼻科診察室	4名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
姫路聴覚特別支援学校カンファレンス	耳鼻科	7月18日	17:00-17:40	2階リハビリ言語室	8名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
補聴器外来カンファレンス	耳鼻科	8月8日	15:00-16:00	2階リハビリ言語室	8名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
補聴器外来カンファレンス	耳鼻科	9月5日	15:00-16:00	耳鼻科診察室	4名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
補聴器外来カンファレンス	耳鼻科	10月3日	15:00-16:00	耳鼻科診察室	4名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
神戸聴覚特別支援学校カンファレンス	耳鼻科	11月7日	15:00-17:00	2階リハビリ言語室	8名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
補聴器外来カンファレンス	耳鼻科	12月5日	15:00-16:00	耳鼻科診察室	4名	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
ハートセンター勉強会	心臓センター	1月26日	17:45-18:30	北館2階研修室	29人	完全大血管転位症	谷口(循環器科)
ハートセンター勉強会	心臓センター	2月23日	17:45-18:30	北館2階研修室	30人	修正大血管転位症	富永(循環器科)
ハートセンター勉強会	心臓センター	3月9日	17:45-18:30	北館2階研修室	24人	両大血管右室起始症	亀井(循環器科)
ハートセンター勉強会	心臓センター	3月30日	17:45-18:30	北館2階研修室	16人	総動脈幹遺残症	松岡(循環器科)
ハートセンター2018年度新人勉強会1	心臓センター	6月8日	17:45-18:30	CICUカンファレンス室	31人	解剖・循環生理・根治術と姑息術・略語	松久
ハートセンター2018年度新人勉強会2	心臓センター	6月29日	17:45-18:30	CICUカンファレンス室	24人	ASD・VSD・AVSD・PDA	松久
ハートセンター2018年度新人勉強会3	心臓センター	7月13日	17:45-18:30	CICUカンファレンス室	25人	TOF・TGA・TAPVC	松久
ハートセンター2018年度新人勉強会3	心臓センター	7月27日	17:45-18:30	CICUカンファレンス室	25人	単心室	松久
ハートセンター勉強会	心臓センター	10月12日	17:45-18:30	北館2階研修室	32人	小児の心電図と不整脈	小川
ハートセンター勉強会	心臓センター	11月22日	17:45-18:45	北館2階研修室	28人	小児期心疾患の薬物治療	三木
第1回 手術部勉強会	心臓血管外科	5月18日	9:00-10:15	手術室	13人	人工心肺のカミュレーションについて	村上(心外)
第2-1回 手術部勉強会	心臓血管外科	6月6日	16:30-17:00	手術室	20人	心室中隔欠損症	村上(心外)
第2-2回 手術部勉強会	心臓血管外科	6月26日	17:15-18:30	手術部	7人	心室中隔欠損症	村上(心外)
第3回 手術部勉強会	心臓血管外科	8月28日	16:00-16:30	手術部	7人	フォントラン手術	村上(心外)
第4回 手術部勉強会	心臓血管外科	9月28日	16:00-16:30	手術部	7人	シャント手術	村上(心外)
第5回 手術部勉強会	心臓血管外科	10月29日	16:30-17:00	手術部	7人	大動脈縮窄症	村上(心外)

第6回 手術部勉強会	心臓血管外科	12月14日	16:30-17:00	手術部	7人	フロー四徴症	村上(心外)
麻酔科講演会	麻酔科	1月5日	17:00	麻酔科医局	15	あいち小児保険医療総合センターの麻酔について	宮津光範
麻酔科カンファレンス	麻酔科	毎日	8:30-9:00	麻酔科医局	20	毎日の麻酔症例についての検討	麻酔科統括
麻酔科重症症例カンファレンス	麻酔科	毎週金曜日	16:30-17:30	麻酔科医局	16	次週の重症症例についての検討	麻酔科統括
麻酔科抄読会	麻酔科	隔週月曜日	8:20-8:40	麻酔科医局	20	重要論文を挙げて紹介する	麻酔科担当 医師
精神科心理検査勉強会	精神科	7月28日	14:00-16:00	精神科くじらの部屋	11人	こだわりの強い小学4年男児に対する性格検査の検討	北田・内田
精神科心理検査勉強会	精神科	9月29日	14:00-16:00	精神科くじらの部屋	11人	転換性障害中学1年女子に対する心理検査の考察	北田
精神科心理検査勉強会	精神科	11月10日	14:00-16:00	精神科くじらの部屋	11人	身体表現性障害小学5年女子に対するストレス対処法について	沖村
産科抄読会	産科	第2、4木 年に数回	13:30-13:50	産科カンファレンスルーム	8	英文医学雑誌から産科関連論文の紹介	
産科勉強会	産科		17:30-18:30	産科カンファレンスルーム	15-20	医師による看護師に対する講義	
薬剤部勉強会	薬剤部	5月7日	17:30~18:30	薬剤部	16	製品勉強会「デュピクセント」	
薬剤部勉強会	薬剤部	5月15日	17:30~18:30	薬剤部	16	症例検討会ICU	
薬剤部勉強会	薬剤部	5月15日	17:30~18:30	薬剤部	16	症例検討会5東	
薬剤部勉強会	薬剤部	5月28日	17:30~18:30	薬剤部	16	感染症勉強会	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月14日	17:30~18:30	薬剤部	14	製品勉強会「レミッチ」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月19日	17:30~18:30	薬剤部	16	製品勉強会「グーフイス」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月20日	17:30~18:30	薬剤部	16	症例検討会産科	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月20日	17:30~18:30	薬剤部	16	症例検討会産科	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月26日	17:30~18:30	薬剤部	14	製品勉強会「レギニール」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月27日	17:30~18:30	薬剤部	15	製品勉強会「エネーボ〜経腸栄養剤〜」	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月2日	17:30~18:30	薬剤部	17	感染症勉強会	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月3日	17:30~18:30	薬剤部	16	製品勉強会「プレバイミス」	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月11日	17:30~18:30	薬剤部	16	製品勉強会「イブリーフ」	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月17日	17:30~18:30	薬剤部	16	症例検討会5東	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月17日	17:30~18:30	薬剤部	16	症例検討会6西	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月6日	17:30~18:30	薬剤部	12	感染症勉強会	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月7日	17:30~18:30	薬剤部	12	製品勉強会「アドセトリス」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月13日	17:30~18:30	薬剤部	15	症例検討会7西	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月24日	17:30~18:30	薬剤部	12	製品勉強会「テクフィデラ」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月28日	17:30~18:30	薬剤部	11	製品勉強会「ナルナス」	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月10日	17:30~18:30	薬剤部	13	症例検討会5西	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月27日	17:30~18:30	薬剤部	10	製品勉強会「ベスポンサ」	

薬剤部勉強会	薬剤部	10月8日	17:30～18:30	薬剤部	14	症例検討会7東	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月8日	17:30～18:30	薬剤部	14	症例検討会6東	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月19日	17:30～18:30	薬剤部	12	感染症勉強会	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月26日	17:30～18:30	薬剤部	12	症例検討会救急HCU	
放射線部勉強会	放射線部	1月15日	17:00-17:30	放射線部	13	MRI Balanced sequenceについて	
放射線部勉強会	放射線部	2月19日	17:00-17:30	放射線部	11	被曝線量低減ガイドラインについて	
放射線部勉強会	放射線部	3月5日	17:00-17:30	放射線部	13	センチネルリンパ節検査について	
放射線部勉強会	放射線部	4月2日	16:30-17:30	放射線部	5	電子カルテ、部門システム等個人情報取り扱いについて	
放射線部勉強会	放射線部	6月4日	17:00-17:30	放射線部	10	パニック画像の取り扱いについて	
放射線部勉強会	放射線部	7月17日	17:00-17:30	放射線部	9	水晶体被曝低減について	
放射線部勉強会	放射線部	8月6日	17:00-17:30	放射線部	11	FPD画像品質管理について	
放射線部勉強会	放射線部	11月12日	17:00-17:30	放射線部	13	放射線障害防止法の改正について	
人工呼吸勉強会	小児集中治療科	2018.11.22	17:30-19:00	集中治療科医師控室	7	Mechanical ventilation Chaptert 1,2,3章	制野 長井 青木
人工呼吸勉強会	小児集中治療科	2018.12.19	18:00-19:00	集中治療科医師控室	6	Mechanical ventilation Chaptert 4,6章	山下 制野
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2018.11.16	17:00-18:00	集中治療科医師控室	5	リサーチ内容の検討	制野 山下
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2018.12.19	17:00-18:00	集中治療科医師控室	6	リサーチ内容の検討	金子 山下
蘇生シミュレーション	小児集中治療科・ CICU・PICU・ICU	2018.11.9	17:30-19:00	PICU	24人	蘇生シミュレーション	宮下・青木・ 黒澤・岸本・ 坂本・笠木
蘇生シミュレーション	小児集中治療科・ CICU・PICU・ICU	2018.11.19	17:30-19:00	PICU	20人	蘇生シミュレーション	宮下・青木・ 黒澤・岸本・ 坂本・笠木
蘇生シミュレーション	小児集中治療科・ CICU・PICU・ICU	2018.11.29	17:30-19:00	PICU	15人	蘇生シミュレーション	宮下・青木・ 黒澤・岸本・ 坂本・笠木
蘇生シミュレーション	小児集中治療科・ CICU・PICU・ICU	2018.12.5	17:30-19:00	PICU	17人	蘇生シミュレーション	宮下・青木・ 黒澤・岸本・ 坂本・笠木
蘇生シミュレーション	小児集中治療科・ CICU・PICU・ICU	2018.12.10	17:30-19:00	PICU	14人	蘇生シミュレーション	宮下・青木・ 黒澤・岸本・ 坂本・笠木
ECMOシミュレーション	小児集中治療科・ ME	2018.3.24	10:00-17:00	CICU・PICU	9人	ECMOシミュレーション	宮下・青木・ 三坂
ECMOシミュレーション	小児集中治療科・ ME	2018.9.29	10:00-17:00	CICU・PICU	8人	ECMOシミュレーション	宮下・青木・ 三坂
カンファレンス	小児集中治療科	2018.10.19	17:00-18:30	CICUカンファレンス室	10人	ICUにおける日常診療上の疑問点のディスカッション	宮下徳久
集中治療科看護師対象勉強会	小児集中治療科	2018.6.1	17:30-18:30	CICU	30	肺高血圧症について	増井美苗

検査部勉強会	検査部	1月23日	16:30～17:30	検査部会議室	16	小児血液培養ボトルの採取量と陽性率	亀山
検査部勉強会	検査部	2月27日	16:30～17:30	検査部会議室	12	PCRについて	野口
検査部勉強会	検査部	3月6日	16:30～17:30	検査部会議室	14	臨地実習	神戸常盤大学 学生
検査部勉強会	検査部	3月26日	16:30～17:30	検査部会議室	14	精度管理調査報告	山内
検査部勉強会	検査部	4月24日	16:30～17:30	検査部会議室	13	炎症マーカー IL-6 について	シーメンス
検査部勉強会	検査部	5月22日	16:30～17:30	検査部会議室	15	ISHの基礎と実際	ライカ
検査部勉強会	検査部	6月12日	18:30～19:30	検査部会議室	4	血栓止血検査の基礎	シスメックス
検査部勉強会	検査部	6月19日	16:30～17:30	検査部会議室	14	求められる検査室について	八杉
検査部勉強会	検査部	6月20日	16:30～17:30	検査部会議室	14	緊急時対応について (MET)	津田医師
検査部勉強会	検査部	6月22日	16:30～17:30	検査部会議室	20	遺伝子検査①	郷司医師
検査部勉強会	検査部	6月26日	17:00～17:30	検査部技師控室	35	医療法改正に伴う変化と対応	幸福
検査部勉強会	検査部	7月3日	16:30～17:15	検査部会議室	12	遺伝子検査②	郷司医師
検査部勉強会	検査部	7月5日	14:00～15:00	検査部会議室	17	ISO15189とは	八杉
検査部勉強会	検査部	7月10日	15:30～16:30	検査部会議室	13	ISO15190とは	八杉
検査部勉強会	検査部	7月13日	16:00～17:00	検査部会議室	17	ISO15189規格説明会①	八杉
検査部勉強会	検査部	7月18日	14:00～15:00	検査部会議室	13	ISO15189規格説明会①	八杉
検査部勉強会	検査部	7月20日	16:00～17:00	検査部会議室	16	ISO15189規格説明会②	八杉
検査部勉強会	検査部	7月24日	14:00～15:00	検査部会議室	13	ISO15189規格説明会②	八杉
検査部勉強会	検査部	7月31日	16:30～17:00	検査部会議室	12	凝固検査について	芳井
検査部勉強会	検査部	8月2日	14:00～15:00	検査部会議室	13	SOP作成セミナー	八杉
検査部勉強会	検査部	8月3日	14:00～15:00	検査部会議室	13	SOP作成セミナー	八杉
検査部勉強会	検査部	8月6日	16:30～17:00	検査部会議室	16	H29年度ヒヤリハット報告の分析	幸福
検査部勉強会	検査部	8月14日	16:30～16:45	検査部会議室	11	KOBE にさんがろく PROJECT	神戸学院大学 学生
検査部勉強会	検査部	9月7日	16:30～17:10	検査部会議室	13	危険予知トレーニング①	八杉
検査部勉強会	検査部	9月13日	18:30～19:30	検査部会議室	3	敗血症DICにおける病態と治療	シスメックス
検査部勉強会	検査部	10月2日	16:00～17:00	検査部会議室	14	eQAPIによる精度管理	シスメックス
検査部勉強会	検査部	10月23日	16:30～17:00	検査部会議室	14	生化学検査における基礎	平田
検査部勉強会	検査部	11月16日	16:30～17:00	検査部会議室	9	熱帯マラリア原虫、ジカウイルスについて	神戸大学学生
検査部勉強会	検査部	11月22日	16:30～17:00	検査部会議室	11	危険予知トレーニング②	八杉
検査部勉強会	検査部	11月27日	16:30～17:00	検査部会議室	12	細菌検査の基礎	亀山
検査部勉強会	検査部	12月25日	16:00～16:30	検査部会議室	10	非特異反応と再検査フロー	富士テレビオ
感染管理スキルアップ 研修	ICT	8月20日	15:35～16:45	細菌検査室	15	細菌検査について	亀山

看護部署内勉強会（2018年度）

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者 / 担当
新人看護師対象勉強会	7階東病棟	5月18日	17:30-18:15	7階カンファレンス室	6	術前・術後の看護	田中/東
新人看護師対象勉強会	7階東病棟	5月25日	9:30-10:30	7階カンファレンス室	3	夜勤前オリエンテーション	中野
新人看護師対象勉強会	7階東病棟	5月25日	13:30-14:30	7階カンファレンス室	3	夜勤前オリエンテーション	中野
勉強会	7階東病棟	6月14日	17:30-18:30	7階カンファレンス室	10	WOC愛護的なナーブの剥がし方	福西・本田/森田
勉強会	7階東病棟	6月22日	17:30-18:30	7階カンファレンス室	10	WOC愛護的なナーブの剥がし方	福西・本田/森田
新人看護師対象勉強会	7階東病棟	6月26日	17:30-19:00	7東処置室	6	病棟麻酔処置と看護の実際	篠原・福西/松本
ラダー I II 勉強会	7階東病棟	7月23日	17:30-18:40	7東観察室	16	救急蘇生①	赤塚・岩崎・南部/渡・立花
勉強会	7階東病棟	8月30日	17:30-18:30	7階カンファレンス室	20	ターミナル看護	金・山崎・岡本/奈須
ラダー I II 勉強会	7階東病棟	9月12日	17:30-18:30	7階カンファレンス室	8	WOC軟膏ケア方法	鎌田CN
新人看護師対象勉強会	7階東病棟	9月21日	17:40-18:30	6階カンファレンス室	7	排便コントロール	Bチーム
勉強会	7階東病棟	9月26日	17:30-18:30	6階カンファレンス室	13	新生児看護	井谷CN
勉強会	7階東病棟	10月30日	17:30-18:30	7東観察室	17	救急蘇生②	赤塚・岩崎・南部/渡・立花
勉強会	7階東病棟	12月4日	17:30-18:00	7階面談室	9	復学支援	金・高松・福西/岩田
勉強会	7階西病棟	4月6日	15:30-18:30	カンファレンス室	14	小児がん拠点病院の役割・代表的な疾患	小阪・長谷川Dr
勉強会	7階西病棟	4月10日	16:00-17:00	カンファレンス室	12	化学療法概論	後藤 / 板原
勉強会	7階西病棟	4月11日	9:00-12:30	スキルラボ	14	遊びと看護、遊びと生活、KYT	清水 / 里内
勉強会	7階西病棟	4月12日	15:30~1700	カンファレンス室	14	ALL、AML	長谷川Dr/宗和

勉強会	7階西病棟	4月17日	16:00-17:00	カンファレンス室	12	化学療法中の子どもの栄養	鞆/川畑
勉強会	7階西病棟	4月20日	16:00-17:00	カンファレンス室	12	放射線療法と看護概論	田中/辻
勉強会	7階西病棟	4月27日	16:00-17:00	カンファレンス室	13	放射線科検査	古賀/古賀
勉強会	7階西病棟	5月18日	16:00-17:00	カンファレンス室	16	神経芽細胞腫	齋藤Dr/窪木
勉強会	7階西病棟	5月28日	17:30-18:30	カンファレンス室	20	発熱時の看護	戒田/多田/山田
勉強会	7階西病棟	7月26日	17:30-18:30	カンファレンス室	18	疼痛コントロール看護	戒田/多田/山田
勉強会	7階西病棟	9月27日	17:30-18:30	5Fカンファレンス室	17	アレルギー看護	戒田/多田/山田
勉強会	7階西病棟	11月29日	17:30-18:30	7Fカンファレンス室	16	脳腫瘍・尿崩症看護	戒田/多田/山田
腎臓内科勉強会	6階東病棟	5月17日	17:30-18:30	教育研修室	10	PD「つなぐ」、レギュニールについて	バクスター/宮崎
腎臓内科勉強会	6階東病棟		15:30-16:30	6F観察室	10	PD「つなぐ」、レギュニールについて	同上
代謝内科勉強会	6階東病棟	8月10日	17:40-18:40	6Fカンファレンス室	12	リプレの取り扱い方法と事例紹介	尾崎Dr/内科チーム
腎臓内科勉強会	6階東病棟	8月30日	17:30-18:30	教育研修室	32	腹膜透析の基礎知識 PD「つなぐ」、レギュニールについて	田中医師 バクスター/ 宮崎
代謝内科勉強会	6階東病棟	11月9日	17:30-18:30	6Fカンファレンス室	12	DMの看護について 学童期～思春期の子供事例を通して	松下/内科チーム
脳神経外科勉強会	6階東病棟	11月22日	17:30-18:30	6Fカンファレンス室	11	脊髄脂肪腫	小山医師/宮崎
脳神経外科勉強会	6階東病棟	11月30日	17:30-18:30	5Fカンファレンス室	6	脊髄脂肪腫	宮崎/宮崎
看護勉強会	6階東病棟	11月7日	14:30-15:30	6Fスタッフステーション	12	在宅自己導尿	WOC鎌田看護 師/横山し
看護勉強会	6階東病棟	11月13日	14:30-15:30	6Fスタッフステーション	5	在宅自己導尿	WOC鎌田看護 師/横山し
看護勉強会	6階東病棟	11月27日	14:30-15:30	6Fスタッフステーション	4	在宅自己導尿	横山し

看護勉強会	6階東病棟	12月20日	17:30-18:30	5Fカンファレンスルーム	19	糖尿病患者教育について	東
育児教室	6階西病棟	5月22日	14:00-14:50	6Wプレールーム	5	ベビーマッサージ	川端・松下・菊池
育児教室	6階西病棟	6月21日	14:00-14:45	6Wプレールーム	4	抱っこ、授乳、衣服、うんちについて 手作り教室	福井・藤井
育児教室	6階西病棟	8月23日	14:00-15:10	病室	1	発達と遊び、環境 手作り教室	楠本
育児教室	6階西病棟	9月21日	14:00-14:15	病室	1	ベビーマッサージ	湯蓋
育児教室	6階西病棟	10月25日	15:10-15:40	病室	2	お風呂、感染防止、 手作り教室	菊池
育児教室	6階西病棟	11月22日	14:00-15:00	6Wプレールーム	5	ベビーマッサージ 手作り教室	福井
育児教室	6階西病棟	12月21日	14:00-15:10	6Wプレールーム	3	抱っこ、授乳、衣服、うんちについて クリスマス会	金、植山
勉強会	6階西病棟	6月11日	17:30-18:30	6Fカンファレンスルーム	18	摂食ケア「ミルクの飲ませ方～BFっ難しい～」	松下
勉強会	6階西病棟	7月26日	17:30-18:30	6W器材庫	13	1年目対象蘇生技術勉強会	原口・木津・内東
勉強会	6階西病棟	8月7日	17:30-18:10	6Fカンファレンスルーム	24	接遇勉強会	大野・安井
勉強会	6階西病棟	9月18日	17:30-18:30	6W 606号室(空床時)	12	救急蘇生シミュレーション	前田・林
勉強会	6階西病棟	10月4日	17:30-18:30	6W観察室	13	看護技術「PIについてもっと知ろう～PI管理に自信がきまようように～」	藤井
勉強会	6階西病棟	11月23日	17:30-18:30	6Fカンファレンスルーム	18	PLE勉強会 「N様の検討事例」	Dr久保・湯蓋
勉強会	6階西病棟	1月23日	17:30-18:30	6Fカンファレンスルーム		新生児管理「新生児管理～赤ちゃんのサインに気づこう～」	藤井
勉強会	6階西病棟	1月18日	17:30-18:30	6W観察室	14	救急蘇生シミュレーション	安井
勉強会	6階西病棟	2月予定				救急蘇生シミュレーション	前田

勉強会	3月予定	3月予定	5階カンファレンス室	6	救急蘇生シミュレーション	林
新人勉強会 (泌尿器)	4月17日	13:00-14:00	5階カンファレンス室	6	カテーテル管理	篠原/山口
病棟勉強会 (外科)	4月17日	17:30-18:30	5階カンファレンス室	13	気管無形成	前田Dr/師長
病棟勉強会 (泌尿器)	4月27日	17:30-18:30	5階カンファレンス室	8	尿道下裂	春名Dr/竹村
新人勉強会 (外科)	5月28日	15:00-16:00	5階カンファレンス室	7	ドレーン管理	池田・丸岡
新人勉強会	6月13日	17:30-18:30	5西処置室	9	救急カート	篠原/武藤
新人勉強会 (呼吸管理①)	6月22日	14:00-14:40	5階カンファレンス室	9	気管切開	奥谷・丸岡
病棟勉強会	7月19日	17:30-18:30	5階カンファレンス室	20	地域連携	阪本
病棟勉強会 (泌尿器)	7月20日	17:30-18:30	5階カンファレンス室	30	5東、救急参加 VUR・水腎症	春名Dr/竹村
新人勉強会 (外科)	9月21日	17:30-18:30	5階カンファレンス室	12	ストマ管理	助永/坂井
新人勉強会 (外科)	10月15日	17:30-18:30	5階カンファレンス室	31	救急・5東・NICU参加 気道系疾患について	前田Dr/竹村
新人勉強会 (外科)	11月12日	17:30-18:30	5階カンファレンス室	10	鎖肛	濱野/坂本
病棟勉強会	11月14日	17:30-18:30	病棟観察室	20	救急蘇生	池田/丸岡
新人勉強会 (呼吸管理②)	12月25日	17:30-18:30	5階カンファレンス室	8	人工呼吸器管理	篠原/奥谷
病棟勉強会 (外科)	12月27日	17:30-18:30	5階カンファレンス室	11	気道系疾患の看護	中井/国友
勉強会	7月30日	17:30-18:30	5階カンファレンス室	12	扁桃患者のパスについて	石橋/五十嵐
勉強会	8月30日	17:30-18:30	5階カンファレンス室	10	白内障患者のパスについて	石橋/五十嵐
勉強会	9月19日	18:00-19:00	5階カンファレンス室	22	アンビュー換気の方法	大中
勉強会	10月26日	14:15-14:45	5東スタッフステーション	7	換気不全の見の対応について	本浦
勉強会	11月2日	17:30-18:30	5東面談室	10	呼吸器勉強会	石橋/五十嵐

勉強会	5階東病棟	11月12日	17:30-18:30	5東面談室	4	呼吸器勉強会	石橋/五十嵐
勉強会	5階東病棟	12月1日	11:15-11:30	5東スタッフステーション	8	感染勉強会	鶴濱
勉強会	5階東病棟	12月2日	11:20-11:40	5東スタッフステーション	8	感染勉強会	鶴濱
勉強会	5階東病棟	11月27日	14:20-14:40	5東スタッフステーション	7	換気不全の児の対応について	吉永
勉強会	5階東病棟	12月26日	11:20-11:40	5東スタッフステーション	8	けいれん発作時の対応について	轡
GCU3年目勉強会	GCU	8月21日	17:30-18:30	カンファレンスルーム	15	OP前後の管理について	木野、西森
GCU3年目勉強会	GCU	10月24日	17:30-18:30	沐浴室	15	HOTが必要な児に対する家族指導について	福重/西原
GCU3年目勉強会	GCU	2月予定	17:30-18:30			横隔膜ヘルニアの児の看護(予定)	伊尾木/賀本
GCU病棟勉強会	GCU	8月30日	17:30-19:00	講堂	18	救急蘇生勉強会	藤原
GCU病棟勉強会	GCU	11月16日	17:30-18:30	講堂	7	メデラ勉強会	大亀
GCU病棟勉強会	GCU	11月27日	17:30-19:00	スキルラボ	10	救急蘇生シミュレーション	山田/福田
GCU病棟勉強会	GCU	12月17日	17:30-18:30	スキルラボ	2	ピジョン勉強会	大亀
GCU病棟勉強会	GCU	12月20日	17:30-18:30	看護部会議室	8	エア・ウォーター勉強会	大西/西原
GCU病棟勉強会	GCU	1月8日	17:30-18:30	講堂	7	乳房アセスメントについて	大亀
GCU1年目勉強会	GCU	5月25日	17:30-18:30	沐浴室	18	直母指導について	吉本 西原 松下な
GCU1年目勉強会	GCU	6月19日	17:30-18:30	沐浴室	16	沐浴	木野・伊尾木
GCU1年目勉強会	GCU	6月26日	17:30-18:30	沐浴室	15	救急蘇生①	山田 福田 西原 福重 西森
GCU1年目勉強会	GCU	7月20日	17:30-18:30	沐浴室	10	お話し会	高瀬 福重 大西 西森
GCU1年目勉強会	GCU	10月30日	17:30-18:30	沐浴室	11	救急蘇生②	山田 福田 木野 大西

勉強会	ICU		5月8日11日	14:00-14:30	ICUスタッフ フステーション	14	DOPE勉強会		大塚看護師
勉強会	ICU		6月1日	14:30-15:00	ICUスタッフ フステーション	10	口腔マツサージ		在町看護師
勉強会	ICU		6月28日	17:30-18:30	スキルラボ	17	スキルトレーニング		森行看護師
勉強会	ICU		7月7日・17日 20日	17:30-18:30	ICU個室	21	PBL		星尾看護師
勉強会	ICU		7月19日	17:30-18:30	カンファレンス ³	18	新生児看護		井谷CN
勉強会	ICU		8月14日	17:30-18:30	看護部会 議室	19	家族看護		浅井CN
勉強会	ICU		8月30日	17:30-18:30	スキルラボ	19	PD		ME
勉強会	ICU		8月	14:00-14:30	ICUスタッフ フステーション	34	RSウイルス		工藤看護師
勉強会	ICU		9月2日	17:30-18:30	カンファレンスルーム ²	10	CHDF		ME
勉強会	ICU		9月15日	17:30-18:30	ICU	7	不整脈によるCPA		森行
勉強会	ICU		10月	14:00-14:30	ICUスタッフ フステーション	34	ノロウイルス		工藤看護師
勉強会	ICU		11月20日	17:30-18:30	ICU	6	シミュレーション(痙攣)		星尾・森行
勉強会	ICU		12月5日	17:30-18:30	ICU	5	シミュレーション(痙攣)		星尾・森行
勉強会	ICU		12月	14:00-14:30	ICUカンファ レンス	34	感染症(インフル)		工藤看護師
勉強会	ICU		12月14日	17:30-18:30	カンファレンス室 ³	20	糖尿病・事例検討会		泊CN
カンファレンス	ICU		12月26日	17:30-18:30	カンファレンスルーム ³	25	デスカンファ		笠木看護師
NICU1年目勉強会	NICU		6月26日	17:30-18:30	器材庫	10	NICUにおけるプレ救急蘇生		山根と/高野
NICU1年目勉強会	NICU		7月20日	17:30-18:30	個室 ³	9	入院受け		松本/山本や

NICU1年目勉強会	NICU	8月16日・17日	14:00-17:00	個室3	9	多重業務	高野/八塚
NICU1年目勉強会	NICU	10月19日	17:30-18:30	カンファレンス室	9	呼吸管理 (HFNC, DPAP)	岩間/尾上
NICU1年目勉強会	NICU	12月28日	17:30-18:30	多目的室	7	呼吸管理 (挿管)	岩間/尾上
NICU2年目勉強会	NICU	8月27日	17:30-18:30	NICU面談室	5	乳び胸・18トリソミー	鈴木/富山/ 大嶺
NICU2年目勉強会	NICU	11月15日	17:30-18:30	NICU面談室	4	PA・DORV	鈴木/富山/ 大嶺
NICU2年目勉強会	NICU	2月	17:30-18:30		5	周手術期の看護	鈴木/富山/ 大嶺
NICU3年目勉強会	NICU	9月12日	17:30-19:00	カンファレンス室	5	周手術期の看護、IAの介助について	太田/新田/ 板谷
NICU3年目勉強会	NICU	10月29日	17:30-18:30	NICU面談室	6	救急蘇生机上シミュレーション	
NICU3年目勉強会	NICU	1月24日	17:30-18:30	NICU面談室	6	ケーススタディ発表会	浅田/板谷
NICU3年目勉強会	NICU	2月13日	17:30-18:30	NICU面談室		28週の急性期の看護について	浅田/板谷
NICU4年目勉強会	NICU	9月6日	17:30-18:30	NICU面談室	6	MAS、PPHN	中村/布施
NICU4年目勉強会	NICU	10月10日	17:30-18:30	NICU面談室	6	救急蘇生机上シミュレーション	梁/松田
NICU4年目勉強会	NICU	12月6日	17:30-18:30	NICU面談室	6	新生児仮死、低体温療法	柏原/吉田
救急蘇生勉強会	NICU	11月2日	17:30-19:00	講堂	24	救急蘇生の技術について	萩原/西里
救急蘇生勉強会	NICU	12月14日	17:30-19:00	講堂	22	救急蘇生シミュレーション	萩原/山根
救急蘇生勉強会	NICU	12月21日	17:30-19:00	講堂	12	救急蘇生シミュレーション	
新生児病棟勉強会	NICU	5月28日	17:30-18:30	看護部会議室	25	Let Enjo y	芳本Dr/ 黒田Dr
新生児病棟勉強会	NICU	6月25日	17:30-18:30	教育研修室	34	Late Preterme	黒田Dr
新生児病棟勉強会	NICU	7月30日	17:30-18:30	教育研修室	32	外科疾患	前田Dr
新生児病棟勉強会	NICU	10月2日	17:30-18:30	教育研修室	30	FCC	
新生児病棟勉強会	NICU	2019/1/30	17:30-18:30	教育研修室	26	先天性心疾患	富永Dr

新生児病棟勉強会	NICU	2019/2/	17:30-18:30				17:30-18:30			代謝	
周産期病棟合同勉強会	NICU	1月8日	17:30-18:30	講堂	10		17:30-18:30			母乳育児支援	
心臓血管外科定期勉強会	手術室	5月18日	9:00-10:00	手術室1室	13		9:00-10:00			カニキュレーションについて	大磯・山田・ 呉羽
心臓血管外科定期勉強会	手術室	6月28日	16:00-16:40	手術室ナースステーション	6		16:00-16:40			VSDについて	大磯・山田・ 呉羽
輸血勉強会	手術室	7月10～12日	16:30-17:00	手術室ナースステーション	25		16:30-17:00			血型・不規則抗体について	池田圭
ストマケアについて	手術室	7月23日	17:30-18:30	カンファレンス室1	10		17:30-18:30			ストマケアの実際がわかる	白川・堤田
心電図勉強会	手術室	8月3日	16:15-17:10	カンファレンス室1	11		16:15-17:10			心電図の基礎	村上・生田・ 神渡
心臓血管外科定期勉強会	手術室	8月28日	16:30-17:00	手術室1室	7		16:30-17:00			フォンタン手術について	呉羽・増田・ 岩見
KYTについて	手術室	8月28日	16:00-16:30	手術室ナースステーション	12		16:00-16:30			KYT基礎4R法について	増田・藤澤
緊急ECMOシミュレーション	手術室	8月30日	16:00-16:30	手術室ホール	4		16:00-16:30			緊急ECMO対応について	神代
酸素ボンベ勉強会	手術室	9月12日	17:00-17:30	手術室ホール	10		17:00-17:30			酸素ボンベの基礎	藤澤・新井田
糸針勉強会	手術室	9月27日	16:30-17:00	手術室ホール	7		16:30-17:00			糸針の基礎	北川・新井 田・前
心臓血管外科定期勉強会	手術室	9月28日	16:00-16:35	手術室1室	5		16:00-16:35			シャント・PA形成について	岩見・増田・ 呉羽
SBAR勉強会	手術室	10月11日	16:00-16:30	手術室ホール	4		16:00-16:30			チームステップスの基礎	川崎・三好
心臓血管外科定期勉強会	手術室	10月19日	16:30-17:00	手術室1室	6		16:30-17:00			CoA手術について	呉羽・増田・ 岩見
体位勉強会	手術室	10月30日	16:30-17:00	手術室5	5		16:30-17:00			仰臥位について	北川・新井 田・前
輸血勉強会	手術室	11月6～9日	16:30-17:00	手術室ナースステーション	24		16:30-17:00			輸血の副作用について	池田圭
人工心肺勉強会	手術室	11月6日	16:00-17:00	カンファレンス室1	12		16:00-17:00			人工心肺の基礎	岩見・白川
チームステップス	手術室	11月27日	16:30-17:00	手術室ナースステーション	8		16:30-17:00			チームステップスの概要の理解	三好

RCA分析	手術室	11月28日	16:00-16:30	手術室ナースステーション	10	RCA分析の基礎の理解	増田・藤澤
心臓血管外科定期勉強会	手術室	12月27日	16:30-17:00	手術室1室	5	TOFについて	増田・呉羽・岩見
新生児看護勉強会	手術室	12月27日	17:30-18:30	カンファレンス室1	9	新生児看護の基礎の理解	白川
CICU	CICU	4月6日	0.5日	CICUカンファレンスルーム	8	帳票類、資料、器材の使用方法について	岡崎
CICU	CICU	4月9日	0.5日	CICUカンファレンスルーム	8	循環・呼吸の基礎	保田
CICU	CICU	4月10日	0.5日	CICUカンファレンスルーム	8	感染対策・血液管理、情報収集方法と記録方法	馬場
CICU	CICU	4月11日	0.5日	CICUカンファレンスルーム	8	薬剤・ライン管理、安全管理	宮中
CICU	CICU	5月31日	0.5日	CICUカンファレンスルーム	8	呼吸器勉強会	宮中
CICU	CICU	11月16日	1時間	CICUカンファレンスルーム	7	循環管理基礎編	野田
CICU	CICU	12月21日	1時間	CICUカンファレンスルーム	7	呼吸管理基礎編	野田
CICU	CICU	6月8日	45分	CICUカンファレンスルーム	24	ハートセンター勉強会①	補佐
	CICU	6月22日	45分	CICUカンファレンスルーム	18	ハートセンター勉強会②	補佐
	CICU	7月13日	45分	CICUカンファレンスルーム	20	ハートセンター勉強会③	補佐
	CICU	8月10日	45分	CICUカンファレンスルーム	22	ハートセンター勉強会④	補佐
	CICU	11月22日	45分	北館研修室	40	ハートセンター勉強会 心不全治療	補佐

	CICU	1月4日	45分	北館研修室	35	ハートセンター勉強会	補佐
	CICU	1月25日	45分	北館研修室	43	ハートセンター勉強会 術後合併症	補佐
	CICU	11月28日	1時間	CICUカンファレンスルーム	15	プレパレーション・ディストラクション	Bチーム
	CICU	12月21日	1時間	CICU	28	BLSシミュレーション	共有チーム
CICU 2 年目勉強会	CICU	7月31日	17:45-18:45	カンファレンス室	3	ドレーン管理について	勉強会係
CICU 2 年目勉強会	CICU	9月10日	17:45-18:45	カンファレンス室	3	挿管・呼吸器管理について	勉強会係
CICU 2 年目勉強会	CICU	9月25日	17:45-18:45	カンファレンス室	3	開胸・閉胸管理（鎮痛・鎮静剤についても含む）	勉強会係
CICU 2 年目勉強会	CICU	10月25日	17:45-18:45	カンファレンス室	3	NO管理について	勉強会係
CICU 3 年目勉強会	CICU	7月24日	17:45-18:45	カンファレンス室	4	ドレーン管理について	勉強会係
CICU 3 年目勉強会	CICU	8月23日	17:45-18:45	カンファレンス室	4	挿管・呼吸器管理について	勉強会係
CICU 3 年目勉強会	CICU	9月6日	17:45-18:45	カンファレンス室	4	開胸・閉胸管理（鎮痛・鎮静剤についても含む）	勉強会係
CICU 3 年目勉強会	CICU	10月19日	17:45-18:45	カンファレンス室	4	NO管理について	勉強会係
CICU1～3年目勉強会	CICU	10月24・31日	17:45-19:00	カンファレンス室	11	ECMO管理について	勉強会係
CICU勉強会	CICU	1月15日		カンファレンス室	8	心エコー・カタデーター	
カンファレンス	PICU	4月7日	17:30-18:30	カンファレンスルーム 3	13	グリーンカンファレンス①	家族グループ
カンファレンス	PICU	5月8日	17:30-18:30	カンファレンスルーム 3	10	グリーンカンファレンス②	家族グループ
勉強会	PICU	6月1日	17:30-18:30	CICUカンファレンスルーム	18	PH	増井Dr
勉強会	PICU	6月26日	17:30-18:30	PICU④	20	NPPV、HFNC、用手換気	岡田、楠本 Dr
勉強会	PICU	6月 3回	17:30-18:30	PICU⑧	20	アイノフローの取り扱い	伊丹

勉強会	PICU	9月12日	17:30-18:30	PICU④	9	頸椎カラー	増永、坂本、 宮下Dr
シミュレーション	PICU	9月13日	17:30-18:30	PICU④	10	CPRシミュレーション	Bグループ
シミュレーション	PICU	9月30日	15:00-15:30	PICU④	8	CPRシミュレーション	Bグループ
シミュレーション	PICU	10月13日	17:30-18:00	PICU④	7	CPRシミュレーション	Bグループ
勉強会	PICU	10月18日	17:30-18:30	PICU④	25	DC	佐藤、小林、 染谷Dr
カンファレンス	PICU	10月25日	17:30-18:30	カンファレンスルーム 3	11	グリーンカンファレンス③	家族グループ
勉強会	PICU	11月5日	17:30-18:30	カンファレンスルーム 1	10	ECMO	ME、坂本
1年目勉強会	PICU	7月31日	17:30-18:30	PICU④	3	鎮静・鎮痛	増永
ブロック勉強会	外来	4月18日	16:00-16:30	外来計測 室	10	リユープリン注射時の支援	泊菊子
移行期支援事例検討	外来	5月11日	16:30-17:00	外来計測 室	17	自己導尿に向けて学校への調整を含めた母への支援	細川里美
移行期支援事例検討	外来	5月22日	16:30-17:00	外来計測 室	18	長期ステロイドを内服している学童期の子どもへの関わり	小澤一美
移行期支援事例検討	外来	5月29日	16:30-17:15	外来計測 室	20	先天性疾患をもつ子どもと家族への保育園入園前の関わり	新宅佳子
ブロック勉強会	外来	5月30日	16:30-17:15	外来計測 室43/44	17	気切交換・胃瘻交換の流れと支援のポイント	平塚真子
移行期支援事例検討	外来	6月20日	16:30-17:05	外来計測 室	22	在宅中心静脈栄養をしている学童前期の子どもと家族への関わり	平塚真子
移行期支援事例検討	外来	6月22日	16:30-17:00	外来計測 室	16	成長ホルモン治療中の学童後期の子どもへの支援	泊菊子
ブロック勉強会	外来	6月27日	16:20-16:45	外来 Fブ ロック アス室	20	内反足ギプス巻き時の支援	中田敬子
移行期支援事例検討	外来	8月21日	16:30-17:00	外来計測 室	17	思春期の患者に対する服薬アドヒアランス向上にむけた支援	中田敬子
ブロック勉強会	外来	9月19日	16:15-16:55	外来計測 室	26	アクテムラ治療と治療中の子どもたち	辻田利香
移行期支援事例検討	外来	9月20日	16:30-17:00	外来計測 室	18	薬が継続できない発達障害のある患者への支援	松下久子

MA対象勉強会	外来		9月28日	15:00-15:30	外来診察室29	7	MA対象勉強会 外来で必要な感染対策	横田理永
MA対象勉強会	外来		10月3日	15:00-15:30	外来診察室29	7	MA対象勉強会 外来で必要な感染対策	横田理永
MA対象勉強会	外来		10月5日	15:00-15:30	外来診察室28	6	MA対象勉強会 外来で必要な感染対策	横田理永
移行期支援事例検討	外来		12月3日	16:30-17:00	外来計測室	18	CISCを実施している幼稚園年長児への就学に向けた支援	相川宏江
ブロック勉強会	外来		12月26日	16:00-16:30	外来計測室	10	リユースリン注射時の支援	泊菊子
ブロック勉強会	外来		1月10日	16:15-16:45	外来計測室	13	見の手術時期の決定に踏み切れない親の思い	伊賀ひとみ
ブロック勉強会	外来		1月30日	16:30-17:05	外来計測室	22	アクトムラ治療と治療中の子どもたち	辻田利香
看護補助者オリエンテーション	看護部		4月2日	10:30-11:00	看護部控室	4	感染対策の基本	鳴滝由佳
看護師新人フォロー研修	看護部		4月5日	10:30-11:50	講堂	83	感染対策の基本 ～標準予防策・小児専門病院としての感染対策～	鳴滝由佳 教育委員
看護師新人フォロー研修	看護部		4月5日	12:50-16:30	講堂	83	感染予防技術演習	鳴滝由佳 教育委員
看護補助者オリエンテーション	看護部		4月3日	9:00-9:30	看護部控室	1	感染対策の基本	鳴滝由佳
看護補助者オリエンテーション	看護部		5月1日	10:30-11:00	看護部控室	1	感染対策の基本	鳴滝由佳
看護師新人フォロー研修	看護部		5月15日	8:55～9:25	講堂	83	静脈注射に関する感染対策、針刺し時の対応	新谷茜
看護師新人フォロー研修	看護部		6月26日	13:10-13:40	講堂	83	感染対策フォローアップ①	中島由佳
保育士対象感染対策研修会	看護部		6月27日	14:00-14:30	5Fカンファレンス室	6	おもちゃの管理について	中島由佳
看護師新人フォロー研修	看護部		9月21日	10:15-10:45	講堂	83	感染対策フォローアップ②	中島由佳
看護補助者オリエンテーション	看護部		11月1日	10:00-10:30	看護部控室	1	感染対策の基本	中島由佳
看護補助者研修② 感染防止	看護部		10月24日	15:15-15:45	スキルラボ	16	手指衛生と防護具の大切さ ～感染性胃腸炎を中心に～	中島由佳
看護補助者研修② 感染防止	看護部		10月30日	15:15-15:45	スキルラボ	11	手指衛生と防護具の大切さ ～感染性胃腸炎を中心に～	中島由佳
トライやるウィーク 講習	看護部		11月5日	10:30-11:30	総務部前会議室	9	感染予防講習	中島由佳
初療シミュレーション	救急・HCU 病棟		7月10日	17:30-18:30	初療室	11	C P A	Aグループ

初療シミュレーション	救急・HCU 病棟	7月24日	17:30-18:30	初療室	8	スキルトレーニング（挿管介助、IO介助、DC介助）	Aグループ
初療シミュレーション	救急・HCU 病棟	8月14日	17:30-18:30	初療室	9	スキルトレーニング（ルンパール介助、清潔操作）	Aグループ
初療シミュレーション	救急・HCU 病棟	8月28日	17:30-18:30	初療室	12	痙攣	Aグループ
初療シミュレーション	救急・HCU 病棟	9月11日	17:30-18:30	初療室	9	外傷	Aグループ
初療シミュレーション	救急・HCU 病棟	9月25日	17:30-18:30	初療室	9	外傷	Aグループ
初療シミュレーション	救急・HCU 病棟	10月23日	17:30-18:30	初療室	16	アナフィラキシーショック	Aグループ
初療シミュレーション	救急・HCU 病棟	11月27日	17:30-18:30	初療室	9	PSVT	Aグループ
初療シミュレーション	救急・HCU 病棟	12月25日	17:30-18:30	初療室	3	脈ありVT	Aグループ
初療シミュレーション	救急・HCU 病棟	1月22日	17:30-18:30	初療室		救急外来待合での痙攣	Aグループ
勉強会	救急・HCU 病棟	10月19日	17:30-18:30	救外感染 観察室	13	搬送勉強会	Aグループ： 搬送担当
勉強会	救急・HCU 病棟	11月20日	17:30-18:30	救外感染 観察室	9	ハミルトン勉強会	Aグループ： 搬送担当
勉強会	救急・HCU 病棟	12月18日	17:30-18:30	救外感染 観察室	12	ハミルトン勉強会	Aグループ： 搬送担当
救急外来症例検討会	救急・HCU 病棟	9月18日	17:30-18:45	救外感染 観察室	17	救急外来症例検討会	Aグループ： 勉強会担当
救急外来症例検討会	救急・HCU 病棟	1月10日	17:30-18:45	4階カンフ アレックス室	16	救急外来症例検討会	Aグループ： 勉強会担当
勉強会	救急・HCU 病棟	8月3日	14:00-14:40	スタッフス テーション	11	川崎病診療の基本	倉橋Dr/河 石・関
勉強会	救急・HCU 病棟	9月10日	14:35-14:55	病棟	10	在宅の腹膜透析管理方法について	金藤・小林/ 糸島・高山
勉強会	救急・HCU 病棟	9月27日	15:05-15:40	病棟	6	糖尿病について	松田/上田・ 李
勉強会	救急・HCU 病棟	10月30日	15:00-15:30	病棟	6	トリロジエの基礎	安藤/野間
勉強会	救急・HCU 病棟	11月28日	17:30-18:20	4階カンフ アレックス室	17	心疾患のある児の感冒の看護について	岡本/芦田
勉強会	救急・HCU 病棟	12月14日	15:00-15:30	病棟	5	新生児（トリソミーの児を主に）の看護について	大川/河石
勉強会	救急・HCU 病棟	12月14日	15:30-16:00	病棟	6	新生児（トリソミーの児を主に）の看護について	大川/関

勉強会	救急・HCU 病棟	12月11日	17:30-18:00	病棟	8	小児の成長発達勉強会（乳児期）	松田
勉強会	救急・HCU 病棟	12月13日	17:30-18:30	病棟	9	小児の成長発達勉強会（幼児期、学童期）	松田
母乳育児勉強会①	産科、NICU、 GCU	5月11日	17:30-18:00	産科外来	83	母乳育児支援に就いて	母乳グループ
母乳育児勉強会②	産科、NICU、 GCU	5月31日	17:30-18:30	講堂	23	BSケアについて	母乳グループ
母乳育児勉強会③	産科、NICU GCU	6月28日	17:30-18:30	教育研修 室	9	早期母乳分泌促進に向けての援助	母乳グループ
母乳育児勉強会④	産科、NICU、 GCU	11月16日	17:30-18:30	講堂	34	搾乳器の使い方（メデラ）	母乳グループ
母乳育児勉強会⑤	産科、NICU、 GCU	12月17日	17:30-18:30	講堂	16	搾乳器の使い方（ピジョン）	母乳グループ
産後ケアについて	産科	11月7日	17:30-19:00	産科カンフ アレンスル ーム	23	産褥婦が望む産後ケアの内容・実際について	杉友チーム
退院支援システムについて	産科	12月13日	17:30-18:30	産科カンフ アレンスル ーム	9	症例を通じて地域医療連携部の退院調整を理解する	杉友チーム
EPDS① (周産期メンタルヘルスケア)	産科	6月14日 20日 25日	17:30-18:30	産科カンフ アレンスル ーム	18	導入に向けて（診療報酬・養育支援ネットなど）	EPDS グループ
EPDS② (周産期メンタルヘルスケア)	産科	10月9日 24日	17:30-18:30	産科カンフ アレンスル ーム	47	他部門・多職種連携を含め目指して	EPDS グループ

V ボランティア

平成30年度 ボランティア受け入れ状況

ボランティアの状況

ボランティア	内容	活動頻度	活動人数	活動場所
個人	保育士とともに活動、英会話、案内 など	1～2/月	5人	各 病棟、総合案内
神戸市生活指導研究会	看護用品、医療材料、保育材料などの作成	1～2/月	4人(交代)	ボランティア室

イベントボランティアの状況

イベントボランティア	内容	活動頻度	活動人数	活動場所
緩和ケアアロマボランティア チーム・ステラ	7階入院中の化学療法・放射線療法中の子どもの 家族	1/月	1～2人	がん相談支援室
NPO法人クリエイション協会	笑いやユーモアを届けるコミュニケーション	1/月	4人+α	病棟・外来
神戸市民文化振興財団	コンサート	1/月	3人+アーティスト	外来
神戸市民文化振興財団	マジックショー	1/年(11/28)	3人	外来
NPO法人スマイルングホスピタルジャパン	さとゆかか音楽と一緒に遊びましょう	1～2/月	2人	病棟
NPO法人スマイルングホスピタルジャパン	マジックショー	1/年(11/5)	1人	病棟
COLORS	ストリングオケストラ	1/年(8/22)		外来
神戸西ロータリークラブ	スポーツ選手訪問(イニエスタ選手)	1/年(11/28)		病棟
神戸西ロータリークラブ	啓明学園 歌・絵本の読み聞かせ	1/年(3/15)		講堂
株式会社シーピーファイン	入院中の子ども達を笑顔にするしまじろう訪問	1/年(10/25)	4人	病棟
兵庫県共同募金会 ジャパンラグビートップリーグ チャリティ活動	ラグビー選手訪問・交流	1/年(11/26)		講堂
ドナルドマクドナルドハウス	クリスマス会	1/年(12/19)	5人	病棟・講堂
ガリレオクラブインターナショナル	万華鏡づくり	1/年(2/15)	2人	病棟
子ども文化振興協会	絵本パフォーマンス公演	1/年(2/12)	3人	外来
子ども文化振興協会	絵本のおはなし会	3/年 (2/8・2/18・2/19)	3人	病棟

